

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	必修
担当教員			
後藤正人学長 寺崎宣昭教授 大山尚教授 秋山誠一教授 坂本達彦教授 栃木市招聘講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講座は、國學院大學栃木短期大学 日本文化学科に入学した学生が國學院大學の建学の精神とその成り立ちを理解して、日本文化学科の学修の特色を把握することが一つの目的である。また、日本文化と日本人についてひろく学び、日本社会だけではなく、グローバルな共生と多様性の社会のなかで活躍しようとする人材の育成を目的として設けられたオムニバス形式で行われる講座でもある。</p> <p>なお、学修成果の指標はA-1です。 遠隔授業を実施する場合、オンデマンド学修と課題レポートで実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 國學院大學の建学の精神（学長）</p> <p>2回目 國學院大學栃木短期大学の教育理念ー4つの約束と3つの方針ー（学長）</p> <p>3回目 國學院大學栃木学園の沿革と栃木短期大学の歴史（学長）</p> <p>4回目 今後の予定：日光親睦旅行・観劇会・栃木市関係の説明（学科長）</p> <p>5回目 栃木の歴史と伝統文化を知る（仮題 栃木市関係講師）</p> <p>6回目 多文化共生社会の実現に向けて（仮題 栃木市関係講師）</p> <p>7回目 日本文学フィールドで学ぶこと（日本文学フィールド代表）</p> <p>8回目 栃木市の教育の特色と未来像（仮題 栃木市関係講師）</p> <p>9回目 現代の政治と経済の世界システム（言語文化フィールド代表）</p> <p>10回目 歴史の学び方、活かし方（日本史フィールド代表）</p> <p>11回目 デフォーと「ロビンソン・クルーソー漂流記」（学科長）</p> <p>12回目 日本文化学科の3つのフィールド（学科長）</p> <p>13回目 日光親睦旅行（4月23日）レポート 日光親睦旅行（4月23日）に参加し、旅行で体験したこと（感想も含め）をレポートでまとめて、Classroomに提出する。</p> <p>14回目 日光親睦旅行（4月23日）レポート（13回・14回分：800字程度） 日光親睦旅行（4月23日）に参加し、体験したこと（感想も含め）をレポートにまとめて、Classroomに提出する</p> <p>15回目 観劇会（6月27日）レポート（400字程度） 観劇会（6月27日）に参加し、観劇した感想をレポートにまとめて、Classroomに提出する。</p>
到達目標	<p>國學院大學と國學院大學栃木短期大学の建学の精神について理解し、日本文化学科で自分が何を学ぶことができるのかを考えることができる。そして、日本固有の歴史や文化を学び、日本人としての主体性や誇りをもつことができるとともに、グローバル化が進む中で、日本人として何をなすべきかを考えることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>日本文化学科では何を学ぶことができるのか、また日本文化学科で何を学びたいのかを考えてほしい。関心のあるテーマが見つければ、図書館などを利用して、そのテーマに関連する本を読んでまとめてほしい。</p>
評価方法	<p>学長（3回）35パーセント、学科長（学科長3回・栃木市関係3回・日光親睦旅行および観劇会3回、計9回）50%、フィールド代表（3回）15パーセントで評価をつける。</p>
テキスト	<p>テキストは使用しない。 各回ごとに、授業担当者がパワーポイントを使用して行うか、またはレジュメを配布する。</p>
参考書	<p>必要に応じて、その都度紹介する。</p>
備考	<p>学長と栃木市関連の講義回は、日本文化学科と人間教育学科合同で行う。</p> <p>観劇会と日光親睦旅行の参加およびレポート提出を「日本文化学科概説」の評価（日光親睦旅行は授業2回分、</p>

<p>観劇会は授業1回分)とする。レポートの文字数は、日光親睦旅行を800字程度、観劇会を400字程度とし、「日本文化学科概説」のClassroomに提出をすること。</p> <p>栃木市文化課職員 実務教員：栃木市との連携包括協定によるオムニバス講師。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：古典と現代			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本文学のアウトラインを理解するためには、日本の文化史の一環として文学を捉えることが有効です。主として文学というジャンルを通して現れた物語コンテンツは、文字の文学以外に、文字以外の文学（＝語り物）や演劇、絵画、音楽、造形物、映画、漫画、アニメーションなど、多様なかたちで表現されてきました。文学には時代の制約を受ける側面もありますが、普遍的な側面もあります。本講義は日本文学の総論なので、後者を中心に見ていきます。皆さんの生きる現代では、ネット小説から書店で売られる書籍まで様々な媒体を通して文学が発信され、また受容されています。これら現代の創作と古典文学とはどのようなつながりを持っているのでしょうか。</p> <p>本講義では、近現代に至るまで共有される物語コンテンツを取り上げることで、文化史の中の文学の意義を理解するとともに、各コンテンツのルーツを学んでもらいます。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-②です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とします。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ・授業の概要</p> <p>2回目 共有コンテンツ（1） 共有される物語コンテンツ</p> <p>3回目 共有コンテンツ（2） 事例を見つけ出す</p> <p>4回目 物語と話型（1） 話型とは何か</p> <p>5回目 物語と話型（2） 事例を見つけ出す</p> <p>6回目 プロットとモチーフ（1） プロットとは何か モチーフとは何か</p> <p>7回目 プロットとモチーフ（2） 物語のプロットを示す</p> <p>8回目 プロットとモチーフ（3） 共通モチーフを見つけ出す</p> <p>9回目 平将門（1） 将門伝と伝承の生成</p> <p>10回目 平将門（2） 千葉・茨城の将門伝承の展開 源頼光と四天王の伝承</p> <p>11回目 平将門（3） 怪談、ポップカルチャー</p> <p>12回目 九尾の狐（1） 中世における殺生石の伝承</p> <p>13回目 九尾の狐（2） 文芸世界で変貌する九尾の狐像</p> <p>14回目 九尾の狐（3） 岡本綺堂とその後、ポップカルチャーにおける変貌 要閲覧：「妖狐玉藻像の展開」https://glim-re.repo.nii.ac.jp/records/4745</p> <p>15回目 *課題レポート提出 まとめ *課題レポート返却と解説</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化史の中の文学ということを理解する。 ・各コンテンツのルーツを学ぶ。
授業時間外の学習	<p>事前・事後、各30分。 事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。</p>

評価方法	平常点 (50%) 課題レポート (50%)
テキスト	
参考書	大塚英志『メディアミックス化する日本』イースト・プレス、2014年 *国文学第1研究室にあり。図書館にも申請中。 荒木浩・前川志織・木場貴俊編『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』KADOKAWA、2021年 *国文学第1研究室にあり。図書館にも申請中。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：古典と現代			
添付ファイル			

授業の概要	<p>【前期の続き】（再掲）</p> <p>日本文学のアウトラインを理解するためには、日本の文化史の一環として文学を捉えることが有効です。主として文学というジャンルを通して現れた物語コンテンツは、文字の文学以外に、文字以外の文学（＝語り物）や演劇、絵画、音楽、造形物、映画、漫画、アニメーションなど、多様なかたちで表現されてきました。文学には時代の制約を受ける側面もありますが、普遍的な側面もあります。本講義は日本文学の総論なので、後者を中心に見ていきます。皆さんの生きる現代では、ネット小説から書店で売られる書籍まで様々な媒体を通して文学が発信され、また受容されています。これら現代の創作と古典文学とはどのようなつながりを持っているのでしょうか。</p> <p>本講義では、近現代に至るまで共有される物語コンテンツを取り上げることで、文化史の中の文学の意義を理解するとともに、各コンテンツのルーツを学んでもらいます。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-②です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とします。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス／日本文学概説Ⅰの復習（1） ・授業の概要 ・日本文学概説Ⅰの復習（1）</p> <p>2回目 日本文学概説Ⅰの復習（2）共有コンテンツ 〈世界〉と共有知</p> <p>3回目 神剣（1） 神剣の神話</p> <p>4回目 神剣（2） 中世の神剣伝承</p> <p>5回目 源氏と宝剣（1） 髭切・膝丸</p> <p>6回目 源氏と宝剣（2） 源頼光と酒吞童子</p> <p>7回目 源氏と宝剣（3） 源頼光と土蜘蛛</p> <p>8回目 刀剣の現代 刀剣乱舞その他</p> <p>9回目 源義経（1） 悲劇の英雄</p> <p>10回目 源義経（2） 義経と弁慶</p> <p>11回目 源義経（3） 近代の子ども文化の中で</p> <p>12回目 源義経（4） 現代ポップカルチャーの中で</p> <p>13回目 古典キャラクターと現代 キャラクター造形の流れ</p> <p>14回目 まとめ（1） 内容理解の確認試験</p> <p>15回目 *課題レポートの提出 まとめ（2） *課題レポートの返却と解説</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化史の中の文学ということを理解する。 ・各コンテンツのルーツを学ぶ。
授業時間外の学習	<p>事前・事後、各30分。 事前学習：基本的な術語や固有名詞について調べておく。 事後学習：配布資料を読み直す。</p>

評価方法	平常点 (50%) 課題 (50%)
テキスト	
参考書	大塚英志『メディアミックス化する日本』イースト・プレス、2014年 *国文学第1研究室にあり。図書館にも申請中。 荒木浩・前川志織・木場貴俊編『〈キャラクター〉の大衆文化 伝承・芸能・世界』KADOKAWA、2021年 *国文学第1研究室にあり。図書館にも申請中。 前田雅之『古典と日本人 「古典的公共圏」の栄光と没落』光文社、2022年 *国文学第1研究室にあり。図書館にも申請中。
備考	

講義科目名称： 日本文学通史

授業コード： 133002

英文科目名称： Through History of Japanese Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	上代から近世までの散文の諸作品を通観し、その流れを理解すると共に、基本的な作品名・作者名を覚え、正しく表記できるようにする。ひとつの文学作品が後代の作品にどのように受け入れられ、影響を与えてきたのかということを常に考えつつ、上代から近世に至る散文の諸作品の流れを通観する。学習成果の指標はA-①である。本授業は対面授業を主とするが、遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。
授業計画	<p>1回目 物語とは何か</p> <p>2回目 物語文学通史</p> <p>3回目 伝奇物語</p> <p>4回目 歌物語</p> <p>5回目 伊勢物語と謡曲「井筒」</p> <p>6回目 源氏物語</p> <p>7回目 散逸物語</p> <p>8回目 王朝物語</p> <p>9回目 後期王朝物語</p> <p>10回目 歴史物語</p> <p>11回目 軍記物語</p> <p>12回目 説話集</p> <p>13回目 御伽草子</p> <p>14回目 近世小説通史</p> <p>15回目 春semesterのまとめ</p>
到達目標	日本古典文学の流れを理解すると共に、各自自身のテーマを設定して、調査、考察が行える基礎知識を習得する。
授業時間外の学習	必要に応じて前授業時に作業を指示する。
評価方法	課題（50%）・平常点（50%）
テキスト	使用せず。随時プリントを配布する。
参考書	必要に応じてその都度指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本語の中には「矛盾」や「五十歩百歩」などの故事成語をはじめ、漢語や漢詩文にまつわる言葉が多く用いられている。漢文の訓読法を学ぶことにより、日本語力を増強できると期待したい。故事成語の故事を読み進めながら、訓読の基礎を養成する。さらに、唐詩や論語を学ぶことにより、文学の読解力や創作力も深めていく。習熟度を測るために適宜小テストを行う。また漢和辞典の引き方にも慣れてもらうため、毎回辞書を持参すること。</p> <p>学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修 (Google Meet) で実施し、時間割通りの時間で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスーオンライン授業注意事項と授業の概要説明 漢文とは何かー日本語としての漢文 ＝和文との比較</p> <p>2回目 漢字の特質</p> <p>3回目 訓読の基礎1ー漢文の構造</p> <p>4回目 訓読の基礎2ー返読文字・再読文字</p> <p>5回目 故事成語1 守株</p> <p>6回目 故事成語2 朝三暮四</p> <p>7回目 思想1 『論語』 「吾十有五而志于学」 など</p> <p>8回目 思想2 『孟子』・『荀子』・『韓非子』</p> <p>9回目 思想3 『老子』・『荘子』</p> <p>10回目 歴史1 『史記』</p> <p>11回目 歴史2 『三国志』など</p> <p>12回目 唐詩1 漢詩のきまり</p> <p>13回目 唐詩2 李白の詩</p> <p>14回目 唐詩3 杜甫の詩</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	日本語における漢文の位置づけを正しく認識できる。基本的な故事成語や訓読法・詩の規則などを理解できる。難しいと思われている漢文を、より身近なものに感じ取れ、作詩などの興味を抱くことができる。
授業時間外の学習	毎回授業で取り扱う漢文については、音読そして原文をノートに写し書き下し文を書いておく。不明な漢字は必ず漢和辞典などを引く。高校で使用した国語便覧などを活用し漢文の基礎事項を学んでおく。
評価方法	定期試験 (100%)、ただし遠隔授業になった場合はレポート (100%)
テキスト	『クリアーカラー国語便覧』数研出版
参考書	『漢詩漢文小百科』大修館書店
備考	連絡事項はGoogle classroomから行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	夏目漱石『坊っちゃん』をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の確認</p> <p>3回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の確認/問題提起の考察</p> <p>4回目 発表1 第一章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：講師、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>5回目 発表2 第二章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第十一章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>6回目 発表3 第三章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第十章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>7回目 発表4 第四章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第九章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>8回目 発表5 第五章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第八章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>9回目 発表6 第六章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第七章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>10回目 発表7 第七章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第六章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>11回目 発表8 第八章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第五章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>12回目 発表9 第九章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第四章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>13回目 発表10 第十章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第三章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p>

	<p>14回目 発表11 第十一章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 <p>↳ファシリテーター：第二章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 (演習IIに向けて)</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・夏目漱石の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・作品については発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各30分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	『坊っちゃん』夏目漱石 新潮文庫
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』「常夏」巻（後半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。</p> <p>2回目 演習資料作成法</p> <p>3回目 古典文学研究の基礎的文獻</p> <p>4回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その1）—本文・校異—英和 ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』「常夏」巻に従い、その段数を記す。</p> <p>5回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その2）—注釈—</p> <p>6回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>7回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その1）—本文・校異—</p> <p>8回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その2）—注釈—</p> <p>9回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>10回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その1）—本文・校異—</p> <p>11回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その2）—注釈—</p> <p>12回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>13回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その1）—本文・校異—</p> <p>14回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その2）—注釈—</p> <p>15回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その3）—研究・鑑賞—</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 古典文学の原文を読解できる。 古典文学研究方法を活用できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） 秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） 秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：中世の実話怪談			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作に関心のある学生にとっては、〈語りの方法〉すなわち怪異がいかにかに語られているかを学べるので、創作に取り入れることができるでしょう。 ・司書志望の学生にとっては、様々な文献に接することになるので、資料探しのスキルを身に付ける良い機会になるでしょう。 <p>演習で取り上げるのは、中世の実話怪談です。 実話怪談とは、実際にあった怪異体験を語った話の総称です。 日本では古代から現代にいたるまで、数多くの怪談が生まれてきました。 この演習では、リストアップした中世の怪談から一つ選び、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 現代語訳の作成 2, 類似する話の提示 3, 考察 (自由テーマ) <p>を行ってまいります。</p> <p>授業参加は原則対面型ですが、それがむづかしい場合は参加方法を相談して決めます。 学習成果の指標A-①</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の進め方 春semesterのまとめ 怪談の歴史</p> <p>2回目 ※担当話を決める 発表の手順 (1) 語訳・現代語訳</p> <p>3回目 発表の手順 (2) 考察編</p> <p>4回目 学生発表 1 プレゼンテーション 以下同じ</p> <p>5回目 学生発表 2</p> <p>6回目 学生発表 3</p> <p>7回目 学生発表 4</p> <p>8回目 学生発表 5</p> <p>9回目 「ぶどう学」 (生活健康フィールド講座) 聴講 伊藤の担当回。 「ぶどうとキャラクター」をテーマに、日本ではどのようにブドウがキャラクター化されてきたかを見る。</p> <p>10回目 学生発表 6</p> <p>11回目 学生発表 7</p> <p>12回目 学生発表 8</p> <p>13回目 学生発表 9</p> <p>14回目 学生発表 10</p> <p>15回目 まとめ これまでの整理</p> <p>* 要旨集配布</p>

到達目標	・前近代の文章読解の能力を高める。
授業時間外の学習	該当箇所を読む。 事前・事後、各30分。
評価方法	プレゼンテーション (50%) 演習参加状況 (25%) 要旨 (25%)
テキスト	資料を配布
参考書	
備考	現代の実話怪談については、竹書房文庫から数多く出ているので参照のこと。 「竹書房」HP 文庫 > 趣味・実用・他 > ホラー https://www.takeshobo.co.jp/book/act/3/cat0/1/cat1/3/cat2/5/cat3/17

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>太宰治の小説をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド</p> <p>3回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成</p> <p>4回目 時代資料の鑑賞など</p> <p>5回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈太宰治〉について</p> <p>6回目 担当者発表 (1) 『太宰治全集』2収録作品から (1番目・2番目) (1番目「創世記」・2番目「喝采」)</p> <p>7回目 担当者発表 (2) 『太宰治全集』2収録作品から (3番目・4番目) (3番目「二十世紀旗手」・4番目「あさましきもの」)</p> <p>8回目 担当者発表 (3) 『太宰治全集』2収録作品から (5番目・6番目) (5番目「HUMAN LOST」・6番目「燈籠」)</p> <p>9回目 担当者発表 (4) 『太宰治全集』2収録作品から (7番目・8番目) (7番目「満願」・8番目「姥捨」)</p> <p>10回目 担当者発表 (5) 『太宰治全集』2収録作品から (9番目・10番目) (9番目「I can speak」・10番目「富獄百景」)</p> <p>11回目 担当者発表 (6) 『太宰治全集』2収録作品から (11番目・12番目) (11番目「女生徒」・12番目「懶惰の歌留多」)</p> <p>12回目 担当者発表 (7) 『太宰治全集』2収録作品から (13番目・14番目) (13番目「葉桜と魔笛」・14番目「秋風記」)</p> <p>13回目 担当者発表 (8) 『太宰治全集』2収録作品から (15番目・16番目) (15番目「新樹の言葉」・16番目「華燭」)</p> <p>14回目 担当者発表 (9) 『太宰治全集』2収録作品から (17番目・18番目) (17番目「愛と美について」・18番目「火の鳥」)</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分以外の発表についても、感想や質疑などをおして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	『太宰治全集』2 (ちくま文庫)
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>指定された演習Ⅱを履修し、演習の基本を学びます。ここでは古典文学作品を日本語学的方法で演習することを学びます。今期は土左日記を輪読します。紀貫之自筆本に極めて近いとされる青谿書屋本を底本とした翻刻本を使用し、逐語訳をつけていきます。次に担当範囲からテーマを見つけ、調べる力をつけます。平安時代の言葉を調べるのに適切な古辞書の調べ方も学びます。この演習では主にこれらの作業を行う他の発表者の発表を聞き、理解し、レジュメのつくり方、レポートの書き方の基礎を習得します。なお、演習のスケジュールは状況により変更される場合があり、その際は授業内でアナウンスします。</p> <p>学習成果の指標はA-②です 遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google Classroomを利用）で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 発表方法の指導、発表者の割り当て</p> <p>3回目 古辞書の解説（和名類聚抄、類聚名義抄）</p> <p>4回目 研究書の紹介</p> <p>5回目 担当者の発表1 質疑応答 教員による解説 十二月廿二日から廿五日</p> <p>6回目 担当者の発表2 質疑応答 教員による解説 十二月廿六日</p> <p>7回目 担当者の発表3 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中</p> <p>8回目 担当者の発表4 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中から一月一日（元日）</p> <p>9回目 担当者の発表5 質疑応答 教員による解説 一月二日から一月七日途中</p> <p>10回目 担当者の発表1（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月七日途中から一月七日最後</p> <p>11回目 担当者の発表2（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月八日から一月九日途中</p> <p>12回目 担当者の発表3（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月九日途中から一月九日最後</p> <p>13回目 担当者の発表4（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月十日から一月十一日</p> <p>14回目 担当者の発表5（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1. 発表の方法の基本、レジュメ、レポートのつくり方を学ぶ。</p> <p>2. 日本語学とはどういう研究方法の分野であるのかを知る。</p> <p>3. 他の人の発表について疑問を持ち、質問することができる。</p> <p>3、中古語（平安時代語）に触れ、自身で現代語の表記で記すことができる。</p>
授業時間外の学習	学生の発表開始以降、事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。
評価方法	レポート50%と授業への意欲度50%で評価します。 遠隔授業の場合はレポート（100%）で実施します。
テキスト	こちらで用意します。
参考書	<p>全訳古語辞典（電子辞書含む）</p> <p>新編日本古典文学全集13『土左日記/蜻蛉日記』（小学館）</p> <p>『日本国語大辞典（第二版）』（小学館）</p> <p>『時代別国語大辞典—上代編—』（三省堂）</p>

	此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫 その他は適宜授業内で示します。
備考	

講義科目名称： 文学基礎演習

授業コード： 233006

英文科目名称： Seminar in Basic Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	1単位	必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>指定された演習Ⅱを履修し、演習の基本を学ぶ。主に漢詩の創作（七言絶句）を試みる。それに際して、先輩である二年生の個人指導を受け、同年代の作詩へのアプローチの状況を把握する。また作品を吟ずるいわゆる詩吟体験も行う。</p> <p>学習成果の指標はA-①・②である。</p> <p>本授業は、遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用）で実施し、時間割通りの時間に行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー授業の概要説明</p> <p>2回目 漢詩とは</p> <p>3回目 日本人と漢詩創作</p> <p>4回目 漢詩創作法ー七言絶句</p> <p>5回目 漢詩創作法ー五言絶句</p> <p>6回目 漢詩創作法ー柏梁体</p> <p>7回目 漢詩創作法ー漢俳</p> <p>8回目 漢詩実作ー七言絶句</p> <p>9回目 漢詩実作発表・合評会ー七言絶句</p> <p>10回目 漢詩実作ー五言絶句</p> <p>11回目 漢詩実作発表・合評会ー五言絶句</p> <p>12回目 漢詩実作ー漢俳</p> <p>13回目 漢詩実作発表・合評会ー漢俳</p> <p>14回目 漢詩実作ー柏梁体</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	演習の基本を習得し、漢詩の作法を学び、漢詩の創作をできるようになる。また吟じ方の基礎を修得する。
授業時間外の学習	それぞれの演習の時間に指示する。基本的にどんな漢詩を創作するか、常に題材を探すよう心がける。また名作と呼ばれる漢詩を読み進める。
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%
テキスト	プリントを配布する。また創作に関しては『だれにもできる漢詩の作り方』を用いる。なお本書については初回の授業で解説する。
参考書	授業時に指示する。
備考	

講義科目名称： 文学講読（万葉集）

授業コード： 244005

英文科目名称： Literature Reading (Manyoushu)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤高雄 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>『万葉集』は、日本最古の詩歌集（アンソロジー）である。古代の祭りや儀礼に伴う呪歌をはじめ、旅のうた、恋のうた、哀悼のうたなど、万葉びとのさまざまな心が歌われている。本講義では、文学とは何かをつねに考えながら『万葉集』の世界に分け入り、そのことばに耳をかたむけ、さまざまな万葉びとのメッセージを読み取ってみたい。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 講義ガイダンス</p> <p>2回目 『万葉集』入門</p> <p>3回目 雄略天皇—雑歌をめぐって</p> <p>4回目 磐姫皇后—相聞をめぐって</p> <p>5回目 有間皇子—挽歌をめぐって</p> <p>6回目 額田王—近江朝廷の才媛</p> <p>7回目 柿本人麻呂—宮廷歌人の大成</p> <p>8回目 大伯皇女と大津皇子—皇位継承の悲劇</p> <p>9回目 山部赤人—叙景歌の発生</p> <p>10回目 大伴旅人—文人の詞藻</p> <p>11回目 山上憶良—東宮侍従の教育</p> <p>12回目 高橋虫麻呂—伝説をうたう</p> <p>13回目 大伴坂上郎女—一族の大刀自</p> <p>14回目 大伴家持—廷臣の悲哀</p> <p>15回目 まとめ—うたの伝統と継承</p>
到達目標	『万葉集』の歌を発生的な視点から読めるようになり、その文学的内容を説明できるようになる。
授業時間外の学習	配布する文学作品を読み、その文学的な意味を考える。
評価方法	提出課題（50%）、レポート（50%）から総合的に評価する。
テキスト	授業中に指示する。
参考書	授業中に紹介する。
備考	万葉集を味わうためには、もちろんさまざまな知識が必要です。ただし、歌われている形式と内容は、五七調を基本とした長歌および短歌がほとんどです。それも、何故か、平安時代の和歌よりも直裁的でここに素直に迫ってくる作品が多いのです。基本は、文学を豊かに味わうことです。日本のことばがその時代時代、どのように精一杯生き抜くために使われてきたかを考えてほしいと思います。民俗学の知見も用いながら解説しますが、皆さんも、文学するところを受け取る用意をしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を講読形式で授業を行う。『源氏物語』「末摘花」巻を通読しながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の基礎的方法を学んでいく。もちろん古典を読むにあたって、当時の歴史や習俗も解説することとなる。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせで行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「夕顔」巻の位置づけ等の概説。</p> <p>2回目 【1】源氏、亡き夕顔の面影を追い求める 【2】源氏、大輔命婦から末摘花の噂を聞く ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』①「桐壺」巻に従い、その段数を記す。</p> <p>3回目 【3】源氏、朧月夜に、末摘花の琴を聞く</p> <p>4回目 【4】頭中将、源氏の後をつけ、おどし戯れる 【5】源氏と頭中将、同車して左大臣邸へ行く（前半）</p> <p>5回目 【5】源氏と頭中将、同車して左大臣邸へ行く（後半） 【6】源氏と頭中将、末摘花を競い合う</p> <p>6回目 【7】いらだつ源氏、命婦に手引をうながす</p> <p>7回目 【8】源氏、常陸宮邸を訪れ、末摘花に逢う（前半）</p> <p>8回目 【8】源氏、常陸宮邸を訪れ、末摘花に逢う（後半） 【9】源氏、二条院に帰り、頭中将と参内する</p> <p>9回目 【10】源氏、後朝の文を夕刻に遣わす 【11】行幸の準備に紛れて、源氏訪れを怠る</p> <p>10回目 【12】雪の夜に訪れ、女房たちの貧しい姿を見る 【13】翌朝、末摘花の醜い姿を見て驚く（前半）</p> <p>11回目 【13】翌朝、末摘花の醜い姿を見て驚く（後半）</p> <p>12回目 【14】貧しい門番に同情 末摘花の鼻を連想する 【15】末摘花の生活を援助、空蟬を思い出す</p> <p>13回目 【16】歳暮、末摘花、源氏の元日の装束を贈る</p> <p>14回目 【17】正月七日の夜、源氏、末摘花を訪れる 【18】源氏、二条院で、紫の上と睦み戯れる</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 基礎的な古典文学の原文を読解できる。 基礎的な古典文学研究方法を活用できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。
評価方法	小テスト（70%）平常点（30%）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70%）平常点（30%）
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） 秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） 秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）
備考	

講義科目名称： 文学講読（平家物語）

授業コード： 232002

英文科目名称： Literature Reading (Heike monogatari)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>『平家物語』は語りの文芸としてはじまり、読み物として中世以来、広く読み継がれてきたものです。この物語の理解を深めることは、文学のみならず、思想・美術工芸・芸能など、日本の文化に対する理解を深めることにもなるでしょう。</p> <p>受講者は本講義を通じて『平家物語』の基礎知識を学び、また正しく読める力を身に付けましょう。</p> <p>【講読対象】 卷3「赦文」「足摺」「御産」「公卿揃」「大塔建立」「頼豪」 鹿（しし）の谷の陰謀（鹿ヶ谷の陰謀とも）と呼ばれる平家打倒の密談が発覚すると、それに加わった人たちは死刑や流刑に処されました。しかし、中宮（高倉天皇の後・平清盛の娘、建礼門院徳子）の懐妊後、流刑者に非常の赦（ゆるし）が出ました。 本講義ではその動向と、関連する過去エピソードなどを取り上げます。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①です。 対面授業以外の受講形式を希望する場合は相談に応じます。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 『平家物語』概要</p> <p>2回目 『平家物語』巻1～2の流れ 鹿の谷の陰謀が起きるまで</p> <p>3回目 巻3-1「赦文（ゆるしづみ）」 通読</p> <p>4回目 巻3-1「赦文」 鹿の谷の陰謀加担者の死霊・生霊</p> <p>5回目 巻3-1「赦文」 崇徳院の御霊</p> <p>6回目 巻3-1「赦文」 源頼長の怨霊</p> <p>7回目 巻3-1「赦文」 藤原基方の怨霊</p> <p>8回目 巻3-2「足摺（あしずり）」 通読</p> <p>9回目 巻3-3「御産（ごさん）」 通読</p> <p>10回目 巻3-4「公卿揃（くぎょうぞろえ）」 通読</p> <p>11回目 巻3-5「大塔建立（だいとうこんりゅう）」 通読</p> <p>12回目 巻3-6「頼豪（らいごう）」 通読</p> <p>13回目 巻3-6「頼豪」 『源平盛衰記』巻10「頼豪祈出皇子」「赤山大明神」「良真祈出皇子」「頼豪成鼠」「守屋成啄木鳥」</p> <p>14回目 巻3-6「頼豪」 妖怪鉄鼠の誕生</p> <p>15回目 まとめにかえて 授業内テスト 返却と解説</p>
到達目標	『平家物語』の基礎知識を得る。 正しく古文を読む力を身に付ける。
授業時間外の学習	事前・事後学習、各30分。
評価方法	平常点 50% 課題（授業内テスト等） 50%
テキスト	随時資料を配布。 基本的に日本古典文学大系『平家物語』（上下）を使用する。 本学図書館、国文学第1研究室にあり、またほとんどの市町村立、県立図書館に収蔵されている。

	次のリンク先のテキストも参考になる。 http://jti.lib.virginia.edu/japanese/heike/heike.html
参考書	梶原正昭『鹿の谷事件〔平家物語鑑賞〕』武蔵野書院、1997年 ※国文学第1研究室にあり。また、本学図書館に購入申請中。
備考	

講義科目名称： 文学講読（近世文学）

授業コード： 215002

英文科目名称： Literature Reading (Middle ages and Modern)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>近世文学（主に江戸時代）の文学作品の講読を行う。 具体的には松尾芭蕉の代表作『おくのほそ道』（冒頭から松島あたりまで）を講読する。本書は単なる旅の紀行文でなく俳諧の文章なので、その特徴についても捉えていく。また本文の各所に漢詩文の引用がなされているのでその原典にも触れ、比較文学的なアプローチも試みたい。さらに俳諧の本質である「連句」についても触れてみる。</p> <p>学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンスー近世文学の概観</p> <p>2 回目 芭蕉と俳諧ー連歌からの流れ</p> <p>3 回目 おくのほそ道と芭蕉</p> <p>4 回目 『おくのほそ道』講読① 冒頭</p> <p>5 回目 『おくのほそ道』講読② 旅立ち～室の八島</p> <p>6 回目 『おくのほそ道』講読③ 仏五左衛門～日光</p> <p>7 回目 『おくのほそ道』講読④ 那須野～雲巖寺</p> <p>8 回目 『おくのほそ道』講読⑤ 殺生石～白河の関</p> <p>9 回目 『おくのほそ道』講読⑥ 須賀川～信夫の里</p> <p>1 0 回目 『おくのほそ道』講読⑦ 佐藤庄司の旧跡～笠島</p> <p>1 1 回目 『おくのほそ道』講読⑧ 武隈～壺の碑</p> <p>1 2 回目 『おくのほそ道』講読⑨ 末の松山～塩釜</p> <p>1 3 回目 『おくのほそ道』講読⑩ 松島～瑞巖寺</p> <p>1 4 回目 連句概説</p> <p>1 5 回目 まとめ</p>
到達目標	『おくのほそ道』の本文の読解とともに、俳諧の文章の特徴（背景に連句や漢詩文の影響がある）についても理解ができる。
授業時間外の学習	『おくのほそ道』本文の音読・筆写・語句の調査を事前に行っておく。
評価方法	レポート100%
テキスト	『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 おくのほそ道（全）』角川書店
参考書	『おくのほそ道評釈』尾形 角川書店 『おくのほそ道大全』楠元六男ほか 笠間書院 『全文を読み切る奥の細道の豊かな世界』佐藤勝明 大垣市教育委員会
備考	

講義科目名称： 文学講読（近代文学）

授業コード： 211001

英文科目名称： Literature Reading（Modern Literature）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>明治から昭和までの代表的な小説を講読しながら、近代文学とは何かについて考える。まずは作品の言葉を精読し、時代背景と構成を捉えることで文学を読むことの基礎を養っていくことを目指す。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 樋口一葉「十三夜」①</p> <p>3回目 樋口一葉「十三夜」②</p> <p>4回目 泉鏡花「龍潭譚」①</p> <p>5回目 泉鏡花「龍潭譚」②</p> <p>6回目 田山花袋「一兵卒」</p> <p>7回目 森鷗外「蛇」①</p> <p>8回目 森鷗外「蛇」②</p> <p>9回目 谷崎潤一郎「刺青」</p> <p>10回目 志賀直哉「范の犯罪」</p> <p>11回目 川端康成「夏の靴」</p> <p>12回目 葉山芳樹「セメント樽の中の手紙」</p> <p>13回目 井伏鱒二「鯉」</p> <p>14回目 梶井基次郎「愛撫」</p> <p>15回目 安部公房「赤い繭」</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代文学について自分で調べて読み込めるようになる 近代文学を概念的にイメージできるようになる
授業時間外の学習	授業で取り扱う作品について事前に読み込みつつ、難読な漢字等の意味と読み方を調べておくこと。
評価方法	<p>平常点（100点）</p> <p>※作品ごとに400字程度の小レポートを提出 ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 文学講読（現代文学）

授業コード： 143004

英文科目名称： Literature Reading（Contemporary）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>小説「風の歌を聴け」から、村上春樹と現代文学について考える。一読しただけでは物語の全貌を把握しづらい作品だと思う。とにかく丁寧に丹念に読み説いていくことで作品の全貌を明らかにするという文学研究の基本に立ち返って読み進めていきたい。同時に、音楽、映画、国内外の小説といった文化事象や政治状況などから時代背景の把握も試みたいと思う。なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 「風の歌を聴け」と「村上春樹」について</p> <p>3回目 「風の歌を聴け」1～5章についての詳解</p> <p>4回目 「風の歌を聴け」6～10章についての詳解</p> <p>5回目 「風の歌を聴け」11～15章についての詳解</p> <p>6回目 「風の歌を聴け」16～20章についての詳解</p> <p>7回目 「風の歌を聴け」21～25章についての詳解</p> <p>8回目 「風の歌を聴け」26～30章についての詳解</p> <p>9回目 「風の歌を聴け」31～35章についての詳解</p> <p>10回目 「風の歌を聴け」36～40章についての詳解</p> <p>11回目 作品構造の可視化①（人物描写から）</p> <p>12回目 作品構造の可視化②（時系列の整理）</p> <p>13回目 「風の歌を聴け」に記載された音楽について</p> <p>14回目 「風の歌を聴け」に記載された映画について</p> <p>15回目 まとめ（「風の歌を聴け」とはなんであったのか）</p>
到達目標	これまでしてきた（国語的な）小説の読み方を変える。小説を「読む」とはどういうことかを理解する。
授業時間外の学習	「風の歌を聴け」をとにかく何度も読むこと。ワークシートを配付するのでそれに取り組みながら、作品を何度も読み返してもらいたい。
評価方法	授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	村上春樹『風の歌を聴け』（講談社文庫）
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 時代文学史（上代・中古）

授業コード： 132002

英文科目名称： Literary History (Ancient and Medieval Age)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>社会の変動とともに文学もまた展開していく。主要作品を取り上げながら人々のありようと文学の変容をさぐっていききたい。上代・中古文学を通覧できるように、毎時間、対象とする作品を限定してその特質を講述していく。神話、詩歌、物語、随筆等、その文学ジャンルも幅広く見ていきたい。単なる知識の習得に終わらないよう、各回具体的に取り上げるテキストの「読み」にもこだわっていききたい。なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>※遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。</p>
授業計画	<p>1回目 上代文学・中古文学の位置</p> <p>2回目 古事記―八雲立つ―</p> <p>3回目 風土記― 褶振の峰 ―</p> <p>4回目 万葉の歌①―大津皇子・大伯皇女ほか―</p> <p>5回目 万葉の歌②―山部赤人・大伴家持ほか―</p> <p>6回目 源氏物語①―もみぢの賀―</p> <p>7回目 源氏物語②―萩のうは露―</p> <p>8回目 源氏物語③―宇治の川音―</p> <p>9回目 栄花物語―源高明の左遷―</p> <p>10回目 土佐日記―住吉の明神―</p> <p>11回目 和泉式部日記―君をおきて―</p> <p>12回目 枕草子―殿などのおはしまさで後―</p> <p>13回目 王朝の歌①―紀貫之・伊勢ほか―</p> <p>14回目 王朝の歌②―和泉式部・能因法師ほか―</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・上代文学および中古文学の概略を知り、その時代的特質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。
授業時間外の学習	<p>予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。</p>
評価方法	<p>小テスト（70％）平常点（30％）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70％）平常点（30％）</p>
テキスト	<p>秋山虔他『日本古典読本』（筑摩書房、1988年）</p>
参考書	<p>授業時に指示する。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：擬人化された異類の物語			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本では古くから動植物を擬人化した文芸が数多く作られてきました。『鳥獣戯画』から始まり、中世、お伽草子の隆盛するなかで多くの擬人化作品が成立しました。近世に至ると、それは一層多様化します。さて、物語文学において人間以外のキャラクター（鳥獣虫魚・植物・器物・妖怪）を異類といいます。これらが日本の物語文学の歴史の中で台頭してきたのは中世後期です。近世に至ると一層多様な姿で描かれるようになりました。</p> <p>本講義では文学史の流れを踏まえつつ、中世文学を受け継ぎながら、近世前期にどのような作品が作られたのか、作品中心にみていきます。</p> <p>また、取り上げる作品はみな挿絵入りです。描かれ方にも注意していきます。</p> <p>あわせて、近代の児童文化や漫画文化に関心のある人は、この流れが近代にどのようなつながっていくか、自分で考えていってもらいたい。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①です。 対面での受講が原則ですが、むづかしい場合は相談の上、オンラインでの受講が可能です。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 動植物の物語—異類の世界— 授業の進め方</p> <p>2回目 擬人化とは 擬人化の定義</p> <p>3回目 お伽草子異類物 概説</p> <p>4回目 動物の擬人化 上 『十二類絵巻』 室町時代の絵巻物。 十二支の動物たちが歌会を開き、その後、狸の率いる動物たちと合戦を繰り広げる。</p> <p>5回目 動物の擬人化 中 『十二類絵巻』</p> <p>6回目 動物の擬人化 下 『十二類絵巻』 『猷太平記』をはじめとする後続作品の紹介。</p> <p>7回目 近世の擬人化作品概説（上）：仮名草子・草双紙 概説</p> <p>8回目 餅と酒の擬人化 上 『酒餅論』 正月の祝いの場で餅と酒が口論をはじめ、ついには合戦に及ぶ。</p> <p>9回目 餅と酒の擬人化 中 『酒餅論』</p> <p>10回目 餅と酒の擬人化 下 『酒餅論』 近世中期以降の餅酒合戦物の展開。</p> <p>11回目 近世の擬人化作品概説（下）：歌謡・語り物・地方文芸 概説</p> <p>12回目 器物の擬人化 上 『世帯平記雑具噺（せたいへいき・がらくた・ばなし）』 居間の道具類と台所用品が合戦をする。</p> <p>13回目 器物の擬人化 中 『世帯平記雑具噺（せたいへいき・がらくた・ばなし）』</p> <p>14回目 器物の擬人化 下 『世帯平記雑具噺（せたいへいき・がらくた・ばなし）』</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中世から近世にかけてのキャラクター造形の特徴を学ぶ。 ・中世から近世にかけての物語文を読解する力を身に付ける。
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。
評価方法	授業課題（50%） 内容確認の試験（50%）

	※遠隔授業の場合は授業課題（100%）
テキスト	随時資料を配布する。
参考書	伊藤慎吾『擬人化と異類合戦の文芸史』三弥井書店、2017年 *本学図書館、国文学第1研究室にあり
備考	

講義科目名称： 時代文学史（近代・現代）

授業コード： 232003

英文科目名称： Literary History (Modern Contemporary)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
文学史	近現代文学		
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本の近代文学から現代文学の発展過程を明らかにする。 さらに本講義では、明治～平成の文学に加えてライトノベルも取り扱い、近代から現代までの文学の変遷上にライトノベルを置けるのか？を最終講義のテーマとする。 なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合は、同時・双方向型学修 (Google Meet) で実施し、時間割通りの時間で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 戯作・戯文～政治小説</p> <p>3回目 写実主義</p> <p>4回目 擬古典主義/ロマン主義</p> <p>5回目 自然主義</p> <p>6回目 反自然主義/大衆文学</p> <p>7回目 新感覚派/新興芸術派</p> <p>8回目 プロレタリア文学/転向文学</p> <p>9回目 戦中文学</p> <p>10回目 戦後文学/第三の新人</p> <p>11回目 内向の世代</p> <p>12回目 ポストモダン</p> <p>13回目 平成前期の文学</p> <p>14回目 平成後期の文学</p> <p>15回目 まとめ/ライトノベル</p>
到達目標	近代から現代の文学を体系的に説明できるようになる。
授業時間外の学習	授業内で紹介した作品を鑑賞する。
評価方法	<p>学期末課題 (50%)</p> <p>平常点 (50%)</p> <p>※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本の近代小説』中村光夫 岩波新書 ・『日本の現代小説』中村光夫 岩波新書 ・『日本文学史』奥野健男 中央公論新社 ・『新潮日本文学アルバム』新潮社 ・『未完の平成文学史：文芸記者が見た文壇30年』浦田 憲治 早川書房
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』「常夏」巻（前半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。</p> <p>2回目 演習資料作成法</p> <p>3回目 古典文学研究の基礎的文献</p> <p>4回目 演習1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その1）—本文・校異— ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』「常夏」巻に従い、その段数を記す。</p> <p>5回目 演習1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その2）—注釈—</p> <p>6回目 演習1：【1】源氏、釣殿の納涼に近江の君の噂を質す（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>7回目 演習2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その1）—本文・校異—</p> <p>8回目 演習2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その2）—注釈—</p> <p>9回目 演習2：【2】源氏、西の対で和琴を弾き玉鬘と唱和（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>10回目 演習3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その1）—本文・校異—</p> <p>11回目 演習3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その2）—注釈—</p> <p>12回目 演習3：【3】源氏、玉鬘の取扱いに思い迷う（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>13回目 演習4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その1）—本文・校異—</p> <p>14回目 演習4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その2）—注釈—</p> <p>15回目 演習4：【4】内大臣、源氏に反発しつつ娘に苦慮（その3）—研究・鑑賞—</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 古典文学の原文を読解できる。 古典文学研究方法を活用できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） 秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） 秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本文学を代表する古典である『源氏物語』を演習形式で授業を行う。『源氏物語』「常夏」巻（後半）を対象として、本文の異同確認、注釈の比較、鑑賞等を行いながら作品の本質を考えるとともに、古典文学研究の方法を学んでいく。演習発表を行うにあたり、その資料作成には十分な時間を要する。しっかりとした準備とともに相応の覚悟を求めたい。なお、学習成果の指標はA-②である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 本授業の進め方の説明。『源氏物語』、および「常夏」巻の位置づけ等の概説。</p> <p>2回目 演習資料作成法</p> <p>3回目 古典文学研究の基礎的文獻</p> <p>4回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その1）—本文・校異— ※以下、小学館新編日本古典文学全集『源氏物語』「常夏」巻に従い、その段数を記す。</p> <p>5回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その2）—注釈—</p> <p>6回目 演習1：【5】内大臣、雲居雁を訪れて、昼寝を戒める（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>7回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その1）—本文・校異—</p> <p>8回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その2）—注釈—</p> <p>9回目 演習2：【6】内大臣、近江の君を弘徽殿女御に託す（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>10回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その1）—本文・校異—</p> <p>11回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その2）—注釈—</p> <p>12回目 演習3：【7】内大臣、近江の君を訪れる 滑稽な問答（その3）—研究・鑑賞—</p> <p>13回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その1）—本文・校異—</p> <p>14回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その2）—注釈—</p> <p>15回目 演習4：【8】近江の君と弘徽殿女御 珍妙な歌を贈答（その3）—研究・鑑賞—</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 平安文学および『源氏物語』の本質を説明できる。 古典文学の原文を読解できる。 古典文学研究方法を活用できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 事前に指定された範囲の原文について、単語や文法等の確認を予習にあてる。 授業時に学習した範囲の原文について、その鑑賞を復習にあてる。
評価方法	平常点（100点）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房、2002年） 秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館、1997年） 秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』（角川書店、1998年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：中世の実話怪談			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作に関心のある学生にとっては、〈語りの方法〉すなわち怪異がいかにか語られているかを学べるので、創作に取り入れることができるでしょう。 ・司書志望の学生にとっては、様々な文献に接することになるので、資料探しのスキルを身に付ける良い機会になるでしょう。 <p>演習で取り上げるのは、中世の実話怪談です。 実話怪談とは、実際にあった怪異体験を語った話の総称です。 日本では古代から現代にいたるまで、数多くの怪談が生まれてきました。 この演習では、リストアップした中世の怪談から一つ選び、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 現代語訳の作成 2, 類似する話の提示 3, 考察（自由テーマ） <p>を行ってまいります。</p> <p>授業参加は原則対面型ですが、それがむつかしい場合は参加方法を相談して決めます。 学習成果の指標：A-①</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の進め方 怪談の歴史</p> <p>※担当話を決める。</p> <p>2回目 発表の手順 語釈・現代語訳・考察編</p> <p>3回目 生活健康フィールドの講座「いちご学」の聴講 伊藤の担当回。 イチゴのキャラクターが日本でどのように展開していったのかを講義する。</p> <p>4回目 学生発表1 プレゼンテーション 以下同じ</p> <p>5回目 学生発表2</p> <p>6回目 学生発表3</p> <p>7回目 学生発表4</p> <p>8回目 学生発表5</p> <p>9回目 学生発表6</p> <p>10回目 学生発表7</p> <p>11回目 学生発表8</p> <p>12回目 学生発表9</p> <p>13回目 学生発表10</p> <p>14回目 学生発表11</p> <p>15回目 まとめ これまでの整理</p> <p>*要旨集配布</p>

到達目標	・前近代の文章読解の能力を高める。
授業時間外の学習	該当箇所を読む。 事前・事後、各30分。
評価方法	プレゼンテーション (50%) 演習参加状況 (25%) 要旨 (25%)
テキスト	資料を配布
参考書	
備考	現代の実話怪談については、竹書房文庫から数多く出ているので参照のこと。 「竹書房」HP 文庫 > 趣味・実用・他 > ホラー https://www.takeshobo.co.jp/book/act/3/cat0/1/cat1/3/cat2/5/cat3/17

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：中世の実話怪談			
添付ファイル			

授業の概要	<p>【春セメスターと同内容】（再掲）</p> <p>この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作に関心のある学生にとっては、〈語りの方法〉すなわち怪異がいかにか語られているかを学べるので、創作に取り入れることができるでしょう。 ・司書志望の学生にとっては、様々な文献に接することになるので、資料探しのスキルを身に付ける良い機会になるでしょう。 <p>演習で取り上げるのは、中世の実話怪談です。実話怪談とは、実際にあった怪異体験を語った話の総称です。日本では古代から現代にいたるまで、数多くの怪談が生まれてきました。この演習では、リストアップした中世の怪談から一つ選び、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 現代語訳の作成 2, 類似する話の提示 3, 考察（自由テーマ） <p>を行ってまいります。</p> <p>授業参加は原則対面型ですが、それがむづかしい場合は参加方法を相談して決めます。 学習成果の指標：A-①</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の進め方 春セメスターのまとめ 怪談の歴史</p> <p>※担当話を決める</p> <p>2回目 発表の手順（1） 語釈・現代語訳</p> <p>3回目 発表の手順（2） 考察編</p> <p>4回目 学生発表1 プレゼンテーション 以下同じ</p> <p>5回目 学生発表2</p> <p>6回目 学生発表3</p> <p>7回目 学生発表4</p> <p>8回目 学生発表5</p> <p>9回目 「ぶどう学」（生活健康フィールド講座）聴講 伊藤の担当回。 ブドウのキャラクターが日本でどのように展開していったのかを講義する。</p> <p>10回目 学生発表6</p> <p>11回目 学生発表7</p> <p>12回目 学生発表8</p> <p>13回目 学生発表9</p> <p>14回目 学生発表10</p> <p>15回目 まとめ これまでの整理</p>

*要旨集配布	
到達目標	・前近代の文章読解の能力を高める。
授業時間外の学習	該当箇所を読む。 事前・事後、各30分。
評価方法	プレゼンテーション (50%) 演習参加状況 (25%) 要旨 (25%)
テキスト	資料を配布
参考書	
備考	現代の実話怪談については、竹書房文庫から数多く出ているので参照のこと。 「竹書房」HP 文庫 > 趣味・実用・他 > ホラー https://www.takeshobo.co.jp/book/act/3/cat0/1/cat1/3/cat2/5/cat3/17

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	芥川龍之介の小説をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の説明</p> <p>3回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の説明/問題提起の考察</p> <p>4回目 発表1 「老年」/「青年と死」/「ひょっとこ」</p> <p>5回目 発表2 「仙人」/「羅生門」</p> <p>6回目 発表3 「鼻」/「孤独地獄」</p> <p>7回目 発表4 「父」/「虱」/「酒虫」</p> <p>8回目 発表5 「野呂松人形」/「芋粥」</p> <p>9回目 発表6 「猿」/「手巾」</p> <p>10回目 発表7 「煙草と悪魔」/「煙管」</p> <p>11回目 発表8 「MENSURA ZOILI」/「運」</p> <p>12回目 発表9 「尾形了齋覚え書」/「道祖問答」</p> <p>13回目 発表10 「忠義」/「貉」</p> <p>14回目 発表11 「世之助の話」/「偷盗」</p> <p>15回目 発表12 「さまよえる猶太人」/「二つの手紙」</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献調査方法や引用、出典表記の仕方が習得できる。 ・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・芥川龍之介の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各作品は発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各15分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲（60%）</p> <p>レポート（40%）</p> <p>※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	『芥川龍之介全集』1～2 ちくま文庫
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
近代文学			
添付ファイル			

授業の概要	夏目漱石『坊っちゃん』をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 演習の手引き（1）発表担当を決める/文献調査方法の確認</p> <p>3回目 演習の手引き（2）引用・出典表記の確認/問題提起の考察</p> <p>4回目 発表1 第一章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：講師、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>5回目 発表2 第二章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第十一章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>6回目 発表3 第三章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第十章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>7回目 発表4 第四章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第九章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>8回目 発表5 第五章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第八章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>9回目 発表6 第六章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第七章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>10回目 発表7 第七章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第六章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>11回目 発表8 第八章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第五章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>12回目 発表9 第九章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第四章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p> <p>13回目 発表10 第十章 ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 ↳ファシリテーター：第三章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分</p>

	<p>14回目 発表11 第十一章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 25～30分 ・質疑応答 15～20分 ・全体の振り返り 30分 <p>（ファシリテーター：第二章の発表者、方法：KPT法、時間：K→5分 P→15分 T→10分 演習IIに向けて）</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表対象について問題提起ができ、分析過程と結論を言語化できる。 ・夏目漱石の文学に興味を持ち、知見を深めるために質疑応答できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・作品については発表担当に関わらず全て事前に読み込んでおくこと。 ・各30分以内の発表に収まるように構成を練り、口頭練習してから発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲（60%） レポート（40%） ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	『坊っちゃん』夏目漱石 新潮文庫
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	宮沢賢治の生前発表作品群（散文作品）をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。 ※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド</p> <p>3回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成</p> <p>4回目 プレ発表、作品分析の方法</p> <p>5回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈宮沢賢治〉について</p> <p>6回目 担当者発表 (1) 『注文の多い料理店』から (1番目・2番目)</p> <p>7回目 担当者発表 (2) 『注文の多い料理店』から (3番目・4番目)</p> <p>8回目 担当者発表 (3) 『注文の多い料理店』から (5番目・6番目)</p> <p>9回目 担当者発表 (4) 『注文の多い料理店』から (7番目・8番目)</p> <p>10回目 担当者発表 (5) 新聞・雑誌等発表作品から (9番目・10番目)</p> <p>11回目 担当者発表 (6) 新聞・雑誌等発表作品から (11番目・12番目)</p> <p>12回目 担当者発表 (7) 新聞・雑誌等発表作品から (13番目・14番目)</p> <p>13回目 担当者発表 (8) 新聞・雑誌等発表作品から (15番目・16番目)</p> <p>14回目 担当者発表 (9) 新聞・雑誌等発表作品から (17番目・18番目)</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分以外の発表についても、感想や質疑などをおおして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲 (60%)</p> <p>レポート (40%)</p> <p>※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	『宮沢賢治全集』8 (ちくま文庫)
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>太宰治の小説をテキストとして使用し、発表を前提とした演習形式の授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 引用・出典表記の確認、調査・研究のための文献ガイド</p> <p>3回目 発表者の担当作品確認、調査・研究のための文献リスト作成</p> <p>4回目 時代資料の鑑賞など</p> <p>5回目 発表者の担当作品再確認、引用・出典表記の再確認、〈太宰治〉について</p> <p>6回目 担当者発表 (1) 『太宰治全集』2収録作品から (1番目・2番目) (1番目「創世記」・2番目「喝采」)</p> <p>7回目 担当者発表 (2) 『太宰治全集』2収録作品から (3番目・4番目) (3番目「二十世紀旗手」・4番目「あさましきもの」)</p> <p>8回目 担当者発表 (3) 『太宰治全集』2収録作品から (5番目・6番目) (5番目「HUMAN LOST」・6番目「燈籠」)</p> <p>9回目 担当者発表 (4) 『太宰治全集』2収録作品から (7番目・8番目) (7番目「満願」・8番目「姥捨」)</p> <p>10回目 担当者発表 (5) 『太宰治全集』2収録作品から (9番目・10番目) (9番目「I can speak」・10番目「富獄百景」)</p> <p>11回目 担当者発表 (6) 『太宰治全集』2収録作品から (11番目・12番目) (11番目「女生徒」・12番目「懶惰の歌留多」)</p> <p>12回目 担当者発表 (7) 『太宰治全集』2収録作品から (13番目・14番目) (13番目「葉桜と魔笛」・14番目「秋風記」)</p> <p>13回目 担当者発表 (8) 『太宰治全集』2収録作品から (15番目・16番目) (15番目「新樹の言葉」・16番目「華燭」)</p> <p>14回目 担当者発表 (9) 『太宰治全集』2収録作品から (17番目・18番目) (17番目「愛と美について」・18番目「火の鳥」)</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究（論文）やレポート作成で必須となる引用や出典表記の仕方が習得できる。 作家や作品について調査・研究するための文献探索の仕方が習得できる。 作家や作品についての問題提起ができ、その解決の糸口を自分で模索できるようになる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分以外の発表についても、感想や質疑などをおおして積極的に関わってもらうので、テキスト掲載作品はどれもじっくり読み込んでもらいたい。また、知らない、イメージできないといった言葉や表現については、各自調べたうえで授業に臨むこと。 発表の持ち時間はそれぞれ15分とする。ただし、受講者の人数によって持ち時間は前後する。時間内で必要なことが説明できるよう何度か練習して発表に臨むこと。
評価方法	<p>授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	『太宰治全集』2 (ちくま文庫)
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中国の唐代・宋代の代表的な詩について取り上げる。 日本文学にも多大な影響を与えた唐代・宋代の代表的な詩を、中国の注釈を踏まえながら、読解・鑑賞していく。 1年次の文学基礎演習を踏まえ、七言絶句の創作も試みる。</p> <p>学習成果の指標はA-①・②である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修 (Google Meet) で実施し、時間割通りの時間で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスーオンライン授業の注意事項と授業の概要説明</p> <p>2回目 中国文学史概略ー詩文を中心にー</p> <p>3回目 唐詩概説</p> <p>4回目 唐詩の読解ー「黄鶴楼」</p> <p>5回目 唐詩の読解ー「九月九日憶東山兄弟」</p> <p>6回目 唐詩の読解ー「蜀相」</p> <p>7回目 唐詩の読解ー「送友人」</p> <p>8回目 唐詩の読解ー「漁翁」</p> <p>9回目 宋詩概説</p> <p>10回目 宋詩の読解ー「山園小梅」</p> <p>11回目 宋詩の読解ー「鍾山即事」</p> <p>12回目 七言絶句の創作①ー季節を詠む</p> <p>13回目 七言絶句の創作②ー風景を詠む</p> <p>14回目 七言絶句の創作②ー人物を詠む</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	唐代・宋代の詩文の特徴を理解できる（特に中国の注釈を利用して解釈することができる）。また唐宋詩についての理解を深め、漢詩創作への意識を強める。
授業時間外の学習	作品はすべて白文なので、参考書などを活用して事前に訓点をつけておく。またそれぞれの作品の概要・主題をまとめておく。
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%
テキスト	プリント配布。漢文入門で使用した国語便覧を随時活用する。創作は主に『だれにでも作れる漢詩の作り方』を使用する。
参考書	石川忠久監修 『漢詩創作のための詩語集』（大修館書店） 河井醉菝編 『詩語辞典』（松雲堂書店） 川田瑞穂編 『改訂新版 詩語集成』（松雲堂書店） など
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>Iで読解した唐宋詩の読解をもとに、漢詩の創作に取り組む。漢詩（絶句を中心に）の創作法をまなび、実作に臨む。あわせて各自が創作した作品について、合評会を行う。</p> <p>成果を測るため、全員が漢詩コンクール（諸橋轍次博士漢詩大会など）に応募する。また毎回詩吟の練習に励み、自作自詠を目指す。</p> <p>学習成果の指標はA-①・②である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー春セメスターの復習を含めて</p> <p>2回目 漢詩とは</p> <p>3回目 日本人と漢詩創作</p> <p>4回目 漢詩創作法ー七言絶句</p> <p>5回目 漢詩創作法ー五言絶句</p> <p>6回目 漢詩創作法ー柏梁体</p> <p>7回目 漢詩創作法ー漢俳</p> <p>8回目 漢詩実作ー七言絶句</p> <p>9回目 漢詩実作発表・合評会ー七言絶句</p> <p>10回目 漢詩実作ー五言絶句</p> <p>11回目 漢詩実作発表・合評会ー五言絶句</p> <p>12回目 漢詩実作ー漢俳</p> <p>13回目 漢詩実作発表・合評会ー漢俳</p> <p>14回目 漢詩実作ー柏梁体</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	日本人がいかにかに多くの漢詩を創作し、日本の文化の一つとして位置付けてきたかを実感できる。漢詩の決まりを理解し、詩語集を活用し七言絶句を創作できる。そしてその中の秀作を漢詩コンクールに応募する。また詩吟の習熟により、自作自詠を試みることができる。
授業時間外の学習	中国・日本の名詩と言われる作品を鑑賞する。詩語集（だれにもできる漢詩の作り方など）を頻繁に開き、詩語をできるだけ多く覚える。日頃から物をよく見つめ、心に湧いてきたものをメモし、それを短い漢語で置き換える訓練をする。
評価方法	レポート80%、授業への意欲度20%
テキスト	プリントを配布する。創作に関しては、『だれにもできる漢詩の作り方』を用いる。
参考書	授業時に指示する。
備考	

講義科目名称： 比較文学

授業コード： 252003

英文科目名称： Comparative Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ： 澁澤龍彦			
添付ファイル			

授業の概要	<p>澁澤龍彦（1928-1987）は小説家であり、エッセイストでもあります。そのエッセイは中世ヨーロッパの幻想的な知識にあふれており、その後の日本のファンタジー世界にも少なからぬ影響を与えました。一方で、日本の古典に対する造詣も深く、近世考証随筆や近代の柳田國男・南方熊楠といった民俗学者の著作もうまく取り入れています。</p> <p>本講義で取り上げる『東西不思議物語』（1977年）は古今東西の怪異・オカルトの文献を縦横に使って書かれたエッセイをまとめた作品です。</p> <p>東西のどのような文献をどのように取り入れているのでしょうか。ここでは具体的に読む中で見ていきたいと思えます。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①です。 授業形式は基本対面式ですが、オンライン等そのほかの受講形式については応相談。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 澁澤龍彦解説。</p> <p>2回目 #01 鬼人を使う魔法博士のこと</p> <p>3回目 #14 ウツボ舟の女のこと</p> <p>4回目 #17 古道具のお化けのこと</p> <p>5回目 #20 キツネを使う妖術のこと</p> <p>6回目 #22 トラツグミ別名ヌエのこと</p> <p>7回目 #23 幻術師果心居士のこと</p> <p>8回目 #24 天狗と妖霊星のこと</p> <p>9回目 #32 天狗にさらわれた少年のこと</p> <p>10回目 #33 石の中の生きもののこと</p> <p>11回目 #34 海の怪のこと</p> <p>12回目 #38 百鬼夜行のこと</p> <p>13回目 #44 女護の島のこと</p> <p>14回目 #45 不死の人のこと</p> <p>15回目 *レポートの提出 まとめ *レポートの返却</p>
到達目標	・作品を客観的に分析することができるようになる。
授業時間外の学習	まずは通読すること。 次回取り上げる部分を事前に読んでおくこと。
評価方法	平常点（50%） 課題レポート（50%）
テキスト	『東西不思議物語』澁澤龍彦著 河出文庫 1982年 http://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309400334/
参考書	『総特集 澁澤龍彦 ユートピアふたたび』河出書房新社 2002年 →本学図書館旧館1F-L43/910.268
備考	

講義科目名称： 創作文芸概説

授業コード： 144004

英文科目名称： Outline of Creative Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	<p>創作の基礎を学んでいく。 自分の中にある物語を言葉で表現し、自分の外に生み出してみよう。 なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 創作をしてみよう1 創作実践（1200字以内）</p> <p>3回目 創作をしてみよう2 提出作品の鑑賞</p> <p>4回目 現代短歌1 現代短歌とは/作品紹介</p> <p>5回目 現代短歌2 作法/創作実践</p> <p>6回目 現代短歌3 提出作品の鑑賞/創作実践</p> <p>7回目 現代詩1 現代詩とは/作法/作品紹介</p> <p>8回目 現代詩2 作法/創作実践</p> <p>9回目 現代詩3 提出作品の鑑賞/創作実践</p> <p>10回目 小説1 小説とは/作法/作品紹介/小説のテーマ</p> <p>11回目 小説2 舞台設定/キャラクター</p> <p>12回目 小説3 小説の人称/プロット作成/創作実践（2500字程度）</p> <p>13回目 小説4 草稿を校正する</p> <p>14回目 小説5 提出作品を鑑賞する</p> <p>15回目 編集・出版について考えてみる</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による表現の奥深さを考えられるようになる ・読者がいることの楽しさを知る
授業時間外の学習	毎回ではないが創作課題あり
評価方法	<p>授業内の課題（50%） 作品（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	なし
参考書	授業の中で紹介する。
備考	

講義科目名称： 創作文芸入門（児童文学・絵本）

授業コード： 244006

英文科目名称： Creative Writing (Children's Books Picture Books)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>「どのように表現するか」を実践的に考える。 児童文学や絵本について、そのテクニックを実践的に考察する。なお、講義内容は「児童文学」という区分に限定することなく「散文」として幅広く進めていくつもりである。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 書き手と読者の関係について (1)（「作者」とは誰か?）</p> <p>3回目 書き手と読者の関係について (2)（想定される「読者」について）</p> <p>4回目 作品制作上の配慮について (1)（プロットの書き方）</p> <p>5回目 作品制作上の配慮について (2)（場の描写について）</p> <p>6回目 作品制作上の配慮について (3)（魅力的なキャラクターとは）</p> <p>7回目 作品制作 (1)（プロットをもとに）</p> <p>8回目 作品制作 (2)（エピソードの調整）</p> <p>9回目 現代の小説・児童文学作品について考える (1)（「テーマ」について）</p> <p>10回目 現代の小説・児童文学作品について考える (2)（「エピソード」について）</p> <p>11回目 現代の小説・児童文学作品について考える (3)（「リアリティ」の作法について）</p> <p>12回目 校正技術 (1)（いろいろな記号の再確認）</p> <p>13回目 校正技術 (2)（実践練習）</p> <p>14回目 作品制作 (1)（テーマを決める）</p> <p>15回目 作品制作 (2)（ストーリーをまとめる）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「読者」を想定した作品制作が出来るようになる。 ・場の描写、キャラクターの書き分け、リアリティの出し方などの創作技法を実践的に理解する。 ・校正技術を覚える。
授業時間外の学習	<p>創作課題をまめに出すので鋭意取り組んでもらいたい。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲 (60%) 作品提出 (40%) ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 創作文芸入門（短歌・俳句・詩）

授業コード： 253001

英文科目名称： Creative Writing (Tanka Haiku Poems)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	秀歌の鑑賞を通してことばの表現への理解を広げながら、実作によって折々の感動を表現することのよこびを体験する。短歌表現の基礎知識を学び、秀歌の鑑賞によって歌の世界に親しむとともに、実作と合評において折々の感動を表現するための工夫を重ねていく。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 はじめに - 「うた」について 「うた」という詩型 和歌と短歌</p> <p>2回目 秀歌をあじわう① 31音の世界（短歌とは 何をうたうか）</p> <p>3回目 秀歌をあじわう② 31音の世界（ことばをさがす 典型に学ぶ）</p> <p>4回目 口語表現と文語表現 - 実作の準備</p> <p>5回目 口語表現と文語表現（秀歌の例に学ぶ）</p> <p>6回目 秀歌をあじわう③ 四季の歌、恋の歌（春・夏）</p> <p>7回目 歌を作ろう① 自由題3首～5首合評</p> <p>8回目 他大学学生作品を読む</p> <p>9回目 秀歌をあじわう④ 四季の歌、恋の歌（秋・冬）</p> <p>10回目 歌を作ろう② 課題3首～5首合評</p> <p>11回目 新聞歌壇を読む</p> <p>12回目 秀歌をあじわう⑤ 四季の歌、恋の歌（和歌と短歌の違い）</p> <p>13回目 秀歌をあじわう⑥ 修辞法とその効果</p> <p>14回目 歌を作ろう③ 課題3首～5首合評</p> <p>15回目 まとめ-実作を体験して</p>
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。
授業時間外の学習	担当者の勧める歌集をくり返し読むこと。秀歌を暗誦する習慣を身につけること。
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	永田和宏『現代秀歌』（岩波新書）
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：素材探し			
添付ファイル			

授業の概要	<p>〈ノベライズ〉というと、一般に、漫画やゲーム、アニメ原作を小説化することと理解されています。それは間違いはありません。しかし、ここではもっと広く捉えてもらいます。</p> <p>特定の近現代作品（いわゆる版權物） 民話（九尾の狐の話など）・神話伝説（アーサー王伝説など） 歴史（織田信長の生涯や新選組の活動、諸葛孔明の活躍など） 身近な出来事・事件事故（噂・ネットニュースなど） 古典の文芸（源氏物語、雨月物語など）</p> <p>以上のように、昨今のエンターテインメント作品のメディアミックス事情にとどまらず、古典や海外の作品、あるいは民話、歴史など、既に知られている物語（共有コンテンツ）に基づき、趣向を考え、新たな物語を創り出すことが、この授業の基本姿勢です。</p> <p>受講者は既存のコンテンツを踏まえて、いかに小説が作れるか、実作するとともに学んでください。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①です。 遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とします。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめに 物語とは何か 半期にわたって行うことについて説明する。 また、物語概説。</p> <p>2回目 翻案とノベライズ 翻案とはなにか。 さまざまな作例の紹介。</p> <p>3回目 物語性 多様にメディア（漫画・ゲーム・アニメ等）展開するコンテンツ（物語）について解説する。</p> <p>4回目 課題：創作（1）題材とするコンテンツを決める テーマ テーマとは何か。どのようなテーマがあるか。</p> <p>5回目 創作（2）テーマ 課題作品のテーマを決める。</p> <p>6回目 世界観 物語世界の設定。</p> <p>7回目 創作（3）世界観 課題作品の世界観を設計する。</p> <p>8回目 世界の中の道具 大道具、小道具を探す。</p> <p>9回目 キャラクター キャラクターの諸相。人間以外のキャラクター（デミヒューマン、モンスター）の調べ方。</p> <p>10回目 創作（4）キャラクター 課題作品のキャラクターを設定する。</p> <p>11回目 世界観・キャラクターとストーリー キャラクターの会話の役割</p> <p>12回目 創作（5）ストーリー 課題作品のストーリーを考える。</p> <p>13回目 創作（6）作品の概要 課題作品の概要を企画書にまとめる。問題点の抽出。</p> <p>14回目 作品提出 課題作品（5000字程度）の読み合わせ。ブラッシュアップ。</p> <p>15回目 まとめ 作品報告。</p>
到達目標	散文作品を書く技能を身につけられる。
授業時間外の学習	課題の準備をする。

評価方法	授業内の課題 (50%) 作品 (50%)
テキスト	使用しない。
参考書	『ストーリーメーカー 創作のための物語論』大塚英志著 星海社新書 2013年 『ゲームシナリオの書き方 第2版』佐々木智広著 SBクリエイティブ 2017年 (第2版)
備考	本授業内で進めてきた小説を5000字程度の短編作品に仕上げ、提出してもらおう。

講義科目名称： 創作文芸入門（小説・随筆）

授業コード： 213001

英文科目名称： Creative Writing (Novels and Essays)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	<p>実際に随筆と小説を創作してもらう。 どのように書けば書きたいものが表現できるか考え、取り組んでほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 随筆1 作品鑑賞/随筆の構成を考える</p> <p>3回目 随筆2 創作実践 原稿用紙2～5枚程度</p> <p>4回目 随筆3 提出作品の鑑賞</p> <p>5回目 小説1 小説のテーマと舞台設定を決める</p> <p>6回目 小説2 キャラクターたちを設計する</p> <p>7回目 小説3 プロットを作成する</p> <p>8回目 小説4 プロットの添削</p> <p>9回目 小説5 作品の提出 3000字程度</p> <p>10回目 小説6 提出作品の鑑賞</p> <p>11回目 小説7 テーマ/舞台/キャラクターを設定する</p> <p>12回目 小説8 プロットを作成する</p> <p>13回目 小説9 プロットを添削する</p> <p>14回目 小説10 作品を提出する 5000字程度</p> <p>15回目 まとめ 最終提出作品の鑑賞</p>
到達目標	散文作品を書く技能を身につけられる。
授業時間外の学習	課題の準備をする。
評価方法	<p>授業内の課題（50%） 作品（50%） ※遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	なし
参考書	授業の中で紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	本授業では近代以降の短歌史をたどりつつ、それぞれの歌人が開拓した短歌の表現を学び、実作においてよりゆたかな表現を獲得することを目標とする。明治、大正時代の短歌史の流れを把握し、歌人たちがそれぞれ切りひらいた多様な表現の世界を学ぶ。また、実作を行い、発想や内容などの表現をさまざまに試みる。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 和歌から短歌へ</p> <p>2回目 和歌革新運動まで（旧派和歌・新体詩・開化新題和歌）</p> <p>3回目 和歌革新運動まで（落合直文とあさ香社について）</p> <p>4回目 明星派の主張と歌人たち① 与謝野鉄幹・与謝野晶子</p> <p>5回目 明星派の主張と歌人たち② 山川登美子・茅野雅子</p> <p>6回目 歌を作ろう① 自由題3首～5首と合評</p> <p>7回目 アララギ派の主張と歌人たち① 正岡子規・伊藤左千夫・長塚節</p> <p>8回目 アララギ派の主張と歌人たち② 島木赤彦・斎藤茂吉</p> <p>9回目 短歌の朗読 秀歌の暗誦（CDを聴く）</p> <p>10回目 歌を作ろう② 題詠3首～5首と合評</p> <p>11回目 「こころの花」の主張と歌人たち 佐々木信綱・柳原白蓮</p> <p>12回目 釈迢空・石川啄木の活動と歌の表現</p> <p>13回目 修辞法とその効果</p> <p>14回目 歌を作ろう③題詠3首～5首と合評</p> <p>15回目 まとめ 歌と私</p>
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。
授業時間外の学習	各歌人の代表作（秀歌）を暗誦できること。
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	永田和宏『近代秀歌』（岩波新書）
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	春semester同講座にひきつづき、大正時代以降の短歌史をたどりつつ、それぞれの歌人が到達した短歌の表現を学び、実作においてよりゆたかな表現を獲得することを目的とする。大正・昭和時代の短歌史の流れを把握し、歌人たちがそれぞれに切り拓いた多様な表現の世界を学ぶ。また、実作を行い、発想や内容などの表現を自由に試みていく。なお、学習成果の指標はA-①・②である。遠隔授業実施の際は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）を主として行い、事前に履修者に周知する。
授業計画	<p>1回目 春semester授業の振り返り</p> <p>2回目 近代歌人の表現に学ぶ① 石川啄木・土岐善麿</p> <p>3回目 近代歌人の表現に学ぶ② 前田夕暮・北原白秋</p> <p>4回目 歌を作ろう① 自由題3首～5首と合評</p> <p>5回目 近代歌人の表現に学ぶ③ 若山牧水・土屋文明</p> <p>6回目 現代歌人の表現に学ぶ① 宮柊二・斎藤史他2名</p> <p>7回目 短歌の朗読 秀歌の暗誦</p> <p>8回目 歌を作ろう② 題詠3首～5首と合評</p> <p>9回目 短歌史における「現代」について ーその区分と概観</p> <p>10回目 現代歌人の表現に学ぶ② 岡野弘彦・馬場あき子他3名</p> <p>11回目 現代歌人の表現に学ぶ③ 河野裕子・俵万智他3名</p> <p>12回目 新人賞・歌人賞の歌人たち</p> <p>13回目 修辭法とその効果</p> <p>14回目 歌を作ろう③ 題詠5首と合評</p> <p>15回目 まとめ 歌と私</p>
到達目標	感動したこと、思ったことを自分のことばで短歌の形式にまとめられること。
授業時間外の学習	各歌人の代表作（秀歌）を暗誦すること。
評価方法	平常点（100%）、遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	永田和宏『近代秀歌』（岩波新書）
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	

講義科目名称： 創作文芸演習（小説・随筆） I

授業コード： 141004

英文科目名称： Creative Writing (Novels and Essays) 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	<p>実際に作品を書いてもらう。 構想と実際に書くもののずれを体感しつつ、一つの作品を最後まで書き上げる力をつけてほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 二次創作1 題材にする作品の決定/作品設定や読者層の調査・分析</p> <p>3回目 二次創作2 プロットの作成/創作実践</p> <p>4回目 二次創作3 作品提出 3000字以内</p> <p>5回目 二次創作4 提出作品の鑑賞</p> <p>6回目 一次創作1 テーマ/世界観設定/キャラクター設定</p> <p>7回目 一次創作2 読者層の設定/プロット作成</p> <p>8回目 一次創作3 ペアでプロットの確認と添削</p> <p>9回目 一次創作4 第一回作品提出</p> <p>10回目 一次創作5 提出作品の批評</p> <p>11回目 一次創作6 グループでプロットの見直し</p> <p>12回目 一次創作7 第一回提出作品の校正</p> <p>13回目 一次創作8 教員と内容確認</p> <p>14回目 一次創作9 最終作品提出 5000字以内</p> <p>15回目 まとめ 提出作品の鑑賞</p>
到達目標	自身の作品世界を、どのように構築するかを、考察できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・構想を練る ・資料収集 ・作品の創作 ・映画鑑賞や読書
評価方法	提出作品（100%）
テキスト	使用しない。
参考書	授業時に紹介する。
備考	新作を書き上げること。 卒業創作に関連する創作物でもかまわない。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
岩渕真未 講師			
創作文芸	小説		
添付ファイル			

授業の概要	<p>実際に作品を書いてもらう。 繰り返し作品を書き上げることで、創作者として自信をつけてほしい。 なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 創作実践（お題あり、授業内提出）</p> <p>3回目 提出作品の鑑賞</p> <p>4回目 作品設定を決める/プロット作成</p> <p>5回目 ペアでプロットの見直しと添削/創作実践</p> <p>6回目 作品提出 3000字程度</p> <p>7回目 提出作品鑑賞</p> <p>8回目 創作実践（お題あり、授業内提出）</p> <p>9回目 提出作品の鑑賞</p> <p>10回目 作品の設定を決める/プロット作成</p> <p>11回目 グループ活動（作品設定とプロットを説明）</p> <p>12回目 プロットの添削/創作実践</p> <p>13回目 教員と草稿の確認</p> <p>14回目 最終作品提出 5000字程度</p> <p>15回目 まとめ 提出作品の鑑賞</p>
到達目標	自身の作品世界を、どのように構築するかを、考察できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・構想を練る ・資料収集 ・作品の創作 ・映画鑑賞や読書
評価方法	提出作品（100%）
テキスト	使用しない。
参考書	授業時に紹介する。
備考	新作を書き上げること。 卒業創作に関連する創作物でもかまわない。

講義科目名称： 創作文芸演習（児童文学・絵本） I

授業コード： 112003

英文科目名称： Creative Writing（Children's Books） 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>作品の完成度を上げるために必要なことを実践的に考える。 「創作文芸入門」で学んだことを基礎に、作品の質の向上のためのテクニックを実践的に考察する。なお、講義内容は「児童文学」という区分に限定することなく「散文」として幅広く進めていくつもりである。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 書き手と読者の関係について</p> <p>3回目 作品制作上の配慮について</p> <p>4回目 語り手、人称、視点の実践的把握（1）（「語り」とはなにか）</p> <p>5回目 語り手、人称、視点の実践的把握（2）（「一人称」の世界）</p> <p>6回目 語り手、人称、視点の実践的把握（3）（「三人称」の世界）</p> <p>7回目 語り手、人称、視点の実践的把握（4）（「視点」とはなにか）</p> <p>8回目 語り手、人称、視点の実践的把握（5）（「視点」の移動）</p> <p>9回目 企画検討（1）（課題をもとにプロットを作成する）</p> <p>10回目 企画検討（2）（プロットの整理）</p> <p>11回目 執筆作業（1）（人称に注意しながら）</p> <p>12回目 執筆作業（2）（語りの「ブレ」に注意しながら）</p> <p>13回目 執筆作業（3）（書くべきもの、書くべきでないものに注意しながら）</p> <p>14回目 校正作業</p> <p>15回目 合評</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 書き手と読者の関係について理解できる。 語り手、人称、視点について把握できる。 校正技術が獲得できる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 自分が書いてみたいとおもう作品の傾向をつかんでおく。 書く内容について、ときどきは他の受講者と意見交換をしておいてほしい。
評価方法	<p>授業への参加意欲（60%） 作品提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 創作文芸演習（児童文学・絵本）Ⅱ

授業コード： 212001

英文科目名称： Creative Writing（Children's Books）2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>作品の完成度を上げるために必要なことを実践的に考える。 「創作文芸演習（児童文学・絵本）Ⅰ」で学んだことを踏まえ、作品のさらなる質の向上のためのテクニックを実践的に考察する。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 作品の諸設定について（1）（書くべきことは何か）</p> <p>2回目 作品の諸設定について（2）（キャラクターについて）</p> <p>3回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（1）（全体の流れを捉える）</p> <p>4回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（2）（冒頭に置くべきエピソード）</p> <p>5回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（3）（伏線とその回収）</p> <p>6回目 ストーリーの展開と構成の配慮について（4）（エンディングのあり方）</p> <p>7回目 推敲での配慮について（1）（読者の目線とは）</p> <p>8回目 推敲での配慮について（2）（読みやすさと読みにくさ）</p> <p>9回目 企画検討（1）（プロット作成）</p> <p>10回目 企画検討（2）（プロットの練り上げ）</p> <p>11回目 執筆作業（1）（核となるストーリーの展開）</p> <p>12回目 執筆作業（2）（細部の調整）</p> <p>13回目 執筆作業（3）（構成の再構築）</p> <p>14回目 校正作業</p> <p>15回目 合評</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考えた作品作りができるようになる。 ・推敲のしかたがわかるようになる。
授業時間外の学習	<p>ストーリーの強弱の付け方に留意しながら小説を数多く読んでみて欲しい。</p>
評価方法	<p>授業への参加意欲（60%） 作品提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

講義科目名称： 日本芸能文化論

授業コード： 144005

英文科目名称： Japanese Entertainment Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤高雄 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本における芸能文化の世界は、日本人が教養として持つべきとされた文学芸術、歌舞音曲、遊戯など各種の才芸を根柢に、華道・茶道などの道をつく芸事、能・歌舞伎・舌耕芸などの伝統芸能や民俗芸能、さらには映画・現代演劇まで、広い裾野をもって伝わります。本講座では、そうした芸能文化の根源をなすと考えられる祭りの世界を出発点にすえ、しきたりをも含めた日本の芸能文化の種々相を概説しながら、主に伝統芸能と民俗芸能の世界にスポットをあてて、映像資料を参考に、発生的な見地から位置づけて行きたいと思います。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 講義ガイダンス</p> <p>2回目 芸能の発生</p> <p>3回目 芸能の空間</p> <p>4回目 演出の発生と展開</p> <p>5回目 舞と踊りと</p> <p>6回目 邪霊退散の呪能</p> <p>7回目 ことほぎの芸能</p> <p>8回目 伎楽と舞楽と散楽と</p> <p>9回目 田楽芸の展開</p> <p>10回目 幸若舞・猿楽能・歌舞伎</p> <p>11回目 人形の芸能</p> <p>12回目 舌耕芸の世界</p> <p>13回目 やつしの芸能</p> <p>14回目 悪態の芸能</p> <p>15回目 伝統芸能から民俗芸能へ</p>
到達目標	日本の芸能文化のうち、能・歌舞伎・人形浄瑠璃・舌耕芸などの伝統芸能や民俗芸能について、解説できる。
授業時間外の学習	テレビやYouTubeなどで、興味ある伝統芸能や民俗芸能を観るとともに、機会を作って、国立劇場や国立能楽堂、歌舞伎座などに出かけて実際の芸能を堪能する。
評価方法	提出課題とレポート（50%）、受講内容（50%）から総合的に評価する。
テキスト	レジュメを配付する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
飯倉義之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>伝承文学とは、文学を伝承性の視点からとらえる場合の一つの方法である。したがって記載文芸および口承文芸にとどまらず、広範な伝承文化全体の中からとらえる必要がある。</p> <p>私たちの生活文化を見直し、日本の民俗文化を理解するために、まずは記載文芸としての文学作品や口承文芸としての昔話、伝説、世間話などを対象として、その背後に存在する民俗文化を見出していく。さらには世界的に類似した口承、記載文芸との比較を通してより広い視野から理解し学んでいく。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①（日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的（文学・言語・経済・歴史など）に説明できる）である。</p> <p>本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定である。</p>
授業計画	<p>1回目 インTRODakShION 伝承文学とは何か</p> <p>2回目 民間説話の三分類</p> <p>3回目 異類譚という「話型」 『古事記』 「三輪山神婚説話」を読む</p> <p>4回目 異類女房譚という「話型」1 『日本霊異記』 「狐女房」を読む</p> <p>5回目 異類女房譚という「話型」2 『近江国風土記逸文』 「天人女房」を読む</p> <p>6回目 来訪者歓待譚 『常陸国風土記』 「富士筑波」を読む</p> <p>7回目 異郷訪問譚 『日本書紀』 「浦嶋子」を読む</p> <p>8回目 小さき子譚 『竹取物語』を読む</p> <p>9回目 貴種流離譚 『伊勢物語』を読む</p> <p>10回目 運命譚 『神道集』を読む</p> <p>11回目 霊験と富 『今昔物語集』 「藁しべ長者」を読む</p> <p>12回目 隣の爺譚 『宇治拾遺物語』 「瘤取り爺」を読む</p> <p>13回目 棄老説話・歌徳説話 『大和物語』を読む</p> <p>14回目 継子譚 御伽草子『鉢かづき』を読む</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口承と書承との差異やその特質を説明でき、伝承文学に結実された民俗知や文化享受の方法を述べるができるようにする。 ・庶民文化への関心を高め、文献やフィールド調査を進めることができ、伝承文学の方法の理解を深め、研究のための技術やスキルを用い活かすことができるようにする。
授業時間外の学習	配布のプリント等を読んでおく。次回の単元についてテキストを読み、下調べしておく。
評価方法	授業期間内試験（60%）、毎回の提出物（40%）。
テキスト	小川直之・大石泰夫・服部比呂美・飯倉義之『伝承文学を学ぶ』清文堂出版, 2021. 12 ISBN 978-4-7924-1496-2
参考書	<p>野村純一『昔話・伝説必携』學燈社、1991。</p> <p>日本民話の会『決定版 日本の民話事典—読んで面白い ひいてわかり易い』講談社プラスアルファ文庫、2002。</p> <p>日本民話の会（編集）日本口承文芸学会編『シリーズことばの世界』全4巻、三弥井書店、2009。</p> <p>野村純一ほか『昔話・伝説を知る事典』アーツアンドクラフツ、2021。</p> <p>日本口承文芸学会編『こえのことばの現在』三弥井書店、2017。</p>

備考	國學院大學日本文学科の必修科目である「伝承文学概説Ⅰ」と同内容の講義を行う。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
飯倉義之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>伝承文学とは、文学を伝承性の視点からとらえる場合の一つの方法である。したがって記載文芸および口承文芸にとどまらず、広範な伝承文化全体の中からとらえる必要がある。</p> <p>私たちの生活文化を見直し、日本の民俗文化を理解するために、まずは記載文芸としての文学作品や口承文芸としての昔話、伝説、世間話などを対象として、その背後に存在する民俗文化を見出していく。さらには世界的に類似した口承、記載文芸との比較を通してより広い視野から理解し学んでいく。</p> <p>後期では、基本的に前期の講義を下敷きとしてさらに深い理解を進めていく。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①（日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的（文学・言語・経済・歴史など）に説明できる）である。</p> <p>本授業は対面で行う予定だが、遠隔授業が実施される場合はオンデマンド型を利用する予定である。</p>
授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン 伝承文学とは何か</p> <p>2回目 動物報恩譚 『日本霊異記』 「蟹報恩」を読む</p> <p>3回目 動物昔話 赤本『猿蟹合戦』を読む</p> <p>4回目 小鳥前生譚 『俊頼髓脳』 「時鳥」を読む</p> <p>5回目 昔話の移動と移入 『沙石集』 「貧窮追出事」を読む</p> <p>6回目 和尚と小僧譚 『沙石集』 「慳貪者事」を読む</p> <p>7回目 おどけ者話 『古本説話集』 「平中事」を読む</p> <p>8回目 愚か者話・愚か村話 狂言「岡太夫」を読む</p> <p>9回目 説話の伝播者 菅江真澄遊覧記『かすむこまがた』 「琵琶に摺臼」を読む</p> <p>10回目 伝説の伝播 菅江真澄遊覧記『おののふるさと』を読む</p> <p>11回目 歌の伝承 『万葉集』 「筑波嶺の歌垣」を読む</p> <p>12回目 絵解き・唱導文芸 『道成寺縁起』を読む</p> <p>13回目 説話と芸能 『鎌倉大草紙』 「小栗判官」を読む</p> <p>14回目 説話とメディア・観光 『桃太郎乃話』を読む</p> <p>15回目 まとろ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口承と書承との差異やその特質を説明でき、伝承文学に結実された民俗知や文化享受の方法を述べることができるようにする。 ・庶民文化への関心を高め、文献やフィールド調査を進めることができ、伝承文学の方法の理解を深め、研究のための技術やスキルを用い活かすことができるようにする。
授業時間外の学習	配布のプリント等を読んでおく。次回の単元について、テキストを読み、下調べしておく。
評価方法	授業期間内試験（60％）、毎回の提出物（40％）。
テキスト	小川直之・大石泰夫・服部比呂美・飯倉義之『伝承文学を学ぶ』清文堂出版、2021.12 ISBN 978-4-7924-1496-2
参考書	<p>野村純一『昔話・伝説必携』學燈社、1991。</p> <p>日本民話の会『決定版 日本の民話事典—読んで面白い ひいてわかり易い』講談社プラスアルファ文庫、2002。</p> <p>日本民話の会（編集）日本口承文芸学会編『シリーズことばの世界』全4巻、三弥井書店、2009。</p> <p>野村純一ほか『昔話・伝説を知る事典』アーツアンドクラフツ、2021。</p> <p>日本口承文芸学会編『こえのことばの現在』三弥井書店、2017。</p>

備考	國學院大學日本文学科の必修科目「伝承文学概説Ⅱ」と同様の講義を行う。
----	------------------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>古典文学における伝承の問題を考えるために、平安時代の文学者である小野篁にまつわる事象を取り上げる。篁の和歌や漢詩は諸書に見られ、また彼に関わる話は『篁物語』をはじめとして『今昔物語集』等の説話にも散見される。あわせて、現代においても各地にその伝承を見出すことができる。古典文学の読解の基礎を養成しながら、日本民俗学を主たる方法として、篁伝承を追いかけたい。授業時にはレポートの発表も行ってもらう予定である。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスならびに小野篁概説</p> <p>2回目 漢詩一和漢朗詠集①—</p> <p>3回目 漢詩一和漢朗詠集②—</p> <p>4回目 和歌一古今和歌集①—</p> <p>5回目 和歌一古今和歌集②—</p> <p>6回目 中世説話一今昔物語集①—</p> <p>7回目 中世説話一今昔物語集②—</p> <p>8回目 篁物語①</p> <p>9回目 篁物語②</p> <p>10回目 篁物語③</p> <p>11回目 現代に伝わる伝承一六道珍皇寺①—</p> <p>12回目 現代に伝わる伝承一六道珍皇寺②—</p> <p>13回目 レポート発表①—古典文学から—</p> <p>14回目 レポート発表②—現代に伝わる伝承から—</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学の基礎を知り、伝承文学の本質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。
評価方法	小テスト（70%）平常点（30%）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70%）平常点（30%）
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
津島昭宏 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>古典文学における伝承の問題を考えるために、平安時代の文学者である小野篁にまつわる事象を取り上げる。篁の和歌や漢詩は諸書に見られ、また彼に関わる話は『篁物語』をはじめとして『今昔物語集』等の説話にも散見される。あわせて、現代においても各地にその伝承を見出すことができる。古典文学の読解の基礎を養成しながら、日本民俗学を主たる方法として、篁伝承を追いかけたい。授業時にはレポートの発表も行ってもらう予定である。なお、学習成果の指標はA-①である。遠隔授業実施の際は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせを行い、事前に履修者に周知する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスならびに小野篁概説</p> <p>2回目 漢詩一本朝文粹ほか①ー</p> <p>3回目 漢詩一本朝文粹ほか②ー</p> <p>4回目 和歌一新古今和歌集ほか①ー</p> <p>5回目 和歌一新古今和歌集ほか②ー</p> <p>6回目 中世説話一江談抄ほか①ー</p> <p>7回目 中世説話一江談抄ほか②ー</p> <p>8回目 篁物語①</p> <p>9回目 篁物語②</p> <p>10回目 篁物語③</p> <p>11回目 現代に伝わる伝承一千本ゑんま堂①ー</p> <p>12回目 現代に伝わる伝承一千本ゑんま堂②ー</p> <p>13回目 レポート発表①ー古典文学からー</p> <p>14回目 レポート発表②ー現代に伝わる伝承からー</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗学の基礎を知り、伝承文学の本質を理解できる。 ・基礎的な古典文学の読解法を習得できる。
授業時間外の学習	予定された範囲の語彙等を事前に調べ、内容を把握しておく。
評価方法	小テスト（70％）平常点（30％）、遠隔授業に変更した場合はレポート（70％）平常点（30％）
テキスト	教科書は使用せず、授業時に本文および関連資料を配付する。
参考書	授業時に必要に応じて紹介する。
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
テーマ：現代のフォークロア			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。特に次の学生には積極的な受講を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文で下記の対象を取り上げる人 ・卒業制作で下記の対象に基づくものを創ろうと考えている人 ・大学の編入先で民俗学や伝承文学専攻を考えている人（本演習は國學院大學の同演習と同じ形式です） <p>この演習では、履修者各自が自分で関心のある題材を選び、それについて調べ、考えたことを報告してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔話伝説 ・民俗行事 ・民間信仰 <p>といった一般的なジャンルのほか、現代に特徴的な次の対象も扱うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市伝説、ネットロア ・学校の怪談 ・実話怪談 ・パワースポット、心霊スポット ・ご当地キャラクター ・地域振興、観光利用 ・表象文化（ゲームや映画等）にどのように描かれているか <p>なお、学習成果の指標は A-①です。原則、対面式です。それ以外の参加方法については応相談。</p>
授業計画	<p>01 ガイダンス 授業の進め方</p> <p>*課題：何を取り上げるか、次回までに考えておく</p> <p>02 演習の手順（1） 事例</p> <p>*発表順序を決める</p> <p>03 演習の手順（2） 事例</p> <p>04 学生発表（1） プレゼンテーション（以下、同じ）</p> <p>05 学生発表（2）</p> <p>06 学生発表（3）</p> <p>07 学生発表（4）</p> <p>08 学生発表（5）</p> <p>09 学生発表（6）</p> <p>10 学生発表（7）</p> <p>11 学生発表（8）</p> <p>12 学生発表（9）</p> <p>13 学生発表（10）</p> <p>14 学生発表（11）</p> <p>*課題：発表要旨（1000字程度）の提出 まとめ</p> <p>15</p>

総括	
到達目標	自分で調べたことを説明することができる。
授業時間外の学習	取り上げる対象について調べる。
評価方法	プレゼンテーション 50% 授業参加（発言等） 25% 要旨 25%
テキスト	なし。
参考書	各自の題材によって異なる。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
伊藤慎吾 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>【春semesterと同内容】（再掲）</p> <p>この演習は誰でも受講可能です。関心があれば自由に参加してください。特に次の学生には積極的な受講を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文で下記の対象を取り上げる人 卒業制作で下記の対象に基づくものを創ろうと考えている人 大学の編入先で民俗学や伝承文学専攻を考えている人（本演習は國學院大學の同演習と同じ形式です） <p>この演習では、履修者各自が自分で関心のある題材を選び、それについて調べ、考えたことを報告してもらいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔話伝説 民俗行事 民間信仰 <p>といった一般的なジャンルのほか、現代に特徴的な次の対象も扱うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市伝説、ネットロア 学校の怪談 実話怪談 パワースポット、心霊スポット ご当地キャラクター 地域振興、観光利用 表象文化（ゲームや映画等にどのように描かれているか） <p>なお、学習成果の指標は A-①です。原則、対面式です。それ以外の参加方法については応相談。</p>																														
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>01</td> <td>演習の手順（1） 実例</td> </tr> <tr> <td></td> <td>*発表順序を決める</td> </tr> <tr> <td>02</td> <td>演習の手順（2） 実例</td> </tr> <tr> <td>03</td> <td>学生発表（1） プレゼンテーション（以下、同じ）</td> </tr> <tr> <td>04</td> <td>学生発表（2）</td> </tr> <tr> <td>05</td> <td>学生発表（3）</td> </tr> <tr> <td>06</td> <td>学生発表（4）</td> </tr> <tr> <td>07</td> <td>学生発表（5）</td> </tr> <tr> <td>08</td> <td>学生発表（6）</td> </tr> <tr> <td>09</td> <td>学生発表（7）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>学生発表（8）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>学生発表（9）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>学生発表（10）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>学生発表（11）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>学生発表（12）</td> </tr> </table> <p>*課題：発表要旨（1000字程度）の提出</p>	01	演習の手順（1） 実例		*発表順序を決める	02	演習の手順（2） 実例	03	学生発表（1） プレゼンテーション（以下、同じ）	04	学生発表（2）	05	学生発表（3）	06	学生発表（4）	07	学生発表（5）	08	学生発表（6）	09	学生発表（7）	10	学生発表（8）	11	学生発表（9）	12	学生発表（10）	13	学生発表（11）	14	学生発表（12）
01	演習の手順（1） 実例																														
	*発表順序を決める																														
02	演習の手順（2） 実例																														
03	学生発表（1） プレゼンテーション（以下、同じ）																														
04	学生発表（2）																														
05	学生発表（3）																														
06	学生発表（4）																														
07	学生発表（5）																														
08	学生発表（6）																														
09	学生発表（7）																														
10	学生発表（8）																														
11	学生発表（9）																														
12	学生発表（10）																														
13	学生発表（11）																														
14	学生発表（12）																														

	15 まとめ 総括
到達目標	自分で調べたことを説明することができる。
授業時間外の学習	取り上げる対象について調べる。
評価方法	プレゼンテーション 50% 授業参加（発言等） 25% 要旨 25%
テキスト	なし。
参考書	各自の題材によって異なる。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>PC（パーソナルコンピュータ）を使い、調査・分類・研究・デザインなどをするにあたって、必要と思われる基礎的な知識と技術を実践的に学んでいく。 なお、PCの習熟度は個人個人でかなり差があると思うが、なにより慣れることが上達への一番の近道なので、提出課題などは積極的にこなしてもらいたい。 なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。 ※この授業はPCでの操作を前提とした内容となっている。したがってスマートフォンやタブレット端末のみでの受講は困難となる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 Web検索の基本（Googleでの検索の仕方、Web辞書、OPACの利用方法など）</p> <p>3回目 PCの基礎知識（1）（ハードウェア、ソフトウェアについて）</p> <p>4回目 PCの基礎知識（2）（フォント、さまざまなデータ形式について）</p> <p>5回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（1）（正規表現とはなにか）</p> <p>6回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（2）（検索・置換）</p> <p>7回目 テキストエディタを使った正規表現のトレーニング（3）（便利な応用テクニック）</p> <p>8回目 データ作成の実践（1）（Wordの基本、Wordの設定変更、ショートカットキーの習得）</p> <p>9回目 データ作成の実践（2）（Wordの実践テクニック・入力など）</p> <p>10回目 データ作成の実践（3）（Wordの実践テクニック・検索、置換の方法など）</p> <p>11回目 データ作成の実践（4）（Excelの基本）</p> <p>12回目 データ作成の実践（5）（Excelの実践テクニック・関数を使う）</p> <p>13回目 印刷・レイアウトの実践（1）（DTPについて）</p> <p>14回目 印刷・レイアウトの実践（2）（印刷をコントロールする）</p> <p>15回目 印刷・レイアウトの実践（3）（誌面デザインについて）</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートカットキーの理解、基本ソフトの長所短所を理解する。 ・PCを使ったデータ作成の方法を理解する。 ・PCを使った作品の分析方法を知る。
授業時間外の学習	PCは慣れが一番の上達方法なので、機会あるごとにPCを操作してみること。
評価方法	<p>授業への参加意欲（60%） 課題の提出（40%） ※遠隔授業の場合も同様</p>
テキスト	ナシ
参考書	ナシ
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
奈良場 勝 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中国古典文学の歴史（周から漢まで）をたどりながら、特に日本文学に影響を与えた作品を取り上げ、その受容の実態を明らかにしていく。</p> <p>中国の文学史（周から漢あたりまで）を捉えた上で、その時代の代表作品（『詩経』や諸子百家・『史記』など）を取り上げ、特に日本文学とのかかわりの深い作品を読み、その作品がどのように日本文学に影響を与えたかを明らかにする。作品を読むに当たり、漢和辞典・古語辞典を用意すること。</p> <p>学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合、②同時・双方向型学修（Google Meet）で実施し、時間割通りの時間で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 訓読法の復習</p> <p>3回目 導入作品講読（『搜神記』など）</p> <p>4回目 中国文学史 I（先秦の文学）</p> <p>5回目 作品講読 I（『易経』）と『平家物語』巻七）作品の背景</p> <p>6回目 作品講読 I（『易経』）と『平家物語』巻七）作品の講読</p> <p>7回目 作品講読 II（『詩経』大序）と『古今集』真名序）作品の背景</p> <p>8回目 作品講読 II（『詩経』大序）と『古今集』真名序）作品の講読</p> <p>9回目 作品講読 III（『老子』と『徒然草』第211段）作品の背景</p> <p>10回目 作品講読 III（『老子』と『徒然草』第211段）作品の講読</p> <p>11回目 中国文学史 II（漢代の文学）</p> <p>12回目 作品講読 IV（『史記』屈原賈誼列伝と『源氏物語』須磨の巻）作品の背景</p> <p>13回目 作品講読 IV（『史記』屈原賈誼列伝と『源氏物語』須磨の巻）作品の講読</p> <p>14回目 まとめ I 中国文学史について（先秦～漢代）</p> <p>15回目 まとめ II 各作品について</p>
到達目標	漢文入門で学んだ訓読の基礎を踏まえて、作品の訓読が正しくできる。また日本文学に中国文学の影響が大きかったことを作品を通して理解できる。さらに中国文学史（伝説時代から漢まで）の基本事項をまとめることができる。
授業時間外の学習	授業で扱う作品漢文作品については、事前に音読し、原文をノートに写し書き下し文を書いておく。不明な語句は漢和辞典を引いておく。
評価方法	期末レポート(100%)
テキスト	授業時に指示する。基本的にはプリントを配布する。漢文入門で使用した国語便覧を随時活用する。
参考書	漢詩・漢文解釈講座 日本文学と漢詩文 昌平社
備考	連絡事項はクラスルームから発信する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
奈良場 勝 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中国古典文学の歴史（魏晉六朝から宋まで）をたどりながら、特に日本文学に影響を与えた作品を取り上げ、その受容の実態を明らかにする。 中国の文学史（魏晉六朝から宋あたりまで）を捉えた上で、その時代の代表作品（『文選』、陶淵明・杜甫・李白・白居易など）を取り上げ、特に日本文学とのかかわりの深い作品（『菅家文草』・『徒然草』や芭蕉・蕪村など）を読み、その作品がどのように日本文学に影響を与えたかを明らかにする。作品を読むに当たり、漢和辞典・古語辞典を用意すること。 学習成果の指標はA-①である。 本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修（Google Meet利用）で実施し、時間割の時間に行う。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 訓読の復習</p> <p>3回目 中国文学史Ⅰ（唐代）</p> <p>4回目 作品講読Ⅰ（杜甫「春望」と『おくのほそ道』平泉）作品の背景</p> <p>5回目 作品講読Ⅰ（杜甫「春望」と『おくのほそ道』平泉）作品の解釈</p> <p>6回目 作品講読Ⅱ（杜甫「石壕吏」と正岡子規）作品の背景</p> <p>7回目 作品講読Ⅲ（杜甫「石壕吏」と正岡子規）作品の解釈</p> <p>8回目 作品講読Ⅲ（李白「汪倫に贈る」と『土佐日記』）作品の背景</p> <p>9回目 作品講読Ⅲ（李白「汪倫に贈る」と『土佐日記』）作品の解釈</p> <p>10回目 作品講読Ⅳ（白居易「香炉峰…」と『枕草子』・『大鏡』・『菅家後集』）作品の背景</p> <p>11回目 作品講読Ⅳ（白居易「香炉峰…」と『枕草子』・『大鏡』・『菅家後集』）作品の解釈</p> <p>12回目 作品講読Ⅴ（井伏鱒二『厄除け詩集』と漢詩文）作品の背景</p> <p>13回目 作品講読Ⅴ（井伏鱒二『厄除け詩集』と漢詩文）作品の解釈</p> <p>14回目 中国文学史Ⅱ（宋代以降）</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	日本文学にどのように中国文学が影響を与えたか、特に『徒然草』や俳諧などの古典においてその状況を理解できる。また中国文学史（唐代から宋代まで）の基本項目を簡単にまとめることができる。
授業時間外の学習	授業で扱う作品については、事前に音読し、原文をノートに写し、書き下し文を書いておく。不明な語句は漢和辞典などを引いておく。
評価方法	期末レポート（100%）
テキスト	授業時に指示する。基本的にはプリントを配布する。漢文入門で使用した国語便覧（P268～269）を使用する。
参考書	漢詩・漢文解釈講座 日本文学と漢詩文 昌平社
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
塚越義幸 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>1年次で習得した漢文訓読の基礎を踏まえて、さらに本格的な漢文学作品を読み進める。本年度は、わが国でも古来よく読まれた『十八史略』の三国の部分を取り上げ、特に『三国志演義』の舞台になった後漢・三国時代を概観する。特に「赤壁の戦い」の場面は、中国ドラマを視聴する。</p> <p>学習成果の指標はA-①・②である。</p> <p>本授業は遠隔授業になった場合は、②同時・双方向型学修 (Google Meet) で実施し、時間割通りの時間で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスーオンライン授業の注意事項と授業概要の説明</p> <p>2回目 『十八史略』について</p> <p>3回目 『三国志』について</p> <p>4回目 曹操の台頭ー訓読</p> <p>5回目 曹操の台頭ー解説と鑑賞</p> <p>6回目 官渡の戦いー訓読</p> <p>7回目 官渡の戦いー解説と鑑賞</p> <p>8回目 髀肉の嘆ー訓読</p> <p>9回目 髀肉の嘆ー解説と鑑賞</p> <p>10回目 三顧の礼ー訓読</p> <p>11回目 三顧の礼ー解説と鑑賞</p> <p>12回目 群儒舌戦ー訓読</p> <p>13回目 群儒舌戦ー解説と鑑賞</p> <p>14回目 赤壁の戦いー訓読</p> <p>15回目 赤壁の戦いー解説と鑑賞</p>
到達目標	漢文入門で学んだ訓読の基礎を踏まえて、作品の訓読が正しくできる。また中国の三国時代の歴史を概観できる。
授業時間外の学習	授業で扱う箇所を、事前に音読し、原文をノートに写し、書き下し文も書いておく。不明な語句は漢和辞典を引いておく。授業を受けたあとは、扱った内容を簡潔にまとめておく。
評価方法	期末レポート (100%)
テキスト	プリントを配布する。漢文入門で使用した国語便覧を随時活用する。
参考書	『新釈漢文大系十八史略上』 明治書院 『新書漢文大系④十八史略』 明治書院
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大山 尚 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を原稿から読み解き、作品の生成過程や文学における「編集」の意義などについて、実践的に考察する。</p> <p>最初に、「銀河鉄道の夜」を原稿から読み解くために必要な知識を学習し、以降はその知識をもとにして、原稿を書き写しながら、複雑に入り組んだ原稿を解読し作品に内包された成立の秘密を探っていく。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①とA-②である。</p> <p>※遠隔授業となった場合、②同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 原稿解読のための基礎知識</p> <p>2回目 原稿第11葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」(1) (ジョバンニの登場と町の描写)</p> <p>3回目 原稿第12葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」(2) (らっこの上着)</p> <p>4回目 原稿第13葉・第15葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」(3) (三次稿のジョバンニの家族)</p> <p>5回目 原稿第16葉・第17葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」(4) (ジョバンニとカムパネルラの関係)</p> <p>6回目 原稿第18葉・第19葉についての詳解 三次稿「ケンタウル祭の夜」(5) (ジョバンニとザネリの関係)</p> <p>7回目 原稿第20葉・第21葉・第22葉 についての詳解 三次稿「天気輪の柱」(失われた原稿五枚に書かれていたもの)</p> <p>8回目 原稿第23葉・第24葉・第25葉についての詳解 三次稿「銀河ステーション」(1) (銀河鉄道)</p> <p>9回目 原稿第26葉・第27葉・第28葉についての詳解 三次稿「銀河ステーション」(2) (セロのような声)</p> <p>10回目 原稿第1葉・第2葉についての詳解 四次稿「午後の授業」(1) (冒頭の推敲)</p> <p>11回目 原稿第3葉・第4葉についての詳解 四次稿「午後の授業」(2) (ジョバンニとカムパネルラの関係)</p> <p>12回目 原稿第8葉・第9葉についての詳解 四次稿「家」(1) (ジョバンニと母と父)</p> <p>13回目 原稿第10葉についての詳解 四次稿「家」(2) (だれのことばなのか)</p> <p>14回目 三次稿から四次稿への推敲状態の確認</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	「銀河鉄道の夜」本文の成立過程を理解する。宮沢賢治の自筆原稿を自分で解読できるようになる。
授業時間外の学習	原稿を解読するためには賢治の字のクセや、旧字・旧カナづかいへの慣れが必須である。そのためほぼ毎回原稿の書き写しの宿題を果たすので、それを必ず仕上げた上で授業に臨んでもらいたい。
評価方法	授業への参加意欲 (60%) レポート (40%) ※遠隔授業の場合も同様
テキスト	<p>テキストとして、「銀河鉄道の夜」全原稿の写真図録、『宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の原稿のすべて』を購入してもらう。第1回目の授業でテキスト購入の申込について説明（費用など）をおこなうので受講希望者は必ず出席すること。</p> <p>※初回から遠隔授業になった場合でもテキストは授業時に必須となるものなので、受講希望者はかならず初回ガイダンスに出席すること。</p>
参考書	なし
備考	

講義科目名称： 書道 I

授業コード： 123003 123004 123005

英文科目名称： Syudou 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
佐伯良一講師 佐伯由江講師 坂本充正講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中学校・小学校教員及び日本人として、文字を正しく書くために必要な実技習得と基礎的な知識の学習を目的とする。文字を正しく書くために必要な実技の習得と知識の学習を達成するために、漢字における三体千字文（楷書・行書・草書）を九宮格により科学的に学習する。 なお、学習成果の指標は、A-①である。 『本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔となった場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）を使用して実施する。』</p>
授業計画	<p>1 回目 オリエンテーション</p> <p>2 回目 ひらがなを学ぶ いろは48文字</p> <p>3 回目 カタカナを学ぶ イロハ48文字</p> <p>4 回目 天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列張の48文字</p> <p>5 回目 寒來暑往秋収冬藏閏餘成歳律呂調陽の48文字</p> <p>6 回目 雲騰致雨露結為霜金生麗水玉出崑岡の48文字</p> <p>7 回目 劔號巨闕珠稱夜光菓珍李菜重芥薑の48文字</p> <p>8 回目 常用漢字の筆順や部首名の学習</p> <p>9 回目 海鹹河淡鱗潛羽翔龍師火帝鳥官人皇の48文字</p> <p>10 回目 始制文字乃服衣裝推位讓國有虞陶唐の48文字</p> <p>11 回目 弔民伐罪周發殷湯～遐邇壹體率賓歸王の96文字</p> <p>12 回目 女慕貞潔男效才良～信使可覆器欲難量の96文字</p> <p>13 回目 墨悲絲染詩讚羔羊～空谷傳聲虛堂習聽の96文字</p> <p>14 回目 禍因惡積福縁善慶～孝當竭力忠則盡命の96文字</p> <p>15 回目 臨深履薄夙興温清～容止若思言辭安定の96文字</p>
到達目標	<p>テキストを通して漢字の歴史や書の学び方を知る。 墨をすり小筆を使って、半紙に手本をよく見て、正しく美しい文字を書けるようにする。 筆順や部首等の知識を高める。</p>
授業時間外の学習	<p>授業時にできなかった課題の作成。漢字等の基礎知識を覚える。 検定試験希望者は授業外にて実技・理論を学習する。</p>
評価方法	<p>毎時間の課題作品の清書（60%） 宿題・レポート（20%） 出席（授業への参加意欲 20%） 個人の努力を評価する。</p>
テキスト	<p>学習テキストは適宜配付する。</p>
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
佐伯良一講師 佐伯由江講師 坂本充正講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中学校・小学校教員及び日本人として、文字を正しく書くために必要な実技習得と基礎的な知識の学習を目的とする。文字を正しく書くために必要な、実技習得と知識の学習を達成する。そのために、歴史的な日本の文字の流れを学習し、カタカナ・ひらがな・平安古筆のかなの実習をする。併せて、色紙・短冊などを使った作品制作をし、鑑賞にまで発展させる。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>『本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔となった場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）を使用して実施する。』</p>
授業計画	<p>1回目 日本のお書の流れ</p> <p>2回目 古体かなの学習 いろは48文字</p> <p>3回目 古体かなの学習 いろは～らむう</p> <p>4回目 古体かなの学習 ゐのお～もせす</p> <p>5回目 古体かなの連綿の学習 とき・たつ・そら～よせ・きす・かせの</p> <p>6回目 古体かなの連綿の学習 とし・けり・きす～くれたけ・あれに</p> <p>7回目 古筆の臨書 高野切古今倭歌集巻第一～かせやとくらむ</p> <p>8回目 古筆の臨書 たいしらす～よみひとしらす</p> <p>9回目 古筆の臨書 ころろさしふかく～ふむやのやすひて</p> <p>10回目 古筆の臨書 はるのひの～なかつもあるかな</p> <p>11回目 古筆の臨書 寛平のおほむとき～わかなつみてむ</p> <p>12回目 古筆の臨書 仁和のみかとの～いろまさりける</p> <p>13回目 年賀状の書き方</p> <p>14回目 色紙・短冊の使い方の学習</p> <p>15回目 色紙・短冊を使った作品制作</p>
到達目標	<p>古筆を読み小筆を使い、平安時代のかな文字を書けるようにする。</p> <p>年賀状を体裁よく宛名書きをし、通信面にはそれぞれの個性を生かした書表現ができるようにする。</p> <p>授業を通して、日本のお書の歴史を理解する。</p>
授業時間外の学習	<p>授業時にできなかった課題の作成。</p> <p>テキストの内容をよく理解し、レポートの作成をする。</p>
評価方法	<p>毎時間の課題作品の清書（60%）宿題・レポート（20%）出席（授業への参加意欲20%）</p> <p>個人の努力を評価する。</p>
テキスト	<p>学習テキストは適宜配付する。</p>
参考書	
備考	

講義科目名称： 言語文化

授業コード： 143005

英文科目名称： Language and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
田村浩一教授 三浦さつき講師 宮塚寿美子講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>世界には多くの民族や国家が存在し、それぞれ独自の文化と言語を有している。では、言語と文化はどのようにして生成されたのであろうか。また、言語と文化はどのような関係にあるのか。本講座ではこれについて考察し、同時に、現在の私たちの言語と文化のあり方を考える。</p> <p>多くの言語と文化を理解するために、私たちに身近な日本語・英語・韓国語を取り上げ、その生成に関する講義を行う。3人の講師が各自専門の言語・文化を担当して講義する。講義時間の割り振りは授業計画にある通りだが、最初の講義の際に改めて説明する。</p> <p>学習成果の指標はA-1である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は課題型学修 (Google Classroom)、またはオンデマンド型 (Google Meet) 等で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 「言語文化」の授業全般のイントロダクション、英語の歴史の概略 (田村)</p> <p>2回目 英語の歴史 (古英語～中英語) (田村)</p> <p>3回目 日本語の文字・表記史1 (三浦)</p> <p>4回目 日本語の文字・表記史2 (三浦)</p> <p>5回目 英語の歴史 (中英語～近代英語) (田村)</p> <p>6回目 英語についてのいくつかの論点：借入語、語源 (田村)</p> <p>7回目 日本語の文体史1 (三浦)</p> <p>8回目 日本語の文体史2 (三浦)</p> <p>9回目 アジアの言語：韓国語を中心として (宮塚)</p> <p>10回目 韓国語とは (宮塚)</p> <p>11回目 韓国語と日本語 (宮塚)</p> <p>12回目 英語についてのいくつかの論点：語源、カタカナ語 (田村)</p> <p>13回目 英語についてのまとめ (田村)</p> <p>14回目 日本語の役割語について (三浦)</p> <p>15回目 まとめ (三浦)</p>
到達目標	多言語・多文化時代を迎えた日本人として、各言語・文化の共通性や相違点を理解し、同時に、それらが共存していくという視点の重要性を認識する。
授業時間外の学習	世界に存在するさまざまな言語と文化について、現実の人間関係やいろいろなメディアを通して関心を持ち、それらと接触し、理解するということができるだけ行ってほしい。
評価方法	各講師が、課題を課したり、試験を実施することによって評価する。評価のしかたは講師によって異なるので、その指示に従うこと。「言語文化」としての単位取得のためには、3人の講師すべてから合格評価を得ることが必須となるので、この点に特に留意すること。
テキスト	遠隔授業の場合の評価も同様である。
参考書	各講師がオリジナルのプリントを配布する予定である。
備考	必要に応じてその都度紹介する。
備考	田村浩一教授 実務教員：後期中等教育学校英語科目教諭として21年間勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この科目は、日本語研究の成果を踏まえて、国語すなわち日本語がどのような言語であるかを概説することを目的とします。</p> <p>方言と共通語、発音に関する事項を中心に概説しますが、その歴史についても理解を深めていきます。日本語に関する問題に対して実証的に考察するための基本的な知識を修得することも心掛けていきます。教科書に加えて、適宜プリントを配布します。</p> <p>学習成果の指標はA-②・③です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google Classroomを利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 日本語・国語 世界の言語の中の日本語の位置</p> <p>2回目 標準語・共通語 用語の解説と歴史的経緯</p> <p>3回目 方言1 東西対立・方言区画</p> <p>4回目 方言2 周圏論</p> <p>5回目 位相 性・社会的役割による言語</p> <p>6回目 音声と音韻1 概念の解説・音声と音声器官</p> <p>7回目 音声と音韻2 表記の仕方・IPA</p> <p>8回目 音声1・音の分類 母音・子音・半母音</p> <p>9回目 音声2・音素分析 音素と異音・ミニマルペア</p> <p>10回目 音声3 音節・モーラ</p> <p>11回目 アクセント1 アクセントの種類・型</p> <p>12回目 アクセント2 日本語のアクセント体系</p> <p>13回目 音韻の歴史1 上代語の音韻・上代特殊仮名遣い</p> <p>14回目 音韻の歴史2 母音の変遷</p> <p>15回目 音韻の歴史3 子音の変遷</p>
到達目標	<p>1、日本語の方言・標準語という概念、音声に関することについて基礎的な事項を説明できる。</p> <p>2、日本語の音声に関する歴史などについて基礎的な事項を説明できる。</p> <p>3、TV・新聞などのメディアにおける言語表現に関心を持ちつつ、自己の言語を内省することにより、言語表現を向上させることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>各回の授業前に教科書をあらかじめ読んでおくように努めてください。難しい用語などの意味が、授業での解説で理解しやすくなります。また授業計画に示したキーワードをインターネットなどで調べておくと日本語への関心が深まります。</p>
評価方法	<p>筆記試験（80%） 授業への参加意欲（20%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。</p>
テキスト	<p>和田利政、金田弘著『国語要説（五訂版）』（大日本図書）</p>
参考書	<p>近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己（2005）『日本語の歴史』放送大学教育振興会</p>

備考	「Google Classroom」のストリーム（お知らせ）で連絡することもあるので注意してください。
----	---

講義科目名称： 社会経済学 I

授業コード： 114004

英文科目名称： The Theory of Social Economy I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	商品、貨幣、価格、賃金、利潤、利子など毎日接しているながら実はブラックボックスのようにになっているものに疑問を持つことから始めたいと思います。講義の性格上、どうしても抽象性が高くはなりますが、なるべく主として日本経済に関わる事例を引きながらイメージしやすいものにしたい。学習成果の指標はA-①です。尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1 回目 経済学を学ぶ意味</p> <p>2 回目 経済学の対象と方法</p> <p>3 回目 経済学の効用</p> <p>4 回目 市場メカニズム 1 商品生産と売買。社会的分業と商品交換</p> <p>5 回目 市場メカニズム 2 需要供給と価格</p> <p>6 回目 市場メカニズム 3 外部経済と外部不経済</p> <p>7 回目 貨幣の機能 1 価値尺度機能と流通手段機能</p> <p>8 回目 貨幣の機能 2 築造貨幣機能と支払い手段機能、国際通貨について</p> <p>9 回目 インフレーションと物価上昇</p> <p>1 0 回目 貿易収支、経常収支と外国為替</p> <p>1 1 回目 企業と利潤 1 企業形態と株式会社</p> <p>1 2 回目 企業と利潤 2 資本とは何か。利潤極大化の仕組み</p> <p>1 3 回目 企業と利潤 3 賃金の本質と形態</p> <p>1 4 回目 企業組織と活動 所有と経営の分離。銀行と企業</p> <p>1 5 回目 要点の確認</p>
到達目標	この講座は、我々が生活する資本主義社会の経済法則を明らかにし、それに基づくこの社会の経済構造と現象を理解することを目的としています。
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。テキストに予め目を通していただくこと。疑問点、不明点を明らかにして授業に臨んでほしい。日常においても生活者の視点で、日々の情報に接しておくこと。
評価方法	平常点60%、授業への意欲40%。オンライン移行時には、授業態度40%、授業時小テスト60%で評価します。
テキスト	その都度プリントを配布する。
参考書	その都度、指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代日本語の敬語は、場面や聞き手の違いによって尊敬語を使用したり、反対に謙譲語を使用したりしなければなりません。 こうした敬語のシステムは、敬語にかなり自信のある人でもその運用はむずかしいものです。 この科目では、現代敬語の分類と運用上の問題点を取り上げ、種々の場面における敬語運用のしかたをマスターすることによって、 社会人として避けて通れない日本語表現力のひとつとしての敬語表現を身につけるようにします。 学習成果の指標はA-②・③です。</p> <p>遠隔授業で実施する場合は課題型学修 (Google classroomを使用) で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 日本語検定試験の過去問1、2、3級にチャレンジ</p> <p>2回目 待遇表現について・敬語の発生</p> <p>3回目 日本語の敬語の性格 相対敬語と絶対敬語</p> <p>4回目 世界の敬語 敬語のある言語とない言語</p> <p>5回目 有敬語方言と無敬語方言 敬語のない方言と敬意表現・(小テスト) 尊敬語</p> <p>6回目 敬語の働き1 尊敬語と敬意の有無 文化庁「敬語の指針」</p> <p>7回目 敬語の働き2 敬語とポライトネス</p> <p>8回目 敬語の分類1 3分類と5分類</p> <p>9回目 敬語の分類2 謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ(丁寧語)・(小テスト) 謙譲語</p> <p>10回目 敬語の分類3 丁寧語と美化語</p> <p>11回目 敬語の形式 付加形式・添加形式</p> <p>12回目 誤りやすい敬語1 二重敬語・謙譲語と尊敬語の混同</p> <p>13回目 誤りやすい敬語2 過剰な謙譲表現</p> <p>14回目 誤りやすい敬語3 問題とされる敬語</p> <p>15回目 理解度の確認 筆記試験(授業の内容・敬語の運用)</p>
到達目標	<p>(1) 現代敬語の誤用の種類と原因を理解し、正しい敬語の使い方ができる。 (2) 敬語の理論的な分類を理解し、説明できる。</p>
授業時間外の学習	雑誌やインターネット、また駅の掲示板等にみられる敬語表現をよく観察する習慣を身につけてください。 尊敬語、謙譲語、丁寧語を実際に使うことができるように、自学してください。
評価方法	最後の回で行う筆記試験(80%)と授業途中で行う小テスト(20%)で評価します。 最後の回に運用面のテストと授業内容の理解度を計る筆記試験を行います。 遠隔授業の場合はレポート(100%)で評価します。
テキスト	使用しません。
参考書	菊池康人『敬語再入門』(丸善ライブラリー) 半谷進彦『できる人の敬語の正しい使い方』(明日香出版) 文化庁文化審議会『敬語の指針』(文化庁) 文化庁『国語に関する世論調査』(平成7年～・文化庁)
備考	

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 132005

英文科目名称： Basic Seminar of Economy 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>名刀の切れ味は、それを使ってはじめてわかると言います。経済学も同じで、それを使って経済問題を考えてみるなかで、正しい理論なのか、問題がある理論なのかがわかり、また本当に理解できるといえます。今の経済問題がなぜ起きているかもわかり、それを解決する方策も考えつくいとぐちにもなります。そこでこれまで学んだ経済学の知識を使って現実の問題を考えていきます。具体的現実の動きと経済学の知識を関連づけるなかで、自分が学んできたことの意味を理解し、学んだものと私たちの現実の生活との関係を討論のなかで考えていきます。そうして経済学の面白さを理解して、自分でテーマを決めて、自分で調べる能力をやしないます。最近、米中貿易・経済摩擦が世界経済と各国経済に大きな影響を及ぼしています。グローバリゼーションのなかで貿易の姿はどう変わり、世界の人々はどのような影響を受けているのか？このような問題を指定図書を輪読し、発表して、理解を深め、またプレゼンテーション能力を養います。学習成果の指標はAの②③にあたります。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ゼミの年間計画</p> <p>2回目 経済の基礎知識</p> <p>3回目 資本主義経済とは</p> <p>4回目 資本主義経済の特徴</p> <p>5回目 資本の価値増殖運動</p> <p>6回目 資本の運動の絡み合い</p> <p>7回目 資本主義は永遠か</p> <p>8回目 ゼミ論テーマについて</p> <p>9回目 資本主義は変わったか</p> <p>10回目 産業構造の変化—サービス化</p> <p>11回目 グローバリゼーション</p> <p>12回目 新自由主義とマネタリズム</p> <p>13回目 アベノミクスで日本経済はどうなるか</p> <p>14回目 日本経済分析と『資本論』</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	自分でテーマを決め、資料を集め、検討し、書く能力を養います。
授業時間外の学習	報告者を決め、輪読していきます。疑問や問題点について意見交換します。
評価方法	平常点(50%)と報告点(50%)の総合評価 遠隔授業の場合も同様。
テキスト	開講時に連絡します。
参考書	随時紹介する。
備考	

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 132007

英文科目名称： Basic Seminar of Economy 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>私たちが暮らす社会では実に様々な問題が起きている。労働、貧困と格差、虐待やいじめ、原子力とエネルギー、福祉や医療、食糧など、現代社会を知るには、たくさんの事を学ぶ必要がある。その中で普通の人々が働き、生活していくことに関わる諸問題をそのおもとの基礎を確認しながら見ていく。今の日本社会で暮らすことに関わる諸問題を、毎回データを確認しながら理解していく手法をとる。毎回、テーマに関連した記事、データなどを収集して、各自、報告する。学習成果の指標はA-①です。尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 1990年代以降の雇用状況の変化</p> <p>2回目 若者の雇用問題の発生</p> <p>3回目 生活を支える諸条件</p> <p>4回目 女性の労働 男女平等</p> <p>5回目 多様化する家族のかたち</p> <p>6回目 女性と男性のライフコース</p> <p>7回目 市民社会と資本主義</p> <p>8回目 新自由主義と競争原理</p> <p>9回目 社会福祉国家を作った力</p> <p>10回目 経済のグローバリゼーション</p> <p>11回目 グローバル化の国内経済への影響</p> <p>12回目 ネイションとナショナリズムの近代性</p> <p>13回目 ナショナリズムとどう付き合うか</p> <p>14回目 メディアの読み方・付き合い方</p> <p>15回目 テーマ別の発表 まとめ</p>
到達目標	幅広くアンテナを張り、ゼミ論文として取り組むべきテーマを見つけ、資料収集に取り掛かれるようにする。
授業時間外の学習	授業時の前の週に参考資料を配布するので、必ず読み、関連資料等をリサーチしていなければならない。
評価方法	平常点60% 授業への意欲40% オンライン移行の場合は、試験は実施せず、授業態度30%、課題提出40%、授業時小テスト30%で評価する。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	その都度、指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>ここでは古典文学作品を日本語学的方法で演習します。テキストは源氏物語の紅葉賀の巻を使用します。平安時代に確立した平かなによって綴られた和文・和歌は、後世にまでその規範として大きな影響を及ぼしました。</p> <p>私たちがいわゆる文語文法と呼んでいるものは、大体平安時代中期の仮名文学作品に用いられた言語体系のことです。</p> <p>演習Ⅰでは、下記の目標を達成するために平安時代の語彙・文法・音韻・表記・敬語法等に特に留意し、頭注に気を付け、逐語訳をしていきます。</p> <p>次に担当箇所からテーマを見つけ、調べる力を養います。</p> <p>演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。</p> <p>学習成果の指標はA-②です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google classroomを利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 和文語と漢文訓読語の相違 源氏物語のテキスト 日常会話語と学問の世界の言葉</p> <p>3回目 演習の発表箇所と担当者の決定 「御」の読み方についての解説 レジュメの作成方法</p> <p>4回目 源氏物語諸本の解説 河内本と青表紙本の二系統</p> <p>5回目 演習方法の指導と古辞書の解説 新撰字鏡 和名類聚抄 類聚名義抄 日葡辞書</p> <p>6回目 担当者の発表1 質疑問答 教員による解説 6頁～7頁</p> <p>7回目 担当者の発表2 質疑問答 教員による解説 8頁～9頁</p> <p>8回目 発表者の発表3 質疑問答 教員による解説 10頁～11頁</p> <p>9回目 発表者の発表4 質疑問答 教員による解説 12頁～13頁</p> <p>10回目 教員による古典敬語の分類と敬意の方向の解説</p> <p>11回目 発表者の発表1（自由テーマ） 質疑問答 教員による解説 6頁～7頁から自由テーマ</p> <p>12回目 発表者の発表2（自由テーマ） 質疑問答 教員による解説 8頁～9頁から自由テーマ</p> <p>13回目 教員による古典敬語の解説 尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ 丁寧語</p> <p>14回目 発表者の発表3（自由テーマ） 質疑問答 教員による解説 10頁～11頁から自由テーマ</p> <p>15回目 発表者の発表4（自由テーマ） 質疑問答 教員による解説・筆記試験 12頁～13頁から自由テーマ</p>
到達目標	<p>(1) 古典文の読解力を高める。</p> <p>(2) 現代語との比較から、言語の変化に関心を持ち、卒業研究につなげることができる。</p> <p>(3) 助詞・助動詞に留意し、適切な逐語訳・現代語訳ができる。</p>
授業時間外の学習	第2回目の授業までに紅葉賀の巻までの概要を把握しておいてください。 参考文献に記した『新編古典文学全集』の源氏物語1巻の現代語訳を読んでおくことを基本としますが、漫画を読んで把握することもおすすめします。
評価方法	発表内容（50%）と筆記試験（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	松尾聰『校注源氏物語 紅葉賀』（武蔵野書院）
参考書	全訳古語辞典（電子辞書含む） 新編日本古典文学全集20『源氏物語①』（小学館）

	『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典—上代編—』（三省堂） 此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫 その他は適宜授業内で示します。
備考	【参考文献・おすすめの漫画】 小泉吉宏『大搦源氏物語まる、ん？』幻冬舎

講義科目名称： 専門ゼミ I

授業コード： 132010

英文科目名称： Basic Seminar 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>私たちは経済生活を送る上で、年金、保険、金融、税金、不動産、相続など、身近な経済的な問題に遭遇する。顧客の人生設計を踏まえ、これらの問題に専門的知識を使ってアドバイスするのが、ファイナンシャルプランナー（FP）の業務である。FPの専門的知識というのは、何も専門家だけに必要とされるものではなく、家計をやり繰りする一般の社会人でも必要とされるものである。そこで、ここではFPとしての基礎知識を学ぶ。また、FPの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを絞り、情報を収集し、自分で検討・分析し、論文の作成や発表する能力を養う。</p> <p>学習成果の指標は、A-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 F Pと倫理～ライフプラン策定上の資金計画（オリエンテーション）</p> <p>2回目 社会保険～公的年金の給付</p> <p>3回目 企業年金等～カード</p> <p>4回目 保険の基本～生命保険</p> <p>5回目 損害保険～第三分野の保険</p> <p>6回目 金融・経済の基本～セーフティーネットと関連法規</p> <p>7回目 貯蓄型金融商品～債権</p> <p>8回目 株式～投資信託</p> <p>9回目 外貨建て金融商品～ポートフォリオとデリバティブ取引</p> <p>10回目 所得税の基本～課税標準の計算</p> <p>11回目 所得控除～個人住民税、個人事業税</p> <p>12回目 不動産の基本～不動産に関する法令</p> <p>13回目 不動産の税金～不動産の有効活用</p> <p>14回目 相続の基本～相続税</p> <p>15回目 贈与税～財産の評価（まとめ）</p>
到達目標	<p>まず、FP3級程度の専門的知識を身に付ける。次に、FPの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを設定し、情報を収集分析し、課題の解決に向けて学習を進める能力を養う。さらにそれらを論文にまとめ、プレゼンする能力を身に付ける。</p>
授業時間外の学習	<p>9月実施のFP試験3級合格を努力目標とする。</p>
評価方法	<p>平常点（小テスト）50%、論文（発表を含む）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%</p>
テキスト	<p>滝澤ななみ『FPの教科書 3級』TAC出版、1500円 滝澤ななみ『FPの問題集 3級』TAC出版、1500円</p>
参考書	<p>随時、指示する。</p>
備考	<p>このゼミは、進路を就職希望とする学生を主な対象としており、「専門ゼミI」「専門ゼミII」を継続で履修することを推奨する。学習分野を役割分担し学習会形式で、学生自身が中心となってゼミを進め、教員はできる限り助言するにとどめる。</p> <p>9月実施のFP試験3級合格を努力目標としているため、受験料（6000円）が発生する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>テーマ「情報とコミュニケーション」</p> <p>コンピュータやインターネットが世界的に普及して、世の中は情報社会になりました。情報社会の中で生きていくためには、情報と向き合っ、多角的な観点から科学的に批判する能力を持たなくてはなりません。難しく聞こえるかもしれませんが、普段の生活の中の情報に対して、色々考えてみて欲しいのです。例えば、最近様々なコミュニケーションツールが登場していますが、それらが我々の生活にどのような変化をもたらしているのでしょうか。現状をありのまま受け入れるということは、何かを見過ごすことにもつながります。趣味のような身近なことから世界情勢にいたることまで、もはや情報に無頓着ではられません。ゼミは学生の皆さんが自身の関心にもとづいて主体的に学ぶところです。皆さんが中心となって問題や関心と向き合ってください。</p> <p>対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-②</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 主体的に学ぶための準備</p> <p>3回目 情報社会で躍進をした企業（GAFA）の現状と将来性</p> <p>4回目 インターネットサービスにおけるダークパターンの現状と問題点</p> <p>5回目 パーソナライズ化の利点と問題点</p> <p>6回目 コミュニケーションツールにおけるコミュニケーションのあり方ー文字、画像、動画における相違一</p> <p>7回目 インターネットにおける炎上の変遷と現状</p> <p>8回目 情報社会における著作権のあり方ー音楽、映像、マンガ一</p> <p>9回目 情報社会における個人情報の取り扱いーGDPRを中心に一</p> <p>10回目 ディープラーニングの概要と現状</p> <p>11回目 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の現状と将来性</p> <p>12回目 VRとARの相違点と将来性</p> <p>13回目 A. I. の現状と将来性</p> <p>14回目 研究のためのテーマ設定</p> <p>15回目 設定したテーマの発表（プレゼンテーション）</p>
到達目標	<p>学生として卒業までに養ってほしい部分を中心に「情報やコミュニケーションに関する問題や関心に自覚的になる」「主体性を持って行動し、仲間と協力しながらテーマを選択する」「情報やコミュニケーションに関するテーマについて議論をし、批判的な視点を養う」ことを到達目標とします。仲間と一緒に一歩ずつ成長していきましょう。</p>
授業時間外の学習	<p>テーマが「情報とコミュニケーション」なので、コンピュータに強く関心を持ってください。今まで「パソコンは授業で使うだけ」「スマホのコミュニケーションはLINEとInstagramだけ」という人も、これをきっかけにして、さまざまな情報のツールを使うことを日々の生活でチャレンジしてください。コンピュータが得意かどうかは特に問いません。</p>
評価方法	<p>ゼミ内における課題や発表で70%、ゼミ内の活動を活発に行ったかで30%の評価をします。</p>

	遠隔授業においても、Meet等による発表を行う予定ですので、評価方法は変わりません。
テキスト	資料をプロジェクタで提示したり、場合によってプリントの配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	<p>「専門ゼミⅠ」は「専門ゼミⅡ」に続くことを前提に計画を立てています。</p> <p>また、コンピュータを使うことを前提としますので、コンピュータが苦手でもいいですが、嫌いな人は大変かもしれません。みんなで協力し合いながら、ゼミを進めていく予定ですので、積極的にゼミに関わりを持って貰えればと思います。</p> <p>本授業は、遠隔授業時において、ClassroomやSlackなど情報系のツールも積極的に使っていきます。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	アメリカやイギリス等の英語圏の文化や歴史や社会について、できる限り多方面の英文を読み、理解を深める。同時に、特に探求したいと思える分野・領域を見つけて、秋semesterでの論文作成に繋げる。合わせて、英語力、特に英文読解力を身につけることを目指す。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方向型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン 個々の学生がどのような興味や関心を持っているかに応じて、これ以降の学習内容を考えたい。学生に強い意向があれば、それに即した教材を使う場合もある。</p> <p>2回目 英語の歴史についての読解1</p> <p>3回目 英語の歴史についての読解2</p> <p>4回目 イギリスの歴史・社会についての読解1</p> <p>5回目 イギリスの歴史・社会についての読解2</p> <p>6回目 アメリカの歴史・社会についての読解1</p> <p>7回目 アメリカの歴史・社会についての読解2</p> <p>8回目 その他英語圏の事情についての読解</p> <p>9回目 イギリスの文化についての読解1</p> <p>10回目 イギリスの文化についての読解2</p> <p>11回目 アメリカの文化についての読解1</p> <p>12回目 アメリカの文化についての読解2</p> <p>13回目 英米のスポーツについての読解</p> <p>14回目 英米の芸術についての読解</p> <p>15回目 論文のテーマの探求と方向性の決定</p>
到達目標	様々な内容の英文の読解を通して、自分の研究テーマを見つける。また、研究に必要な、英語で書かれた資料・文献の読解力を向上させる。
授業時間外の学習	授業前に英文をしっかりと読み込むことが大切である。また、論文のテーマを見つけるために、様々な領域の問題に関心を広げて、読書をしたり、新聞や雑誌等に目を向けることが大事である。
評価方法	授業への参加度：50パーセント 課題：50パーセント 遠隔授業に移行した場合にも、評価方法に変更はない。
テキスト	授業時に指示する。
参考書	辞書をいつでも使えるように携帯する。英和辞典だけでなく、時には英英辞典を併用するとよいでしょう。
備考	個々の授業内容や進度は、学生の関心の方向や、英語読解力のレベルに応じて変更する場合もある。

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 232007

英文科目名称： Basic Seminar of Economy 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>これまで学んだ経済学の知識を使って現実の問題を考えていきます。具体的現実の動きと経済学の知識を関連づけるなかで、自分が学んできたことの意味を理解し、学んだものと私たちの現実の生活との関係を討論のなかで考えていきます。経済学の面白さを理解して、自分でテーマを決めて、自分で調べ、最終的にゼミ論の作成能力をやしません。そこで本年度は資本主義の歴史と現代資本主義経済の動きをみる中で経済の基礎知識を身につけると同時に、産業構造の変化、サービス経済、グローバル化について学んでいきます。とくに1929年恐慌を境に労働者の抵抗と資本主義の妥協の結果として、経済の姿と経済学に世界の人々はどのような影響を受けているのか？このような問題を指定図書を輪読し、発表して、理解を深め、またプレゼンテーション能力を養います。これと並行して資料を収集、整理し、考察し、論文の構成を考え、発表することで、次第に論文の構想をまとめ、仕上げることにします。学習成果の指標はAの①②である。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ゼミ論について</p> <p>2回目 ゼミ論途中報告1</p> <p>3回目 ゼミ論途中報告2</p> <p>4回目 ゼミ論途中報告3</p> <p>5回目 新自由主義的政策の結果</p> <p>6回目 金融と金融機関—金融化</p> <p>7回目 金融の肥大化—現代の資本の市場の形成</p> <p>8回目 ゼミ論テーマ報告会1</p> <p>9回目 ゼミ論テーマ報告会2</p> <p>10回目 金融は世界を豊かにしたか</p> <p>11回目 株式市場の変質</p> <p>12回目 ゼミ論の目次発表会1</p> <p>13回目 ゼミ論の目次発表会2</p> <p>14回目 ゼミ論検討会</p> <p>15回目 ゼミ論執筆上の注意</p>
到達目標	自分でテーマを決め、資料を集め、検討し、プレゼンする能力を養います。
授業時間外の学習	事前に割り当て箇所を決定します。
評価方法	平常点(25%)と報告点(25%)、ゼミ論(50%)の総合評価 遠隔授業の場合も同様
テキスト	開講時に連絡します。
参考書	随時紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本社会は、かつてないスピードで変わりつつあります。社会システムや企業の在り方も変化し、私たちの生活もその渦に巻き込まれていかざるを得ません。本ゼミナールでは、日本経済の変動が社会の構造的な転換と重なっていることを意識しながら、この変化を象徴するトピカルなテーマを掘り下げていくという方法をとっていきます。本年はAIやIoTの進展を踏まえたシェアリング経済にスポットを当ててみたいと思います。最終的にゼミ論文の執筆をもって各自、テーマを深めていくことを目標とします。</p> <p>日本経済の転機を示す、幾つかのテーマを検討していきますが、統計など資料をできるだけ活用していきます。資料や統計、参考文献など提示しますが、各自で独自に問題を掘り下げていく努力が必要です。それぞれの興味のあるテーマを調べ、分析し、説得力あるプレゼンテーションが出来るように指導します。学習成果の指標はA-②です。</p> <p>尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 デジタル経済の進展と社会生活の変化</p> <p>2回目 AI、ロボット化の進展と雇用の未来</p> <p>3回目 企業の雇用制度の変化と失業の恐れ</p> <p>4回目 デジタル経済の進展とシェアリング</p> <p>5回目 シェアリング経済のメカニズム</p> <p>6回目 シェアリング経済のビジネスモデル 海外の場合</p> <p>7回目 日本におけるシェアリング経済のビジネスモデル</p> <p>8回目 シェアリング経済の規模と効果</p> <p>9回目 シェアリングの問題点</p> <p>10回目 シェアリングと消費者意識の変化</p> <p>11回目 テクノロジーの進展と資本主義の成熟化</p> <p>12回目 格差社会とワーキングプア</p> <p>13回目 諸外国の社会制度改革、ベーシック・インカム</p> <p>14回目 プレゼンテーション ゼミ論発表</p> <p>15回目 ゼミ論発表、討論</p>
到達目標	ゼミ論文を作成し、発表をすることを目標とする。
授業時間外の学習	授業時以前に資料を配布（直接配布またはオンライン配布）するので、必ず目を通して頂くこと。ゼミ論作成に向けて、多くの資料収集と読み込みが必要になる。
評価方法	平常点60%、ゼミ論文40%。オンライン移行の場合は、授業態度30%、提出論文評価70%で評価します。
テキスト	プリント配布、その他、その都度、指示する。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>古典文学作品を日本語学的方法で演習します。今期は土左日記を輪読します。紀貫之自筆本に極めて近いとされる青谿書屋本を底本とした翻刻本を使用し、頭注に注意を払い、かな本文から語や語構成、文法を適切に読み取り、助詞、助動詞に留意して逐語訳をつけていきます。平安時代の言葉を調べるのに適切な古辞書の調べ方も学びます。古代語の在り方を知るとは現代語をより深く理解することに繋がります。ここでは日本語学の演習方法の基礎を学びます。演習スケジュールは状況により変更される場合があります、その際には演習内でお知らせします。</p> <p>学習成果の指標はA-②です</p> <p>遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google classroomを利用）で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 発表方法の指導、発表者の割り当て</p> <p>3回目 古辞書の解説（和名類聚抄、類聚名義抄）</p> <p>4回目 研究書の紹介</p> <p>5回目 担当者の発表1 質疑応答 教員による解説 十二月廿二日から廿五日</p> <p>6回目 担当者の発表2 質疑応答 教員による解説 十二月廿六日</p> <p>7回目 担当者の発表3 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中</p> <p>8回目 担当者の発表4 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中から一月一日（元日）</p> <p>9回目 担当者の発表5 質疑応答 教員による解説 一月二日から一月七日途中</p> <p>10回目 担当者の発表1（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿二日から廿五日の範囲から自由テーマ</p> <p>11回目 担当者の発表2（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿六日の範囲から自由テーマ</p> <p>12回目 担当者の発表3（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中の範囲から自由テーマ</p> <p>13回目 担当者の発表4（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中の範囲から一月一日（元日）から自由テーマ</p> <p>14回目 担当者の発表5（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月二日から一月七日途中の範囲から自由テーマ</p> <p>15回目 まとめ・予備日</p>
到達目標	<p>1、日本語学とはどういう研究方法の分野であるのかを知る。</p> <p>2、中古語（平安時代語）に触れ、自身で現代語の表記で記すことができる。</p> <p>3、古辞書を使用して言葉を調べることができる。</p> <p>4、適切な逐語訳ができる。</p>
授業時間外の学習	学生の発表開始以降、事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲度（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート100%で評価します。
テキスト	鈴木知太郎 校註解説『土左日記』笠間書院

参考書	<p>全訳古語辞典（電子辞書含む） 新編日本古典文学全集13『土佐日記・蜻蛉日記』（小学館） 『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典 上代編』 此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫</p> <p>その他は授業中に適宜指示します。</p>
備考	

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 232012

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>私たちは経済生活を送るうえで、年金、保険、金融、税金、不動産、相続など、身近な経済的な問題に遭遇する。顧客の人生設計を踏まえ、これらの問題に専門的知識を使ってアドバイスするのが、ファイナンシャルプランナー（FP）の業務である。FPの専門的知識というのは、何も専門家だけに必要とされるものではなく、家計をやり繰りする一般の社会人でも必要とされるものである。そこで、ここではFPとしての基礎知識を学ぶ。また、FPの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを絞り、情報を収集し、自分で検討・分析し、論文の作成や発表する能力を養う。</p> <p>学習成果の指標は、A-②である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 F Pと倫理～ライフプラン策定上の資金計画（オリエンテーション）</p> <p>2回目 社会保険～公的年金の給付</p> <p>3回目 企業年金等～カード</p> <p>4回目 保険の基本～生命保険</p> <p>5回目 損害保険～第三分野の保険</p> <p>6回目 金融・経済の基本～セーフティーネットと関連法規</p> <p>7回目 貯蓄型金融商品～債権</p> <p>8回目 株式～投資信託</p> <p>9回目 外貨建て金融商品～ポートフォリオとデリバティブ取引</p> <p>10回目 所得税の基本～課税標準の計算</p> <p>11回目 所得控除～個人住民税、個人事業税</p> <p>12回目 不動産の基本～不動産に関する法令</p> <p>13回目 不動産の税金～不動産の有効活用</p> <p>14回目 相続の基本～相続税</p> <p>15回目 贈与税～財産の評価（まとめ）</p>
到達目標	まず、FP3級程度の専門的知識を身に付ける。次に、FPの基礎知識を深掘りして、自分でテーマを決めて、情報を収集し、自分で調べ、論文の作成や発表する能力を身に付ける。
授業時間外の学習	9月実施のFP試験3級合格を努力目標とする。
評価方法	平常点50%、論文（発表を含む）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	滝澤ななみ『FPの教科書 3級』TAC出版、2024年、1500円 滝澤ななみ『FPの問題集 3級』TAC出版、2024年、1500円
参考書	別途、指示する。
備考	このゼミは、進路を就職希望とする学生を主な対象としており、「専門ゼミⅠ」「専門ゼミⅡ」を継続で履修することを推奨する。 学習分野を役割分担し学習会形式で、学生自身が中心となってゼミを進め、教員はできる限り助言するにとどめる。 9月実施のFP試験3級合格を努力目標とするため、受験料（6000円）が発生する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>テーマ「情報とコミュニケーション」 前期ではそれぞれが扱うテーマを決めましたので、後期ではそのテーマを元に研究をして、論文を書きます。レポートとは違い、自分で問題点を探し、自分で分析を行い、自分で結論を導きます。もちろん、ひとりで出来ることには限界があるので、教員はその手伝いをしますし、同じゼミ生で協力をし合いながら、みんなで完成を目指しましょう。前期と後期で行うテーマ設定から結論に至る一連の流れは、これから生きる皆さんの大きな糧になるものですので、ぜひ意欲的に取り組んでください。 なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-②</p>
授業計画	<p>1回目 計画発表</p> <p>2回目 計画に対する検討、資料収集の開始</p> <p>3回目 論文作成上の諸注意</p> <p>4回目 序論の構成を考える</p> <p>5回目 序論の作成</p> <p>6回目 収集した資料の検討</p> <p>7回目 本論の構成を考える</p> <p>8回目 本論の作成：仮説の作成</p> <p>9回目 中間発表</p> <p>10回目 本論（仮説）の再検討</p> <p>11回目 本論の作成：分析</p> <p>12回目 結論の作成</p> <p>13回目 校正作業</p> <p>14回目 論文完成</p> <p>15回目 完成発表</p>
到達目標	論文を書くことに必要な「情報の視点にたって科学的な思考を身に付ける」「様々な視点を整理し、論理的に結論まで導くことが出来る」を目標にし、論文を完成させましょう。
授業時間外の学習	レポートも論文も授業時間中ではなく、授業時間外に資料収集し、作成を行うことが非常に多いです。授業はその作成したものや、行き詰まったところを教員や他の仲間と一緒にどう解決するかを考える場所になります。
評価方法	ゼミ内における発表や完成論文で80%、ゼミ内の活動を活発に行ったかで20%の評価をします。遠隔授業においても、発表はMeetを使いますし、論文提出は変わりませんので、評価方法は変わりません。
テキスト	資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布をおこないます。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	必ず「専門ゼミⅠ」を履修してください（他教員ではなく、私のです）。 引き続き、ClassroomやSlackなどの情報系ツールを使っていきます。

講義科目名称： 専門ゼミⅡ

授業コード： 232011

英文科目名称： Basic Seminar 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	特に探求したいと思う分野・領域を見つけて、論文のテーマを決め、作成する。並行して、種々の英文の読解を行い、それを論文のテーマを探すための一助とする。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業が必要な場合には、同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	<p>1回目 論文テーマの吟味 1 各授業では、論文についての指導のほかに、種々の英文を読むことを継続する。その際、学生自身の論文のテーマに関する論文なども、可能ならば読んでみたい。</p> <p>2回目 論文テーマの吟味 2・発表と討論</p> <p>3回目 論文テーマの決定</p> <p>4回目 文献探索のしかた・図書館の利用</p> <p>5回目 論文の構想作りの方法</p> <p>6回目 執筆上の注意事項</p> <p>7回目 進行状況の確認</p> <p>8回目 中間発表</p> <p>9回目 執筆状況のチェック 1</p> <p>10回目 執筆状況のチェック 2</p> <p>11回目 執筆指導 1</p> <p>12回目 執筆指導 2</p> <p>13回目 論文提出の準備</p> <p>14回目 論文提出と内容チェック</p> <p>15回目 論文提出と最終チェック</p>
到達目標	論文のテーマを見つけて、そのテーマについて文献や資料を集め、それらを読んで分析し、問題点を整理し、実際に論文を作成する。
授業時間外の学習	論文のテーマを見つけ、それについて調べ、書くためには、多くの時間が必要だが、そのほとんどは授業時間外に行うことになるので、自主的な努力が求められる。
評価方法	授業への参加度：50パーセント 論文の内容：50パーセント 遠隔授業に移行した場合にも、評価方法に変更はない。
テキスト	後で指示する。
参考書	辞書をいつでも使えるように携帯する。英和辞典だけでなく、英英辞典を併用するとよい。
備考	個々の授業内容や進度については、学生の関心の方向や、英語読解力のレベルに応じて変更する場合もある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本語の古代から現代までを学びます。日本語の歴史とはどのような言語の歴史を指すのか、という疑問から始めます。</p> <p>言葉の歴史を構築するには、現代に残された文献を中心にした資料を用いて行きます。</p> <p>日本語は古代どのようなであったか、現代に近づくにつれどのように変わっていくのか、その概要を学んでほしいと考えています。</p> <p>この科目は、文学作品に限らず、古辞書やさまざまな文献をも用いて、音韻と文法の歴史を古代語から近代語への観点から概説します。</p> <p>日本語の近代化を知ることは、日本の社会と文化の近代化の過程を知ることであります。</p> <p>春セメ（日本語の歴史 I）は、はじめに日本語史の時代別の概要を現代まで説明したのち、各論（音韻・主に母音の変遷）を講義します。</p> <p>授業のスケジュールは状況により変更される場合がありますが、その際は授業内でアナウンスします。</p> <p>学習成果の指標はA-②・③です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google classroomを利用）で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 現代日本語の諸相</p> <p>2回目 日本語史の時代区分 各時代の社会背景 中央語と地方語：日本語の歴史とはどういう言語の歴史のことか</p> <p>3回目 日本語史の資料 I 上代（奈良時代）・中古（平安時代）</p> <p>4回目 日本語史の資料 II 中世（鎌倉時代・室町時代）・近世（江戸時代）・近代（明治時代）</p> <p>5回目 上代の代表的トピック 漢字の輸入、万葉仮名の発生、奈良時代の発音</p> <p>6回目 中古の代表的トピック 文章のあり方（漢文・和化漢文・和文）、万葉仮名から草仮名へ</p> <p>7回目 中世の代表的トピック 係り結びの崩壊・衰退、ローマ字の伝来、オ段長音の開合、近代的敬語体系の源流</p> <p>8回目 近世の代表的トピック 四つ仮名、オ段長音の合一、江戸語の成立、上方語と江戸語の対立</p> <p>9回目 近代の代表的トピック 東京語を標準語へ、方言施策・方言弾圧</p> <p>10回目 母音の変遷 I 音配列の制限・音便・上代特殊仮名遣いと崩壊</p> <p>11回目 母音の変遷 II ア行とヤ行の「え」の合一</p> <p>12回目 母音の変遷 III ア行の「お」とワ行の「を」の合一</p> <p>13回目 母音の変遷 IV 「え」とワ行の「ゑ」の合一、「い」とワ行の「ゐ」の合一</p> <p>14回目 予備日 振り返りなど</p> <p>15回目 理解度の確認 筆記試験</p>
到達目標	<p>(1) 日本語の歴史の時代区分と時代背景を理解する。</p> <p>(2) 各時代の中央語を理解する。</p> <p>(3) 奈良時代から現代までの日本語の歴史の概要と母音の変遷を知る。</p>
授業時間外の学習	日本語概説で学修した「いろは歌」の成立について復習しておいてください。「いろは歌」の文字の数だけ発音の違いがあったはずですが。
評価方法	筆記試験（100％）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100％）で評価します。
テキスト	使用しません。オリジナルのプリントを配布します。

参考書	山口仲美 (2006) 『日本語の歴史』 岩波新書 小林賢次・梅林博人 (2006) 『日本語史探求法』 朝倉書店 金田弘・宮腰賢 (2007) 『新訂国語史要説』 大日本図書 近藤康弘、月本雅幸、杉浦克己 (2008) 『新訂 日本語の歴史』 放送大学教育振興会 沖森卓也編 (2010) 『日本語史概説』 朝倉書店
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本語の古代から現代までを学びます。日本語の歴史とはどのような言語の歴史を指すのか、という疑問から始めます。</p> <p>言葉の歴史を構築するには、現代に残された文献を中心にした資料を用いて行います。日本語は古代どのようなであったか、現代に近づくにつれどのように変わっていくのか、その概要を学んでほしいと考えています。</p> <p>この科目は、文学作品に限らず、古辞書やさまざまな文献をも用いて、主に音韻・仮名遣い・文法の歴史を古代語から近代語への観点から概説します。</p> <p>日本語の近代化を知ることは、日本の社会と文化の近代化の過程を知ることであります。</p> <p>秋セメ（日本語の歴史Ⅱ）は、各論（子音の変遷、仮名遣い、活用の変遷）を中心に講義します。授業のスケジュールは状況により変更される場合がありますが、その際は授業内でアナウンスします。</p> <p>学習成果の指標はA-②・③です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、課題型学修（Google classroomを利用）で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 子音の変遷Ⅰ サ行音の変遷</p> <p>3回目 子音の変遷Ⅱ タ（ダ）行音の変遷</p> <p>4回目 子音の変遷Ⅲ ハ行音の変遷</p> <p>5回目 子音の変遷Ⅳ 四つ仮名の消滅・合拗音</p> <p>6回目 連濁・連声・入声音</p> <p>7回目 江戸語・東京語の発音 江戸なまり・連母音の融合・破擦音／外来語の音節</p> <p>8回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅰ 仮名遣いの発生・定家仮名遣い</p> <p>9回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅱ 契沖仮名遣い・歴史的仮名遣い</p> <p>10回目 仮名遣いの発生と変遷Ⅲ 現代仮名遣い</p> <p>11回目 古代日本語から近代日本語へ 室町時代（中世後期）の位置づけ</p> <p>12回目 活用の変遷Ⅰ 係り結びとその崩壊・二段活用の一段化</p> <p>13回目 活用の変遷Ⅱ 中古から中世後期（室町時代）の動詞・形容詞</p> <p>14回目 活用の変遷Ⅲ 中世後期（室町時代）～近世の動詞・形容詞</p> <p>15回目 理解度の確認 理解度テスト</p>
到達目標	<p>(1) 古代語から現代語への音韻（子音）・仮名遣いの変化を把握する。</p> <p>(2) 動詞の活用の変化を理解し、説明ができる。</p>
授業時間外の学習	現代語辞典や古語辞典などで、口語文法と文語文法を復習しておいてください。
評価方法	筆記試験（100％）によって評価します。遠隔授業の場合はレポート（100％）で評価します。
テキスト	オリジナルのプリントを配布します。

参考書	山口仲美 (2006) 『日本語の歴史』 岩波新書 小林賢次・梅林博人 (2006) 『日本語史探求法』 朝倉書店 金田弘・宮腰賢 (2007) 『新訂国語史要説』 大日本図書 近藤康弘、月本雅幸、杉浦克己 (2008) 『新訂 日本語の歴史』 放送大学教育振興会 沖森卓也編 (2010) 『日本語史概説』 朝倉書店
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
堤 康夫 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>評論・論説など論理的文章の論理を把握し、分析する。主題を把握し、文章の構成と展開を検討しながら、できるだけ多くの論理的文章を読み進める。文章を論理的に読むことができれば、次の段階では論理的な文章を書き、物事を論理的に考えることができるようになるはずである。そのためにも論旨の展開をとらえるトレーニングを行いたい。なお学習成果の指標はA-③である。本授業は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス（授業の進め方など）</p> <p>2回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む①一語彙の確認</p> <p>3回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む②一段落構成の検討など</p> <p>4回目 加藤周一「日本文学史序説」を読む③一主題の要約</p> <p>5回目 吉田健一「文明と文化」を読む①一語彙の確認</p> <p>6回目 吉田健一「文明と文化」を読む②一段落構成の検討など</p> <p>7回目 吉田健一「文明と文化」を読む③一主題の要約</p> <p>8回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む①一語彙の確認</p> <p>9回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む②一段落構成の検討など</p> <p>10回目 寺田寅彦「科学者と芸術家」を読む③一主題の要約</p> <p>11回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む①一語彙の確認</p> <p>12回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む②一段落構成の検討など</p> <p>13回目 吉田精一「随筆とは何か」を読む③一主題の要約</p> <p>14回目 論理的文章の流れ</p> <p>15回目 まとめ・評価</p>
到達目標	受講生全員が現代日本における標準的な論理的な文章ともいえる新聞各紙の社説レベルの文章の主題を的確に、スピーディに把握できるようになる。
授業時間外の学習	数回にわたり著名な論理的文章の主題を要約する。
評価方法	取り組み度評価（15%）・理解度評価（15%）・到達度評価（20%）・授業時試験またはレポート（50%）を実施して、総合的に評価する。遠隔授業になった場合は授業時試験は実施せず、レポートを実施する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	『ベネッセ表現・読解国語辞典』（中村幸弘他編・ベネッセコーポレーション）『現代の重要語』（中村幸弘他編・ライオン社）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>ここでは古典文学作品を日本語学的方法で演習します。テキストは源氏物語の紅葉賀の巻を使用します。平安時代に確立した平かなによって綴られた和文・和歌は、後世にまでその規範として大きな影響を及ぼしました。</p> <p>私たちがいわゆる文語文法と呼んでいるものは、大体平安時代中期の仮名文学作品に用いられた言語体系のことです。</p> <p>演習Ⅰでは、下記の目標を達成するために平安時代の語彙・音韻・表記・文法・敬語法等に特に留意し、頭注に気を付け、逐語訳をしていきます。</p> <p>次に担当箇所からテーマを見つけ、調べる力を養います。</p> <p>演習スケジュールは状況により変更される場合があります。その際は演習内でアナウンスします。</p> <p>学習成果の指標はA-②です。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は課題型学修 (Google classroomを利用) で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 和文語と漢文訓読語の相違 源氏物語のテキスト 日常会話語と学問の世界の言葉</p> <p>3回目 源氏物語の諸本の解説 河内本と青表紙本の二系統について</p> <p>4回目 演習の発表箇所と担当者の決定 「御」の読み方についての解説 レジュメの作成方法</p> <p>5回目 演習方法の指導と古辞書の解説 新撰字鏡 和名類聚抄 類聚名義抄</p> <p>6回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 6頁～7頁</p> <p>7回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 8頁～9頁</p> <p>8回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 10頁～11頁</p> <p>9回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 12頁～13頁</p> <p>10回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 14頁～15頁</p> <p>11回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 16頁～17頁</p> <p>12回目 教員による古典敬語の解説 18頁～19頁</p> <p>13回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ 丁寧語</p> <p>14回目 担当者の発表と質疑問答 教員による解説 20頁～21頁</p> <p>15回目 理解度の確認</p>
到達目標	<p>(1) 古典文の読解力を高める。</p> <p>(2) 現代語との比較から、言語の変化に関心を持ち、卒業研究につなげることができる。</p> <p>(3) 助詞・助動詞に留意し、適切な逐語訳・現代語訳ができる。</p>
授業時間外の学習	<p>第2回目の授業までに紅葉賀の巻までの概要を把握しておいてください。</p> <p>参考文献に記した『新編古典文学全集』の源氏物語1巻の現代語訳を読んでおくことを基本としますが、漫画を読んで把握することもおすすめします。</p>
評価方法	発表内容 (50%) と筆記試験 (50%) で評価します。遠隔授業の場合はレポート (100%) で評価します。
テキスト	松尾聰『校注源氏物語 紅葉賀』(武蔵野書院)
参考書	全訳古語辞典 (電子辞書含む) 新編日本古典文学全集20『源氏物語①』 (小学館)

	『日本国語大辞典（第二版）』（小学館） 『時代別国語大辞典—上代編—』（三省堂） 此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫 その他は適宜授業内で示します。
備考	【参考文献・おすすめの漫画】 小泉吉宏『大搦源氏物語まる、ん？』幻冬舎

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>古典文学作品を日本語学的方法で演習します。今期は土左日記を輪読します。紀貫之自筆本に極めて近いとされる青谿書屋本を底本とした翻刻本を使用し、頭注に注意を払い、かな本文から語や語構成、文法を適切に読み取り、助詞、助動詞に留意して逐語訳をつけていきます。平安時代の言葉を調べるのに適切な古辞書の調べ方も学びます。古代語の在り方を知ることが現代語をより深く理解することに繋がります。ここでは日本語学の演習方法の基礎を学びます。演習スケジュールは状況により変更される場合があります、その際には演習内でお知らせします。</p> <p>学習成果の指標はA-②です</p> <p>遠隔授業を実施する場合は課題型学修（Google classroomを利用）で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 発表方法の指導、発表者の割り当て</p> <p>3回目 古辞書の解説（和名類聚抄、類聚名義抄）</p> <p>4回目 研究書の紹介</p> <p>5回目 担当者の発表1 質疑応答 教員による解説 十二月廿二日から廿五日</p> <p>6回目 担当者の発表2 質疑応答 教員による解説 十二月廿六日</p> <p>7回目 担当者の発表3 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中</p> <p>8回目 担当者の発表4 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中から一月一日（元日）</p> <p>9回目 担当者の発表5 質疑応答 教員による解説 一月二日から一月七日途中</p> <p>10回目 担当者の発表1（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿二日から廿五日の範囲から自由テーマ</p> <p>11回目 担当者の発表2（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿六日の範囲から自由テーマ</p> <p>12回目 担当者の発表3（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中の範囲から自由テーマ</p> <p>13回目 担当者の発表4（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 十二月廿七日途中の範囲から一月一日（元日）から自由テーマ</p> <p>14回目 担当者の発表5（自由テーマ） 質疑応答 教員による解説 一月二日から一月七日途中の範囲から自由テーマ</p> <p>15回目 まとめ・予備日</p>
到達目標	<p>1、日本語学とはどのような研究方法の分野であるのかを知る。</p> <p>2、中古語（平安時代語）に触れ、自身で現代語の表記で記すことができる。</p> <p>3、古辞書を使用して言葉を調べることができる。</p> <p>4、適切な逐語訳ができる。</p>
授業時間外の学習	学生の発表開始以降、事前に渡された他の人の発表資料をよく読んで、最低でも1つは質問をするようにしてください。
評価方法	発表内容（50%）と授業への意欲度（50%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	鈴木知太郎 校註解説『土左日記』笠間書院
参考書	<p>全訳古語辞典（電子辞書含む）</p> <p>新編日本古典文学全集13『土佐日記/蜻蛉日記』（小学館）</p> <p>『日本国語大辞典（第二版）』（小学館）</p> <p>『時代別国語大辞典—上代編—』（三省堂）</p>

	此島正年（1994）『国語助詞の研究』おうふう 此島正年（1973）『国語助動詞の研究』桜風社 小田勝（2018）『読解のための古典文法教室』和泉書院 小田勝（2020）『古代日本語文法』ちくま学芸文庫 その他は適宜授業内で示します。
備考	

講義科目名称： 口承文芸 I

授業コード： 111001

英文科目名称： Oral Literature 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
野村典彦 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>神話 伝説 昔話 世間話 など現代社会に伝承される口承文芸の基礎知識を学ぶ。</p> <p>なお学習成果の指標はA—①である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合にはクラスルームを利用して対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 羅生門の上の死体—口承文芸とは—</p> <p>2回目 蛇にみこまれた女—神話・伝説・昔話・世間話—</p> <p>3回目 ザシキワラシの正体—都市伝説研究入門—</p> <p>4回目 こっくりさんと怪談会—『遠野物語』の誕生—</p> <p>5回目 馬と愛し合った娘—養蚕と口伝えの物語—</p> <p>6回目 昔話とは何か—昔話の形式—</p> <p>7回目 柳田國男の昔話論—神話の零落—</p> <p>8回目 各地の桃太郎—近代社会と口承文芸—</p> <p>9回目 おとぎばなし—トギの意味—</p> <p>10回目 鯉の大助の来る晩</p> <p>11回目 チンギスハーンは義経か</p> <p>12回目 命と語り —誕生と死—</p> <p>13回目 民話 —戦後日本のあゆみ—</p> <p>14回目 現代の語り</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	口承文芸を学ぶ基礎力を身につけるとともに、顔を見ておこなう生身のコミュニケーションが失われがちな今日の生活を省みる手がかりを得られるようにする。
授業時間外の学習	<p>柳田國男『遠野物語』を読んだ上でのレポート作成 授業最終回に提出</p> <p>なお、出版されている『遠野物語』の出版社による違いは授業内で説明する。</p>
評価方法	<p>期末テスト (70%) 『遠野物語』レポート (40%) ※遠隔授業の場合は期末レポート (70%) 『遠野物語』レポート (40%)</p>
テキスト	印刷物を配布する。
参考書	<p>柳田國男『遠野物語』各社 (文庫本でよい) 『野村純一著作集』全9巻 (清文堂出版) 野村敬子『語りの回廊』瑞木書房 2008年 野村典彦『鉄道と旅する身体近代』青弓社 2011年</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
野村典彦 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>神話・伝説・昔話・世間話 など口承文芸について研究の基礎を学ぶ。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、クラスルームを利用して対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 地震ナマズや昇天する法螺貝 —災害と伝承—</p> <p>2回目 『遠野物語』の世界 —天狗、山人、マヨイガー—</p> <p>3回目 齋藤別当実盛と害虫 —私たちの世界と死者の世界—</p> <p>4回目 崇徳院と西行、あるいは耳なし芳一 —死者とモノガタリ—</p> <p>5回目 子どもに転がされ馬乗りされる神 —「神話・伝説」と柳田国男—</p> <p>6回目 一つ目小僧の正体 —12月8日の伝承—</p> <p>7回目 ダイシ様の正体 —11月23日の伝承—</p> <p>8回目 かさじぞうの正体 —おおみそか・小正月の伝承—</p> <p>9回目 小野小町と和泉式部 —旅する女たち—</p> <p>10回目 犬坂毛野とケツカイ —伝承と近世の医学—</p> <p>11回目 名所・旧跡の否定 —「民謡・伝説」と柳田、あるいは『富嶽百景』—</p> <p>12回目 公害を知らせる河童 —民話の訴え—</p> <p>13回目 都市伝説論と口裂け女 —「都市伝説」の誕生—</p> <p>14回目 各地の羽衣の松 —語られる風景—</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>現代社会の中に活用されている口承文芸を理解できるようにする。</p> <p>「型」にとらわれず、自分で考察し、自分の言葉で話す力を身につける。</p>
授業時間外の学習	授業内容についての確認レポートの作成
評価方法	<p>期末テスト (70%) 中間レポート (30%)</p> <p>※遠隔授業の場合は期末レポート (70%) 中間レポート (30%)</p>
テキスト	印刷物を配布
参考書	<p>柳田国男『遠野物語』各社 (文庫本でよい)</p> <p>『野村純一著作集』全9巻 (清文堂出版)</p> <p>野村敬子『語りの回廊』瑞木書房 2008年</p> <p>野村典彦『鉄道と旅する身体の近代』青弓社 2011年</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
三浦さつき 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この科目は、日本語に関するさまざまな問題に対して実証的に考察するための基本的な知識を修得し、さらに進んで日本語の専門的研究を行うための導入となる科目です。日本語概説Ⅰに引き続き、文字に関する事項、語彙に関する事項、方言に関する事項に互って順次概説しますが、あわせて、日本語研究の基本的文献資料を取り上げ、具体的に言語の研究方法も紹介します。</p> <p>学習成果の指標は、A-②・③です。</p> <p>遠隔授業で実施する場合は、課題型学修（Google Classroom を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 日本語学概説Ⅰの振り返り</p> <p>2回目 漢字 漢字の伝来・六書</p> <p>3回目 漢字 呉音・漢音・唐音</p> <p>4回目 漢字 訓・当用漢字と常用漢字</p> <p>5回目 仮名 万葉仮名・平仮名</p> <p>6回目 仮名 片仮名・訓点資料</p> <p>7回目 補助記号 濁音符・半濁音符・補助記号</p> <p>8回目 仮名遣い 定家仮名遣い・歴史的仮名遣い</p> <p>9回目 仮名遣い 現代仮名遣い</p> <p>10回目 ローマ字 へボン式・日本式・訓令式</p> <p>11回目 語彙 語彙の分類・語彙量</p> <p>12回目 語彙 多義語・同音異義語・類義語・対義語・語構成</p> <p>13回目 文法 品詞・活用</p> <p>14回目 文法 文法史</p> <p>15回目 文法 敬語</p>
到達目標	<p>1、日本語の文字・仮名遣い・文法に関することなどについて基礎的な事項を説明できる。</p> <p>2、常用漢字の見直しや現代仮名遣いなどの国語国字問題に関心をもちつつ、自己の言語を内省することにより、言語表現を向上することができる。</p> <p>3、専門研究のための基本的文献を扱うことができる。</p>
授業時間外の学習	各回の授業前に教科書をあらかじめ読んでおくように努めてください。難しい用語などの意味が、授業での解説で理解しやすくなります。また授業計画に示したキーワードをインターネットなどで調べておくと日本語への関心が深まります。
評価方法	筆記試験（80%） 授業への参加意欲（20%）で評価します。遠隔授業の場合はレポート（100%）で評価します。
テキスト	和田利政・金田弘著『国語要説（五訂版）』（大日本図書、2003年）
参考書	●参考文献一覧を配付します。 近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己（2005）『日本語の歴史』放送大学教育振興会
備考	

講義科目名称： 日本語文法

授業コード： 243005

英文科目名称： Japanese Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
本間美奈子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は中学校で学んだ現代語文法（口語文法）の基礎知識を確認し、「文法を指導する側の視点」で知識を整理することを目的とする。授業では講義で基礎知識を確認した後、予習してきた練習問題の答えをランダムに回答してもらい、講師が解説する。また、アクティブ・ラーニングなどで他学生と疑問点を共有したうえで文法説明の道筋を考える。アクティブ・ラーニングは安全に配慮しながら実施する。なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、文節</p> <p>2回目 文の構成</p> <p>3回目 自立語</p> <p>4回目 付属語</p> <p>5回目 名詞・副詞</p> <p>6回目 連体詞・接続詞・感動詞</p> <p>7回目 動詞（性質・活用）</p> <p>8回目 動詞（自動詞・他動詞）</p> <p>9回目 形容詞・形容動詞</p> <p>10回目 助詞</p> <p>11回目 助動詞</p> <p>12回目 識別（用言、助詞）</p> <p>13回目 識別（助動詞）</p> <p>14回目 敬語</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1. 現代語文法の基礎知識を理解して、他者に説明できる。</p> <p>2. 指導する側の視点で問題点を把握し整理することができる。</p> <p>3. 他学生と協働して文法説明の道筋を考えることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>1. 次回授業の練習問題を予習して答え合わせを行い、疑問点を他学生に説明できるように準備する。</p> <p>2. 知識を定着させるために授業内容を復習する。</p>
評価方法	<p>授業理解度60%、期末レポート40%</p> <p>遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>学研プラス『全問ヒントつきでニガテでも解ける中学国語文法』（学研プラス、2018年）</p>
参考書	<p>会田貞夫・中野博之・中村幸弘編著『学校で教えてきている現代日本語の文法』（右文書院、2011年）</p>
備考	<p>1. 事前に次週の練習問題に取り組み、各自答え合わせをしてから授業に参加すること。</p> <p>2. 本授業の目的は練習問題の答え合わせではなく、知識を整理することである。</p> <p>3. 学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。</p> <p>※毎回必ずテキスト、ノートを持参すること。</p>

※テキストを忘れた場合は授業開始時間までに自分専用のコピーを準備し、他者に迷惑をかけない状態にしておくこと。
--

講義科目名称： 日本語学各論

授業コード： 143006

英文科目名称： Japanese Language

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
本間美奈子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は日本語の研究分野のひとつである語彙・意味を考察する目的で行う。語の意味や文の意味は個人の知覚に基づくものであって、個人差がある。例えば、首都圏方言若年層話者の間でも「ふつうにおいしい」の意味にはズレがみられるが、他者に違いを説明するのは難しい。授業では語彙・意味に関する基本的な事項を概説する。学生には基礎知識をもとにそれぞれの事項について内省し、考察することを求める。参考書に目を通し、授業外の情報を取り入れて知識を広げることが望ましい。なお、学習成果の指標はA—①である。本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、語彙とは何か</p> <p>2回目 理解語彙と使用語彙</p> <p>3回目 語彙の系統・語種</p> <p>4回目 語構成</p> <p>5回目 社会的位相</p> <p>6回目 心理的位相・文体的位相</p> <p>7回目 語の意味とは何か</p> <p>8回目 辞書</p> <p>9回目 類義語・反義語・多義語</p> <p>10回目 共起語・選択制限</p> <p>11回目 意味変化</p> <p>12回目 意味の変遷</p> <p>13回目 他言語との語の意味の対照</p> <p>14回目 コーパス・語彙調査</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1. 基本的な術語（用語）が理解できる。</p> <p>2. 基礎知識をもとに日本語を内省し、考察できる。</p> <p>3. 考察課題の作成において、授業外の情報を取り入れることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業内容を復習する。基礎知識をもとに考察課題を作成する。</p>
評価方法	<p>授業理解度60%、期末レポート40%</p> <p>遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>教科書を使用せず。適宜資料を配付する。</p>
参考書	<p>沖森卓也他『図解日本の語彙』（三省堂、2011年）</p> <p>明治書院『「日本語学」特集テーマ別ファイル普及版』意味1～4（明治書院、2008年）</p> <p>明治書院『「日本語学」特集テーマ別ファイル普及版』語彙1～4（明治書院、2008年）</p>
備考	<p>学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。</p>

講義科目名称： 言語学

授業コード： 244007

英文科目名称： Linguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
本間美奈子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	言語学は言語を科学的に研究する学問である。本授業は母語である日本語を考察する目的で、言語の特性、言語学の諸分野など言語学の基本的概念、基本的事項を概説する。また、言語の基本的な姿である音声言語に関する研究分野音声学・音韻論について概説する。学生には言語学の知識をもとにした日本語の考察を求める。参考書に目を通し、授業外の情報を取り入れて知識を広げることが望ましい。なお、学習成果の指標はA-①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	1回目 ガイダンス、言語学の重要性 2回目 言語の特性 3回目 言語学の対象 4回目 言語の種類 5回目 言語学の諸分野 6回目 言語の変種 7回目 言語の変化 8回目 日本語の変化 9回目 世界の言語の現状 10回目 音声の器官 11回目 母音と子音 12回目 音声学・音韻論 13回目 音素と弁別的素性 14回目 音節とモーラ 15回目 まとめ
到達目標	1. 言語学の基本的な術語（用語）が説明できる。 2. 言語学の知識をもとに日本語を客観的に考察できる。 3. 考察課題の作成において、授業外の情報を取り入れることができる。
授業時間外の学習	基礎知識を確認し、考察課題に取り組む。
評価方法	授業理解度60%、期末レポート40% 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず。適宜資料を配付する。
参考書	佐久間淳一・加藤重広・町田健『言語学入門』（研究社、2004年） 西光義弘編『日英語対照による英語学概論（増補版）』（くろしお出版、1991年） 福盛貴弘『基礎からの日本語音声学』（東京堂出版、2010年） 斎藤純男『日本語音声学入門（改訂版）』（三省堂、2006年）
備考	学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。

講義科目名称： 比較文化

授業コード： 223008

英文科目名称： Comparative Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>文化は、時代や地域によって、また社会構造や宗教的背景によっても多様である。それぞれの文化の特質は、それと異なる文化と比較することによって明らかにされる。その比較方法は、地球上に並存する同時代のさまざまな文化を対比するだけでなく、異文化との歴史的な相互関係やそれによる文化変容を考えることも重要である。たとえば、西ヨーロッパで生まれた資本主義文化のように、非ヨーロッパの人びとの生活や精神と融合し、伝統的な土着の文化を包み込んでいった「文化」も存在する。この講義では、世界史におけるさまざまな文化の位置と特質を、日本文化の視野から、比較という方法を用いて明らかにし、国際感覚をみがいていく。</p> <p>今年度は、日本人が外国人に向けて書いた日本文化論である新渡戸稲造の『武士道－日本の魂』を読む。受講生には、それぞれの視点・関心から、「比較文化」についてのレポートを作成し、報告してもらう。なお、学修成果の指標はA-1です。遠隔授業になったときは、課題学修で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめに 講義の予定と文献紹介</p> <p>2回目 比較というまなざし</p> <p>3回目 新渡戸稲造の生涯と『武士道』が書かれた背景</p> <p>4回目 道徳体系としての武士道</p> <p>5回目 武士道の源泉</p> <p>6回目 義・勇気・仁・礼</p> <p>7回目 誠実・名誉・忠義</p> <p>8回目 武士の教育・克己</p> <p>9回目 切腹と敵討ちの制度</p> <p>10回目 刀、武士の魂</p> <p>11回目 女性の教育と地位</p> <p>12回目 武士道の影響と将来</p> <p>13回目 個別報告（その1）</p> <p>14回目 個別報告（その2）</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>世界にはさまざまな文化が存在し、互いに関係し合い、また融合しながら独特の文化を形成している。日本文化の特質を把握するには、異なる文化と比較することによって、それを明らかにすることができる。地球上に並存する同時代のさまざまな文化を対比するだけでなく、異文化との歴史的な相互関係やそれによる文化変容を考えることができる。日本文化と外国の文化を比較し、日本文化の視野から、国際感覚をみがき、国際人として社会に貢献できる。</p>
授業時間外の学習	<p>日本の文化と外国の文化についての文献を読むこと。また文化だけでなく、歴史にも興味をもち、日本史・東洋史・西洋史の文献も読むこと。</p>
評価方法	<p>レポート・報告の点数（40%）に授業参加態度（60%）を加点し、総合的に評価する。遠隔授業になった場合、毎回の課題60%、期末レポート40%で評価する。</p>
テキスト	<p>新渡戸稲造『現代語訳 武士道』（山本博文訳・解説、ちくま新書、2010年）</p>
参考書	<p>ルース・ベネディクト『菊と刀』（角田安正訳、光文社古典新訳文庫、2008年） 新渡戸稲造『武士道』（矢内原忠雄訳、岩波文庫、1938年）</p>

	新渡戸稲造『武士道』（佐藤全弘訳、教文館、2000年） その他の文献については、講義の中で紹介する。
備考	

講義科目名称： 外国語文化（英米語事情）

授業コード： 243006

英文科目名称： Foreign Language and Culture (English American)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
田村浩一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	イギリスとアメリカの文化と歴史に関する様々の文章を読むことを通じて、両国の文化に関心を持ち、その理解への端緒を得ることを目的とする。 テキストの精読を通して、イギリス、アメリカの事情を学びながら、英文の読解力を向上させることも目標とする。 学習成果の指標はA-①である。 なお、遠隔授業となった場合は、②同時双方型学修（Google Meetを利用）で実施する。
授業計画	<p>1回目 Terror in the City</p> <p>2回目 Walls</p> <p>3回目 British History</p> <p>4回目 The Elephant and the Mouse</p> <p>5回目 American History</p> <p>6回目 Names</p> <p>7回目 Rain in the UK</p> <p>8回目 Sport</p> <p>9回目 Universities in the UK</p> <p>10回目 Glamour and Glitz</p> <p>11回目 Baths</p> <p>12回目 9.11 Part 1:The Shock</p> <p>13回目 9.11 Part 2:The Aftermath</p> <p>14回目 Old Houses</p> <p>15回目 Why?</p>
到達目標	英米の文化、歴史、政治への理解を深め、英米以外の国々へも関心を持つようになることを目標とする。
授業時間外の学習	テキストの予習は必ずやってほしい。また、テキストで扱われない時事問題などに関する情報にも目配りをしてもらいたい。
評価方法	平常点50%、発表・提出物50%。遠隔授業となった場合も、同様とする。
テキスト	『The UK and the USA; Compare and Contrast（英米比較で英語を学ぶ）』 テリー・オブライエン他 南雲堂
参考書	辞書、特に英和辞典は、必ず用意してほしい。
備考	

講義科目名称： 外国語文化（中国語事情）

授業コード： 400001

英文科目名称： Foreign Language and Culture (Chinese)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
白 蓮傑 講師			
添付ファイル			

授業の概要	中国における現状と文化について、現代中国の人々の暮らし、生活習慣、社会、医療、教育、就職等様々な角度から紹介し、学生の中国への関心を深める。 当該授業は、基本的にプリント配布のほか、パワーポイント、映像など使って授業を行う。 なお、学習成果の指標はA-①である。 遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（Google Classroomなどを利用）で実施する。
授業計画	1回目 ガイダンス、多民族国家中国について 2回目 漢民族と少数民族 3回目 教育制度の歴史、現状と課題 4回目 就職事情 5回目 食文化 6回目 住宅事情 7回目 結婚事情 8回目 医療・保険事情 9回目 民間芸術（刺繍） 10回目 民間芸術（切り絵） 11回目 民間芸術（影絵） 12回目 中国映画 13回目 宗教事情 14回目 世界遺産 15回目 まとめ
到達目標	中国の現状と文化について理解を深めることができる。
授業時間外の学習	中国文化に関する書物を読み、日本文化と比較してみる。
評価方法	授業への参加度20%、課題30%、学期末レポート50%を基に、総合的に評価する。 遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	『中国の暮らしと文化を知るための40章』東洋文化研究会 『現代中国を知るための50章』高井潔司・藤野彰・遊川和郎編 『暮らしがわかるアジア読本 中国』曾士才・西澤治彦・瀬川昌久編 『現代中国』愛知学院現代中国学部編 あるむ出版社
備考	

講義科目名称： 外国語文化（韓国語事情）

授業コード： 263001

英文科目名称： Foreign Language and Culture (Korean)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
宮塚寿美子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>韓国・韓国事情について総合的に捉え、自ら考える力を養います。互いに「近くて遠い国」と言われる日本と韓国ですが、その距離について自ら測っていきけるよう「知る」ことから始めましょう。授業は講義と発表で構成。各自が関心のあるテーマを設定し発表します。授業内ではグループワーク、ワークショップを積極的に進めます。韓国の現代事情や身近な話題を中心に、言語・文化・社会など様々な側面から学んでいきます。※授業予定は、進行状況などにより変更される場合があります。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①である。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション ・ 韓国について知る 地政学から見て 授業の説明。普段から韓国・北朝鮮に関するニュースに関心をもつ。</p> <p>2回目 韓国について知る 国際社会から見て 教員が資料を随時配布する。</p> <p>3回目 ことばと社会 教員が資料を随時配布する。</p> <p>4回目 映画鑑賞① 韓国・北朝鮮について理解を深める映像資料として映画を観る。</p> <p>5回目 政治、経済、歴史 教員が資料を随時配布する。</p> <p>6回目 教育事情 教員が資料を随時配布する。</p> <p>7回目 中間レポート提出 各自が選んだ韓国・北朝鮮に関する書籍の読書感想文をレポートとして提出。</p> <p>8回目 韓国の文化1（食文化） 教員が資料を随時配布する。</p> <p>9回目 韓国の文化2（伝統文化）・韓国の文化3（大衆文化） 教員が資料を随時配布する。</p> <p>10回目 映画鑑賞② 韓国・北朝鮮について理解を深める映像資料として映画を観る。</p> <p>11回目 交通、観光 教員が資料を随時配布する。</p> <p>12回目 日韓関係・日朝関係 教員が資料を随時配布する。</p> <p>13回目 発表(個人) パワーポイントで発表する。15分ずつ。</p> <p>14回目 発表(個人) パワーポイントで発表する。15分ずつ。</p> <p>15回目 学期のまとめ</p>
到達目標	朝鮮半島は二つの国（韓国と北朝鮮）に分断されているという歴史的背景を踏まえつつ、現代ではコリア語を通して、韓国社会、文化についてより広い視野で深い見解がなされるようにする。
授業時間外の学習	関連する書籍の読書、新聞、テレビなどマスコミからの情報収集、周囲にいる韓国人（留学生から）と積極的にコミュニケーションをとる。
評価方法	平常点（授業への参加意欲、授業態度など）50%、発表40%、提出物10% ※遠隔授業の場合でも評価方法は同じ。
テキスト	必要に応じて、授業時にプリントを配布します。
参考書	随時、授業内で紹介します。
備考	講義は日本語で行い、日本語の資料を使うので、韓国語の語学能力は問いません。韓国・朝鮮半島について少しでも興味があり、知りたい学生の皆さんの履修を楽しみにしています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>広義での国際交流は、SNSやオンラインゲームなど、サイバースペースを通じた交流から、実際に海外に出向いたり、日本で外国人を迎えたりなどフェイス・トゥー・フェイスの交流まで様々である。本講義では、国際交流とは何かを基礎から学び、多くの具体的事例を取り上げ明らかにしていく。留学や異文化体験の事情だけでなく、在日外国人、移民・難民問題、観光など幅広い問題を扱う。講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料や小説、漫画などの資料などをまじえ、受講者の知りたいテーマに寄り添いながら国際交流を身近に考えていく。</p> <p>講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。また、レポートの立案や作成に関しては、個々に指導する。希望者は、レポート内容を授業内でプレゼンテーションする。</p> <p>本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 国際文化交流とは何か SNSから旅行、留学、移住、外交や戦争まで、現在あらゆるレベルで行われている広義の国際文化交流の具体的事例を学ぶ。身近な事例から国際関係まで幅広い領域の問題を扱う分野であることを理解する。</p> <p>2回目 異文化への考え方（多文化主義と単一文化主義） 異文化社会への考え方、捉え方は、時代や空間によって大きく異なる。異文化への理念的な二つの考え方、すなわち、多文化主義と単一文化主義を学び、現在どのような国家や地域がどのような政策をとっているのか具体的事例とともに理解する。</p> <p>3回目 現代の異文化体験 旅行、ホームステイ、留学などで得る異文化体験における事例や問題などを扱い、異文化体験とは何かを考える。他方、外国人労働者の問題を取り上げ、身近な異文化接触の機会についても理解する。</p> <p>4回目 日本における留学の歴史 日本では、古くは遣隋使・遣唐使から海外で知識を学び、輸入してきた。そして、そうした知識を日本で独自に発展させてきた。これらの歴史を踏まえ、日本が海外の知識をどのように受容し、そして、醸成させてきたのかを理解する。加えて、前近代に至るまでのアジア地域の知識の源泉（中華）とその流れと西欧文化が重要視される近代以降の知識の流れの変化を理解し、日本の文化とは何かを考える。</p> <p>5回目 観光の歴史と現在のブーム 観光がいかんして生まれ、発展してきたかを学ぶ。また、現在、観光地に赴くだけでなく、現地の生活や異文化体験をすることが流行している。具体的な事例を用いながら、現代のツーリズムに何が求められているのかを理解する。</p> <p>6回目 観光立国論と多様なツーリズム（ドラマロケ地ツアーからダークツーリズムまで） 人口減少を踏まえ、インバウンド効果を求める観光立国論や日本の政策を把握する。その上で、ソフトパワー戦略の一つでもある、アニメやドラマ縁の地を巡るツアーや負の遺産や産業遺産を巡るツアーまで多様なツーリズムが流行している事例を取り上げ、そこで求めているものや問題性を検討する。</p> <p>7回目 人の移動 移民の規定を理解したうえで、グローバル時代の人の移動について学ぶ。また、ヨーロッパやアメリカ、日本などの移民に対する考え方や政策の違いについて学習する。</p> <p>8回目 移民・難民問題 難民の規定を理解したうえで、現在の世界では難民がどのようにして発生し、どのような困苦に耐えているのか、また、その難民に対し、現代社会はどのような対応をしているのかを学ぶ。</p> <p>9回目 国際結婚と文化的差異 国際結婚の規定は国家によって異なる。規定の違いを理解したうえで、国際結婚のデータや事例を取り上げどのような問題があるのかを考える。</p> <p>10回目 在日外国人 在日外国人の歴史的背景と問題を把握し、現在日本でも問題になっているヘイトスピーチの具体的事例を扱いながら考える。</p> <p>11回目 国籍とは何か 国籍は各国の法規定により異なり、国民が受けられる権利はそれぞれに違う。グローバル時代にあつて、国籍がどのような意味を持つのかを考える。</p> <p>12回目 スポーツ交流 国際大会、サッカーワールドカップ、オリンピックなど国家を代表する選手がスポーツでたたくことにより交流を深めてきた。スポーツと政治、市場効果などの問題を取り上げ、検討する。</p> <p>13回目 人の移動と感染症 コロナは、それまでの国際的なつながりを分断する側面をもつ。ワクチンナショナリズムに見られる国家間格差やCOVAXのような国際的再分配の問題などに触れ、議論する。</p> <p>14回目 デジタル空間における交流の功罪 Google、Apple、Facebook、Amazon——GAFAM。21世紀における繋がりとその功罪を学ぶ。また、デジタル社会におけるメリット、デメリットを社会的に議論する。</p>

	15回目 あなたにとっての国際交流 それぞれのレポート報告に対し、議論する。
到達目標	国際交流の基礎知識を学び、そのバックグラウンドにある国際政治学や国際関係論、社会学、カルチュラルスタディーズなどの学問的基礎を習得することができる。サイバースペースによる交流（SNS）、旅行、留学、NGO活動、地域の国際化事業など各々の興味のある国際交流の糸口を探し、交流の広がりや学ぶことでグローバル社会での世界の人々とのつながりを強めることができる。多文化社会の将来に備え、より広くより深い視野で自己と自己を取り巻く国際社会を理解することができる。レポートやディスカッションを通し、他者の意見を尊重しながら、自己表現をすることができる。
授業時間外の学習	講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けておく。講義で扱うテーマに対し、事前に調べておくことで講義をより深く理解できる。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。レポート作成に関しては、メールでの相談にもなる。
評価方法	平常点（30%）、レポート（70%）で評価する。 遠隔授業になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	基本的にプリント資料を配布。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。
参考書	テーマに沿って、その都度参考文献を紹介する。 『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	関心のあるテーマでレポートを提出してもらおうが、レポートのテーマさがし、レポートの書き方、プレゼンテーション（5分～10分程度）のやり方に関しては、授業内での指導のほか、メールや「Google Meet」を通して相談に応じる。

講義科目名称： 国際文化交流Ⅱ（アジア地域における文化の交 授業コード： 252004
差）

英文科目名称： Intercultural Relations 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>グローバル時代において、国際的感覚や知識を身につけることは、将来どのような道を選んだとしても現代社会を生きるうえで重要である。本講義では、日本とアジア諸国との文化交流の歴史と現状を解説する。また、LGBT+Q、ジェンダー論、デジタル社会など、現代の具体的なテーマをとりあげ、文化的友好関係の成立や軋轢の発生の背景について理解し、学習するプログラムである。</p> <p>講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料や小説、漫画などの資料などをまじえ、受講者の知りたいテーマに寄り添いながら国際交流を身近に考えていく。</p> <p>講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。また、レポートの立案や作成に関しては、個々に指導する。希望者は、レポート内容を授業内でプレゼンテーションする。</p> <p>本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 国際文化交流とグローバル時代 国際文化交流を考えるうえで必要となる基礎概念や知識を学ぶ。そして、グローバル時代の特徴を把握する。</p> <p>2回目 アジア地域における儒教の広がり 儒教の成立から、アジア地域への影響を考える。日本における儒教的文化の影響を道徳や葬送文化などを事例としてとりあげ理解する。また、漢字という表音文字の成立を映像資料で確認するとともに、漢字文化圏がどのように成り立っているかを考える。</p> <p>3回目 アジア地域における漢字の広がり 中国語を発音することなく、日本語で漢文を読むという文化的意味についても検討する。</p> <p>4回目 日本と近隣諸国との関係1 近代日本の植民地支配と歴史経緯を学んだうえで、当時の文化政策や文化的関係性の変化を考える。</p> <p>5回目 日本と近隣諸国との関係2 靖国参拝問題、教科書問題、従軍慰安婦問題、徴用工問題などを歴史的に理解し、争点を学ぶ。</p> <p>6回目 戦後日本とアメリカ文化の影響力 戦後日本におけるアメリカ文化の影響を幾つかの文化論を引用しながら理解する。戦前におけるアメリカの敵国文化がいかに憧れに変わるか、そして、日米貿易摩擦を経て、どのように軋轢が生まれるかを学ぶ。</p> <p>7回目 ハリウッド映画とウォルト・ディズニー ハリウッド映画やディズニーアニメーションの日本への影響を考える。また、東京ディズニーランドの特徴や特異性なども議論する。</p> <p>8回目 日本と諸外国の近さと遠さ 近年の世論調査などのデータをもとに、お互い（日本とアメリカ、中国、韓国、台湾など）がどのような感情を抱いているかを概観する。その上で、文化コンテンツの流通や生活スタイルの類似、観光客や国際結婚の増加で距離が縮まる一方、歴史認識問題や文化やマナーの違いなど逆に距離ができてきていることを把握する。</p> <p>9回目 韓流ブームと嫌韓 2000年代初頭にはじまった日本の韓流ブームの社会政治的背景を学ぶとともに、同時に日本に起こった排他的思想についても考える。</p> <p>10回目 日本のソフトパワー（日本の何が世界で評価されているのか） ジョセフ・ナイによる「ソフトパワー」という考え方を理解するとともに、日本のソフトパワー戦略を考える。マンガやアニメをはじめ、日本が世界に発信する文化コンテンツの可能性について考える。</p> <p>11回目 アジアにおけるLGBT+Qの広がり LGBT+Qの社会的認知や政策の違いを学ぶ。</p> <p>12回目 ディズニープリンセスとジェンダー・エスニシティ論 ディズニープリンセス変容とジェンダーやエスニシティを考える。</p> <p>13回目 SNSと新しい社会運動 SNSや動画サービスで人々の生活や関係が変わったのかについて考え、#MeToo運動の広がりや違いを検討する。</p> <p>14回目 アジア地域における民主主義 アジアにおける民主化運動を学ぶとともに、アジアにおける言論の自由について考える。香港やウイグルの問題についても議論する。</p> <p>15回目 私にとっての国際文化交流 各々の問題意識を持ち寄り議論する。</p>
到達目標	講義を通して、国際政治学や国際関係論、社会学、カルチュラルスタディーズなどの学際的な知識を得ること

	とができる。また、日本とアジア地域との交流史を学ぶことで現代アジアにおいて日本の置かれている立場を正しく理解することができる。加えて、欧米社会等、他者からの日本への眼差しを意識することでグローバル時代における日本での在り方を相対化することができる。レポート作成を通して、自らの主張を論理的に思考し、説明することができる。グローバル時代に対応する素養を身に付けることができる。
授業時間外の学習	講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。レポート作成についての相談も随時メールでやりとりできる。
評価方法	平常点（30%）とレポート（70%）で評価する。 遠隔授業になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。
参考書	『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	受講者の関心のあるテーマでレポートを提出してもらおうが、レポートのテーマさがし、レポートの書き方等については、授業内だけでなく、メールや「Google Meet」での相談に応じる。理想とするレポートに近づけるように寄り添って指導していく。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代社会を知る上で重要な国際社会問題や国際ニュースについて解説する。国家という単位がなぜ国際社会で重要であるのか、また、NGOや多国籍企業などその他の構成単位と歴史的に何が違うのか、国際社会において決定権があるのは誰なのかなどの疑問にこたえるべく、国際社会の誕生から歴史的に検討していく。毎回多岐に渡るテーマを取りあげる。</p> <p>講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料をまじえ、受講者に寄り添いながら国際社会問題を考えていく。</p> <p>講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。</p> <p>本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 近代国際社会の成り立ちと国際法 地球上には複数の国際秩序があったが、なぜ、現代の国際社会のルール化がはじまったのかという問いを考える。加えて、ウェストファリア体制の基礎知識を理解する。</p> <p>2回目 植民地主義 ウェストファリア体制の歴史と意義について学ぶとともに、植民地支配の歴史について理解し、その問題が現在に及ぼしている影響を考える。</p> <p>3回目 黒人の歴史と差別の問題 黒人奴隷の歴史と黒人差別撤廃運動についての歴史を学び、Black Lives Matterのような現代の問題について議論する。</p> <p>4回目 アジアの近代化と日本のナショナリズム アジアの近代化の複雑さと近代日本のネーションビルディングについて学ぶ。</p> <p>5回目 冷戦とアジア 冷戦構造を学んだうえで、地政学的にアジアがどのような地域なのかを考える。</p> <p>6回目 戦後日本とアメリカ 戦後日本の出発にあった安保の意味を学び、日本とアメリカの同盟関係を考える。</p> <p>7回目 沖縄問題 戦後置かれてきた沖縄の状況を理解し、戦後政治の政策と沖縄地方政治の方向性を議論する。</p> <p>8回目 南北問題からSDGsまで（NGOの活躍の時代へ） 貧困や格差の問題からSDGsの問題に至るまでを理解する。</p> <p>9回目 EU EU成立の歴史と国際社会での意義を学ぶ。</p> <p>10回目 国際レジームと環境問題 環境問題解決のための国際レジームを考える。</p> <p>11回目 グローバリゼーションとWTO（多国籍企業の活躍の時代） グローバリゼーションの時代の国家の役割について考える。</p> <p>12回目 ジェンダー論と女性の活躍 女性差別の歴史とジェンダー論について検討する。</p> <p>13回目 GAFAとBATH IT企業の台頭と覇権について検討する。</p> <p>14回目 コロナとナショナリズム コロナを通して、各国がどのような対策をし、国際協調がどのようにとられたかを検討する。</p> <p>15回目 国際社会問題と私</p>
到達目標	国際政治学や国際関係論、社会学などの基礎的知識に基づいて思考し、国際社会の問題や日々の国際ニュースを相対的に理解することができる。国民国家の成り立ちや国際法の位置づけを学ぶことで、現代の国際社会で活躍するための基本的ルールを習得することができる。グローバル時代の社会構造を意識し、国際社会で活躍するための素養を得ることができる。
授業時間外の学習	国際ニュースの基礎知識がない学生にも優しく解説するので、講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。
評価方法	平常点（30％） 定期試験（70％）で評価する。 テストは、用語説明などの論述式をとる。 遠隔授業になった場合はオンラインで小テストを実施する。
テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。

参考書	『平和学から世界を見る』多賀秀敏編（成文堂、2020年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2年次	2単位	選択
担当教員			
中村香代子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>国際政治学の基礎を歴史、理論、実践の三分野に分けて学ぶ。歴史分野と理論分野で得た基礎知識をもとに、現在私たちがいる現代社会を国際政治学的に把握することを目的とする。第一部（1~5回）においては、国際政治の歴史を主権国家体系の生成から現在の政治枠組みまでを学ぶ。第二部（6~11回）では、代表的理論を紹介する。第三部（12~15回）では、ウクライナやイスラエル、中国の問題など、時事トピックを交えながら2000年代以降の問題について国際政治的批評などを参考にしながら議論する。</p> <p>講義は、毎回パワーポイントを使用し、参考資料を電子媒体で配布する。映画、ドキュメンタリー、ニュースなどの映像資料をまじえ、受講者に寄り添いながら国際社会問題を考えていく。</p> <p>講義後のアンケートや意見を題材にディスカッションすることがある。</p> <p>本授業は、全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修で実施するほか、場合によってはオンデマンド型授業で対応する。</p>
授業計画	<p>1回目 国際政治学とパワー 国際政治学が基礎とするパワーの問題について学ぶ</p> <p>2回目 主権国家体系 主権国家体系の仕組みと歴史について学ぶ。</p> <p>3回目 勢力均衡とナショナリズム 勢力均衡論と近代国家のナショナリズムについて学ぶ。</p> <p>4回目 帝国主義と二つの世界大戦 帝国主義台頭の歴史と21世紀の戦争の意味について学ぶ。</p> <p>5回目 冷戦構造と冷戦終焉の意味付け 冷戦構造を理解し、冷戦構造をどう評価するのか議論する。</p> <p>6回目 リアリズム パワーポリティクス of E. H. カーターとモーゲンソーについて解説する。</p> <p>7回目 ネオリアリズム ネオリアリズムの主要な考え方について解説する。</p> <p>8回目 リベラリズム 協調主義のコヘインとナイについて解説する。</p> <p>9回目 国際レジーム論 グラスナーをはじめとする国際レジーム論を解説する。</p> <p>10回目 グローバルガバナンス論とデモクラティックピース論 1990年代以降の議論について説明する。</p> <p>11回目 コンストラクティビズムとアイデンティティポリティクス 構成主義やアイデンティティポリティクスなどを学び、現在に至る主義主張でどのような勢力が強いのかを解説する。</p> <p>12回目 環境問題 カーボンニュートラルなど、どのように国際的枠組みのなかで環境問題に対処する態勢がとれるのか議論する。</p> <p>13回目 核軍縮と安全保障 冷戦と核の関係を学んだあと、世界の核軍縮への歩調の乱れなどについて議論する。</p> <p>14回目 現代の戦争とテロリズム 21世紀におけるテロリズムやロシアのウクライナ侵攻など現代の戦争について議論する。</p> <p>15回目 平和主義と平和構築 平和学的視点から平和主義がどのような問題群を射程にしているかを理解し、平和構築にはどのような可能性があるのか議論する。</p>
到達目標	国際政治学の基礎的知識に基づいて思考し、国際社会を相対的に理解することができる。政治学的視点から国際問題を考察することで、現在日本の置かれている政治状況を把握することができる。グローバル時代の社会構造を意識し、国際社会で活躍するための素養を得ることができる。
授業時間外の学習	講義は政治に馴染みのない人にも優しく解説するので、講義にのぞむための予備知識はいらないが、講義で扱う関連映像やパワーポイント、紹介する書籍から興味を持って、普段からニュースや新聞に目を向けてほしい。授業で扱う簡単な資料のまとめや感想などをもとめることがある。質問やレスポンスはメールでも受け付ける。
評価方法	平常点（30％） 定期試験（70％）で評価する。 遠隔授業になった場合は、定期試験を小レポートに変更する。
テキスト	基本的にプリント資料を配布（遠隔授業においては、電子媒体にて）。参考書籍や参考映像などについては授業時に指示。

参考書	『国際政治―恐怖と希望―』高坂正堯 岩波新書 『国際政治史―主権国家体系のあゆみ』小川浩之・板橋拓己他 有斐閣ストゥディア 雑誌『フォーリンアフェアーズ』
備考	

講義科目名称： 時事問題入門

授業コード： 225002

英文科目名称： Current Affairs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	現代の日本経済や世界経済を考えるうえで欠かすことのできないテーマである「経済活動のグローバル化」「経済の金融化」「情報ネットワーク化する社会」「新自由主義と福祉社会」について取り上げ、そこで提起されている課題を共に考えていくことを目的としている。指定するテキストの項目に沿って、データを重視して進めていく。また、各自、事前に各テーマに関する情報を収集し、要約を準備してくることになる。ただし、時事問題を扱うので、大きな出来事、事件等あれば適宜、取り上げていく。学習成果の指標はA-①です。尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1回目 時事問題のつかみ方 情報収集の仕方</p> <p>2回目 情勢の変化とは 構造的変化と表層的变化</p> <p>3回目 経済活動のグローバル化</p> <p>4回目 広がる企業の国際生産</p> <p>5回目 「平成の開国」 貿易・投資を支える諸制度</p> <p>6回目 小売業のグローバルな活動</p> <p>7回目 新興国の台頭 BPOビジネスと貧困</p> <p>8回目 経済の金融化 国際金融市場の不安定化</p> <p>9回目 金融自由化の原動力 銀行のビジネスモデルの変容</p> <p>10回目 日本経済の構造変化と成長戦略</p> <p>11回目 株主価値重視の経営</p> <p>12回目 不安定雇用の増大 非正規雇用の急増</p> <p>13回目 正規雇用の長時間労働 女性の労働</p> <p>14回目 所得格差の拡大</p> <p>15回目 経済情勢の行方</p>
到達目標	就職試験並びに公務員試験の時事問題に対応する力を養成する。有権者として直面する社会的テーマにたいして自身の見解を持てるようにする。
授業時間外の学習	授業前に資料を配布（直接またはオンライン上で）する場合がありますので、その際は必ず目を通して来ること。毎日、新聞等を読み、興味のあるテーマを系統的に切り抜く作業をすることが望ましい。
評価方法	レポート発表40% 授業への意欲60% オンライン移行時には、授業態度40%、課題発表内容60%で評価します。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	『図説 経済の論点』柴田努、新井大輔、森原康仁〔編〕旬報社、2015
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
本間美奈子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	本授業はレポート作成に関する知識と技術の習得を目標とする。レポートは客観的な文章であり、主観が中心となる作文や意見文とは異なる文章作成技術が必要である。授業ではパソコンでレポートを作成する際に必要な形式、構成、表現、文献資料の引用方法、修正の仕方などを講義する。半期間でレポートを1本実作し、その過程でどのような知識や技術が必要かを学習してほしい。各回の授業は講義とアクティブ・ラーニングの組み合わせであり、アクティブ・ラーニングにはグループワークやレポートの相互添削が含まれる。アクティブ・ラーニングは安全に配慮しながら実施する。なお、学習成果の指標はA-①である。 本授業は対面授業で実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、原稿用紙で自己紹介文を作成する</p> <p>2回目 客観的文章・主観的文章の違いを理解する</p> <p>3回目 文献資料の検索、引用の仕方を理解する</p> <p>4回目 レポートに適したテーマ、論点を考える</p> <p>5回目 レポートの形式、構成を理解する</p> <p>6回目 書きことばと話しことばの表現の違いを考える</p> <p>7回目 レポートのアウトラインを考える</p> <p>8回目 パソコンの機能を理解する</p> <p>9回目 レポートの序論・結論を考える</p> <p>10回目 レポートの本論を考える</p> <p>11回目 レポートの下書きを作成する</p> <p>12回目 レポートの下書きを相互添削して修正する</p> <p>13回目 レポートの清書を推敲する</p> <p>14回目 清書レポートを最終確認する</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>1. レポートの形式、構成、表現、文献資料の引用方法などを理解して他者に説明できる。</p> <p>2. 他者にとって理解しやすい表現を検討し、論証できる。</p> <p>3. アクティブ・ラーニングにおいて他学生と協働して問題に取り組むことができる。</p>
授業時間外の学習	各段階で必要な知識を復習する。レポート作成技術を習得するために、パソコンで課題に取り組む。
評価方法	授業理解度60% レポート40% 遠隔授業に変更になった場合でも評価方法に変更はない。
テキスト	教科書を使用せず。適宜資料を配付する。
参考書	近藤裕子・由井恭子・春日美穂『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』（ひつじ書房、2019年） 桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』（実教出版、2015年） 井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』（慶応義塾大学出版会、2013年）
備考	学生の理解度によって講義の順番、内容、進度を調整することがある。

講義科目名称： ビジネス英語 I

授業コード： 133009

英文科目名称： Business English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	経済のグローバル化が進んでいる現代では、ビジネスのうえで英語は必要です。ビジネス関係の英文は、英語の知識だけでは理解できません。経済学と専門用語の知識がないと意味がとれません。そこで、英語だけではなく、経済学の英語の理解に重点を置いて説明していきたいと思います。同じ用語が何回も出てきますから、その背景などを英語を読むなかで説明していきます。学習成果の指標はAの②です。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 経済学の基礎知識ってなに</p> <p>3回目 経済英語の基礎知識ってなに</p> <p>4回目 ミクロ経済学の基礎ってなに</p> <p>5回目 財ってなに。経済学の考え方</p> <p>6回目 市場メカニズムと神の見えざる手ってなに</p> <p>7回目 需要と供給ってなに</p> <p>8回目 生産費と価格ってなに</p> <p>9回目 マクロ経済学ってなに</p> <p>10回目 GDP ってなに</p> <p>11回目 経済成長とは何か</p> <p>12回目 景気循環の簡単な説明</p> <p>13回目 市場の失敗、大失敗ってなに</p> <p>14回目 経済成長と貧困</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	ビジネス雑誌や簡単な報告書を読めるような最低限の力をつけていきます。併せて編入試験や専門科目の用語も念頭において読んでいきたいと思います。
授業時間外の学習	1年で学んだことを思いかえしてください。テキストを事前に目を通しておくように。
評価方法	平常点(30%)と報告点(70%)の総合評価とします。 遠隔授業の場合は平常点(30%)と課題(70%)の総合評価とします。
テキスト	授業時にコピーして配布します。
参考書	
備考	

講義科目名称： ビジネス英語 I

授業コード： 133010

英文科目名称： Business English 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英文経済情報へのアクセス方法を学び、英字新聞、英文雑誌の経済欄などから数値を中心としたデータ収集が可能な程度の英語力の修得。 経済にかかわる記事、論文等を読みこなすに最低限必要な知識を習得する手段として、和書で入門書を読みつつ、適時それと平行して英文を読んでいくという方法をとる。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1回目 英文情報誌の見方</p> <p>2回目 economyのさまざまな意味</p> <p>3回目 businessとfinance</p> <p>4回目 お金とマネー</p> <p>5回目 稼ぐことにかかわる用法</p> <p>6回目 使うことにかかわる用法</p> <p>7回目 損得と貸借</p> <p>8回目 家計と消費</p> <p>9回目 家計の支出項目</p> <p>10回目 laborとwork</p> <p>11回目 サラリーマンは和製英語</p> <p>12回目 仕事のいろいろな表現</p> <p>13回目 賃金と収入</p> <p>14回目 地位、肩書き、キャリア</p> <p>15回目 要点の確認</p>
到達目標	就職活動において、以前にも増して英語力による選別が行われている。就職試験対応の基礎力の養成を目的とする。
授業時間外の学習	授業の前週に定期的に英文雑誌等をコピーして配布する。授業当日、その内容についてコメントできる状態で臨むこと。
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、授業時小テスト60%で評価します。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： ビジネス英語Ⅱ

授業コード： 233014

英文科目名称： Business English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	経済のグローバル化が進んでいる現代では、ビジネスのうえで英語は必要です。ビジネス関係の英文は、英語の知識だけでは理解できません。経済学と専門用語の知識がないと意味がとれません。春セメで学んだ経済学と専門用語の知識を踏まえて、背景を具体的に説明しながら読み進めて、ビジネス英語を読み取る能力を養いたいと思います。学習成果の指標はAの②です。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。
授業計画	<p>1回目 後期のスケジュール</p> <p>2回目 稀少性ってなに</p> <p>3回目 トレード・オフってなに</p> <p>4回目 機会費用の簡単な例</p> <p>5回目 市場均衡ってなに</p> <p>6回目 合理的期待仮説ってホント</p> <p>7回目 効率的市場仮説ってホント</p> <p>8回目 ミクロ経済学とマクロ経済学の違いって</p> <p>9回目 財政政策ってなに</p> <p>10回目 金融政策ってなに</p> <p>11回目 証券化ってなに</p> <p>12回目 サブプライム・ローンってなに</p> <p>13回目 分業・特化ってなに</p> <p>14回目 比較優位・比較劣位ってなに</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	春セメに続いて、ビジネス雑誌や簡単な報告書を読めるような最低限の力をつけていきます。併せて編入試験や専門科目の用語も念頭に置いて読んでいきたいと思います。
授業時間外の学習	割り当てられた分担当箇所を事前に訳しておくこと。
評価方法	平常点（30％）と報告点（70％）の総合評価とします。 遠隔授業の場合は平常点（30％）と課題提出（70％）の総合評価とします。
テキスト	授業時にコピーして配布します。
参考書	
備考	

講義科目名称： ビジネス英語Ⅱ

授業コード： 233015

英文科目名称： Business English 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	英文経済情報へのアクセス方法を学び、英字新聞、英文雑誌の経済欄などから数値を中心としたデータ収集が可能な程度の英語力の修得。 経済にかかわる記事、論文等を読みこなすに最低限必要な知識を習得する手段として、和書で入門書を読みつつ、適時それと平行して英文を読んでいくという方法をとる。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1回目 会社の形態</p> <p>2回目 株式会社は多種多様</p> <p>3回目 企業の保有と出資</p> <p>4回目 企業の合併・買収</p> <p>5回目 資本と株主</p> <p>6回目 経営とスタッフ</p> <p>7回目 業績</p> <p>8回目 利益と損失</p> <p>9回目 財務諸表と経理</p> <p>10回目 生産とメーカー</p> <p>11回目 productivity</p> <p>12回目 生産物とgoods</p> <p>13回目 サービスの語源とサービス行為</p> <p>14回目 マーケットと価格</p> <p>15回目 財政と予算</p>
到達目標	就職後のビジネス社会において必要とされる英文情報の収集、ならびに海外クライアントからのメール等への初歩的対応が可能な能力の育成。
授業時間外の学習	ビジネス英文雑誌等のコピーを前週授業時に配布する。翌週の授業時にその内容についてコメントできるようにすること。
評価方法	小テスト30% 授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題発表60%で評価します。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
歴史時代の始まりから鎌倉初期まで			
添付ファイル			

授業の概要	日本文化の歴史についての基礎学力を向上させ、歴史的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識の創出、及び分析能力の発達を促す。各時代の文化を象徴的なトピックスを中心に論説し、基礎知識を習得するとともに、毎回の授業で、受講生より各時代のレポート（筆記）を行ってもらい、問題点の提起力や報告の作成能力の向上、及び興味関心の深化をはかる。学修成果の指標はA-①③である。全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準の説明</p> <p>2回目 飛鳥文化 蘇我・聖徳太子の政治と仏教の受容について</p> <p>3回目 白鳳文化 随・唐など大陸文化の吸収と仏教文化の展開について</p> <p>4回目 天平文化 奈良時代の政変と聖武天皇・光明皇后による大仏建立など仏教の国家的な役割について</p> <p>5回目 平安遷都と密教 いわゆる国風文化の実態と密教の導入について</p> <p>6回目 平安前期の文化 御霊信仰と御霊会を中心に</p> <p>7回目 平安時代の文化2 本地垂迹説など神仏習合について</p> <p>8回目 国風文化 撰撰政治とそこから創出されたサロン文化について</p> <p>9回目 浄土教の流行 浄土教の解説とその社会的・文化的影響について</p> <p>10回目 院政期の文化1 院政の特質と芸能文化の創出について</p> <p>11回目 院政期の文化2 後白河院政と和歌・今様・浄土信仰・宝物コレクション</p> <p>12回目 鎌倉文化1 鎌倉新仏教の登場、浄土教の法然・浄土真宗の親鸞について</p> <p>13回目 鎌倉文化2 鎌倉新仏教、日蓮宗の日蓮・時宗の一遍・臨済宗の栄西・曹洞宗の道元</p> <p>14回目 鎌倉文化3 奈良仏師運慶・快慶の仏像彫刻について</p> <p>15回目 総括（到達点の確認など）</p>
到達目標	短期大学生に必要とされる日本文化とその歴史について、基礎的な知識を獲得し、歴史的な視野を広め、文化への関心と問題意識の創出、及び独自の視点・分析能力をもてるようになる。
授業時間外の学習	授業の進捗にあわせ日本文化に関する文献を読み準備をし、授業後は内容の整理をすること。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。
評価方法	授業時の毎回のレポートを総合して評価する（100%） オンライン授業の場合も同様
テキスト	授業時にデータで配信する
参考書	林屋辰三郎『日本文化史』岩波書店、1988年 大隅和雄『日本文化史講座』吉川弘文館、2017年
備考	授業時毎回のレポートは、授業で教示した内容のまとめ、それに対する意見・疑問点を、それぞれに分けて記述することを課す。この際、授業内容と意見・疑問点を明確に区別することを重要とする。 展覧会の見学など野外学修を行うことがある。 実務教員：財団法人前田育徳会尊経閣文庫員として11年、国立民俗博物館共同研究員として7年勤務。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	1 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>高校までの授業科目としての日本史は、暗記物としてのイメージが強いです。一方、短期大学で行う日本史の研究は全く別物です。研究とは自ら対象を定め、それを調べ、その結果を発表することです。本授業は、そのための基礎的な知識や方法・技術を身につけてもらうためのものです。発表は基本的には個人で行っていただきます（個人報告については備考欄も参照のこと）。また、基礎的な知識については、講義を行います。講義の場合は、授業の後半は授業内容の要約などを行っていただきます。なお、2回程度、オンデマンド型の授業を予定しています。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①・②です。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス オンデマンド型授業を予定しています</p> <p>2 回目 基本的な辞書・辞典</p> <p>3 回目 「日本」とは何か?—都道府県・国郡制— オンデマンド型授業を予定しています</p> <p>4 回目 地名の由来を調べよう</p> <p>5 回目 地名の由来を発表する① クラス・出席番号順で発表していただきます。4 回目は全体の前半の学生に行っていただきます。</p> <p>6 回目 地名の由来を発表する② クラス・出席番号順で発表していただきます。5 回目は全体の後半の学生に行っていただきます。</p> <p>7 回目 陰陽五行説と干支</p> <p>8 回目 仏教と仏像</p> <p>9 回目 民間信仰①—石塔—</p> <p>10 回目 民間信仰②—石仏—</p> <p>11 回目 寺社仏閣をフィールドワークするにあたって—寺社の建築物—</p> <p>12 回目 フィールドワーク 天候により、日程が変更になる可能性があります。</p> <p>13 回目 絵馬から見える地域の歴史</p> <p>14 回目 レポートの書き方</p> <p>15 回目 校正の仕方</p>
到達目標	<p>卒業研究を執筆するために必要である基本的な日本の文化に関する知識を身に付け、自分の言葉で説明することができる。</p> <p>ネットの情報だけに頼るだけでなく、基本となる辞書を把握し、それを参考に調べて思考し、通説に基づいて説明することができる。</p> <p>授業で得た知識をもとにフィールドワークを行ない、そこで持った疑問点を調べ、レポートとしてまとめ、説明することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>本講座は演習科目のため、学生に発表もおこなっていただきます。発表の準備は授業外で行ってください。担当者は発表日2日前までにレジュメを準備して、提出してください。なお、遠隔授業になった場合は、発表については動画を作成していただきます。これも授業時間外で行ってください。</p> <p>小テストは事前に内容を伝えるので、授業時間外に勉強して受験してください。不合格だった学生には、授業外で再テストを予定しています。</p>
評価方法	<p>授業態度（50%）、レポート（50%）。授業態度には授業時の発表内容、小テストなども含まれます。</p> <p>また、講義のみで終わる授業では、コメントペーパーを記入していただく場合があります。コメント内容は、</p>

	<p>授業内容の要約に加え、（１）授業により新たな知見を得た場合、それがあなたにとってどのような意味があるのか？、（２）新たな知見を得て考えが変わった場合、具体的にどのような考えが、どのような考えに変わったのかまで書いてください。また、新たな知見がなかった場合は、該当回の授業内容をどこで学んだのかを書いてください。</p> <p>単位レポートは秋セメスターの必修科目、史学基礎演習Ⅱにおいて使用します。具体的にはプレゼンソフトとレジュメを使用して発表してもらいます。</p>
テキスト	プリントを配布する。
参考書	参考文献は授業時に紹介する。
備考	<p>一部の回では、学生に口頭発表してもらいます。事情により人前での報告が困難で配慮が必要な者は、事前に教員に相談してください。</p> <p>受講生の数により、計画を変更することがあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>史学基礎演習Ⅱでは、史学基礎演習Ⅰに引き続き、歴史研究の方法を身につけてもらいます。また、学生による作業や報告をメインに授業を進めていきます。発表は個人で行うもの、グループで行うものを1回ずつ計画しています（授業計画参照）。グループでの発表はメンバー内でのディスカッション、それをもとに課題設定、その調査結果の発表を行ってもらいます。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①・②です。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パワーポイントを利用した発表① 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。</p> <p>第3回 パワーポイントを利用した発表② 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。</p> <p>第4回 パワーポイントを利用した発表③ 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。</p> <p>第5回 パワーポイントを利用した発表④ 基本的には組・出席番号順で発表してもらいます。</p> <p>第6回 旧字・旧字・異体字</p> <p>第7回 度量衡 オンデマンド型の授業を予定しています。</p> <p>第8回 小テスト</p> <p>第9回 学術論文の読み方 オンデマンド型の授業を予定しています。</p> <p>第10回 学術論文の内容をまとめる 個人で論文の要約を作成してもらいます。</p> <p>第11回 学術論文の内容を討論する グループで論文の内容について議論してもらいます。</p> <p>第12回 学術論文の内容を発表する①</p> <p>第13回 学術論文の内容を発表する②</p> <p>第14回 宛名と差出し</p> <p>第15回 レポートの書き方</p>
到達目標	<p>基本となる辞書・辞典を用いて、課題を調べることができる。 調べた内容を自分の言葉で、正しい日本語を用いて、論理的に発表できる。 自分が関心をもつテーマについての文献や史料を収集し、研究テーマを設定できる。</p>
授業時間外の学習	<p>発表の準備は、授業外で行ない、授業時間までにレジュメを準備してください。また、第9回目の授業は、時間内に論文を読み、まとめる時間を作りますが、終わらなかった場合は、授業外で進めてください。</p> <p>小テストについては、史学基礎演習Ⅰと同じく、事前に勉強し、不合格者は再テストを受けて合格してください。</p>
評価方法	授業態度50%、レポート50%。授業態度には発表と小テストを含みます。
テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	本授業は学生の発表を中心に進めるため、受講生数により、授業内容が変更になる場合があります。

事情により報告が困難で配慮が必要な学生は、事前に教員に相談すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>過去を探究することを目的とする歴史学において、その手がかりとなる歴史資料（史資料）について知ることは必要不可欠です。この授業では、古代から近現代にかけての基本的な史資料の形態、時代ごとの特質、読解方法の基礎について学び、最後にグループごとに関心のある史資料を選び、内容や背景を調べ、まとめてもらいます。史資料に関する基本的な知識を身に付け、さまざまな史資料からどのような情報を読み取ることができるのか、考えていきましょう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②です。</p> <p>この授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー歴史研究と史資料についてー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>2回目 古代の史資料（1）ー歴史書・古記録ー</p> <p>3回目 古代の史資料（2）ー儀式書・文書・木簡ー</p> <p>4回目 中世の史資料（1）ー文書・日記ー</p> <p>5回目 中世の史資料（2）ー文学・絵画ー</p> <p>6回目 レジュメの作り方</p> <p>7回目 近世の史資料（1）ー武家史料ー</p> <p>8回目 近世の史資料（2）ー町方史料・版本ー</p> <p>9回目 近現代の史資料（1）ー公文書・編纂物ー</p> <p>10回目 近現代の史資料（2）ー私文書（日記・書簡）と回想録・オーラルヒストリーー</p> <p>11回目 近現代の史資料（3）ー新聞・雑誌・写真・地図ー</p> <p>12回目 近現代の史資料（4）ー複数の史料を使った分析ー</p> <p>13回目 レジュメ提出とコメントの記入 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>14回目 レジュメ批評（1）</p> <p>15回目 レジュメ批評（2）</p>
到達目標	<p>さまざまな史資料についての基本的な知識を身に付ける。</p> <p>さまざまな史資料から情報を適切に読み取ることができる。</p> <p>さまざまな史資料を用いてレジュメを作成することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>発表や卒業研究に活かすため、予習より復習に重点を置いて取り組んでください。</p> <p>発表の準備は授業時間外に行ってもらいます。授業でも史資料の探し方・調べ方やレジュメの作り方などは説明しますが、不明点・不安点は教員に積極的に質問してください。</p>
評価方法	<p>平常点（コメントペーパーや小テストなど）50%、レジュメ50%</p> <p>遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。</p>
テキスト	<p>教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。</p>
参考書	<p>適宜紹介します。</p>

備考	履修者の希望や感染状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。 実務教員：宮内庁書陵部期間業務職員として実録編纂及び刊行に関する業務に6年間従事。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
日本古代史・東洋古代史			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、日本古代史・東洋古代史で卒業研究をおこなう学生を対象としたものである。2年間で学んだことをふまえてテーマを定め、先行研究を参照しながら史料を分析・考察し、その結果を論文として執筆する。春semesterでは、卒業研究のテーマの設定、そのテーマに関する先行研究や史料の収集と分析方法を身につける。夏期休暇中にも具体的な先行研究・史料の収集や分析を進める。秋semesterでは史料の分析・考察を深め、論文を執筆する。卒業研究の過程では、受講生が進捗状況を個別に報告し、ディスカッションをおこなう。なお、学習成果の指標は A-②③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修 (Google Classroom) と、②同時・双方向型学修 (Google Meet) を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス</p> <p>2 回目 研究論文の書き方</p> <p>3 回目 先行研究・史料を探す</p> <p>4 回目 研究テーマの決定</p> <p>5 回目 先行研究の整理① (受講生 A グループ)</p> <p>6 回目 先行研究の整理② (受講生 B グループ)</p> <p>7 回目 先行研究の整理③ (受講生 C グループ)</p> <p>8 回目 先行研究の整理④ (受講生 D グループ)</p> <p>9 回目 先行研究の整理⑤ (受講生 E グループ)</p> <p>1 0 回目 史料の収集と分析① (受講生 A グループ)</p> <p>1 1 回目 史料の収集と分析② (受講生 B グループ)</p> <p>1 2 回目 史料の収集と分析③ (受講生 C グループ)</p> <p>1 3 回目 史料の収集と分析④ (受講生 D グループ)</p> <p>1 4 回目 史料の収集と分析⑤ (受講生 E グループ)</p> <p>1 5 回目 夏期休暇中の研究計画発表 (受講生全員)</p> <p>1 6 回目 夏期休暇中の成果報告 (受講生全員)</p> <p>1 7 回目 卒業研究の経過報告① (受講生 A グループ : 1 回目)</p> <p>1 8 回目 卒業研究の経過報告② (受講生 B グループ : 1 回目)</p> <p>1 9 回目 卒業研究の経過報告③ (受講生 C グループ : 1 回目)</p> <p>2 0 回目 卒業研究の経過報告④ (受講生 D グループ : 1 回目)</p> <p>2 1 回目 卒業研究の経過報告⑤ (受講生 E グループ : 1 回目)</p>

	2 2 回目	卒業研究の経過報告⑥ (受講生 A・B グループ : 2 回目)
	2 3 回目	卒業研究の経過報告⑦ (受講生 C・D グループ : 2 回目)
	2 4 回目	卒業研究の経過報告⑧ (受講生 E グループ : 2 回目)
	2 5 回目	論文執筆の点検指導① (受講生 : A・B・C グループ)
	2 6 回目	論文執筆の点検指導② (受講生 : D・E グループ)
	2 7 回目	卒業論文の最終確認 (受講生 全員)
	2 8 回目	卒業研究要旨報告① (受講生 A・B グループ)
	2 9 回目	卒業研究要旨報告② (受講生 C・D グループ)
	3 0 回目	卒業研究要旨報告③ (受講生 E グループ)
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。 また史跡や遺跡などの現地調査を行うこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。	
評価方法	授業時の報告・ディスカッションへの参加 (30%) 卒業研究 (70%)	
テキスト	指定しない。受講生の報告にあたっては各自がレジュメを用意する。	
参考書	授業時に適宜指示する。	
備考	報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333003

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
日本中世史			
添付ファイル			

授業の概要	<p>論文を書くときの認識・方法・叙述を中心に講義を実施し、2年間の日本史学習の集大成である「卒業研究」に関し、より充実した成果をあげるための指導を行う。</p> <p>具体的には、日本中世史の論文作成にあたって、論文の検索方法、課題の設定の仕方といった歴史学上の論文を作成するという課題にあたっての技術の習得を促し、参考文献・参考資料の収集方法や利用法などの基礎知識を講義し、卒業報告の中間報告とレポートにもとづいた具体的な指導を行う。</p> <p>春semesterでは、題目提出にともなう先行研究の報告、および分析手段を確立するための史料報告の2回の個人報告を予定している。秋semesterでは、章立てと1章分の報告、別の1章分の報告を予定している。なお時間的な都合により、章立てと1章分の報告は、夏休み期間中に行う場合があるので、注意すること。</p> <p>学修成果の指標はA-②③である。</p> <p>なお、遠隔授業の場合は、双方向型のオンライン授業と課題学修を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 学術論文とはなにか（論文作成の視座）</p> <p>3回目 論文作成の手段（先行研究・参考文献・史料の利用法）</p> <p>4回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 治承寿永の内乱</p> <p>5回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 鎌倉幕府の成立</p> <p>6回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 守護地頭制度</p> <p>7回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 承久の乱と執権政治</p> <p>8回目 先行研究の取りまとめ（個別報告と指導） 元寇と幕府体制の動揺</p> <p>9回目 史料収集と読解指導 吾妻鏡</p> <p>10回目 史料収集と読解指導 平家物語</p> <p>11回目 史料収集と読解指導 玉葉</p> <p>12回目 史料収集と読解指導 太平記</p> <p>13回目 史料収集と読解指導 花園院宸記</p> <p>14回目 史料収集と読解指導 信長公記</p> <p>15回目 前半総括（後期への課題と到達点の整理）</p> <p>16回目 論文作成指導（論文・史料の引用等諸注意事項）</p> <p>17回目 概要報告・討論と指導 石母田正『中世的世界の成立』について</p> <p>18回目 概要報告・討論と指導 佐藤進一『鎌倉幕府訴訟制度の研究』について</p> <p>19回目 概要報告・討論と指導 石井進『中世のかたち』について</p> <p>20回目 概要報告・討論と指導 永原慶二『日本中世社会構造の基礎研究』について</p> <p>21回目 概要報告・討論と指導 網野善彦『日本中世土地制度の研究』について</p>

	2 2 回目	概要報告・討論と指導	菱沼一憲『中世將軍権力と地域社会』について
	2 3 回目	概要報告・討論と指導	長村祥知『中世公武関係と承久の乱』について
	2 4 回目	概要報告・討論と指導	保立道久『中世の王土高権と天皇・武家』について
	2 5 回目	概要報告・討論と指導	山本隆志『東国における武家勢力の成立と展開』について
	2 6 回目	概要報告・討論と指導	細川重男『鎌倉政権得宗専制論』について
	2 7 回目	概要報告・討論と指導	質疑
	2 8 回目	概要報告・討論と指導	総括
	2 9 回目	卒論作成にあたって補助作業	
	3 0 回目	個別の反省点の指摘など	
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。		
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。		
評価方法	平常点。授業時レポートの内容やゼミ参加の状況で判断（20%）。及び提出された卒業論文（80%）を以て評価。 遠隔授業の場合も同様		
テキスト	授業時にプリントを配付する		
参考書	授業時に指示する。		
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。		

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333002

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2 年次	2 単位	フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
日本近世史	環境史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講座は、日本近世史で卒業研究を執筆する学生を対象としたものである。これまで学んだことを基に、テーマを定め、自ら調べ、考察し、研究をまとめてもらう。春semesterでは、各自の研究テーマを決定し、その先行研究と史料の収集を行う。研究が一定程度進展したところで、各自のテーマに関する先行研究や分析した史料の個人発表を行う。</p> <p>春semesterの成果をもとに夏休み中も作業を進めてもらい、その成果は夏休みの後半に報告会を行い、発表してもらう。秋semesterでは、各自の研究テーマに関し、夏季休暇中の成果の不足部分を補いつつ文章化してもらう。卒業研究提出後は、卒業研究発表会に向けた準備を行う。</p> <p>なお、学生の報告時は、報告者と報告を聞いた学生と討論を行う。司会は学生が務めることとする。</p> <p>学習成果の指標はA-②です。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります、</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンスー学術論文の読み方ー</p> <p>2 回目 近世史研究のための基礎的文献・論文の探し方</p> <p>3 回目 研究テーマの決定</p> <p>4 回目 先行研究レポート（1）ー受講生1・2・3ー</p> <p>5 回目 先行研究レポート（2）ー受講生4・5・6ー</p> <p>6 回目 先行研究レポート（3）ー受講生7・8・9ー</p> <p>7 回目 先行研究レポート（4）ー受講生1・2・3ー *前回と違う先行研究を紹介する</p> <p>8 回目 先行研究レポート（5）ー受講生4・5・6ー*前回と違う先行研究を紹介する</p> <p>9 回目 先行研究レポート（6）ー受講生7・8・9ー*前回と違う先行研究を紹介する</p> <p>10 回目 史料紹介（1）ー受講生1・2・3ー</p> <p>11 回目 史料紹介（2）ー受講生4・5・6ー</p> <p>12 回目 史料紹介（3）ー受講生7・8・9ー</p> <p>13 回目 夏合宿訪問地に関する事前調査</p> <p>14 回目 夏合宿訪問地に関する事前調査の成果発表</p> <p>15 回目 春semesterのまとめ</p> <p>16 回目 夏季休暇中の成果報告（1）ー受講生1・2・3ー</p> <p>17 回目 夏季休暇中の成果報告（2）ー受講生4・5・6ー</p> <p>18 回目 夏季休暇中の成果報告（3）ー受講生7・8・9ー</p> <p>19 回目 卒業研究に関する史料紹介（4）ー受講生1・2・3ー *前回と違う史料を紹介する</p>

	20回目	卒業研究に関する史料紹介（5）－受講生4・5・6－ *前回と違う史料を紹介する
	21回目	卒業研究に関する史料紹介（6）－受講生7・8・9－ *前回と違う史料を紹介する
	22回目	夏合宿の成果をまとめる
	23回目	卒業研究の書き方
	24回目	文章指導（1）－受講生1・2・3・4・5－
	25回目	文章指導（2）－受講生6・7・8・9－
	26回目	1年生の報告を受けてのディスカッション
	27回目	卒業研究発表会に向けて
	28回目	卒業研究口頭発表（1）－受講生1・2・3－
	29回目	卒業研究口頭発表（2）－受講生4・5・6－
	30回目	卒業研究口頭発表（3）－受講生7・8・9－
到達目標	各自の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて、論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	授業時の発表や卒業研究執筆のための作業は授業外に行ってもらおう。各自の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を行う。文化財の調査も計画している。	
評価方法	発表（授業時、夏季休暇中）30%、発表に対する質問10%、卒業研究60%	
テキスト	なし。ただし、発表時に自らが受けた助言・質問や、研究をすすめるにあたって受けた指導を書き留めるノートを必ず準備してください。	
参考書	授業時に指示する	
備考	口頭報告について、配慮を要する学生は、事前に教員に相談してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講座は、日本近現代史で卒業研究を執筆する学生を対象とします。これまで学んだことを踏まえて各自でテーマを定め、調べ、考察したことを文章にまとめます。</p> <p>春semesterでは、先行研究の探し方・読み方・まとめ方、関連史料の収集・分析方法などについて講義し、テーマの設定や先行研究の整理、史料の収集を進め、これらをまとめ、報告することで、テーマと全体の構成を明確にして夏季休暇中に具体的に考察するための準備を整えます。</p> <p>秋semesterでは、夏季休暇中の成果を発表した後、論文の書き方について講義し、不足部分を調整しながら考察した内容を文章にまとめていきます。卒業研究提出後は、卒業研究発表会に向けた準備を行います。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。</p> <p>この授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 論文の書き方①—先行研究のまとめ方、史料の探し方—</p> <p>2回目 テーマと先行研究・史料状況に関する報告 (1) 受講生1・2</p> <p>3回目 テーマと先行研究・史料状況に関する報告 (2) 受講生3・4</p> <p>4回目 テーマと先行研究・史料状況に関する報告 (3) 受講生5・6</p> <p>5回目 テーマと先行研究・史料状況に関する報告 (4) 受講生7</p> <p>6回目 論文の書き方②—題目と章立ての作り方—</p> <p>7回目 全体構想と章別の構想についての報告 (1) 受講生1・2・3</p> <p>8回目 全体構想と章別の構想についての報告 (2) 受講生4・5</p> <p>9回目 全体構想と章別の構想についての報告 (3) 受講生6・7</p> <p>10回目 論文の書き方③—史料の読み方、分析方法—</p> <p>11回目 関連史料についての報告 (1) 受講生1・2</p> <p>12回目 関連史料についての報告 (2) 受講生3・4</p> <p>13回目 関連史料についての報告 (3) 受講生5・6</p> <p>14回目 関連史料についての報告 (4) 受講生7</p> <p>15回目 論文の書き方④—文章・体裁—</p> <p>16回目 ガイダンス、課題の説明</p> <p>17回目 1年生のテーマ案報告とディスカッション</p> <p>18回目 夏季休暇中の成果報告 (1) 受講生1・2・3</p> <p>19回目 夏季休暇中の成果報告 (2) 受講生4・5</p> <p>20回目 夏季休暇中の成果報告 (3) 受講生6・7</p>

	2 1 回目	1年生の論文要約報告とディスカッション (1)
	2 2 回目	1年生の論文要約報告とディスカッション (2)
	2 3 回目	1年生の論文要約報告とディスカッション (3)
	2 4 回目	研究報告 (1) 受講生1・2
	2 5 回目	研究報告 (2) 受講生3・4
	2 6 回目	研究報告 (3) 受講生5・6
	2 7 回目	研究報告 (4) 受講生7
	2 8 回目	卒業研究要旨報告 (1) 受講生1・2・3・4
	2 9 回目	卒業研究要旨報告 (2) 受講生5・6・7
	3 0 回目	卒業研究発表会の準備
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査をインターネットなどを活用して行うこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける報告の準備をすること。	
評価方法	授業時の報告・質問30%、卒業研究70%を総合的に判定します。 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。	
テキスト	適宜配布します。	
参考書	適宜紹介します。	
備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この授業では考古学の論文の書き方を学びます。先行研究を分析して課題を見出し、資料を収集・操作して一定の結論を得る過程を実践します。</p> <p>前期は自身のテーマ設定・課題を絞り込むことを目的に関連する論文を読んで発表してもらいます。後期は自身で資料を収集し、分析した成果を逐次報告してもらいます。</p> <p>専門分野の学びを基にして、卒業研究宇・ゼミ論を論理的に作成できる。学習成果の指標はA-②です。</p> <p>遠隔授業の場合、リアルタイム双方向型で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 卒業研究の進め方 ・提出までの具体的な実施計画についての解説</p> <p>2回目 卒業研究の目的について ・目的、問題の所在についての執筆</p> <p>3回目 研究テーマの学史研究（1） ・研究テーマの学史について調べ、年表を作成する</p> <p>4回目 研究テーマの学史研究（2） 研究テーマの学史についてまとめる</p> <p>5回目 研究テーマの学史研究（3） 研究テーマの学史についてまとめる</p> <p>6回目 研究の実践（1） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>7回目 研究の実践（2） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>8回目 研究の実践（3） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>9回目 研究の実践（4） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>10回目 研究の実践（5） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>11回目 研究の実践（6） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>12回目 研究の実践（7） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>13回目 研究の実践（8） ・文献の解題・要約の記述 ・図版作成（スキャニング・編集作業） ・一覧表作成</p> <p>14回目 研究の中間発表（1） ・各自の研究の進捗状態についての発表 ・夏期休暇中の研究活動についての発表</p> <p>15回目 研究の中間発表（2） ・各自の研究の進捗状態についての発表 ・夏期休暇中の研究活動についての発表</p> <p>16回目 夏期休暇中の研究成果の確認（1） ・夏期休暇中に行った研究活動（実資料見学・遺跡見学等）についての発表 ・課題と問題点の整理（研究計画の修正など）についての発表</p>

	17回目	夏期休暇中の研究成果の確認（2） ・夏期休暇中に行った研究活動（実資料見学・遺跡見学等）についての発表 ・課題と問題点の整理（研究計画の修正など）についての発表
	18回目	研究の実践（9） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	19回目	研究の実践（10） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	20回目	研究の実践（11） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	21回目	研究の実践（12） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	22回目	研究の実践（13） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	23回目	研究の実践（14） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	24回目	研究の実践（15） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	25回目	研究の実践（16） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	26回目	研究の実践（17） ・各自の研究についての原稿執筆 ・図版作成 ・表作成
	27回目	研究成果の要約（1）
	28回目	研究成果の要約（2）
	29回目	研究成果の公表（1）
	30回目	研究成果の公表（2）
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。 その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。またプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと、また史跡や遺跡などの現地調査を行う。さらに調査成果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。	
評価方法	前期・後期ともに平常点（遠隔の場合も同様）	
テキスト	授業時配布の資料を使用する。	
参考書	授業時に紹介する。	
備考		

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 333001

英文科目名称： Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>春semesterでは、卒業論文を作成するための準備を行う。 卒業論文作成に向けて、論文〈レポート〉の書き方・テーマ決定・先行研究の調査と輪読などの演習を行う。 秋semesterでは、卒業論文を作成する。 卒業論文作成に向けて、個別報告・文章指導を行う。 なお、学修成果の指標はA-1・2です。</p> <p>遠隔授業になったときは、課題学修で実施します。 卒論指導を毎回の論文添削と卒業論文内容で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 論文とは何か</p> <p>2回目 論文の書き方①－問題提起</p> <p>3回目 論文の書き方②－章別編成</p> <p>4回目 論文の書き方③－結論</p> <p>5回目 研究テーマの設定</p> <p>6回目 先行研究を調べる</p> <p>7回目 史資料とは何か－1次資料と2次資料</p> <p>8回目 報告レジュメの作成方法</p> <p>9回目 研究テーマにそった資料・文献の選択</p> <p>10回目 文献（著書または雑誌論文）内容の報告</p> <p>11回目 文献（著書または雑誌論文）のなかの資料探索</p> <p>12回目 論文構成（問題提起と結論）を考える</p> <p>13回目 論文構成（組み立て・章別編成など）を考える</p> <p>14回目 卒業研究のテーマ・内容の発表</p> <p>15回目 まとめ－卒業論文の枠組みができる</p> <p>16回目 テーマおよび論文構成の再検討①－問題提起</p> <p>17回目 テーマおよび論文構成の再検討②－章別編成</p> <p>18回目 文献（雑誌論文）内容のメモをとる</p> <p>19回目 メモ用紙・コピー用紙の整理法</p> <p>20回目 問題提起を文章にする</p> <p>21回目 章別編成作成のための資料・メモの選別</p>

	2 2 回目	個別報告－問題提起・章別編成・結論の要約
	2 3 回目	卒業論文作成と文章指導①
	2 4 回目	卒業論文作成と文章指導②
	2 5 回目	卒業論文作成と文章指導③
	2 6 回目	卒業論文作成と文章指導④－問題提起と結論の執筆
	2 7 回目	卒業論文作成と文章指導⑤－論文全体の構成と内容のチェック
	2 8 回目	卒業研究報告会の準備①－口頭発表
	2 9 回目	卒業研究報告会の準備②－ポスター発表
	3 0 回目	卒業論文の内容チェックとまとめ
到達目標	自分の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文を執筆できる。また卒業研究のプレゼンテーションをすることができる。	
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する調査を短大図書館や国会図書館・地域の図書館などを利用して行うこと。参考文献を読むこと。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。	
評価方法	春semesterでは、平常点（課題に対する取り組み、報告など）で評価する。 秋semesterでは、平常点（課題に対する取り組み、報告など）30%、卒業研究論文の教務課提出締め切り日前の提出20%、卒業論文の内容50%で評価する。 遠隔授業の場合、課題レポート40%、卒業論文60%で評価する。	
テキスト	川北稔『世界システム論講義－ヨーロッパと近代世界－』（ちくま学芸文庫、2016年）	
参考書	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書、2010年） 福井憲彦『近代ヨーロッパ史－世界を変えた19世紀－』（ちくま学芸文庫、2010年） A. W. クロスビー『ヨーロッパの帝国主義－生態学的視点から歴史を見る－』（ちくま学芸文庫、2017年） 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也（慶應義塾大学出版会、2002年） 『よくわかる卒論の書き方 第2版』白井敏明・高橋一郎（ミネルヴァ書房、2013年）	
備考		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位	フィールド必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>卒業論文作成のための基礎的作業（テーマの設定・先行研究の把握・論文の書き方）を行う。 卒業論文作成に向けて、論文の書き方(章立て・引用文献・註の付け方)の指導を行う。 ①研究テーマを設定し、それに関連する先行研究と史料蒐集を行う。特に、先行研究・史料の読み方・文献引用方法などを指導する。さらに集めた文献・史料を、分析し正しい情報を確定し、それらを系統的・論理的に考察する力を養う。 ②論文作成に向けて具体的に論文の構想・先行研究・史料並びに文献引用の仕方・註の付け方・レジュメ作成・プレゼンテーションの方法などの指導を行う。</p> <p>本講座は対面授業を基本とする。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ②と③である。</p>
授業計画	<p>1回目 研究テーマの設定</p> <p>2回目 研究関連論文・資料などの調査</p> <p>3回目 先行研究の史料蒐集</p> <p>4回目 先行研究の分析と課題</p> <p>5回目 論文の読み方</p> <p>6回目 史料の読み方</p> <p>7回目 引用文献を原典にあたる（図書館で実習）</p> <p>8回目 先行学説のまとめ</p> <p>9回目 先行研究の分析と課題</p> <p>10回目 研究テーマの確定（副題を含む）</p> <p>11回目 学術的文章の書き方</p> <p>12回目 論文作成と文章指導</p> <p>13回目 史料・参考文献の引用法</p> <p>14回目 註記の書き方</p> <p>15回目 章立ての検討</p> <p>16回目 「初めに」・「終わりに」の書き方</p> <p>17回目 卒論の中間報告</p> <p>18回目 グループ討議</p> <p>19回目 中間報告の問題点と指導</p> <p>20回目 章ごとの内容確認</p>

	<p>2 1 回目 「初めに」・「終わりに」の内容確認</p> <p>2 2 回目 各論文の作表・図表の確認</p> <p>2 3 回目 成果報告：論文作成指導</p> <p>2 4 回目 成果報告作成の問題点と指導</p> <p>2 5 回目 成果報告書作成</p> <p>2 6 回目 成果報告発表</p> <p>2 7 回目 成果報告発表の問題点と指導</p> <p>2 8 回目 レジюме作成法</p> <p>2 9 回目 プレゼンテーションの方法</p> <p>3 0 回目 卒論の合評会</p>
到達目標	各自の研究テーマに沿った先行研究や史・資料を収集して整理・分析することができる。その上で自ら章立てを考えて論文が執筆できる。また、その論文に基づいたプレゼンテーションをすることができる。
授業時間外の学習	各自の研究テーマに関する調査を図書館・資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を行う。さらに調査研究を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	発表 (50%) 課題レポート (50%) 遠隔授業に変更した場合はレポート (50%) 平常点 (50%)
テキスト	授業時指示
参考書	授業時指示
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
日本古代史・東洋古代史			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、日本古代史・東洋古代史で卒業研究をおこなおうとする学生を対象としたものである。2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習をおこなう。前半は、2年生の卒業研究経過報告を聞き、ディスカッションに参加することで研究方法を具体的に身につける。後半は、自分が興味をもった研究テーマについてレポートを作成し、報告をおこなう。なお、学習成果の指標はA-②③である。</p> <p>本授業は、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、②同時・双方向型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 第1次テーマの個別相談 1年生秋semesterの卒業研究のテーマを第1次テーマとする。2年生の春semesterには、第2次テーマを決定する。</p> <p>2回目 学術論文とは何か、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>3回目 古代史の基礎史料、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>4回目 先行研究の検索方法、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>5回目 史料の読み方、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>6回目 史料の検索方法、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>7回目 考古資料の利用法、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>8回目 出土文字資料の利用法、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>9回目 論文の章立てと文章、2年生のディスカッションへの参加</p> <p>10回目 研究テーマ報告①（受講生Aグループ）</p> <p>11回目 研究テーマ報告②（受講生Bグループ）</p> <p>12回目 研究テーマ報告③（受講生Cグループ）</p> <p>13回目 2年生の卒業研究要旨報告のディスカッション①</p> <p>14回目 2年生の卒業研究要旨報告のディスカッション②</p> <p>15回目 2年生の卒業研究要旨報告のディスカッション③</p>
到達目標	<p>自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料、先行研究論文を収集して整理・分析することができる。</p> <p>学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文を執筆し発表することができる。</p> <p>この授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすこと」を論ずることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。</p>
評価方法	<p>授業時の報告・ディスカッションへの参加（30%） 学期末レポート（70%）</p>
テキスト	<p>指定しない。受講生の報告にあたっては各自がレジュメを用意する。</p>
参考書	<p>『テーマで学ぶ日本古代史』政治・外交編／社会・史料編（吉川弘文館）</p>
備考	<p>報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
日本中世史			
添付ファイル			

授業の概要	2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行う。具体的には2年生を交えた卒業論文準備報告会に出席し、報告内容を理解し討議に参加する。さらに課題図書のとまとめとレポートの口頭報告をしてもらう。 学修成果の指標はA-②③である。 遠隔授業の場合は、双方向型のオンライン授業と課題学修の組み合わせで行う。
授業計画	<p>1回目 第1次テーマの個別相談 1年生秋semesterの卒業研究のテーマを第1次テーマとします。2年生の春semesterには、第2次テーマを決定します。</p> <p>2回目 第1次テーマの決定と進め方について</p> <p>3回目 第1次テーマの先行研究の調査方法の指導</p> <p>4回目 第1次テーマに関する史・資料の収集</p> <p>5回目 東京大学史料編纂所データベースの利用法、及び2年生の第1回発表（受講生1・2番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>6回目 論文の調べ方、特にインターネットを利用して、及び2年生の第1回発表（受講生3・4番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>7回目 史料の検索方法について、及び2年生の第1回発表（受講生5番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>8回目 史料読解の方法について、及び2年生の第2回発表（受講生1・2番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>9回目 史料解釈と論理展開について、及び2年生の第2回発表（受講生3・4番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>10回目 先行研究の検索方法とその注意点、及び2年生の第2回発表（受講生5番・6番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>11回目 卒業論文の章立ての原則について、及び2年生の第2回発表（受講生8・9番）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>12回目 現地調査とその方法、及び次2年生の第2回発表（受講生10）を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>13回目 古地図の利用と入手方法、及び第1回、個別（発表者1・2・3）発表と学生相互のディスカッション</p> <p>14回目 金石文の種類と利用方法、及び第2回、個別（発表者4・5・6）発表と学生相互のディスカッション</p> <p>15回目 総括・これまでの講義内容の理解確認、及び第3回、個別（発表者7・8・9）発表と学生相互のディスカッション</p>
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につけられる。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につけ、この授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ようになることを目標とする。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する先行研究、つまり論文・著書を探し入手して読んでおくこと。ただし余りテーマを絞りすぎると研究の広がりがなくなるので、少しひろく興味のあるテーマに目を向けてほしい。
評価方法	授業時の発表の評価（30%）、単位レポートの評価（70%）を合わせて総合的に判定する。

	遠隔授業の場合でも同様。
テキスト	必要に応じて指示する。
参考書	適宜指示する。
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233017

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
日本近世史	環境史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講座は、日本近世史の卒業研究の執筆指導を行います。2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。</p> <p>各学生の報告をもとに、討論や指導を行い、近世史の知識も深めてもらいます。報告は個人報告で、卒業研究・卒業研究入門受講生が順番に行いますが、報告者以外は1つの報告に対し、最低1つの質問または意見を述べてもらいます。なお、その際の司会は受講生に行ってもらいます。研究テーマは個々人で異なりますが、近世という時代の枠組みは同じです。同時代のことなので、知らないことはノートにメモし、近世に関する知識を深め、自らの研究に役立ててください。</p> <p>学習成果の指標はA-①・②です。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、同時・双方向型学修となります。</p>
授業計画	<p>1回目 第1次テーマに関して（1）一受講生1・2・3ー 2年生の卒業研究のテーマ、報告内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。</p> <p>2回目 第1次テーマに関して（2）一受講生4・5・6ー 2年生の卒業研究のテーマ、内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。</p> <p>3回目 第1次テーマに関して（3）一受講生7・8・9ー 2年生の卒業研究のテーマ、内容を元にどのような卒業研究のテーマにするか、ディスカッションを行う。</p> <p>4回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（1） 2年生の受講生1・2・3が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する</p> <p>5回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（2） 2年生の受講生4・5・6が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する</p> <p>6回目 2年生の報告内容に基づき、近世史料の解釈に関する指導（3） 2年生の受講生7・8・9が紹介した史料をもとに、史料解読方法を指導する</p> <p>7回目 夏合宿の成果をまとめる</p> <p>8回目 卒業研究の書き方 日本史の論文の体裁などを、講義する</p> <p>9回目 先行研究を収集する</p> <p>10回目 先行研究をまとめる</p> <p>11回目 先行研究を口頭発表する（1）一受講生1・2・3・4・5ー</p> <p>12回目 先行研究を口頭発表する（2）一受講生6・7・8・8ー</p> <p>13回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（1） 2年生の受講生1・2・3が報告した内容をもとに討論をおこなう</p> <p>14回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（2） 2年生の受講生4・5・6が報告した内容をもとに討論をおこなう</p> <p>15回目 2年生の発表を聞き、ディスカッションを行う（3） 2年生の受講生7・8・9が報告した内容をもとに討論をおこなう</p>
到達目標	<p>自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を習得する。以上から、卒業研究で行いたいテーマについて、レポートとしてまとめることができる。</p> <p>また、他者の発表を正確に聞き取り、それをもとに討論を行い、生産的な議論をし、近世史に対する理解を深めることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>卒業研究のテーマや発表などの準備について、授業時間外に進め、不明な点は指導教員に相談に来て下さい。</p> <p>授業時には、各自のテーマに関係のある、山川出版社の日本史リブレット、吉川弘文館の人物叢書の内容を発表してもらいます。</p>

	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。また、他の受講生の研究テーマに関する学習や、史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行い、近世史に関する知識を深めること。
評価方法	授業時の発表50%、単位レポート50%を総合的に判定します。
テキスト	なし。ただし、発表時に自らが受けた助言・質問や、研究をすすめるにあたって受けた指導を書き留めるノートを必ず準備してください。
参考書	山川出版社の日本史リブレットシリーズ 吉川弘文館の人物叢書シリーズ その他は、適宜指示します。
備考	受講生の人数により授業計画を変更することがあります。 口頭報告について、配慮を要する学生は、事前に教員に相談してください。

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233019

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。本講座は、日本近代史の卒業論文の執筆指導を行います。なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。</p> <p>授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー第1次テーマの個別相談 1年生秋semester時点での卒業研究のテーマを第1次テーマとします。2年生の春semesterには、第2次（最終）テーマを決定します。</p> <p>2回目 テーマ案報告</p> <p>3回目 2年生の夏季成果報告を聞く（1）</p> <p>4回目 2年生の夏季成果報告を聞く（2）</p> <p>5回目 2年生の夏季成果報告を聞く（3）</p> <p>6回目 論文の要約報告（1） 受講生1・2</p> <p>7回目 論文の要約報告（2） 受講生3・4</p> <p>8回目 論文の要約報告（3） 受講生5・6</p> <p>9回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（1）</p> <p>10回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（2）</p> <p>11回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（3）</p> <p>12回目 2年生の研究報告を聞き、ディスカッションを行う（4）</p> <p>13回目 2年生の卒業研究要旨報告を聞き、批評する（1）</p> <p>14回目 2年生の卒業研究要旨報告を聞き、批評する（2）</p> <p>15回目 研究テーマの確定に向けて</p>
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎的能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語にする「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ことを目標とする。
授業時間外の学習	自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における報告やレポートの準備をすること。
評価方法	授業時の発表30%、単位レポート70%を総合的に判定します。 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	適宜配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。本講座は、考古学分野（旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代および古代・中世・近世・近代の考古学的研究）の卒業論文の執筆にむけての指導を行います。具体的には2年生の発表を聞いたり、考古学の基礎知識としての遺跡紹介文を読みながら、考古学資料としてのポイントを説明します。</p> <p>専門分野の学びを基にして、卒業研究宇・ゼミ論を論理的に作成できる。学習成果の指標はA-②です。</p> <p>遠隔授業の場合、リアルタイム双方向型で行います。</p>
授業計画	<p>1回目 考古学の卒業研究では何を行うか？ 考古学の論文の書き方 卒業研究を書くための各種ソフトの紹介</p> <p>2回目 卒業研究で使う地図ソフト 分布図を作成するための地図ソフトの準備と使用方法の解説</p> <p>3回目 卒業研究で使う図版作成ソフト（1） グラフィックソフトの種類と使用準備</p> <p>4回目 卒業研究で使う図版作成ソフト（2） グラフィックソフトの操作方法の解説と実習</p> <p>5回目 卒業研究で使用する文献の収集方法（1） ・参考館に収蔵されている報告書・図録等の閲覧</p> <p>6回目 卒業研究で使用する文献の収集方法（2） ・本館に収蔵されている報告書・雑誌等 ・図書館に収蔵されている雑誌・概説書・専門書 ・研究室に収蔵されている雑誌・概説書・専門書</p> <p>7回目 卒業研究で使用する文献の収集方法（3） ・大学外の文献の収集方法（埋文センター、国会図書館等）</p> <p>8回目 卒業研究のテーマ選び（1） ・時期ごとの編年資料の紹介 ・自分の研究したい時期・分野の検討</p> <p>9回目 卒業研究のテーマ選び（2） ・栃木県の概説書と研究雑誌の閲覧</p> <p>10回目 卒業研究のテーマ選び（3） ・各自の研究テーマの希望を発表（第一次希望）</p> <p>11回目 卒業研究の計画作成（1） ・研究計画書の作成</p> <p>12回目 卒業研究の計画作成（2） ・研究計画書の作成</p> <p>13回目 卒業研究の文献収集作業（1） ・各自の研究で使用する文献の収集作業</p> <p>14回目 卒業研究の文献収集作業（2） ・各自の研究で使用する文献の収集作業</p> <p>15回目 研究テーマの発表 ・各自の研究テーマを発表する</p>
到達目標	<p>自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ことを目標とする。</p>
授業時間外の学習	<p>自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。</p>
評価方法	<p>質疑や発表の内容を総合的に判定します（遠隔の場合も同様）。</p>
テキスト	<p>報告をするときには、レジュメを各自用意すること。</p>
参考書	<p>適宜指示します。</p>
備考	<p>受講生の人数により授業計画を変更することがあります。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	フィールド選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
西洋史			
添付ファイル			

授業の概要	2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行います。このゼミでは、西洋史についての卒業論文の執筆指導を行います。なお、学修成果の指標はA-1・2です。 遠隔授業の場合は、課題レポートと、卒論予定テーマおよび問題提起の添削で実施する。
授業計画	<p>1回目 第1次テーマの個別相談 1年生秋semesterの卒業研究のテーマを第1次テーマとします。2年生の春semesterには、「卒業研究」の題目を決定する。</p> <p>2回目 史・資料とは何か 資料の読み方およびノート作成の方法。</p> <p>3回目 テーマの先行研究の調査方法の指導</p> <p>4回目 テーマに関する史・資料の収集方法</p> <p>5回目 2年生の第1回中間発表 2年生の中間発表を聞き、「卒業研究」とは何か、またその目的を自覚する。</p> <p>6回目 2年生の第2回中間発表 2年生の中間発表を聞き、自分の「卒業研究の目的を自覚する。 「卒業研究」のテーマをある程度決定し、それに沿った資料（著書）を読み始める手助けとする。</p> <p>7回目 資料（著書）を決める 自分のテーマに沿って資料（著書）を集めて、そのうちの一冊を読み始める。</p> <p>8回目 第1回読書発表会 読んだ資料（著書）についてレジメを作成し、報告する。 ゼミ生それぞれが何をテーマとし、どのような資料を使っているかを理解する。</p> <p>9回目 第2回読書発表会 読んだ資料（著書）についてレジメを作成し、報告する。 ゼミ生の報告を聞いて、その内容について質問をしあい、いろいろと意見を出し合う。</p> <p>10回目 第3回読書発表会 読んだ資料（著書）についてレジメを作成し、報告する。 プレゼンテーションをマスターすることを目的とする。</p> <p>11回目 第4回読書研究発表会 「卒業研究」につながる本を読み、その内容についてレジメを作成して、報告する。</p> <p>12回目 第5回読書研究発表会 「卒業研究」につながる本を読み、その内容についてレジメを作成して、報告する。 自分がテーマとする資料（著作）を一冊きちんと読破し、レジメを作成して報告したことになる。</p> <p>13回目 2年生の第1回卒業研究発表 卒業研究発表会で報告する内容を2年生に発表してもらおう。</p> <p>14回目 2年生の第2回卒業研究発表 卒業研究発表会で報告する内容を2年生に発表してもらおう。 来年度の「卒業研究」執筆の目標を作成する。</p> <p>15回目 まとめー卒業研究執筆に向けてー 「卒業研究」のテーマを決め、今まで読んで報告してきたことをまとめてレポートとして提出する。</p>
到達目標	自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて「培った教養を社会生活において活かすことができる」ことを目標とする。
授業時間外の学習	研究テーマを設定し、テーマについての調査を短大図書館や国会図書館・地域の図書館などを利用して行い、参考文献を読み、メモを取ること。さらに調査結果を整理して、ゼミにおける発表の準備をすること。
評価方法	平常点。授業時の発表50%、単位レポート50%を総合的に判定します。 遠隔授業の場合、課題レポート（卒論予定テーマおよび問題提起などを含む）100%で評価する。
テキスト	川北稔『世界システム論講義－ヨーロッパと近代世界－』（ちくま学芸文庫、2016年）
参考書	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書、2010年） 福井憲彦『近代ヨーロッパ史－世界を変えた19世紀－』（ちくま学芸文庫、2010年）

	A. W. クロスビー『ヨーロッパの帝国主義－生態学的視点から歴史を見る－』（ちくま学芸文庫、2017年）
備考	

講義科目名称： 卒業研究入門

授業コード： 233022

英文科目名称： Introduction to Graduation Thesis

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	自フィールド必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>2年生で作成する卒業研究の準備として、研究テーマの設定、そのテーマに関する史・資料の収集と分析方法などの基礎的な学習を行う。本講座は、宗教と古代祭祀の卒業論文の執筆指導をする。</p> <p>本講座は対面授業を基本とする。 遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ②と③である。</p>
授業計画	<p>1回目 第1次テーマの個別相談</p> <p>2回目 第1次テーマの決定と進め方</p> <p>3回目 第1次テーマの先行研究の調査方法の指導</p> <p>4回目 第1次テーマに関する史・資料の収集</p> <p>5回目 2年生の第1回発表(受講生1・2番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>6回目 2年生の第1回発表(受講生3・4番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>7回目 2年生の第1回発表(受講生5番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>8回目 2年生の第2回発表(受講生1・2番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>9回目 2年生の第2回発表(受講生3・4番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>10回目 2年生の第2回発表(受講生5番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>11回目 2年生の第3回発表(受講生1・2番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>12回目 次2年生の第3回発表(受講生3・4番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>13回目 2年生の発表第3回(受講生5番)を聞き、ディスカッションを行う。</p> <p>14回目 第1回、個別発表と学生相互のディスカッション</p> <p>15回目 第2回、個別発表と学生相互のディスカッション</p>
到達目標	<p>自分の研究テーマを「主体的」に選び、先行研究や史・資料を収集して整理・分析する「基礎力能力」を身につける。さらに学習したことを適切で正しい日本語による「自己表現能力」、すなわち論文の執筆と発表力を身につける。合わせてこの授業を通じて培った教養を「更なる専門的研究に活かすことができる」ことを目標とする。</p>
授業時間外の学習	<p>自分の研究テーマに関する基礎的な調査を図書館や資料館・博物館を利用して行うこと。また史跡や遺跡などの現地調査を積極的に行うこと。さらに調査結果を整理して、授業における発表の準備をすること。</p>
評価方法	<p>授業時の発表(50%) レポート(50%) 遠隔授業に変更した場合はレポート(50%) 平常点(50%)</p>
テキスト	授業時に指示
参考書	授業時に指示
備考	

講義科目名称： 史学入門 I

授業コード： 154003

英文科目名称： Introduction to History 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲教授 寺崎宣昭教授 坂本達彦教授 内山京子教授 大工原豊准教授 中大輔准教授 渡辺瑞穂子准教授			
添付ファイル			

授業の概要	歴史学の学問としての特徴を知り、歴史学を学ぶことの意義を理解し、楽しさに触れる。前半は親しみやすい歴史文化素材を通じて歴史学への導入をはかり、第9回～15回の7回は専門教員による時代・分野ごとの講義。第6・7回には受講生による発表を設ける。 なお、学習成果の指標は A-①②③である。 全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。 本授業は対面を基本とするが、「Google Classroom」によるオンライン授業の可能性もある。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 今後の授業方針・評価について</p> <p>2回目 日本史・世界史の時代区分・地域区分</p> <p>3回目 身近な歴史に親しもう（マンガ・アニメ・ゲーム・大河ドラマ……） マンガ・アニメ・ゲーム・大河ドラマなどに取り上げられる歴史を用いて、歴史の楽しさを知る</p> <p>4回目 図書館で学ぼう 歴史学は図書に存在します。まず、図書館を使いこなせるようになりましょう。図書館の案内をします。ただし、図書館側の都合で日程が変更される可能性があります。</p> <p>5回目 図書館を利用して調べてみよう 実際に自分の興味・関心に合わせて、図書を探し利用してみましよう。</p> <p>6回目 歴史学を楽しむことの共有 報告会1 図書館を利用して調べた面白いことをフィールドの仲間と共有してみましよう。</p> <p>7回目 歴史学を楽しむことの共有 報告会2 図書館を利用して調べた面白いことをフィールドの仲間と共有してみましよう。</p> <p>8回目 進化・深化してゆく歴史研究</p> <p>9回目 日本古代史（3～11世紀）の概要と史料・研究方法（担当 中大輔）</p> <p>10回目 日本中世（院政期～戦国期）の概説と中世資料・研究方法の解説（担当 菱沼一憲）</p> <p>11回目 日本近世史の研究史と研究例（担当 坂本達彦）</p> <p>12回目 日本近現代史の特色と研究例（担当 内山京子）</p> <p>13回目 物質（モノ）という考古資料の特性や、考古学から見た歴史像の一端を解説する（大工原豊）</p> <p>14回目 封建制から資本主義への移行論争と資本主義の「精神」の解説（担当 寺崎宣昭）</p> <p>15回目 宗教史の概説と史料と研究方法の解説（担当 渡辺瑞穂子）</p>
到達目標	<p>1. 歴史を知り学ぶ楽しさを知り、歴史を探究することへの十分な意欲を持つ。</p> <p>2. 各時代・分野の歴史学についての知識を得て、専門分野を選択する準備ができる。</p>
授業時間外の学習	高校時の歴史教科書を振り替りながら予習を行い、授業後にはその内容をノートに、まとめる。また図書館を利用して歴史学の知識を得る
評価方法	授業時提出のレポート（70%）と参加意欲（30%）により評価する。
テキスト	第9回目以降は、各担当教員の指示に従って下さい。
参考書	
備考	オムニバス 展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>歴史学の学問としての特徴を知り、歴史学を学ぶことの意義を理解し、楽しさに触れる。ことに民俗学・文学・自然科学など他学との交わりのなかで、歴史学の実践において幅広い興味関心を抱けるような授業とする。特別講師を招集する関係上、授業計画に変更があることに注意すること。受講にあたっては受講ノートを作成してもらい、それにより成績評価を行います。</p> <p>なお、学習成果の指標は A-①②③である。</p> <p>全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。</p> <p>なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 今後の授業方針・評価について</p> <p>2回目 無文字の時代 日本の古墳はなぜ大きいのか</p> <p>3回目 古代から中世へ</p> <p>4回目 通してみる中世史 武家政権の特質</p> <p>5回目 中世の信仰 起請文について</p> <p>6回目 近世武士 武士道の功罪</p> <p>7回目 高度経済成長とその歪み</p> <p>8回目 日本の食文化 日本食の形成過程</p> <p>9回目 高句麗の歴史</p> <p>10回目 新羅の歴史</p> <p>11回目 メソアメリカ文明 オルメカ遺跡</p> <p>12回目 メソアメリカ文明 テオティワカン遺跡</p> <p>13回目 メソアメリカ文明 マヤ遺跡</p> <p>14回目 エジプト文明 ピラミッドはなぜ作られたのか</p> <p>15回目 総括と討論</p>
到達目標	<p>1. 歴史を知り学ぶ楽しさを知り、歴史を探究することへの十分な意欲を持つ。</p> <p>2. 各時代・分野の歴史学についての知識を得て、専門分野を選択する準備ができる。</p>
授業時間外の学習	授業で使用了資料を読み返しノートにまとめ、理解が不十分な箇所に関しては各自図書館などを利用して復習をすること。各授業の内容に沿った文献の講読をし予習を行うこと。
評価方法	授業への参加意欲 (30%)、授業時提出レポート (70%) により評価する。
テキスト	必要に応じ、その都度プリントを配布する。
参考書	
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

講義科目名称： 日本古代史概説

授業コード： 224002

英文科目名称： Introduction to Ancient Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この授業では、古代（3～11世紀）の日本社会について、基礎的な知識を身につけ、歴史的な理解を深めることを目標とする。通史的に時代を追いながら、王権・国家と地域社会の関係を軸として講義形式で解説していく。その際、史料から歴史事実を読み取ること、考古資料や歴史地理学的手法を参照することを心がける。なお、学習成果の指標は A-①③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 日本古代史を学ぶために</p> <p>2回目 邪馬台国と倭王権の成立</p> <p>3回目 4世紀の倭と東アジア</p> <p>4回目 5・6世紀の倭王権―世襲王権の成立</p> <p>5回目 6・7世紀の倭王権①―世襲王権と氏姓制度</p> <p>6回目 6・7世紀の倭王権②―伴造制と部民制</p> <p>7回目 大化改新</p> <p>8回目 律令国家の成立①―国評里制</p> <p>9回目 律令国家の成立②―律令と都城</p> <p>10回目 律令国家の地方支配①―国郡制の概要</p> <p>11回目 律令国家の地方支配②―国郡行政の実像</p> <p>12回目 律令国家の地方支配③―古代の交通</p> <p>13回目 律令国家の変質―地方支配の転換</p> <p>14回目 受領の時代</p> <p>15回目 古代から中世へ</p>
到達目標	<p>日本の古代社会の特色を知ること、日本文化への理解を深めることができる。</p> <p>古代史研究の実例を通じて、卒業研究に必要な、史料から歴史事実を読み解く方法を身につけることができる。</p> <p>古代社会像を知ることにより、それとの比較から現代社会の特質を理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業プリントを読み返して理解を確認すること。</p> <p>紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。</p>
評価方法	<p>授業ごとのコメントペーパー（30%）</p> <p>学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする</p>
テキスト	<p>指定しない。毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『日本の時代史』シリーズ（吉川弘文館）</p> <p>『日本の歴史』シリーズ（講談社学術文庫）</p> <p>『古代史講義』シリーズ（ちくま新書）</p> <p>その他、授業時に紹介する文献に積極的に目を通すように。</p>
備考	<p>対面での授業を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前</p>

に告知をする。

講義科目名称： 日本中世史概説

授業コード： 251002

英文科目名称： Introduction to Medieval Japanese History

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本中世史の基本的な理解力を身につけ、その上で歴史的問題意識と知識を習得することを目指す。古代末から近世初頭までを政治史を中心に通史的に説明する。中世史への基礎的な知識の蓄積と、歴史的課題意識の深化を促す。</p> <p>学修成果の指標はA-②③である。</p> <p>全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型で行う。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明</p> <p>2回目 中世の黎明と奥州藤原氏政権</p> <p>3回目 平家政権、栄華への道</p> <p>4回目 鎌倉幕府成立の議論</p> <p>5回目 中世の城と館と本拠</p> <p>6回目 御成敗式目から読む鎌倉幕府とその時代</p> <p>7回目 日野富子で読み解く室町時代</p> <p>8回目 中世の在地社会</p> <p>9回目 戦国大名織田氏と桶狭間の合戦</p> <p>10回目 関東奥两国惣無事令と伊達政宗の小田原参陣</p> <p>11回目 下野国人皆川氏の戦国サバイバル</p> <p>12回目 戦国大名北条氏の領国と統治</p> <p>13回目 豊臣秀吉政権と太閤検地</p> <p>14回目 関ヶ原の合戦における上杉景勝の動向</p> <p>15回目 総括（到達点と課題の確認）</p>
到達目標	<p>日本社会でよりよく生きるために必要な日本中世史に関する知識を得ることができる。また卒業研究作成に必要な日本中世史の基礎的な知識を持ち、先行研究とすべき論文を探し出し、読解できる能力、及び史料批判を踏まえた操作へ取り組む姿勢を身に付けられる。</p>
授業時間外の学習	<p>日本中世史に関する書籍の読解。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。</p>
評価方法	<p>適宜の小テスト（100%）配布プリント・ノート披見可で、論述形式でのテストを行う</p> <p>遠隔授業となった場合はレポート（100%）とする</p>
テキスト	<p>授業時に配付する</p>
参考書	<p>適宜、授業時に指示する</p>
備考	<p>展示会の見学など野外学修を行うことがある。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
政治史	経済史		
添付ファイル			

授業の概要	<p>江戸時代は200年以上戦争が起こらなかった、日本史上最も平和な時代である。その間、人口の増加や経済も発展し、また、様々な文化も生まれた。江戸幕府の成立から、明治維新までの通史を講義する。本講義を通して、江戸時代の政治・経済・社会に関して理解を深めてもらう。毎回、授業の最後には、授業の内容などをまとめたコメントペーパーを提出してもらいます。</p> <p>2回ほどオンデマンド型の授業を予定しています。何回目をオンデマンド型にするかは受講生の状況を見て判断します（1年生が多い場合は14・15回目、2年生が多い場合は12月上旬の授業をオンデマンドにしようと考えています）。</p> <p>学習成果の指標はA-①です。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 江戸幕府の成立と豊臣氏の滅亡①ー徳川家康の征夷大將軍就任ー</p> <p>3回目 江戸幕府の成立と豊臣氏の滅亡②ー元和偃武ー</p> <p>4回目 將軍親政から老中合議制へ①ー3代將軍家光の政治ー</p> <p>5回目 將軍親政から老中合議制へ②ー近世初期の経済・対外関係ー</p> <p>6回目 幕政の転換点①ー5代將軍綱吉の政治ー</p> <p>7回目 幕政の転換点②ー正徳の治ー</p> <p>8回目 享保の改革</p> <p>9回目 18世紀後半の政治と社会①ー田沼意次の政治と天明の飢饉ー</p> <p>10回目 18世紀後半の政治と社会②ー寛政の改革ー</p> <p>11回目 大御所時代と天保の改革①ー大御所時代ー</p> <p>12回目 大御所時代と天保の改革②ー天保の飢饉と改革ー</p> <p>13回目 開国と明治維新①ーペリー来航ー</p> <p>14回目 開国と明治維新②ー幕末の政局ー</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>授業内容を理解し、簡潔に説明することができる。</p> <p>日本近世史の概説を理解し、試験で問われた事柄に関して、論理的な日本語の文章で解答できる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業で理解できなかった点は、教員に質問に来ること。</p> <p>より深く知りたい事柄については、配布資料の参考文献であげている書籍を読んで補うこと。</p>
評価方法	<p>授業態度（30%）、学期末試験（70%）。授業態度は「授業の概要」で述べたコメントペーパーの内容を、主な判断材料とします。</p> <p>コメントペーパーの内容は、授業内容の要約に加え、（1）授業により新たな知見を得た場合、それがあなたにとってどのような意味があるのか？、（2）新たな知見を得て考えが変わった場合、具体的にどのような考えが、どのような考えに変わったのかまで書いてください。また、新たな知見がなかった場合は、該当回の授業内容をどこで学んだのかを書いてください。</p> <p>遠隔授業となった場合、評価方法が変更になることもあります。</p>

テキスト	プリントを配布する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	受講生の近世史に対する理解度や、受講生数により、授業の計画や評価方法を変更することがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この講義では、日本近代史の基礎的な知識を身に付け、通史的に理解する力を養うことを目指します。具体的には、明治維新から敗戦までの約百年の流れについて、三代の天皇の歩みを交えつつ、政治史を中心に概説します。約百年という短期間の間に何が変わり、何が変わらなかったのか、また変化にはどのような意味があったのか、考えていきましょう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①とA-②です。</p> <p>授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー日本の近代とは、日本の近代と天皇とはー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>2回目 開国から倒幕へ</p> <p>3回目 明治国家の建設</p> <p>4回目 明治政府の政策</p> <p>5回目 外征・反乱から自由民権運動へ</p> <p>6回目 立憲君主制の導入準備①ー明治14年政変・憲法調査ー</p> <p>7回目 立憲君主制の導入準備②ー華族・内閣・天皇ー</p> <p>8回目 明治憲法と天皇</p> <p>9回目 初期議会の展開</p> <p>10回目 日清戦争と議会政治の定着</p> <p>11回目 日露戦争と政党政治の展開</p> <p>12回目 明治の終焉</p> <p>13回目 大正天皇の課題と君主の個性</p> <p>14回目 昭和天皇の戦前と戦後</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>近代日本についての基礎的な知識を身に付け、通史的に理解することができる。</p> <p>近代日本の歴史の流れとその背景について、論理的に説明することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>内容を理解しているかどうかを確認する小テストを行うので、予習より復習に重点を置いて取り組んでください。</p> <p>各回で参考文献を紹介するので、積極的に読み進めましょう。</p>
評価方法	<p>定期試験（70%）、平常点（30%）</p> <p>定期試験中止の場合はレポート（70%）、平常点（30%）</p>
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	<p>状況により上記の授業方法を変更する可能性があります。</p> <p>その場合はClassroom上でお知らせします。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、日本古代史の史料を読解し、そこから日本古代の歴史像を読み解いていくことを目標とする。日本古代史の史料は少なく、活字化されているものが多いため、くずし字と格闘する機会は少ないが、一字一句にこだわり、時代像をふまえて読み解いていく必要がある。本授業では日本古代史の代表的歴史書である『続日本紀』を講読する。毎回レポーターを決め、現代語訳・語句の説明・関連資料の紹介などを報告してもらい、受講者全員でディスカッションしながら読み進めていく。日本古代史像を理解するためには、秋semesterの古代史料講読IIも合わせて履修することが好ましい。なお、学習成果の指標は A-②③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修 (Google Classroom) と、②同時・双方向型学修 (Google Meet) を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー史料とは何かー</p> <p>2回目 『続日本紀』を学ぶ</p> <p>3回目 『続日本紀』を読むためにー報告の方法ー</p> <p>4回目 『続日本紀』を読む① 受講生の報告 (Aグループ1回目)</p> <p>5回目 『続日本紀』を読む② 受講生の報告 (Bグループ1回目)</p> <p>6回目 『続日本紀』を読む③ 受講生の報告 (Cグループ1回目)</p> <p>7回目 『続日本紀』を読む④ 受講生の報告 (Dグループ1回目)</p> <p>8回目 『続日本紀』を読む⑤ 受講生の報告 (Eグループ1回目)</p> <p>9回目 『続日本紀』を読む⑥ 受講生の報告 (Aグループ2回目)</p> <p>10回目 『続日本紀』を読む⑦ 受講生の報告 (Bグループ2回目)</p> <p>11回目 『続日本紀』を読む⑧ 受講生の報告 (Cグループ2回目)</p> <p>12回目 『続日本紀』を読む⑨ 受講生の報告 (Dグループ2回目)</p> <p>13回目 『続日本紀』を読む⑩ 受講生の報告 (Eグループ2回目)</p> <p>14回目 『続日本紀』を読む⑪ 受講生の報告 (予備回)</p> <p>15回目 総括ー『続日本紀』からみる律令国家ー</p>
到達目標	<p>『続日本紀』の読み下しや現代語訳をおこない、記載内容を理解することができる。</p> <p>『続日本紀』や関連する史料から、古代史像を描くことができる。</p> <p>自分の読解した内容を、他人にわかりやすく伝えることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>現代語訳の作成・関連資料の収集など、報告の準備は授業時間外におこなうこと。</p> <p>自分の担当する場所以外も語句調べなど予習しておくこと。</p>
評価方法	<p>報告の内容 (70%)</p> <p>ディスカッションへの参加などの平常点 (30%)</p> <p>※遠隔授業になった場合も特に変更なし</p>
テキスト	<p>指定しない。使用する史料は配布する。</p>
参考書	<p>新日本古典文学大系『続日本紀』1～5 (岩波書店)</p> <p>『続日本紀』 (東洋文庫、平凡社)</p> <p>『続日本紀 全現代語訳』 (講談社学術文庫)</p>
備考	<p>報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、日本古代史の史料を読解し、そこから日本古代の歴史像を読み解いていくことを目標とする。日本古代史の史料は少なく、活字化されているものが多いため、くずし字と格闘する機会は少ないが、一字一句にこだわり、時代像をふまえて読み解いていく必要がある。本授業では日本古代史の様々な史料を講読する。毎回レポーターを決め、現代語訳・語句の説明・関連資料の紹介などを報告してもらい、受講者全員でディスカッションしながら読み進めていく。日本古代史像を理解するためには、春semesterの古代史料講読Ⅰも合わせて履修することが好ましい。なお、学習成果の指標は A-②③である。</p> <p>本授業は、遠隔授業になった場合は、①課題型学修 (Google Classroom) と、②同時・双方向型学修 (Google Meet) を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー古代史の史料ー</p> <p>2回目 律令を学ぶ</p> <p>3回目 『律令』を読む① 受講生の報告 (Aグループ)</p> <p>4回目 『律令』を読む② 受講生の報告 (Bグループ)</p> <p>5回目 『律令』を読む③ 受講生の報告 (Cグループ)</p> <p>6回目 『律令』を読む④ 受講生の報告 (Dグループ)</p> <p>7回目 『律令』を読む⑤ 受講生の報告 (Eグループ)</p> <p>8回目 格式を学ぶ</p> <p>9回目 『類聚三代格』を読む① 受講生の報告 (Aグループ)</p> <p>10回目 『類聚三代格』を読む② 受講生の報告 (Bグループ)</p> <p>11回目 『類聚三代格』を読む③ 受講生の報告 (Cグループ)</p> <p>12回目 『類聚三代格』を読む④ 受講生の報告 (Dグループ)</p> <p>13回目 『類聚三代格』を読む⑤ 受講生の報告 (Eグループ)</p> <p>14回目 出土文字資料を読む 受講生の報告 (予備回)</p> <p>15回目 総括ー史料からみる古代史像ー</p>
到達目標	<p>古代史料の読み下しや現代語訳をおこない、記載内容を理解することができる。</p> <p>古代史料を読解し、古代史像を描くことができる。</p> <p>自分の読解した内容を、他人にわかりやすく伝えることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>現代語訳の作成・関連資料の収集など、報告の準備は授業時間外におこなうこと。</p> <p>自分の担当する場所以外も語句調べなど予習しておくこと。</p>
評価方法	<p>報告の内容 (70%)</p> <p>ディスカッションへの参加などの平常点 (30%)</p> <p>※遠隔授業になった場合も特に変更なし</p>
テキスト	<p>指定しない。使用する史料は配布する。</p>
参考書	<p>日本思想大系『律令』 (岩波書店)</p> <p>日本古典文学大系『風土記』 (岩波書店)</p> <p>その他、授業中に指示する。</p>
備考	<p>報告のスケジュールは受講生の人数によって変更する場合がある。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中世の古文書・古記録の史料読解力を習得し、正確な解釈や内容の理解を深めることを目的とする。『吾妻鏡』の購読を中心に中世史料の読解力を高める。歴史学の研究にあたり、文字資料の読解力は最も基礎的なスキルとなる。ことに鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』は、中・近世の武家政治を研究する上で、土台となる資料であり、それに取り組んでもらう。史料を個人ごとに輪読するかたちですすめる。学修成果の指標はA-②③である。全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 中世史料（平安・鎌倉）について</p> <p>3回目 中世史料の基礎 参考文献などの解説</p> <p>4回目 中世史料の読みかた 返り点の振り方 特殊な文字について</p> <p>5回目 『吾妻鏡』 治承4年4月9日～27日条</p> <p>6回目 『吾妻鏡』 治承4年5月10日～24日条</p> <p>7回目 『吾妻鏡』 治承4年5月26日～6月24日条</p> <p>8回目 『吾妻鏡』 治承4年6月27日～7月23日条</p> <p>9回目 『吾妻鏡』 治承4年8月2日～8月9日条</p> <p>10回目 『吾妻鏡』 治承4年8月10日～8月16日条</p> <p>11回目 『吾妻鏡』 治承4年8月17日条</p> <p>12回目 中世史料講読の実践（『吾妻鏡』による小レポート）『</p> <p>13回目 『吾妻鏡』 治承4年8月19日～8月20日条</p> <p>14回目 『吾妻鏡』 治承4年8月22日～8月24日条</p> <p>15回目 総括的講義 講読した部分についての確認</p>
到達目標	中世史料は基本的に漢文であり、その読解を行える能力を身に付ける。具体的には漢文の史料に返り点を付し、読み・解釈などが可能となるということ。
授業時間外の学習	授業で講読する史料の読解のため、難読漢字・熟語の下調べを行う。また、講読した部分を自身で読み直してみる。
評価方法	授業時での読解力の確認（50%）、読解力（読み・訳）の小テスト（50%）で評価する。なお、遠隔授業となった場合はレポート（100%）で評価する。
テキスト	授業時に手交する。
参考書	授業時に指示する。
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>中世の古文書・古記録の史料読解力を習得し、正確な解釈や内容理解を深めることを目的とする。室町・戦国期史料の講読を通じて中世史料の読解力を高め、それを利用してオリジナルな論理を組み立てられるような分析力を養う。なお授業では、史料を個人ごとに輪読するかたちですすめる。学修成果の指標はA-②③である。全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などを説明する</p> <p>2回目 『吾妻鏡』 治承4年8月24日</p> <p>3回目 『吾妻鏡』 治承4年8月25日～8月26日条</p> <p>4回目 『吾妻鏡』 治承4年8月27日～9月1日条</p> <p>5回目 『吾妻鏡』 治承4年9月2日～9月5日条</p> <p>6回目 『吾妻鏡』 治承4年9月6日～9月10日条</p> <p>7回目 『吾妻鏡』 治承4年9月11日～9月15日条</p> <p>8回目 小テスト 到達点の確認</p> <p>9回目 『吾妻鏡』 治承4年9月17日～9月24日条</p> <p>10回目 『吾妻鏡』 治承4年9月28日～10月1日条</p> <p>11回目 『吾妻鏡』 治承4年10月2日～10月9日条</p> <p>12回目 『吾妻鏡』 治承4年10月11日～10月14日条</p> <p>13回目 『吾妻鏡』 治承4年10月15日～10月17日条</p> <p>14回目 『吾妻鏡』 治承4年10月18日</p> <p>15回目 総括的講義 講読した部分についての確認</p>
到達目標	<p>中世史料は基本的に漢文体であり、漢文史料を読解できる能力を養う。具体的には、漢文史料に返り点、読み解釈ができるようになる。ことに春semester段階よりも、高度な現代語解釈ができるようになることが目標。</p>
授業時間外の学習	<p>授業で講読する史料の読解のため、難読漢字・熟語の下調べを行う。講読が終わった個所の復習。</p>
評価方法	<p>授業時での読解力の確認（50%）、読解力（読み・訳）の小テスト（50%） 遠隔授業となった場合、平常点（100%）で評価する。</p>
テキスト	<p>授業時に配布する。</p>
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2 年次	1 単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>近世史料は候文、和漢文という独特の文体が用いられている。この演習では、近世史料で用いられる文体に慣れ、個々の史料の内容を解釈する方法を学ぶ。そのうえで、解釈した内容を発表してもらうので、プレゼンテーション技術も身につけてもらう。なお、秋semesterの近世史料講読Ⅱも合わせて受講してもらいたい。</p> <p>まず、近世史料の特徴とも言える、候文・和漢文に慣れてもらう。次に活字で書かれた史料を輪読する。その上で、輪読した史料の語句や内容について学生に個人で報告をしてもらう。また、博物館や図書館で働く際に必要な史料整理知識・技術についても言及する。</p> <p>受講生の状況によりですが、例年5月の授業は教育実習のため欠席する学生が多いので、2,3回をオンデマンド型にする予定です。ただし、受講生の状況で変更があります。</p> <p>学習成果の指標は、A-①です。近世史専攻の学生には、A-②にも該当します。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス</p> <p>2 回目 テキスト①の解説と解説</p> <p>3 回目 テキスト②の解説と解説</p> <p>4 回目 テキスト③の解説と解説</p> <p>5 回目 テキスト④の発表（5名）</p> <p>6 回目 テキスト⑤の発表（5名）</p> <p>7 回目 テキスト⑥の発表（5名）</p> <p>8 回目 テキスト⑦の発表（5名）</p> <p>9 回目 テキスト⑧の発表（5名）</p> <p>1 0 回目 テキスト⑨の発表（5名）</p> <p>1 1 回目 テキスト⑩の発表（5名）</p> <p>1 2 回目 テキスト⑪の発表（5名）</p> <p>1 3 回目 学生報告の講評兼報告予備日</p> <p>1 4 回目 小テスト</p> <p>1 5 回目 小テストの解説</p>
到達目標	<p>活字の近世史料を読み下すことができる。</p> <p>活字の近世史料を解釈できる。</p> <p>解釈した史料の内容を、他人にわかりやすく発表することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>初めて近世史料を読む学生が多数を占めると思われるので、予習は困難だと思います。近世史専攻学生以外は、復習に重点を置いてください。</p> <p>最初はテキストの読み下しについて、学生を当てて答えてもらいます。配布資料、「近世古文書ハンドブック」（http://www.ihmlab.net/pdf/old_document_manual.pdf）、日本史史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）を参考にレジュメを作成してください。</p> <p>発表については、その準備は授業時間外に行ってもらうので、不明な箇所は教員に質問してレジュメを作成してください。</p>

評価方法	授業態度・報告（70%）、小テスト（30%、14回目の授業で実施）。
テキスト	授業時に配布する。
参考書	日本史史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年） その他は授業時に指示する。
備考	受講生数により、授業計画を変更する場合があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>近世史料は候文、和漢文という独特の文体が用いられ、くずし字で書かれている。この演習では近世史料で用いられる文字・文体に慣れ、個々の史料の内容を解釈する方法を学ぶ。そのうえで、解釈した内容を発表する場を設けるので、プレゼンテーション技術も身につけてもらう。なお、春semesterの近世史料講読Ⅰも合わせて受講することが望ましい。</p> <p>本講座では、くずし字で書かれた史料を輪読する。その上で、輪読した史料の語句や内容について、学生に個人で報告をしてもらいます。</p> <p>11月下旬の授業を2回ほどオンデマンド型にする予定です。</p> <p>学習成果の指標は、A-①です。近世史専攻の学生には、A-②にも該当します。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 近世史料の構文・用語</p> <p>3回目 活字史料にみる候文と和漢文</p> <p>4回目 くずし字の輪読（テキスト1～3頁）</p> <p>5回目 くずし字の輪読（テキスト4～6頁）</p> <p>6回目 くずし字の輪読（テキスト7～10頁）</p> <p>7回目 くずし字の輪読（テキスト11～14頁）</p> <p>8回目 くずし字の輪読（テキスト15～17頁）</p> <p>9回目 くずし字の輪読（テキスト18～20頁）</p> <p>10回目 個別報告と講評（テキスト1～5頁） オンデマンド型を予定</p> <p>11回目 個別報告と講評（テキスト6～10頁） オンデマンド型を予定</p> <p>12回目 個別報告と講評（テキスト11～15頁） オンデマンド型を予定</p> <p>13回目 個別報告と講評（テキスト16～20頁） オンデマンド型を予定</p> <p>14回目 テスト</p> <p>15回目 テストの解説</p>
到達目標	<p>くずし字辞典をひいて、文字を解説できる。</p> <p>近世史料を読み下すことができる。</p> <p>近世史料を解釈できる。</p> <p>解釈した史料の内容を、他人にわかりやすく発表することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>初めてくずし字で書かれた近世史料を読む学生が多数を占めると思われるので、近世史専攻学生以外は予習より復習に重点を置いてください。</p> <p>最初はテキストの翻刻・読み下しについて、学生を当てて答えてもらいます。配布資料、「近世古文書ハンドブック」（http://www.ihmlab.net/pdf/old_document_manual.pdf）、日本史史料研究会監修『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）を参考にレジュメを作成してください。</p> <p>発表については、その準備は授業時間外に行ってもらうので、不明な箇所は教員に質問し、発表の前日の昼までにはレジュメを提出すること。</p>

評価方法	授業時の発表（50％）、期末試験（50％、14回目に実施）。
テキスト	くずし字辞典（いろいろな種類が出ているので、各自が使用しやすいものを選ぶこと。代表的なものは授業で紹介する）。テキストに使う史料は授業時に配布する。
参考書	授業時に指示する。
備考	本講座は学生の史料解読・報告が中心のため、授業計画は受講生の人数により変更する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習は、近現代の活字史料を読み、内容を適切に理解し、分析する技術を身に付けることを目指します。具体的には、維新三傑の一人である木戸孝允が残した『木戸孝允日記』を輪読しながら、読み下し、現代語訳、読解、調査方法について学び、後半では読み下して音読し、語句や内容・背景について調べて報告してもらいます。歴史上の人物が書いた日記を読むという歴史学の楽しさを味わいつつ、史料の基礎的な読解力と分析力を培いましょう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。</p> <p>この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。秋semesterの近代史料講読IIでは、この演習で学んだことを前提に、複数の史料を組み合わせた分析方法を扱うので、近現代史で卒業研究を行う学生はあわせて受講することを勧めます。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー史料の解説ー ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（Google Meet）を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>2回目 廃藩置県前後の木戸日記の輪読①</p> <p>3回目 廃藩置県前後の木戸日記の輪読②</p> <p>4回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読／レジュメの作り方</p> <p>5回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告① 受講生1・2</p> <p>6回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告② 受講生3・4</p> <p>7回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告③ 受講生5・6</p> <p>8回目 アメリカ滞在中の木戸日記の輪読と報告④ 受講生7・8</p> <p>9回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告① 受講生9・10</p> <p>10回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告② 受講生11・12</p> <p>11回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告③ 受講生1・2・3</p> <p>12回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告④ 受講生4・5・6</p> <p>13回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告⑤ 受講生7・8・9</p> <p>14回目 イギリス滞在中の木戸日記の輪読と報告⑥ 受講生10・11・12</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>近現代の活字史料を読み下すことができる。</p> <p>近現代の活字史料を読解することができる。</p> <p>近現代の活字史料の語句や背景を辞典・文献で調べ、分かりやすく報告することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>報告の準備は授業時間外に行ってもらいます。担当の史料の読み下し、読解、語句、内容や背景について調べてレジュメを作成してください。</p> <p>各回の史料の輪読は参加者全員で行います。報告者以外にも事前に読みを確認してきてください。</p>
評価方法	<p>定期試験（50%）、平常点（発表、史料の音読、質問など）50%</p> <p>定期試験中止の場合はレポート（50%）、平常点（50%）</p>
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	履修者の人数や状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。

その場合はClassroom上でお知らせします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習では、編纂物・公文書・私文書（日記・書簡）などのさまざまな形態の史料を読むことで、正確な読み下しと内容の適切な理解に加え、幅広い史料を適切に用い、史料をより深く、多角的に分析することを目指します。</p> <p>具体的には、編纂物・公文書・私文書の順番に読み進め、語句や内容について調べて報告してもらいます。多様な史料を通して歴史上の人物や事件に深く迫る楽しさを味わいつつ、史料の基礎的な読解力と多角的・客観的な分析力を培いましょう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。</p> <p>この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（Google Classroomを利用）と②同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施します。</p> <p>この演習は、春semesterの近代史料講読Ⅰで学んだことを前提にしているため、近現代史で卒業研究を行う学生はあわせて受講することを勧めます。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>2回目 編纂物の解説と輪読</p> <p>3回目 編纂物の輪読と報告① 受講生1・2</p> <p>4回目 編纂物の輪読と報告② 受講生3・4</p> <p>5回目 公文書の解説と輪読</p> <p>6回目 公文書の輪読と報告① 受講生5・6</p> <p>7回目 公文書の輪読と報告② 受講生7・8</p> <p>8回目 くずし字の解説① ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>9回目 くずし字の解説②</p> <p>10回目 書簡の解説と輪読</p> <p>11回目 書簡の輪読と報告① 受講生1・2</p> <p>12回目 書簡の輪読と報告① 受講生3・4</p> <p>13回目 書簡の輪読と報告① 受講生5・6</p> <p>14回目 書簡の輪読と報告② 受講生7・8</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>近代の多様な史料を読み下し、内容を適切に理解することができる。</p> <p>近代の多様な史料の語句や背景を辞典・文献で調べ、分析することができる。</p> <p>近代の多様な史料について調べ、考えた内容を、分かりやすく報告することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>報告の準備は授業時間外に行ってもらいます。担当になった史料を読み下し、語句や背景について調べてレジュメを作成してください。読み下し文の音読は参加者全員で行いますので、報告者以外も事前に一読してください。</p>
評価方法	<p>定期試験（50%）、平常点（発表、史料の音読、質問など）50% 定期試験中止の場合はレポート（50%）、平常点（50%）</p>
テキスト	<p>教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。</p>
参考書	<p>適宜紹介します。</p>

備考	受講生の人数や状況等に応じて上記の授業内容を変更することがあります。 その場合はClassroom上でお知らせします。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	この史料講読では、英文史料を読み、その史料を通して欧米の歴史について深く考えることを目的としている。今年度は、ゴードン・ウッドのベンジャミン・フランクリンについての著作 (Gordon S. Wood, The Americanization of Benjamin Franklin, The Penguin Press, New York, 2004.) を読んでいく。フランクリンは、独立革命を達成したアメリカ建国の父のひとりである。また、ジョージ・ワシントンやトーマス・ジェファソンとは違って、かれは「典型的なアメリカ人」と呼ばれている。この史料の題名になっている”Americanization” 「アメリカ化」とは、フランクリンが何故「典型的なアメリカ人」と呼ばれているのか、そして彼がどのようにして「アメリカ人」になっていったのかを解明している内容だからである。その史料を読みながら、建国期アメリカの社会状況と「アメリカ人」フランクリンの生涯を学んでいく。史料購読 I では、フィラデルフィアでの印刷業で富を蓄えていくフランクリンを中心に学ぶ。 なお、学修成果の指標はA-1です。 遠隔授業の場合、課題レポートで実施いたします。
授業計画	<p>1回目 はじめにー講義の内容と方法</p> <p>2回目 ベンジャミン・フランクリンの生涯</p> <p>3回目 アメリカ建国期の政治・経済的状況</p> <p>4回目 the Folksy Founder</p> <p>5回目 the Historic Eighteenth-Century Franklin</p> <p>6回目 Becoming a Gentleman</p> <p>7回目 Boston Beginning</p> <p>8回目 Philadelphia</p> <p>9回目 London 1724-1726</p> <p>10回目 Gentlemen and Commoners</p> <p>11回目 Civil Affairs</p> <p>12回目 Franklin's Awkward Middling Status</p> <p>13回目 Franklin's Wealth</p> <p>14回目 A Gentleman at Last</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	英文史料を英和辞典を引きながら読むことに慣れ、またその史料を通して欧米の歴史について深く考え、その史料の歴史的・研究史的意義について理解することができる。
授業時間外の学習	授業で読むところを、あらかじめ自分で翻訳しておくことが必要である。また、テキストだけではなく、アメリカの歴史やフランクリン、ワシントン、ジェファソンなどの建国の父たちについての関連する本を読んでおくこと。
評価方法	英文史料の翻訳力の点数 (50%) に、授業参加態度 (50%) を加点し、総合的に評価する。 遠隔授業の場合、課題レポート100%で評価する。
テキスト	テキストおよび参考資料は、コピーし、プリントにて配布する。
参考書	『フランクリン自伝』 (松本真一・西川正身訳、岩波文庫、1957年) 『フランクリン自伝』 (渡邊利雄訳、中央公論新社、2004年)
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	この史料講読では、英文史料を読み、その史料を通して欧米の歴史について深く考えることを目的としている。今年度は、ゴードン・ウッドのベンジャミン・フランクリンについての著作（Gordon S. Wood, The Americanization of Benjamin Franklin, The Penguin Press, New York, 2004.）を読んでいく。フランクリンは、独立革命を達成したアメリカ建国の父のひとりである。また、ジョージ・ワシントンやトーマス・ジェファソンとは違って、かれは「典型的なアメリカ人」と呼ばれている。この史料の題名になっている”Americanization” 「アメリカ化」とは、フランクリンが何故「典型的なアメリカ人」と呼ばれているのか、そして彼がどのようにして「アメリカ人」になっていったのかを解明している内容だからである。その史料を読みながら、建国期アメリカの社会状況と「アメリカ人」フランクリンの生涯を学んでいく。史料購読Ⅱでは、「富への道」と駐フランス使節団の外交官としての功績を中心に学んでいく。 なお、学修成果の指標はA-1です。 遠隔授業の場合、課題レポートで実施いたします。
授業計画	1回目 はじめに 講義の予定と方法 2回目 Becoming a British Imperialist 3回目 Franklin's Vision of the New World 4回目 Pennsylvania Politics 5回目 The Way of Wealth 6回目 Becoming a Patriot 7回目 Franklin's Response to the Stamp Act Crisis 8回目 Franklin's New Conception of Empire 9回目 Becoming a Diplomat 10回目 The French Alliance 11回目 Franklin's Diplomatic Achievement 12回目 Becoming an American 13回目 The Project for Achieving Moral Perfection 14回目 The Myth of American Nationhood 15回目 まとめ
到達目標	英文史料を英和辞典を引きながら読むことに慣れ、またその史料を通して欧米の歴史について深く考え、その史料の歴史的・研究史的意義について理解することができる。
授業時間外の学習	授業で読むところを、あらかじめ自分で翻訳しておく必要がある。また、テキストだけではなく、アメリカの歴史やフランクリン、ワシントン、ジェファソンなどの建国の父たちについての関連する本を読んでおくこと。
評価方法	英文史料の翻訳力の点数（50%）に、授業参加態度（50%）を加点し、総合的に評価する。 遠隔授業の場合、課題レポート100%で評価する。
テキスト	テキストおよび参考資料は、コピーし、プリントにて配布する。
参考書	『フランクリン自伝』（松本真一・西川正身訳、岩波文庫、1957年） 『フランクリン自伝』（渡邊利雄訳、中央公論新社、2004年）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>遠隔授業の授業はmeetで行います。クラス コードhxr6ob7になります。PowerPointを中心とした講義を行い、レポートを提出してもらいます。授業時間の開始に合わせてmeetに参加してください。</p> <p>日本の古文書の読解・解釈力の育成と古文書学概説(古代・中世前期を対象とする)をおこなう。初めに概説を行い、以後は教科書、及び適宜配布するテキストを次の順序で購読してゆきます。公式様(古代～)・公家様(平安中期～)・武家様(鎌倉幕府・室町関係)といった範囲の様式論の解説、古文書の読解。</p> <p>授業では、受講生に古文書を板書したり、読み上げてもらうことがある。</p> <p>全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。</p> <p>学修成果の指標はA-②③である。</p> <p>なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。</p>
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス</p> <p>2 回目 古文書学の基礎知識</p> <p>3 回目 公式様文書 1 (概説)</p> <p>4 回目 公式様文書2 (太政官符)</p> <p>5 回目 公家様文書1 (概説・宣旨)</p> <p>6 回目 公家様文書2 (下文など)</p> <p>7 回目 公家様文書3 (論旨・院宣など)</p> <p>8 回目 鎌倉幕府文書1 (鎌倉幕府の文書概説・下文)</p> <p>9 回目 鎌倉幕府文書2 (関東下知状など)</p> <p>1 0 回目 鎌倉幕府文書3 (関東御教書など)</p> <p>1 1 回目 室町幕府文書1 (室町幕府の文書の概説・下知状)</p> <p>1 2 回目 室町幕府文書2 (御判御教書・御内書)</p> <p>1 3 回目 室町幕府文書3 (遵行状・打渡状)</p> <p>1 4 回目 室町幕府文書4 (守護書下)</p> <p>1 5 回目 総括</p>
到達目標	古代の公式様・平安期の公家様・鎌倉時代の武家様という文書様式の変遷を理解し、そこから国制の変化を理解できるようにする。
授業時間外の学習	古文書学に関する文献を読解する。事前に渡したテキストの予習。古文書テキストの音読を行い、基礎知識についてはノート整理・確認すること。
評価方法	様式論の理解度、古文書の読解能力を確認する期間内テスト (100%) で評価する。 なお、遠隔授業となった場合はレポート (100%) で評価する。
テキスト	授業時に配布
参考書	『演習古文書選 様式編』日本歴史学会編、吉川弘文館 『古文書学入門』佐藤進一、法政大学出版局 『概説古文書学』古代・中世編、日本歴史学会、吉川弘文館
備考	展覧会の見学など野外での学修を加えることがある

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	日本の古文書学の読解・解釈力の育成と古文書学概説（中世後期・近世紀・私文書を対象とする）初めに概説を行い、以後は教科書、及び適宜配布するテキストを次の順序で購読してゆきます。室町幕府・戦国大名・江戸幕府の公文書・及び私文書。なお受講生に古文書を板書したり、読み上げてもらうことがある。学修成果の指標はA-②③である。全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。なお、遠隔授業を実施する場合は、オンデマンド型のオンライン授業とする。
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明</p> <p>2 回目 古文書学の基礎知識</p> <p>3 回目 戦国大名文書1（判物）</p> <p>4 回目 戦国大名文書2（印判状）</p> <p>5 回目 江戸幕府文書 老中奉書</p> <p>6 回目 江戸幕府文書 農民文書</p> <p>7 回目 江戸幕府文書 町屋の文書</p> <p>8 回目 私文書1（譲状）</p> <p>9 回目 私文書2（軍忠状・着到状）</p> <p>10 回目 私文書3（売券）</p> <p>11 回目 私文書4（起請文）</p> <p>12 回目 私文書5（一揆契状）</p> <p>13 回目 近代国家への視点から</p> <p>14 回目 総括 古文書の読解の確認</p> <p>15 回目 総括 古文書の分析方法と論述について</p>
到達目標	室町幕府の文書様式、戦国大名の文書様式、徳川幕府の文書様式の変遷を理解し、それにより中世後期から近世にかけての国制の変化を理解できる。また私文書の理解により、社会の慣習法を理解できるようになる。
授業時間外の学習	古文書学に関する文献を読解する。事前に渡したテキストの予習。古文書テキストの音読を行い、基礎知識についてはノート整理・確認すること。
評価方法	様式論の理解度、古文書の読解能力を確認する期間内テスト（100%）で評価する。 なお、遠隔授業となった場合はレポート（100%）で評価する。
テキスト	授業時に配布する
参考書	『演習古文書選 様式編』日本歴史学会編、吉川弘文館 『古文書学入門』佐藤進一、法政大学出版局 『概説古文書学』古代・中世編、日本歴史学会、吉川弘文館
備考	展覧会の見学など野外学修を行うことがある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この演習は、歴史学を研究するために必要な基礎知識、能力、姿勢を培うことを狙いとしています。学習のために必要な知識・情報（書籍・論文等）の入手の方法、各種情報ツールの活用法を知り、学んだことをまとめ、考えたことを伝えるための技術、文章の作成方法を学ぶための授業です。</p> <p>具体的には、辞書類や図書館・インターネットの利用方法、図書・論文の読み方とまとめ方、テーマの設定方法、レジユメの作り方、レポートの書き方について学びます。関心を持つテーマについて調査して文章にまとめることで、調査結果や自分の考えを他者に分かりやすく伝えるための技術を身に付けましょう。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-②とA-③です。</p> <p>この演習は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせ実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 歴史学とは ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>第2回 レポートとは／テーマを設定するには</p> <p>第3回 文献について①—辞典について／図書館の使い方—</p> <p>第4回 文献について②—図書と論文／web上での情報の集め方—</p> <p>第5回 図書と論文の探し方</p> <p>第6回 論文の読み方①—読書法・スキミング—</p> <p>第7回 論文の読み方②—要約・批判的読解—</p> <p>第8回 論文の要約レジユメの作り方</p> <p>第9回 図書館での実践</p> <p>第10回 論文の要約レジユメの提出とコメントの記入 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>第11回 レポートの書き方①—構成要素・引用—</p> <p>第12回 レポートの書き方②—文章・評価基準—</p> <p>第13回 論文の要約レジユメへの批評</p> <p>第14回 レポートの提出とコメントの記入 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>第15回 レポートへの批評</p>
到達目標	文献調査の方法、情報ツールの使い方、文献の読み方とまとめ方、レポートの書き方などの基礎的な技術を身に付ける。 「調べる」「読む」「伝える」ための技術を実践することができる。
授業時間外の学習	論文の要約レジユメとレポートの作成は主に授業時間外に行ってもらいます。早めに取り掛かるようにし、不明点・不安点は教員に質問してください。
評価方法	レポート（70%）、平常点（各回のコメントペーパーや課題など）30% 遠隔授業の場合も評価方法は変更しません。
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。

備考	状況等に応じて上記の授業方法を変更する可能性があります。 その場合はClassroom上でお知らせします。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
近世史	近代史	文化財	
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本には多くの古文書が残されています。その大部分は近世と近代の古文書です。その多くはくずし字で記されています。本講座では、実物の古文書を用い、解読や調査の技術を身につけてもらいます。</p> <p>3回目から10回目の授業では、毎回最低1点の古文書の目録を作成してもらいます。その中から興味深かった物を撮影し、レポートを作成してもらいます。レポートで使用する史料については事前に報告してもらいます。報告はPowerPointで動画を作成して提出してもらい、それをオンデマンド型で配信します。</p> <p>学習成果の指標は、A-①です。近世史・近代史を専攻する学生にとっては、A-②に当てはまる場合もあります。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 古文書1の目録作成</p> <p>3回目 古文書2の目録作成</p> <p>4回目 古文書3の目録作成</p> <p>5回目 古文書4の目録作成</p> <p>6回目 古文書5の目録作成</p> <p>7回目 古文書6の目録作成</p> <p>8回目 古文書7の目録作成</p> <p>9回目 古文書8の目録作成</p> <p>10回目 カメラの使用方法</p> <p>11回目 古文書を撮影する</p> <p>12回目 PowerPoint動画作成のコツ</p> <p>13回目 興味深かった内容の古文書について発表する① 受講者のクラス出席番号順で、前受講生のうち前半の学生に報告してもらいます（オンデマンド型）</p> <p>14回目 興味深かった内容の古文書について発表する② 受講者のクラス出席番号順で、前受講生のうち後半の学生に報告してもらいます（オンデマンド型）</p> <p>15回目 まとめ一整理した史料のチェック</p>
到達目標	<p>くずし字で記された古文書の目録を作成できる。</p> <p>古文書の調査方法（主に写真撮影）を身につけられる。</p> <p>くずし字で書かれた古文書の内容を、日本語の文章で説明できる。</p>
授業時間外の学習	<p>発表の準備は時間外に行ってもらいます。</p> <p>史料読解が途中で授業が終わってしまった場合は、授業時に使用したノートを用いて史料の内容を解釈し、次の授業でスムーズに目録を作成できるようにしてください。</p>
評価方法	<p>授業時の態度（50%）と報告内容（50%）。授業の態度には古文書実習での取り組みも含まれます。</p> <p>毎回、授業時に整理した史料の数に加え、授業の最後にノートをチェックし、授業中にどれだけ史料の読解が進んだかをチェックします。日本近世史・近代史専攻者以外は、1回の授業で史料目録を一つも取れなかった場</p>

	合でも、ノートの内容を重視するので安心してください。
テキスト	実物の古文書を使用します。
参考書	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版、東京堂出版）。これ以外にもくずし字辞典は複数存在するので、授業時に紹介します。
備考	古文書は大切な文化財なので、手指にアクセサリなど（含むマニキュア）を着けている場合は、授業に参加できません。その点を理解して受講するか否かを判断してください。 受講生数に応じて、授業計画を変更することがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
坂本達彦 教授			
近世史	近代史		
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本には多くの古文書が残されています。その大部分は近世と近代の古文書です。その多くはくずし字で記されています。本講座では、実物の古文書を用い、解読や調査の技術を身につけてもらいます。</p> <p>3回目から10回目の授業では、毎回最低1点の古文書の目録を作成してもらいます。その中から興味深かった物を撮影し、発表してもらいます。報告はPowerPointで動画を作成して提出してもらい、それをオンデマンド型で配信します。</p> <p>学習成果の指標は、A-①です。近世史・近代史を専攻する学生にとっては、A-②に当てはまる場合もあります。</p> <p>全面遠隔授業になった場合、授業形態（同時・双方向型学修またはオンデマンド型学修）は、状況に応じて判断します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 古文書目録の作成方法</p> <p>3回目 古文書1の目録作成</p> <p>4回目 古文書2の目録作成</p> <p>5回目 古文書3の目録作成</p> <p>6回目 古文書4の目録作成</p> <p>7回目 古文書5の目録作成</p> <p>8回目 古文書6の目録作成</p> <p>9回目 古文書7の目録作成</p> <p>10回目 古文書8の目録作成</p> <p>11回目 一眼レフカメラの使用方法</p> <p>12回目 古文書を撮影する</p> <p>13回目 興味深かった内容の古文書について発表する① 受講生のうち、クラス・出席番号順で前半の学生に発表してもらいます（オンデマンド型を予定しています）。</p> <p>14回目 興味深かった内容の古文書について発表する② 受講生のうち、クラス・出席番号順で後半の学生に発表してもらいます（オンデマンド型を予定しています）。</p> <p>15回目 まとめ一整理した史料のチェック</p>
到達目標	<p>くずし字で記された古文書の目録を作成できる。</p> <p>古文書の調査方法（主に写真撮影）を身につけられる。</p> <p>くずし字で書かれた古文書の内容を、日本語で説明できる。</p>
授業時間外の学習	<p>発表の準備は時間外に行ってもらいます。</p> <p>史料読解が途中で授業が終わってしまった場合は、授業時に使用したノートを用いて史料の内容を解釈し、次の授業でスムーズに目録を作成できるようにしてください。</p>
評価方法	<p>授業態度（50%）、古文書実習（50%）。授業態度には古文書実習での作業も含まれます。</p> <p>毎回、授業時に整理した史料の数に加え、授業の最後にノートをチェックし、授業中にどれだけ史料の読解が進んだかをチェックします。日本近世史・近代史専攻者以外は、1回の授業で史料目録を一つも取れなかった場</p>

	合でも、ノートの内容を重視するので安心してください。
テキスト	現物の古文書を利用する。
参考書	児玉幸多編『くずし字用例辞典』（普及版、東京堂出版）。これ以外にもくずし字辞典は複数存在するので、授業時に紹介します。
備考	古文書は大切な文化財なので、手指にアクセサリなど（含むマニキュア）を着けている場合は、授業に参加できません。その点を理解して受講するか否かを判断してください。 受講生数に応じて、授業計画を変更することがあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2年次	2単位	選択必修
担当教員			
多和田真理子 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業では、日本における近代教育制度の成立とその定着、それにともなう地域社会の変容過程について扱う。近世以前の共同体における子育てとは異質な存在として、日本の各地に設立された学校が、しだいに地域における文化的中核として定着し、人々のライフサイクルが学校教育を前提としたものへと変容していく過程を、具体的な事例とともにとりあげる。</p> <p>学修成果の指標はA-①③である。</p> <p>なお、授業内で適宜、史料をもとにしたディスカッションやグループワークを取り入れる場合がある。</p> <p>また、遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と、③同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスー地域の文化的中核としての学校とは</p> <p>2回目 日本の近代学校制度のはじまり</p> <p>3回目 学校の設置・運営と地域社会</p> <p>4回目 ナショナリズムと教育</p> <p>5回目 中等教育の普及と地域社会</p> <p>6回目 新教育運動の影響</p> <p>7回目 幼児教育への関心の高まり</p> <p>8回目 小括</p> <p>9回目 青年たちの学びと社会運動</p> <p>10回目 戦時体制下の地域と学校</p> <p>11回目 戦後新教育と地域教育計画</p> <p>12回目 高度経済成長期の社会変容と教育</p> <p>13回目 近代家族と子ども・子育ての変化</p> <p>14回目 学校行事と地域社会</p> <p>15回目 授業のまとめ</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育制度や政策の展開と、それにともなう地域社会の変容過程を理解し、説明できる。 史資料をもとに、近現代の教育と社会のありようについて思考し、説明できる。 歴史的展開をふまえ、現代の地域社会や教育のあり方にも関心を持つ。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容を自分なりにまとめ、整理しておく。 授業の内容を糸口として自身で関心のあるテーマを見つけ、関連する研究文献や史料を集めて読む。
評価方法	授業時のリアクションペーパー、小テストの成績、授業への取り組みから総合的に評価する。
テキスト	教科書は使用しない（授業中にプリントを配布し、かつパワーポイントの資料を使用する予定）。
参考書	<p>松沢裕作『生きづらい明治社会』岩波ジュニア新書、2018年</p> <p>小針誠『アクティブラーニングー学校教育の理想と現実』講談社現代新書、2018年</p> <p>木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年</p> <p>地方史研究協議会編『学校資料の未来ー地域資料としての保存と活用』岩田書院、2019年</p> <p>ほか、授業内で指示する。</p>
備考	興味・関心を持って授業に臨んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選必
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この授業では、紀元前～10世紀の東アジアについて、基礎的な知識を身につけ、歴史的な理解を深めることを目標とする。グローバル化が進む現代社会において、自国のみの「一国史」にとらわれない歴史理解の必要性が指摘されるようになって久しい。自国の歴史を相対化し、俯瞰的な視野を持つためにも、多文化理解や交流の視点を学ぶ必要がある。この授業は、日本を取り囲む中国・朝鮮半島・北東アジア各地域の歴史を講義形式で解説していく。その際、金石文や竹簡など新しく発見された史料を参照することを心がける。なお、学習成果の指標は A-①③である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 「東洋史」を学ぶ</p> <p>2回目 中国の歴史① 中国文明の発生</p> <p>3回目 中国の歴史② 殷と周</p> <p>4回目 中国の歴史③ 春秋・戦国時代</p> <p>5回目 中国の歴史④ 秦による統一</p> <p>6回目 中国の歴史⑤ 漢帝国の時代</p> <p>7回目 中国の歴史⑥ 魏晋南北朝時代</p> <p>8回目 中国の歴史⑦ 隋唐帝国の成立</p> <p>9回目 中国の歴史⑧ 唐帝国の崩壊</p> <p>10回目 朝鮮半島の歴史① 古朝鮮から三韓へ</p> <p>11回目 朝鮮半島の歴史② 高句麗と百済</p> <p>12回目 朝鮮半島の歴史③ 新羅と加耶</p> <p>13回目 朝鮮半島の歴史④ 統一新羅</p> <p>14回目 北東アジアの歴史 渤海</p> <p>15回目 東洋史と日本史</p>
到達目標	<p>東アジア諸国の歴史的展開を理解し、基礎的な歴史知識を習得することができる。</p> <p>東アジア史研究の実例を通じて、史料から歴史事実を読み解く方法を身につけることができる。</p> <p>東アジア諸国の古代社会像を知ることにより、それとの比較から日本社会の特質を理解することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業プリントを読み返して理解を確認すること。</p> <p>紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。</p>
評価方法	<p>授業ごとのコメントペーパー（30%）</p> <p>学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする。</p>
テキスト	<p>指定しない。毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『中国の歴史』①～⑥（講談社学術文庫）</p> <p>世界歴史大系『中国史1』『中国史2』『朝鮮史1』（山川出版社）</p> <p>その他、授業時に紹介する文献に積極的に目を通すように。</p>
備考	<p>対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
内山京子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>近年、日本史・中国史・朝鮮史といった一国史的な枠組みにとらわれない、「東アジア」という場を意識した国際政治史研究が盛んに展開されています。この講義では、こうした成果を基に、近世から近現代の東アジアの歴史を理解し、国を超えた、広い視野からの物の見方を培うことを目指します。具体的には、近世の中国・朝鮮から冷戦終結後の東アジア世界の変容までを概観します。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-①です。</p> <p>この授業は原則対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせて実施します。また、全体遠隔授業に移行した場合は②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス—近世・近現代の東アジア世界— ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>2回目 近世の中国</p> <p>3回目 近世の朝鮮</p> <p>4回目 近世の日本</p> <p>5回目 19世紀東アジア国際秩序のなかの日本</p> <p>6回目 西洋の進出と東アジア国際秩序の動揺</p> <p>7回目 日本の西洋国際標準への適応と東アジア（1）—開国と不平等条約改正—</p> <p>8回目 日本の西洋国際標準への適応と東アジア（2）—日清・日露戦争—</p> <p>9回目 日本の西洋国際標準への適応と東アジア（3）—植民地支配—</p> <p>10回目 映像作品鑑賞 ①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を併用した遠隔授業で実施予定。</p> <p>11回目 中国をめぐる国際秩序の再編</p> <p>12回目 ワシントン体制と東アジア</p> <p>13回目 満洲事変から日中戦争へ</p> <p>14回目 第二次世界大戦と東アジア国際秩序の変容</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>近世・近現代の東アジアの歴史の流れを理解することができる。</p> <p>各地域・時代ごとの特質を理解し、自分の言葉で論理的に説明することができる。</p>
授業時間外の学習	<p>内容を理解しているかどうかを確認する小テストを行うので、予習より復習に重点を置いて取り組んでください。</p> <p>各回で参考文献を紹介するので、積極的に読み進めましょう。</p>
評価方法	<p>定期試験（70%）、平常点（30%）</p> <p>定期試験中止の場合はレポート（70%）、平常点（30%）</p>
テキスト	教科書は使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考書	適宜紹介します。
備考	状況により上記の授業方法を変更する可能性があります。その場合はClassroom上でお知らせします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>封建社会の成立と展開について学ぶ。476年西ローマ帝国が滅び、ヨーロッパ社会の中心が地中海から内陸部へと移動して、8世紀ごろ「封建社会」が成立した。この講義では、人間の生活の基盤をつくっている「経済」の歴史を中心に、中世ヨーロッパ史、つまり「封建社会」の成立と展開について解説する。今の私たちが生活しているこの近代社会は、封建社会の中から、封建社会の構造を掘り崩しながら成立した。この近代の社会システムがどのようにして生まれてきたのか、現代の資本主義世界がどのようにして成立し、展開していったのか、これからどのような方向に進んでいくのかを、基礎的な史実や重要な学説などを検討していきながら明らかにしていきたい。ヨーロッパ中世社会の構造とその解体について学ぶ。</p> <p>なお、学修成果の指標はA-1です。</p> <p>遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポートで実施いたします。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめにー講義の内容と方法</p> <p>2回目 歴史的視野</p> <p>3回目 フェルナン・ブローデルの「歴史的時間の多層性」</p> <p>4回目 近代社会の特質ー「封建社会」を考えるために</p> <p>5回目 15世紀のイギリス社会ー歴史の転換点について考える</p> <p>6回目 村落共同体とマナー（荘園）制度ー中世農村の生活</p> <p>7回目 中世農業革命ー水車・重量有輪犁・三圃輪作制農法</p> <p>8回目 マナー（荘園）制度の解体ーペスト大流行・農民一揆・地代の金納化</p> <p>9回目 外国貿易の衰退ー羊毛貿易から毛織物貿易へ</p> <p>10回目 局地的市場圏ー自律的な農民的市場経済の成立</p> <p>11回目 中世ヨーロッパの商業ー地中海商業圏と北海・バルト海商業圏</p> <p>12回目 中世都市ヴェネチアー中世ヨーロッパとスパイス</p> <p>13回目 ハンザ同盟</p> <p>14回目 「中世の世界経済」の解体</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>ヨーロッパ封建社会の成立と展開（中世の世界経済の構造とその解体）について理解する。また、基礎的な史実や重要な学説などを学ぶことによって、近代資本主義社会が封建社会の構造を掘り崩しながら誕生したことを知る。</p>
授業時間外の学習	<p>ヨーロッパ中世史の文献を読むこと。また中世史だけではなく、広く世界史についての文献・資料なども読み、歴史全般について興味・関心をもつこと。この講義では、経済史についての話が中心になるので、経済学についての文献も読んでおくことが望ましい。</p>
評価方法	<p>期末レポートの点数（40%）に授業参加態度・ノート提出（60%）を加点し、総合的に評価する。遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポート（100%）で評価する。</p>
テキスト	<p>石坂昭雄ほか『新版西洋経済史』（有斐閣双書、1985年）</p>
参考書	<p>福井憲彦『近代ヨーロッパ史ー世界を変えた19世紀ー』（ちくま学芸文庫、2010年） 川北稔『世界システム論講義ーヨーロッパと近代世界ー』（ちくま学芸文庫、2016年） 川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書、2010年） A. W. クロスビー『ヨーロッパの帝国主義ー生態学的視点から歴史を見るー』（ちくま学芸文庫、2017年）</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>ヨーロッパ近代社会の成立と展開について解説する。今の私たちが生活しているこの近代社会は、ヨーロッパの封建社会のなかから、封建社会の構造を掘り崩しながら、16世紀の北西ヨーロッパで成立した。この近代の社会システムは、それ以後地球上のさまざまな地域をそのなかに組み込みながら、18世紀末のイギリス産業革命によって確立し、グローバルなシステムへと成長した。この講義では、資本主義世界の成立と展開について学ぶ。</p> <p>現代のグローバルな資本主義社会がどのようにして成立し、展開していったのかを学ぶ。</p> <p>なお、学修成果の指標はA-1です。</p> <p>遠隔授業になったときは、オンデマンド学修および課題学修で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめにー講義の内容と方法</p> <p>2回目 歴史を学ぶとは何か</p> <p>3回目 中世封建社会の成立と展開ー「西洋史概説Ⅰ」の復習①</p> <p>4回目 「中世の世界経済」の成立と解体ー「西洋史概説Ⅰ」の復習②</p> <p>5回目 大航海時代ーコロンブスとヴァスコ・ダ・ガマ</p> <p>6回目 ポルトガルと東インド貿易</p> <p>7回目 スペインと新大陸貿易</p> <p>8回目 スペイン帝国の興隆と衰退</p> <p>9回目 ルネサンスと宗教改革</p> <p>10回目 「近代世界システム」の成立</p> <p>11回目 17・18世紀のヨーロッパの文化と社会ー科学革命と啓蒙思想</p> <p>12回目 イギリス重商主義と植民地</p> <p>13回目 イギリス産業革命①ー綿工業と鉄工業</p> <p>14回目 イギリス産業革命②ー鉄道と統一的国内市場の成立</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	ヨーロッパ近代社会の成立と展開について理解する。現代のグローバルな資本主義社会がどのようにして成立し、展開していったのかについて理解する。
授業時間外の学習	ヨーロッパ近代史の文献を読むこと。また近代史だけではなく、広く世界史についての文献・資料なども読み、歴史全般について興味・関心をもつこと。この講義では、経済史についての話が中心になるので、経済学についての文献も読んでおくことが望ましい。
評価方法	期末レポートの点数(40%)に授業参加態度・ノート提出(60%)を加点し、総合的に評価する。遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポート(100%)で評価する。
テキスト	石坂昭雄ほか『新版西洋経済史』(有斐閣双書、1985年)
参考書	<p>福井憲彦『近代ヨーロッパ史ー世界を変えた19世紀ー』(ちくま学芸文庫、2010年)</p> <p>川北稔『世界システム論講義ーヨーロッパと近代世界ー』(ちくま学芸文庫、2016年)</p> <p>川北稔『イギリス近代史講義』(講談社現代新書、2010年)</p> <p>A. W. クロスビー『ヨーロッパの帝国主義ー生態学的視点から歴史を見るー』(ちくま学芸文庫、2017年)</p>
備考	

講義科目名称： 日本文化史Ⅱ

授業コード： 254003

英文科目名称： Japanese Cultural History 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
菱沼一憲 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本文化の歴史についての基礎学力を向上させ、歴史的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識の創出、及び分析能力の発達を促す。</p> <p>各時代の文化を象徴的なトピックスを中心に論説し、基礎知識を習得するとともに、受講生より各時代のレポートを行ってもらい、問題点の提起力や報告の作成能力の向上、及び興味関心の深化をはかる。</p> <p>学修成果の指標はA-①③である。</p> <p>全15回のうち2回程、ClassroomのMeetによるオンデマンド型のオンライン授業とする予定。</p> <p>遠隔授業の場合は、オンデマンド型のオンライン授業を実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 授業の獲得目標と評価基準などの説明</p> <p>2回目 南北朝・室町 娑婆羅の時代 鎌倉幕府滅亡の影響と新しい「娑婆羅」的風潮の文化について</p> <p>3回目 南北朝・室町 北山文化 足利義満と鹿苑寺金閣に代表される北山文化について</p> <p>4回目 南北朝・室町 東山文化 足利義政と応仁の乱、そこに生まれた東山文化について</p> <p>5回目 安土桃山文化 城郭文化 戦国時代の終了と織田信長の安土城にみる文化の位置づけ</p> <p>6回目 安土桃山文化 茶道文化 天下人での茶人・茶道の有り様と近世世界への展望</p> <p>7回目 寛永文化 綺麗さび 小堀遠州の綺麗さびに象徴されるサロン文化とそれが生み出された土壌について</p> <p>8回目 元禄文化 三都を中心とする経済発展下での文化 上方の大衆文化の登場、松尾芭蕉・井原西鶴・歌舞伎</p> <p>9回目 琳派の芸術 大衆文化の中核を担う俵屋宗達・本阿弥光悦・尾形兄弟などいわゆる琳派の芸術とその継承について</p> <p>10回目 化政文化 文芸文化を中心に 江戸を中心とする江戸時代後期の文化。戯作と称される多様な大衆文芸について</p> <p>11回目 化政文化 浮世絵と趣味世界の広がり 喜多川歌麿・葛飾北斎、浮世絵・貸本屋の時代と俳諧など趣味世界の流行について</p> <p>12回目 明治の文学 戯作の継承からフランス・ロシアの影響を受けた近代文学の受容について</p> <p>13回目 幕末の思想～国学と洋学～</p> <p>14回目 江戸時代の庶民信仰～富士講・お伊勢参り～</p> <p>15回目 明治時代の文芸</p>
到達目標	<p>短期大学生に必要とされる日本文化の歴史についての基礎的な知識を獲得し、歴史的な視野を広めるとともに、文化への関心と問題意識を創り出せるようになる。また分析能力を向上させること。</p>
授業時間外の学習	<p>授業の進捗にあわせ日本文化に関する文献を読み準備をし、授業後は内容の整理をすること。博物館・資料館など文化施設、及びそれらの展示会の見学。</p>
評価方法	<p>授業時の毎回のレポートを総合して評価（100%） オンライン授業の場合も同様</p>
テキスト	<p>授業時にデータで配信する。</p>
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
世界と日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>考古学入門－考古学の視点と方法－ 考古学はモノの形や技術を比較して整理します。この講義ではそうした基本的な方法と考古学的な観点を学んでほしいと思います。 日本文化の特質を、多様な文化とに比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。 このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 考古学とは何か？ ・考古学の目的 ・考古学の基本（型式学と層位学） ・</p> <p>2回目 型式学とは何か？ ・型式の概念（型式・形式・様式） ・型式変化の要因（内的要因と外的要因） ・型式変化の具体例（携帯電話・自動車・ルネサンス期の襲襟・シンデレラ城）</p> <p>3回目 型式変化の実例 ・課題の研究発表</p> <p>4回目 層位学とは何か？ ・土層累重の法則 ・大規模火山噴火と広域テフラ（始良Tn火山灰・アカホヤ火山灰など） ・火山災害を受けた遺跡（榛名山・浅間山の火山噴火の事例）</p> <p>5回目 考古学の年代決定法 ・相対年代と絶対年代 ・水月湖の年縞と校正年代</p> <p>6回目 世界の考古学の歴史（1） ・古典考古学（ポンペイの発掘）発見の時代 ・北欧考古学（三時代法・旧石器と新石器・型式学の発明）基本概念の確立</p> <p>7回目 世界の考古学の歴史（2） ・マルクス主義考古学（ゴードン・チャイルドの考古学）解釈する考古学 ・プロセス考古学（ニューアーケオロジー）理科系の考古学 ・ポストプロセス考古学（哲学的考古学）</p> <p>8回目 日本の考古学の歴史（1） ・古代～江戸時代の認識（近代考古学以前） ・明治時代の考古学（近代考古学の始まり） ・大正デモクラシーの考古学（考古学の発展）</p> <p>9回目 日本の考古学の歴史（2） ・昭和時代前半期の考古学（弾圧・軍国主義・東亜考古学会） ・戦後の考古学（登呂遺跡の発掘と岩宿の発見） ・高度経済成長と埋蔵文化財（行政発掘の始まり）</p> <p>10回目 日本の考古学の歴史（3） ・大発掘時代の考古学（バブル期の考古学） ・20世紀の考古学の到達点（光と陰）前期旧石器年蔵事件 ・21世紀の考古学（大学考古学への回帰・学際的研究）</p> <p>11回目 発掘された日本の遺跡 ・発掘されたさまざまな遺跡と遺構の種類 ・遺跡公園と博物館</p> <p>12回目 遺跡の実際 ・課題の研究発表</p> <p>13回目 具体的研究事例の紹介（1） ・環境変化への適応（旧石器時代－縄文時代移行期の環境変化と道具の変化）</p> <p>14回目 具体的研究事例の紹介（2） ・縄文時代前半期の黒曜石の流通について</p> <p>15回目 まとめ ・春semesterの総括</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考古学の基本的な考え方・概念を理解し、説明することができる。 ・世界及び日本の考古学の歴史について概要を理解し、説明することができる。 ・遺跡の種類、遺構の種類を理解し、説明することができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館・埋蔵文化財センターあるいは発掘調査の現地説明会などに足を運び、実物資料をよく見ること。できれば触って感触を確かめること。

評価方法	授業の総括（70％） 最終授業時に実施する。配布資料・ノートの持ち込み可 平常点（30％） 授業時に出される課題・小テスト・授業態度から総合的に評価する。 遠隔授業の場合も同じ。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	発掘調査への参加希望者および博物館学芸員課程受講者は実習の基礎となる考え方を示しますので、できるかぎり受講してください

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日本列島における文化のあゆみを考古学資料をもとに紐解きます。時代ごとに生活基盤・社会構造・精神文化・時代の変化の流れを紹介しますので、その違いを学び取ってください 日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。</p> <p>このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にとどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合はオンデマンド型で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 旧石器時代の考古学（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石器群の変遷 ・旧石器時代の狩猟活動 ・旧石器時代の地域性 <p>2回目 旧石器時代の考古学（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩宿遺跡とナウマンハンター <p>3回目 縄文時代草創期の石器群の変遷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新世から完新世にかけての環境変化 ・草創期の石器群 <p>4回目 土器の出現・縄文時代の始まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草創期の土器群の変遷 ・C14較正年代 <p>5回目 縄文時代の考古学（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器の変遷（早期～晩期） <p>6回目 縄文時代の考古学（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文石器の種類と変遷 ・黒曜石の流通 ・けつ状耳飾と硬玉大珠 ・石棒・石剣 <p>7回目 縄文時代の考古学（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文集落の変遷 ・墓制の変遷 ・縄文時代の生業（狩猟・植物利用・漁撈など） <p>8回目 弥生時代の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の集落と社会 ・弥生土器の変遷 ・弥生石器の変遷 <p>9回目 古墳時代の考古学（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳の変遷 ・埴輪の変遷と種類 ・甲冑と装身具 <p>10回目 古墳時代の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳時代の集落と社会（テフラに埋もれた古墳時代のムラ） ・土師器の変遷 ・古墳時代の生業（農業・林業・工業） <p>11回目 古代の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代の集落 ・須恵器と鉄の生産 ・官衙と寺院 ・古代道路と牧 <p>12回目 中世の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世居館と都市 ・中世石造物の変遷 <p>13回目 城郭の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城郭の変遷 ・天下普請と石切丁場 <p>14回目 近世の考古学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸の考古学 ・天明の噴火と農村社会 <p>15回目 まとめ 授業の総括</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・旧石器時代～近世にいたる各時代の特質と変化のプロセスを説明できる ・古代～近世における考古学研究・考古学資料の意義を説明できる

授業時間外の学習	・博物館・埋蔵文化財センターあるいは発掘調査の現地説明会などに足を運び、実物資料をよく見ること。できれば触って感触を確かめること。
評価方法	授業の総括（70%） 平常点（30%） 授業時に出される課題・小テスト・授業態度により総合的に評価する。 遠隔授業の場合も同じ。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
世界と日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、考古学資料のうち旧石器、縄文石器、縄文土器の分析・観察・記録の基本的方法を学びます。また、考古学の研究方法についての基本文献を講読します。そして、内容を理解して要約文を作成します。日本文化の特質を、多様な文化との比較・交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します） なお、遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型・オンデマンド型を併用します。
授業計画	<p>1回目 考古資料の特徴と分類</p> <ul style="list-style-type: none"> 考古資料の特徴と研究方法（型式学について） 考古資料の分類（土器・石器・金属器・木器・骨角器など） <p>2回目 旧石器の分析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 石器の観察方法（原人の石器・旧人の石器・新人の石器の違い） 石器図化の方法（超焦点撮影法と3D計測法） <p>3回目 旧石器の図化（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧石器の観察と図化作業の実践（各自与えられた石器の実測） <p>4回目 旧石器の図化（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧石器の観察と図化作業の実践（各自与えられた石器の実測） <p>5回目 縄文石器の分析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文石器の特徴と分類方法 打製石器の観察方法（直接打撃と押圧剥離） <p>6回目 縄文石器の製作実験</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒曜石で石鏃を製作 <p>7回目 縄文土器の分類・観察方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文土器の編年表の見方 時期ごとの土器の違い <p>8回目 縄文土器の観察と縄文原体の製作・施文</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文施文の観察 縄文原体の製作・施文 <p>9回目 縄文土器の実測・拓本作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 縄文土器の拓本と断面図を作成する <p>10回目 古代の土器の分析方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 土師器・須恵器の観察・分析方法 埴輪の観察・分析方法 編年表の見方 <p>11回目 基本文献の講読（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献の輪読 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） <p>12回目 基本文献の講読（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献の輪読 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） <p>13回目 基本文献の講読（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献の輪読 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） <p>14回目 基本文献の講読（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献の輪読 要約文の作成と発表（授業後に課題として提出） <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	考古学資料の観察・研究の方法を理解し、実践することができる。 考古学の基本的研究方法の成立過程と内容を理解することができる。
授業時間外の学習	考古資料を博物館などで実際に観察する。 考古学の概説書や論文などを読み、考古学の基礎知識を習得できるようにする。
評価方法	平常点：資料操作成果物（20%）、製作物（20%）、拓本・石器実測図（20%）、文献要約文作成（40%） 遠隔授業の場合も同様です
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	考古学フィールドワーク受講者は併せて受講することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>夏季に実施した発掘調査の資料を用いて分析・研究・報告方法について学びます。また、考古学の研究論文を講読し、要約文を作成します。本講義の受講者は、考古学演習Ⅰと考古学フィールドワークを受講し、夏季の発掘調査に参加することが望ましい。日本文化の特質を、多様な文化との交流により、総合的に説明できる。学習成果の指標はA-①です。</p> <p>このうち2回は遠隔授業で実施します。（授業前にどの授業が遠隔授業になるか指示します）なお、遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型・オンデマンド型を併用します。</p>
授業計画	<p>1回目 夏季発掘調査の資料の確認と遺物整理計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出土遺物の数量把握を行う ・遺物整理の計画を作成する。 <p>2回目 資料の基本的整理作業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺物台帳の整理 ・写真台帳の整理 <p>3回目 資料の基本的整理作業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場図面の整理 <p>4回目 遺物の写真撮影（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書掲載用の写真撮影 <p>5回目 遺物の写真撮影（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長焦点法による遺物の写真撮影の実施 ・3D画像の作成 <p>6回目 遺物実測図・拓本の作成（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器・石器の実測図作成 <p>7回目 遺物実測図・拓本の作成（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土器・石器の実測図作成 <p>8回目 遺物図版の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺物トレース図の作成 <p>9回目 写真図版の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場写真図版の作成 ・遺物写真図版の作成 <p>10回目 考古学の研究論文の講読（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の輪読 ・研究論文の要約文作成（授業後に課題として提出） <p>11回目 考古学の研究論文の講読（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の輪読 ・研究論文の要約文作成（授業後に課題として提出） <p>12回目 考古学の研究論文の講読（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の輪読 ・研究論文の要約文作成（授業後に課題として提出） <p>13回目 考古学の研究論文の講読（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の輪読 ・研究論文の要約文作成（授業後に課題として提出） <p>14回目 考古学の研究論文の講読（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の輪読 ・研究論文の要約文作成（授業後に課題として提出） <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	考古学資料の観察・研究の方法を理解し、研究を実践することができる 実際の考古学の研究論文を理解し、内容を要約することができる。
授業時間外の学習	これまでの調査によって得られている資料の観察などを積極的に行うこと
評価方法	平常点：遺物整理作業に取り組む態度（30%） 実測図作成（20%）、課題の提出（50%） 遠隔授業の場合も同様です
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。

備考	考古学フィールドワーク受講者は出来る限り合せて受講してください
----	---------------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本学が今年度から調査を行う（仮称）聖地公園遺跡の発掘調査と遺物整理のための基礎的な方法およびその活用と、夏季調査のための測量の実技を学びます。Ⅰ（春semester）とⅡ（秋semester）を必ずあわせて受講すること。なお、考古学専攻以外の学生も受講できます。教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。</p> <p>遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型・オンデマンド型を併用します。</p>
授業計画	<p>1回目 2018年度までの中根八幡遺跡調査の成果と課題</p> <p>2回目 縄文土器実測の方法</p> <p>3回目 中根八幡遺跡縄文土器の拓本（原理）</p> <p>4回目 中根八幡遺跡縄文土器の拓本（実習）</p> <p>5回目 中根八幡遺跡縄文土器の断面実測（原理）</p> <p>6回目 中根八幡遺跡縄文土器の断面実測（実習）</p> <p>7回目 縄文石器の分類・観察</p> <p>8回目 縄文石器の実測（1）</p> <p>9回目 縄文石器の実測（2）</p> <p>10回目 野外調査の技術1 レベルの使用法</p> <p>11回目 野外調査の技術2 平板による平面図作成（原理）</p> <p>12回目 野外調査の技術3 平板による平面図作成（実習）</p> <p>13回目 野外調査の技術4 平板による等高線作成（原理）</p> <p>14回目 野外調査の技術5 平板による等高線作成（実習）</p> <p>15回目 本年度調査の方針</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器の製作方法について理解することができる。 ・縄文石器の製作方法について理解することができる。 ・考古学資料の活用について理解することができる ・基礎的な実測技術・測量技術を修得する。 ・地層の堆積状態と観察方法について理解することができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の発掘調査には必ず参加すること。 ・これまでの調査で出土した資料の整理・報告書作成に積極的に参加すること。
評価方法	平常点。積極的・自主的に実習に参加する度合いで評価する。遠隔授業の場合も同様です。
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	出来る限り考古学演習Ⅰも受講してください。

講義科目名称： 考古学フィールドワークⅡ

授業コード： 222004

英文科目名称： Field Work of Archaeology 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	1単位	フィールド選択必修
担当教員			
大工原 豊 准教授			
日本の考古学			
添付ファイル			

授業の概要	<p>秋セメスターでは夏季の発掘調査を実施した（仮称）聖地公園遺跡から出土した縄文土器・石器の遺物の整理の実務をおこない、報告書にまとめます。本講座受講者は、Ⅰ（春セメスター）とⅡ（秋セメスター）を必ずあわせて受講すること。</p> <p>なお、整理の理論的な問題、写真整理については「考古学演習Ⅱ」で行うので、あわせて受講することが望ましい。</p> <p>本講座では、夏季の調査で出土した埴輪などの遺物の整理作業を実際におこない、その成果を報告書にまとめます。なお、12月に数日間、出土した土器・石器の整理作業・図面整理作業・報告書作成作業を行う。教養科目と専門科目の学習を通じて、幅広い視野・知識・技能とコミュニケーション能力を身につけ、希望の進路に進むことができる。学習成果の指標はA-③です。</p> <p>遠隔授業の場合、課題型・リアルタイム双方向型・オンデマンド型を併用します。</p>
授業計画	<p>1回目 調査成果の検討</p> <p>2回目 現場図面の整理1 第二原図の作成</p> <p>3回目 現場図面の整理2 図面のデジタルデータ化</p> <p>4回目 遺物の整理1 洗浄</p> <p>5回目 遺物の整理2 注記</p> <p>6回目 遺物の整理3 台帳化</p> <p>7回目 遺物の整理4 抽出</p> <p>8回目 土器の整理1 拓本</p> <p>9回目 土器の整理2 断面図作成</p> <p>10回目 石器の整理1 石器観察</p> <p>11回目 石器の整理2 石器実測</p> <p>12回目 石器の整理3 石器実測</p> <p>13回目 報告書の記載方法 土器</p> <p>14回目 報告書の記載方法 石器</p> <p>15回目 調査の総括</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文土器の観察と図化を行うことができる。 ・縄文石器の観察と図化を行うことができる。 ・遺物整理の流れを理解することができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の発掘調査（8月下旬～9月上旬を予定、実費負担）には必ず参加すること ・これまでの調査で出土した資料の整理・報告書作成に積極的に参加すること
評価方法	<p>平常点：調査への参加（50%）、整理作業への取り組み方（50%） ※調査が実施できない場合は整理作業のみで判断します。</p>
テキスト	授業時配布の資料を使用する。
参考書	授業時に紹介する。
備考	出来る限り考古学演習Ⅱも受講してください。

講義科目名称： 文化財学

授業コード： 111002

英文科目名称： Cultural Heritage

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>文化財学は主に文字を使わない資料を対象にして、歴史を研究する学問である。文化財保護法と体系化された文化財の枠組みや指定・登録制度をはじめ、文化財がいつ、どのような背景で作られたのかなどを知るための技術や専門知識の基礎を説明する。なお、学習成果指標はA-①である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業位なった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション -文化財とは何か-</p> <p>2回目 文化財保護法と文化財の枠組み</p> <p>3回目 文化財の基礎知識1 -有形文化財と伝統的建造物群-</p> <p>4回目 文化財の基礎知識2 -社寺建築-</p> <p>5回目 文化財の基礎知識3 -住宅建築-</p> <p>6回目 文化財の基礎知識4 -甲冑と刀剣-</p> <p>7回目 文化財の基礎知識5 -木工芸-</p> <p>8回目 文化財の基礎知識6 -漆工芸-</p> <p>9回目 文化財の基礎知識7 -やきもの（土器）-</p> <p>10回目 文化財の基礎知識8 -やきもの（陶磁器）-</p> <p>11回目 文化財の基礎知識9 -彫刻（仏像）-</p> <p>12回目 文化財の基礎知識10 -民俗文化財-</p> <p>13回目 文化財の基礎知識11 -史跡と埋蔵文化財-</p> <p>14回目 文化財の基礎知識12 -文化的景観と世界遺-</p> <p>15回目 文化財と自然科学</p>
到達目標	文化財とは何かやその役割、文化財の専門的基礎知識が身につく。また、その知識の獲得により、文化財の歴史的価値を理解できる。
授業時間外の学習	興味のある文化財について、博物館や図書館を利用してより深い知識を得る。
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基準にして、総合的に評価する。遠隔授業の場合は、レポート（50%）および授業への参加意欲（50%）を総合して評価する。
テキスト	授業前に資料を配布する。
参考書	井上光貞『図説 歴史散歩辞典』山川出版社 1979
備考	

講義科目名称： 文化財の保護

授業コード： 211007

英文科目名称： Protection of Cultural Properties

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修 資格必修
担当教員			
鈴木一男 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>明治維新やその後の敗戦など、近現代史上の大きな変革期を経て、文化財保護思想が芽生え、発展していく過程を概観し、その中で現在の文化財の枠組みが構成されてきたことを説明する。また、各類型ごとの保護制度や継承のための取組みを学び、文化財保存と活用の視点から今日的課題について触れる。なお、学習成果の指標はA-①である。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と②同時・双方向型学修（「Google Meet」を利用）とを組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション - 「文化財の保護」で学ぶこと -</p> <p>2回目 戦前の文化財保護制度</p> <p>3回目 文化財保護法の成立</p> <p>4回目 文化財保護法の改正</p> <p>5回目 無形文化財の保護 1 - 芸能 -</p> <p>6回目 無形文化財の保護 2 - 工芸技術 -</p> <p>7回目 民俗文化財の保護 1 - 有形・無形民俗文化財 -</p> <p>8回目 民俗文化財の保護 2 - 民俗技術 -</p> <p>9回目 記念物の保護 1 - 史跡と名勝 -</p> <p>10回目 記念物の保護 2 - 天然記念物 -</p> <p>11回目 伝統的建造物群の保護</p> <p>12回目 文化的景観の保護</p> <p>13回目 文化財保存技術の保護</p> <p>14回目 埋蔵文化財の保護</p> <p>15回目 これからの文化財保護</p>
到達目標	文化財保護制度の歩みを近現代史との関係で捉えられ、文化財に対する考え方や枠組みの変化を正しく理解して、今日的な課題に発展させることができる。
授業時間外の学習	身近に存在する文化財の保存と活用の実際についてまとめ、今後の課題を展望する。
評価方法	小テストないし授業時のレポート（70%）、授業への参加意欲（30%）を基にして、総合的に判断する。遠隔授業の場合は、レポート（50%）および授業への参加意欲（50%）を総合して評価する。
テキスト	事前に講義資料を配布する。
参考書	文化庁文化財部監修「月刊文化財」 第一法規株式会社
備考	

講義科目名称： 人文地理学

授業コード： 125002

英文科目名称： Human Geography

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この授業は、人文地理学の方法論とその実践例について学ぶことを目標とする。人文地理学とは、地理的条件の生成や相互関係の分析から、一般的な原理を導き出そうとする系統地理学のうち、政治・経済・社会・文化や伝統などの人文的条件に着目する学問である。人文地理学の手法を実践例から学ぶことによって、身近な地域についても地理学的に考える力を育む。なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修 (Google Classroom) と、③オンデマンド型学修 (Google Meet) を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1 回目 人文地理学の方法</p> <p>2 回目 人口の地理学</p> <p>3 回目 村落の地理学</p> <p>4 回目 都市の地理学</p> <p>5 回目 農業の地理学</p> <p>6 回目 工業の地理学</p> <p>7 回目 商業・流通の地理学</p> <p>8 回目 観光の地理学</p> <p>9 回目 政治の地理学</p> <p>1 0 回目 文化の地理学</p> <p>1 1 回目 歴史地理学① 歴史地理学の手法</p> <p>1 2 回目 歴史地理学② 古代都市</p> <p>1 3 回目 歴史地理学③ 古代道路</p> <p>1 4 回目 歴史地理学④ 条里制</p> <p>1 5 回目 まとめ</p>
到達目標	人文地理学の方法論を身につけ、自分の生活する地域を分析することができる。様々な地域の地域的特性を知ることで、日本の地理を深く理解することができる。
授業時間外の学習	授業プリントを読み返して理解を確認すること。 紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。 日頃から紙媒体やWebの地図を見るように心がけること。
評価方法	授業ごとのコメントペーパー (30%) 学期末の試験 (70%) ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。
参考書	上野和彦ほか『地理学概論』 (朝倉書店) 竹中克行ほか『人文地理学』 (ミネルヴァ書房)
備考	中学・高校地理などで利用した地図帳を用意することが望ましい。 なお、対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する可能性がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1 年次	2 単位	フィールド選択必修
担当教員			
山川信之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業では、自然地理学的立場から自然環境の諸要素である地形、気候、植生、土壌の成り立ちやつながりについて学習する。また、自然災害や環境問題にも目を向け、自然環境についての正しい理解が防災や環境保全につながることを理解する。さらに、世界と比較しながら日本の自然環境の特色について理解を深める。授業は学習資料とパワーポイント教材を使った講義を中心に、学習内容確認のためのワークシートを配布する。なお、遠隔授業を実施する場合は、同時・双方向型学修（Google Meetを利用）と合わせたハイブリッド授業とし、時間割通りの時間で実施する。また、全体が遠隔授業となった場合にも同様にGoogle Meetを利用した遠隔授業を行う。学習成果の指標はA-①およびA-③とする。</p>
授業計画	<p>1 回目 自然地理学と自然環境の捉え方 ガイダンスとして自然地理学の地理学における位置づけについて確認する。また、さまざまな自然景観や自然現象を取り上げ、それがどのようにして成り立っているのかについて学習する。それにより自然環境は、一つの要素だけで成り立っているのではなく、様々な要素から成り立っていることを理解する。</p> <p>2 回目 地球について知ろう 地球の大きさや内部構造、地球を取り巻く大気など地球の概観について学習する。それによって地球がどのような特色を持つ天体であるかを理解する。</p> <p>3 回目 世界の大地形 大陸移動や大山脈の形成など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それにより地球の陸地が3つの形成時代の異なる地形に分けられることについて理解する。</p> <p>4 回目 地震と災害 地震が引き起こされるメカニズムと地震によって起こる災害について学習する。それによって日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。</p> <p>5 回目 火山がつくる地形と火山災害 火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害についても言及する。それによって日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。</p> <p>6 回目 気候の成り立ち 気温、降水量、風という気候要素に対し、緯度や隔海度、標高、海流、地形などの気候因子にどのような影響を及ぼすかについて学習する。それによりさまざまな気象現象や気候が生じることを理解する。</p> <p>7 回目 ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方 中高の教育課程で用いられるケッペンの気候区分について学習する。それによりケッペンの気候区分の基本的な考え方として気温と降水量に加え、植生帯も気候区分の重要な指標になる事ことを理解する。</p> <p>8 回目 日本の気候と気候区分 日本の気候と気候区分について学習する。それにより日本の気候の全般的な特色や各気候区の特徴および日本の気候に影響を与える気団や気象現象について理解する。</p> <p>9 回目 気象災害 日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害について学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それにより気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて理解する。</p> <p>1 0 回目 第四紀の気候変動 第四紀に起きた氷河期や小氷期、亜間氷期の気候変動でどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。</p> <p>1 1 回目 世界および日本の土壌 土壌の生成過程について学習する。それにより土壌の生成には基盤岩の風化だけでなく、生物学的および化学的変質を受けながら層位に分化した土壌層を形成することを理解する。また、成帯土壌の生成過程では、気候や植物の影響が大きいことを理解する。さらに、世界や日本にはどのような土壌が分布するのかについても理解する。</p> <p>1 2 回目 日本の植生帯 日本の植生帯とその成り立ちについて学習する。それにより日本の植生帯は気候環境に対応した水平分布と標高によって成り立つ垂直分布があることを理解する。</p> <p>1 3 回目 地球温暖化と自然環境への影響 地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それにより温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。</p> <p>1 4 回目 人為が引き起こすさまざまな環境問題 熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それにより人為的影響が自然環境の破壊につながっていることについて理解する。</p> <p>1 5 回目 自然地理学の社会的貢献と学習内容のまとめ</p>

	これまでの学習内容をもとに、自然地理学がどのような形で社会貢献しているのかについて学習する。
到達目標	世界および日本の地形や気候の成り立ちについて基本的な知識を身につけ、日本の自然環境の特色について説明できる。また、自然地理学の知識を防災や減災に活用し、社会に貢献できる。
授業時間外の学習	予習については、授業の終わりに次回の授業の予告とそれに関する予習内容を指示する。また、事前に学習資料をクラスルームに配信するので一読しておく。復習については、毎時間、ワークシートを配布するのでそれを完成させ、次回に授業の際に提出する。授業時間外の学習時間は予習と復習を合わせて150分程度とする。
評価方法	平常点15%（毎回のワークシートの提出）、中間課題35%（レポート）、期末試験またはレポート50%（遠隔授業になった場合や新型コロナウイルス感染が拡大した場合はレポート）とし、合計100%で評価する。
テキスト	特になし、毎回の授業で学習資料を配布する。
参考書	授業の中で必要に応じて指示する。
備考	出席は毎回取ります。授業内容に関する質問や授業への要望があれば、出席票の裏面に記入してください。次の時間に回答します。

講義科目名称： 日本地誌

授業コード： 225003

英文科目名称： Japanese Topography

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中 大輔 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>この授業は、地誌学（地域地理学）の視点から、「日本」という地域について理解することを目標とする。地誌学（地域地理学）とは、地理的条件の分析から一定の地域（場所）の特質を総合的に理解しようとする学問である。地理的条件には、地形や気候などの自然的条件と、文化・経済・政治などの人文的条件があるが、それらを総合的に分析することで、「日本」という地域、また「日本」のなかの諸地域の特性について学んでいく。なお、学習成果の指標は A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合は、①課題型学修（Google Classroom）と、③オンデマンド型学修（Google Meet）を組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 地誌学の方法</p> <p>2回目 世界の中の日本</p> <p>3回目 日本の気候</p> <p>4回目 日本の地形</p> <p>5回目 日本の地域区分</p> <p>6回目 北海道地方の地誌</p> <p>7回目 東北地方の地誌</p> <p>8回目 中部地方の地誌</p> <p>9回目 近畿地方の地誌</p> <p>10回目 中国・四国地方の地誌</p> <p>11回目 九州・沖縄地方の地誌</p> <p>12回目 関東地方の地誌</p> <p>13回目 栃木県の地誌</p> <p>14回目 歴史の中の地誌—風土記を読む—</p> <p>15回目 日本の地誌（まとめ）</p>
到達目標	<p>地誌学（地域地理学）の方法で、日本の地域的特性を理解することができる。</p> <p>地図から地理的条件を読みとり、分析できる。</p> <p>日本の地域的特性を知ること、他地域との比較をおこなうことができる。</p>
授業時間外の学習	<p>授業プリントを読み返して理解を確認すること。</p> <p>紹介した参考書などを図書館などで読んでみる。</p> <p>ニュースや新聞などで地域情報に関心を持つこと。</p>
評価方法	<p>授業ごとのコメントペーパー（30%）</p> <p>学期末の試験（70%） ※遠隔授業に変更した場合はレポートとする</p>
テキスト	<p>指定しない。毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>矢ヶ崎典隆ほか『地誌学概論』（朝倉書店）</p> <p>中村和郎ほか『日本の地誌』1～10巻（朝倉書店）</p>
備考	<p>中学・高校地理などで利用した地図帳を用意することが望ましい。</p> <p>なお、対面での講義を基本とするが、最大2回ほど遠隔授業を実施する場合がある。その際は、Classroomなどで事前に告知をする。</p>

講義科目名称： 宗教学概論

授業コード： 254004

英文科目名称： Outline of Religious Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>世界の宗教から文化・文明の多様性を知ること、現代社会の情勢を多面的に理解する力を養う。諸民族における宗教的起源の概要と儀礼を比較するほか、教義・祈祷などの諸要素の概略を学ぶ。講義で扱う内容は、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、儒教、道教、神道で、各宗教について2回程度の講義を行う。</p> <p>遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、③オンデマンド型学修(Google Meetを利用)で実施する。 学習成果の指標はA - ①とB - ①である。</p>
授業計画	<p>1回目 現代社会と宗教</p> <p>2回目 ユダヤ教・1 (概要と聖典・律法)</p> <p>3回目 ユダヤ教・2 (宗派の形成と儀礼・年中行事)</p> <p>4回目 キリスト教・1 (概要と聖典・開祖)</p> <p>5回目 キリスト教・2 (宗派と儀礼)</p> <p>6回目 イスラム教・1 (概要と開祖・聖典)</p> <p>7回目 イスラム教・2 (儀礼と聖戦)</p> <p>8回目 仏教・1 (概要と開祖・宗派)</p> <p>9回目 仏教・2 (経典と教義)</p> <p>10回目 ヒンドゥー教・1 (概要と教義)</p> <p>11回目 ヒンドゥー教・2 (宗派と儀礼)</p> <p>12回目 中国の宗教と思想・1 (儒教)</p> <p>13回目 中国の宗教と思想・2 (道教)</p> <p>14回目 神道・1 (概要と歴史)</p> <p>15回目 神道・2 (祭祀と伝統)</p>
到達目標	<p>諸宗教から宗派・民族による習慣・伝統の相違を学ぶことで、世界の宗教の概略を理解し、説明することができるようになる。</p> <p>宗教的価値の多様性に関する基礎知識を得て、文化や価値の相対性を客観的に考察する能力を培う。</p> <p>広汎かつ多元的な価値観の根源を歴史的観点から考察することで、国際社会に対応する基礎知識を獲得する。</p> <p>宗教・文化の基礎知識を身につけることで、社会情勢の論点を的確に把握して説明できる能力を習得する。</p>
授業時間外の学習	<p>本講座を受講するにあつて予習は不可欠である。予めテキストを一読し、新しい概念・キーワードを調べておくこと。また、講義後には復習をして知識の定着をはかること。</p>
評価方法	<p>小テスト・レポート (40%) 最後の授業での小テスト (40%) 授業への参加意欲 (20%)</p> <p>遠隔授業に変更した場合はレポート (50%) 平常点 (50%)</p>
テキスト	岸清香『基礎から学ぶ宗教と宗教文化』勁草書房 2022 (令和4) 年

参考書	授業時指示
備考	

講義科目名称： 倫理学

授業コード： 145003

英文科目名称： Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
渡辺瑞穂子 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>倫理学とは、倫理・人倫の思想と歴史を学ぶだけでなく、人間の生き方や社会のあり方を問う学問である。講義を通じて自己と他者の関係、幸福の意味、義務感、自由・平等などの基本的な概念の知識を得るだけでなく、現代社会が直面する諸問題において求められる倫理的な基準や論点を理解し、考察する能力を養う。</p> <p>本講座では、まず、西洋の代表的倫理思想から、倫理学説の根拠となる価値観・人間観を中心に概説する。次に、倫理に関わる問題として現代社会の諸相を学び、更に深く自ら考究して、受講生が発表を行う。</p> <p>遠隔授業の場合は、①課題型学修(Google Classroomを利用)、②双方向型学修(Google Meetを利用)で実施する。</p> <p>学習成果は、A - ③、B - ③である。</p>
授業計画	<p>1回目 倫理学とは</p> <p>2回目 倫理学の歴史と学問分野</p> <p>3回目 幸福主義</p> <p>4回目 義務論 (カントの定言命法)</p> <p>5回目 徳倫理学 (アリストテレスの思想)</p> <p>6回目 道徳判断 (善悪の基準)</p> <p>7回目 道徳 (ニーチェと批判)</p> <p>8回目 自己主体性 (自己と他者)</p> <p>9回目 市民社会の倫理 (個人と社会)</p> <p>10回目 正義と自由 (社会正義)</p> <p>11回目 医療倫理 (現代社会の生と死)</p> <p>12回目 環境問題 (自然破壊と倫理)</p> <p>13回目 科学技術 (情報化社会とAI)</p> <p>14回目 日本的倫理観・1</p> <p>15回目 日本的倫理観・2</p>
到達目標	<p>西洋の代表的倫理思想から基礎的な倫理学説を習得する。現代社会において倫理学と関わる諸問題への理解を深める。基礎的な知識を習得し、広汎な現象に及ぶ諸相を把握した上で、更に深く自ら考究して、倫理的考察を行い、文章化する。社会問題として偏在する、倫理的な価値観を主体的に言葉で説明できる能力を身につける。</p>
授業時間外の学習	<p>本講座を受講するにあつて予習は不可欠である。予めテキストを一読し、新しい概念・キーワードを調べておくこと。また、その内容を要約し要旨を発表出来るようにすること。</p>
評価方法	<p>小テスト (30%) 授業時の発表 (40%) 授業への参加意欲 (30%)</p> <p>遠隔授業に変更した場合はレポート (50%) 平常点 (50%)</p>
テキスト	<p>柘植尚則『プレップ倫理学[増補版]』弘文堂 2022 (令和4)年</p>

参考書	授業時指示
備考	

講義科目名称： 政治学

授業コード： 255002

英文科目名称： Politics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
杉山 亮 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業では、日本人が歴史の中で政治という営みをどのように行ってきたのかを、近現代を中心に講義していきます。それぞれの時期における政治の特徴を、思想的背景から理解していきます。授業全体を通じて、国際社会の中で日本がどのような道を歩んできたのか、またこれから歩いていくのかを考えていきたいと思ます。</p> <p>本授業は対面授業を中心に実施しますが、遠隔授業になった場合は③オンデマンド型学修（「Google Classroom」を利用）により実施します。 なお、学習成果の指標はA-③とB-③である。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめに——明治維新</p> <p>2回目 ルールを作るための闘争—明治国家の権力闘争</p> <p>3回目 憲法構想の諸相</p> <p>4回目 憲法制定と初期議会</p> <p>5回目 日清戦争</p> <p>6回目 日清・日露両戦間期の外交と内政</p> <p>7回目 日露戦争</p> <p>8回目 勝者の混迷—大正政変と明治国家の崩壊</p> <p>9回目 第一次世界大戦と日本</p> <p>10回目 政党政治の爛熟と崩壊</p> <p>11回目 統治機構の遠心的崩壊—満州事変から二・二六事件</p> <p>12回目 第二次世界大戦</p> <p>13回目 敗戦と革命的改革</p> <p>14回目 55年体制の成立と高度経済成長</p> <p>15回目 冷戦の終焉と成長の限界</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政治の歴史と思想に関する基本的知識を身につける。 ・民主主義、立憲主義、自由主義といった政治学の基本概念を理解する。
授業時間外の学習	<p>授業の前後にプリントやノートを読み、講義内容を自分なりに整理しておくこと。分からない用語・人名などについて各自で調べておくこと。</p>
評価方法	<p>毎回のコメント・質問シート（30%）：各講義に対する理解度を評価する</p> <p>最終レポート（70%）：授業全体の目標への到達度を評価する</p> <p>遠隔授業に変更した場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>特に指定しない。講義ごとにプリントを配布する。</p>
参考書	<p>北岡伸一『日本政治史——外交と権力』増補版、有斐閣、2017年</p> <p>清水唯一朗ほか『日本政治史—現代日本を形作るもの』有斐閣、2020</p> <p>御厨貴ほか『日本政治史講義—通史と対話』有斐閣、2021</p> <p>佐々木雄一『近代日本外交史—幕末の開国から太平洋戦争まで』中央公論新社、2022年</p> <p>*その他の参考文献は授業内で紹介する。</p>
備考	

講義科目名称： 経済原論

授業コード： 224003

英文科目名称： Principles of Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	フィールド選択必修
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>私たちが生活する資本主義社会の経済法則の基礎を学ぶ。その基礎がどのような構造を形成し、いかなる現象として顕現するかを理解する。</p> <p>商品、貨幣、価格、利子など毎日接しているながら実はブラックボックスのようになっている概念（物象）に関心を持つことから始めます。講義の性格上、抽象性が高くなるが、なるべく主として日本経済に関わる実例を引きながらイメージしやすいものにしていきたい。学習成果の指標はA-①です。</p> <p>尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 経済を学ぶ意味</p> <p>2回目 経済学の対象と方法</p> <p>3回目 経済学の効用</p> <p>4回目 市場経済メカニズム1 商品生産と売買</p> <p>5回目 市場経済メカニズム2 需要供給と価格</p> <p>6回目 市場経済メカニズム3 市場の失敗と外部経済</p> <p>7回目 貨幣の機能1 価値尺度と流通手段</p> <p>8回目 貨幣の機能2 蓄蔵機能と支払い手段</p> <p>9回目 インフレーションと物価上昇</p> <p>10回目 貿易と外国為替</p> <p>11回目 企業と利潤1 企業形態と株式会社</p> <p>12回目 企業と利潤2 資本とは何か、利潤極大化</p> <p>13回目 企業と利潤3 賃金の本質と形態</p> <p>14回目 企業組織と活動領域</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	市民社会における生活者として自分を取り巻く経済問題を読み解く力の育成を目的とする。特に、選挙権行使の際に経済分野において自身の見解をもてるようにする。
授業時間外の学習	授業時に翌週授業時まで読んでくるテキスト部分を指示するので、その指示に従うように。適宜、新聞、雑誌等の資料を配布する。それもその都度、指示する。
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度30%、授業時小テスト70%で評価する。
テキスト	適宜、プリント配布
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代の情報社会において、コンピュータの利用は当たり前になっています。特にパソコンの仕組みの理解や、タッチタイピングはもちろん、ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトなどの習得は、文字の読み書きと同じレベルで必須になりつつある状況です。この講義では、演習を通して、こうした基礎的な「コンピュータ・リテラシー」について習得を行います。大学においてはレポートを書いたり、そのレポートのためのデータを作成したり、あるいは発表をしたりすることは多いです。ビジネスにおいても、ビジネス文書の作成に、データ作成もプレゼンも日常茶飯事で、利用例は枚挙にいとまがありません。習得には日々の反復が重要であるため、コンピュータを毎日触る習慣をつけていきましょう。</p> <p>なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 機器の構成とパソコンの仕組み</p> <p>3回目 ファイルの概要</p> <p>4回目 グループウェアの活用：基本的なG Suiteの利用方法</p> <p>5回目 Wordの基本機能</p> <p>6回目 Wordの図表の挿入</p> <p>7回目 Word演習①（習得した機能を利用したレポートの作成練習）</p> <p>8回目 Word演習②（習得した機能を利用したビジネス文章の作成練習）</p> <p>9回目 Excelの基本機能</p> <p>10回目 表とグラフ作成</p> <p>11回目 関数の利用①（合計、平均などの基礎的な関数の使い方の練習）</p> <p>12回目 関数の利用②（IF関数などの基本的な関数の使い方の練習）</p> <p>13回目 プレゼンテーションソフトの利用（PowerPointの概要とスライドの作成）</p> <p>14回目 プレゼンテーションソフトの活用（アニメーションの使い方の練習）</p> <p>15回目 インターネットの利用</p>
到達目標	<p>この講義では、パソコンの基礎的な仕組みの理解とコンピュータや主なソフトウェアの操作方法を習得できます。さらに、習得した操作を使って自分の目的に沿ったものを作成するなどして、コンピュータの使い方のセンスを養えます。コンピュータの使い方の習得における到達目標は「基本的なパソコンの仕組みの理解と機能の習得」「タッチタイピングの習得」「基本的なワープロ機能の習得」「基本的な表計算機能の習得」「基本的なプレゼンテーションソフトの機能の習得」になります。</p>
授業時間外の学習	<p>指定したソフトなどを利用して、出来る限り毎日「タッチタイピング」をしてください。（30分～1時間程度）また、予習は教科書を読み、復習には授業内で毎回課題を出しますので、それを完成させてください。</p>
評価方法	<p>授業内および授業外に行う提出課題で80%の評価を行います。その他、授業への出席などを含めた参加意欲で20%の評価を行います。遠隔授業時も評価方法は同じです。</p>
テキスト	<p>実教出版編集部『30時間でマスター Office2021 (Windows11対応)』（実教出版、2022年）</p>

参考書	授業中に適宜指示します。
備考	<p>授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。</p> <p>コンピュータは毎日触ることが上達への近道です。苦手意識のある人ほど、毎日触ってください。また、情報処理室が利用できない状況（感染症対策等）の場合は、遠隔授業を行います。パソコンの利用方法の授業である以上、手元にパソコンがあることが前提になってしまいます。</p> <p>【必要なパソコン】 Windows用パソコン（推奨：Windows10以降）</p> <p>【必要なソフトウェア】 Word、Excel、PowerPoint</p> <p>これらが必要になります。遠隔授業の時だけでなく、これから大学での生活でも社会に出てからも必要になる可能性が非常に高いものなので、出来れば自分で利用できるものを持っていて欲しいです。</p> <p>【ITパスポート関連科目】※ITパスポートの受験を考えている人はこれらの科目が効率よく学べます 「コンピュータと情報B」「コンピュータと情報C」「情報社会とネットワーク」「基礎経営学」「経営戦略の基礎」「マーケティング」</p>

講義科目名称： コンピュータと情報B

授業コード： 112005

英文科目名称： Computers and Information Data Processing B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代における情報社会は、様々な情報機器を活用しながら日々の生活を行っています。しかし、よく考えてみると、パソコン、スマートフォンなどの情報機器をなんとなく使っていますが、その仕組みについて考えることはほとんどないのではないのでしょうか。</p> <p>本講義では、コンピュータの基礎的な概要の理解とともに、世の中にあるコンピュータと社会とのつながりについて考察をしていきます。国家試験である「ITパスポート」に相当する基本的なレベルを中心に学び、社会とコンピュータの結びつきを捉え、情報の観点から現代社会を見つめていきます。コンピュータの使い方および活用法ではなく、コンピュータの理論などを学ぶことで、情報を取り扱うためのセンスを養いましょう。ITパスポートの受験を考えている人はもちろんのこと、コンピュータが苦手でもコンピュータの世界を知りたい、これからの情報社会について色々考えてみたいという人は一緒に学んでいきましょう。</p> <p>遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-① A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 コンピュータってなに？ コンピュータの構成要素</p> <p>3回目 コンピュータの頭脳① プロセッサ</p> <p>4回目 コンピュータの頭脳② 記憶装置</p> <p>5回目 入出力装置</p> <p>6回目 その他の装置とインタフェース</p> <p>7回目 ソフトウェアの種類</p> <p>8回目 OSの役割</p> <p>9回目 コンピュータの考え方① 文字コードと論理演算</p> <p>10回目 コンピュータの考え方② 基数変換</p> <p>11回目 コンピュータの考え方③ アルゴリズム</p> <p>12回目 コンピュータの考え方④ プログラミング言語の種類</p> <p>13回目 ファイルの種類と形式</p> <p>14回目 アナログとデジタル① 音の処理</p> <p>15回目 アナログとデジタル② 画像の処理</p>
到達目標	この講義では情報に関する様々な概要について習得をしていただきます。「コンピュータシステムの理解」「コンピュータの考え方の理解」とともに、そこに登場する概念などを定着させましょう。
授業時間外の学習	予習は教科書の該当箇所を読み、分からない部分をまとめておきましょう。復習は、該当箇所のノートを見なおしたり、問題を問いたりしましょう。
評価方法	授業内課題（レポートを含む）を30%、期末試験で60%とし、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。
テキスト	ITパスポート試験教育研究会『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集七訂版』（実教出版、2023年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。

備考	<p>授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。</p> <p>【資格関連】 【ITパスポート関連科目】 ※ITパスポートの受験を考えている人はこれらの科目が効率よく学べます 「コンピュータと情報A」「コンピュータと情報C」「情報社会とネットワーク」「基礎経営学」「経営戦略の基礎」「マーケティング」</p>
----	--

講義科目名称： コンピュータと情報C

授業コード： 211003

英文科目名称： Computers and Information Data Processing C

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>現代の情報社会は、スマートフォンやパソコンを利用するような自分たちが意識してコンピュータを使うとき以外にも、様々な場面でコンピュータの活用が行われています。本講義では、世の中にあるコンピュータと社会とのつながりについて考察をしていきます。「コンピュータと情報B」とは違い、コンピュータと社会のつながりを理論的に学びます。国家試験である「ITパスポート」の「テクノロジ系」や「ストラテジ系」に相当する部分を中心に学び、社会とコンピュータの結びつきを捉え、情報の観点から現代社会を見つめていきます。「コンピュータと情報A」や「コンピュータと情報B」を受けた人は特に理解が深まるでしょう。遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-① A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 データと情報</p> <p>3回目 データベースの考え方</p> <p>4回目 統計の考え方</p> <p>5回目 コンピュータシステムの概要</p> <p>6回目 コンピュータシステムの処理形態</p> <p>7回目 コンピュータシステムの評価と信頼性</p> <p>8回目 システム開発の概要</p> <p>9回目 ソフトウェアの開発</p> <p>10回目 UIの重要性</p> <p>11回目 ITにおけるプロジェクトの概要</p> <p>12回目 ITサービスの概要</p> <p>13回目 情報技術の標準化</p> <p>14回目 ビジネスに使われるIT技術</p> <p>15回目 情報倫理</p>
到達目標	<p>この講義ではコンピュータと社会に関する様々な理論について習得をします。「基礎的な情報システムの理解」「基礎的なシステム開発の理解」「情報と社会の関係性の理解」とともに、そこに登場する概念などを定着させることが目標です。</p>
授業時間外の学習	<p>予習は教科書の該当箇所を読み、分からない部分をまとめておきましょう。復習は、該当箇所のノートを見なおしたり、問題を問いたりしましょう。</p>
評価方法	<p>授業内課題（レポートを含む）を30%、期末試験（または期末レポート）で60%とし、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。</p>
テキスト	<p>ITパスポート試験教育研究会『スピードマスター ITパスポート試験 テキスト&問題集 七訂版』（実教出版、2023年）</p> <p>その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。</p>
参考書	<p>授業の中で適宜指示します。</p>

備考	<p>適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。</p> <p>授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。</p> <p>【ITパスポート関連科目】※ITパスポートの受験を考えている人はこれらの科目が効率よく学べます 「コンピュータと情報A」「コンピュータと情報B」「情報社会とネットワーク」「基礎経営学」「経営戦略の基礎」「マーケティング」</p>
----	---

講義科目名称： マルチメディア演習

授業コード： 255003

英文科目名称： Foundation of Multimedia

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	マルチメディア作品の作成に取り組む。作品の設計段階でWord、Excel、PowerPointなどを用いて、イメージを描き出す。演習を通じて、魅力あるコンテンツを作成するための知識と技術を学ぶ。 本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）にて実施する。 また、個々の学生の通信環境、進捗状況に配慮することにより、授業内容の変更が生じる場合もある。 なお、学習成果の指標はA-③である。
授業計画	<p>1回目 ガイダンスーマルチメディアの概観ー</p> <p>2回目 WordとExcelの図形作成ツールを用いたデジタルコンテンツの作成</p> <p>3回目 配色パターン学習とWordによるデジタルコンテンツの作成</p> <p>4回目 PowerPointのアニメーション機能を用いたデジタルコンテンツの作成の基本</p> <p>5回目 PowerPointのアニメーション機能を用いたデジタルコンテンツの作成の応用</p> <p>6回目 PowerPointのアニメーション機能と音声ファイルを用いたデジタルコンテンツの作成</p> <p>7回目 Excelを用いた商品分析による情報の可視化</p> <p>8回目 Excelのグラフ作成ツールによるデジタルコンテンツの作成</p> <p>9回目 ExcelとPowerPointによるヒット商品のヒット要因分析</p> <p>10回目 Excelのピボットテーブルの使い方と情報のまとめ方</p> <p>11回目 就職活動を見据えた自己分析用視覚資料作成演習の基本</p> <p>12回目 就職活動を見据えた自己分析用視覚資料作成演習の応用</p> <p>13回目 就職活動の準備に関する視覚資料作成演習</p> <p>14回目 ライフスタイルに関する視覚資料作成演習</p> <p>15回目 実社会におけるデジタルコンテンツ作成能力の活用方法</p>
到達目標	マルチメディアを理解して、情報発信したい内容をデジタルコンテンツの形で表現することができる。 マルチメディアの理論に基づいて思考し、マルチメディアを説明することができる。 マルチメディア演習の活動において、参加意識を身につける。
授業時間外の学習	画像編集ソフトの使い方について復習を適時行うこと。また、マルチメディア作品を作成するにあたって、デザインに関する講義回数は限られる。そこで、授業時間外では、画像編集を中心としたデザインに関する知識の習得に取り組むこと。
評価方法	毎回の授業時の提出課題100%で評価する。 課題型学修になった場合も評価方法に変更はない。
テキスト	必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行う。
参考書	授業のなかで紹介する。
備考	

講義科目名称： コンピュータグラフィックス

授業コード： 155002

英文科目名称： Computer Graphics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
堀江則之 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>コンピュータグラフィックスソフトのBlenderを用いて、3次元のデジタルコンテンツの作成に取り組む。演習を通じて、コンピュータグラフィックスの利用、活用についての基本的な理解を目指す。</p> <p>本授業は、対面授業を中心に実施するが、遠隔授業になった場合は、課題型学修（「Google Classroom」を利用）にて実施する。</p> <p>また、個々の学生の通信環境、進捗状況に配慮することにより、授業内容の変更が生じる場合もある。</p> <p>なお、学習成果の指標は、A-③である。</p>
授業計画	<p>1回目 本授業の紹介および諸連絡</p> <p>2回目 コンピュータグラフィックスソフトの初期設定、基本操作</p> <p>3回目 基本図形の作成</p> <p>4回目 モデリングの考え方</p> <p>5回目 基本図形によるキャラクター作成入門</p> <p>6回目 基本図形によるキャラクター作成応用</p> <p>7回目 モデリング入門</p> <p>8回目 モデリングの応用</p> <p>9回目 アニメーション作成の概要</p> <p>10回目 アニメーション作成入門</p> <p>11回目 アニメーション作成演習</p> <p>12回目 アニメーション作成の応用</p> <p>13回目 ムービー作成入門</p> <p>14回目 ムービー作成演習</p> <p>15回目 実社会におけるコンピュータグラフィックス作成能力の活用方法</p>
到達目標	<p>コンピュータグラフィックスを理解して、コンピュータグラフィックスについて説明することができる。</p> <p>3次元におけるコンピュータグラフィックスの作成方法に関する理論に基づいて思考し、技術を用いて、デジタルコンテンツとして表現できる。</p> <p>コンピュータグラフィックスの作成活動において、参加意識を身につける。</p>
授業時間外の学習	<p>適時情報収集や課題作成等の反復練習を繰り返すこと、知識と技能の向上を目指すこと。</p>
評価方法	<p>提出課題100%で評価する。</p> <p>課題型学修になった場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	<p>必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行う。</p>
参考書	<p>必要に応じて、紹介を行う。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>ビジネスの現場では、日常のこまごまとしたコミュニケーションは会話で済ませるにしても、大事なやり取りは文書で行われる。ビジネス実務の基本である文書を書く技術を身につけ、発信者の伝えたい情報をビジネス文書の形式で正確に効率的に記述することは、仕事を進めるうえで必須の要件となっている。そのため、国語力を高めるとともに、文書実務の基本を修得する。ワープロソフト（ワード）を活用したパソコン実習を中心に授業を進め、問題演習に、基礎から段階的に学習を進め、実践的な文書作成能力を高める。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 文書の重要性</p> <p>2回目 文書の果たす役割</p> <p>3回目 文書の分類</p> <p>4回目 文章の構成</p> <p>5回目 正確な文章表現</p> <p>6回目 文体の統一</p> <p>7回目 現代表記法（前半）</p> <p>8回目 現代表記法（後半）</p> <p>9回目 縦書きと横書き</p> <p>10回目 敬語の分類と使い方</p> <p>11回目 敬語表現</p> <p>12回目 宛名の敬称</p> <p>13回目 話し言葉と書き言葉</p> <p>14回目 言葉遣い</p> <p>15回目 「文書実務 I」のまとめ</p>
到達目標	ワープロソフト（ワード）の基本的な操作を学ぶ中で、ビジネス文書の基礎的・基本的技術を身に付ける。
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向に注視する。
評価方法	平常点（実技、筆記の小テスト）100% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	河田美恵子『ビジネス文書と日本語表現』改訂2版、学文社、2017年
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
備考	「文書実務 I」の発展的授業として、「文書実務 II」が設定されている。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>「文書実務Ⅰ」の履修を踏まえて、学習を進める。ビジネスの現場では、日常のこまごまとしたコミュニケーションは会話で済ませるにしても、大事なやり取りは文書で行われる。ビジネス実務の基本である文書を書く技術を身につけ、発信者の伝えたい情報をビジネス文書の形式で正確に効率的に記述することは、仕事を進めるうえで必須の要件となっている。そのため、国語力を高めるとともに、文書実務の基本を修得する。ワープロソフト（ワード）に加え、表計算ソフト（エクセル）を活用したパソコン実習を中心に授業を進め、毎回問題演習により段階的に学習を進め、実践的な文書作成能力を高める。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 社内文書の形式と書き方</p> <p>2回目 社外文書の形式と書き方</p> <p>3回目 封筒・返信はがきの書き方と使い方</p> <p>4回目 取引上の文書</p> <p>5回目 社交・儀礼的文書</p> <p>6回目 慶弔の文書と忌み言葉</p> <p>7回目 Eメールの特性</p> <p>8回目 Eメールの言葉遣い</p> <p>9回目 Eメールの基本的書き方</p> <p>10回目 受信・発信文書の取り扱いと通信業務</p> <p>11回目 郵便の基礎知識</p> <p>12回目 押印の知識</p> <p>13回目 押印の仕方</p> <p>14回目 特殊な文書</p> <p>15回目 文書実務Ⅱまとめ</p>
到達目標	ワープロソフト（ワード）との連携の上、表計算ソフト（エクセル）の基本的な操作を学ぶ中で、ビジネス文書の専門的・発展的技術を身に付ける。
授業時間外の学習	日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向を注視する。
評価方法	平常点（実技、筆記の小テスト）100% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	河田美恵子『ビジネス文書と日本語表現』改訂2版、学文社、2017年
参考書	必要に応じてプリントを配布する。
備考	「文書実務Ⅱ」は、「文書実務Ⅰ」の履修を踏まえて、授業を進める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報社会になった現代では、世界中の情報が手に入る状況になりました。特に、インターネットの普及したことが大きな要因となり、我々は世界中から情報を手に入れると同時に世界中に情報を発信することが出来るようになりました。この講義では、インターネットの普及の初期から現在に至るまで利用されているHTMLとCSSを学びます。インターネット上のサービスにあるようなソーシャルメディアを利用せずに情報発信することや、世界中の人と情報共有をするということがどういうことなのかを一緒に考察して、情報社会を生きるセンスを養いましょう。</p> <p>なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。 学習成果の指標：A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 Webサイトの概要</p> <p>3回目 HTMLの概要と基本構造</p> <p>4回目 基本的なタグの記述</p> <p>5回目 画像とリンクに関するタグの記述</p> <p>6回目 表の作成に関するタグの記述</p> <p>7回目 HTMLを利用したコンテンツ作成（演習）</p> <p>8回目 CSSの概要</p> <p>9回目 フォントやテキストに関するCSSの記述</p> <p>10回目 色に関するCSSの記述</p> <p>11回目 ボックスおよび表に関するCSSの記述</p> <p>12回目 クラスやIDを利用したCSSの記述</p> <p>13回目 その他のタグの記述（divなど）</p> <p>14回目 HTMLおよびCSSを利用したコンテンツ作成（総合演習）</p> <p>15回目 ファイルのアップロード</p>
到達目標	<p>「HTMLの概要（ルール）の理解」「HTMLにおける基礎的なタグの習得」「CSSの概要の理解」「基礎的なCSSのタグの習得」といった、Webページを作成するための基礎技術を身につけることが到達目標です。HTMLだけでなく、CSSの記述方法も身につけ、デザインを意識することも念頭に置くようにします。発展的な目標として、言語の書き方のみならず、コンテンツを作成するときの注意事項を身に付けることも目標に出来ると良いでしょう。</p>
授業時間外の学習	<p>予習は、教科書を読んで、余裕があれば実際にHTMLを自分で作ってみてください。復習は、授業中に利用したタグを使って自分のオリジナルのWebページを作ってみましょう。</p>
評価方法	<p>提出課題を40%、期末課題で50%とし、出席などの授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業に切り替えた場合も評価方法は同じです。</p>
テキスト	<p>千貫りこ（著）ロクナナワークショップ（監修）『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSSの本 [Windows 10 & macOS対応版]』（技術評論社、2017年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。</p>
参考書	<p>授業の中で随時紹介します。</p>

備考	授業計画は皆さんの興味や理解度に応じて変更します。 適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。 この科目は「Webデザイン演習」の関連科目です。この科目を受講したあと「Webデザイン演習」を履修すると効果的です。
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報社会になり、インターネットを通して様々な情報が発信できるようになりました。文字や画像、音に映像なども発信できます。本講義では、それらを駆使して実際にWebサイトを作成します。Webサイトを作るための計画を練り、必要な素材を作成、または収集し、「Webデザイン」で習得したHTMLとCSSも利用して、みなさんが主体的にWebサイトを作ります。「マルチメディア演習」「コンピュータグラフィックス」などの授業で利用したソフトも駆使すると、より主体的で楽しい作成になるでしょう。実際にWebサイトを作ることで、情報を発信することについて様々な角度から考察を行ってほしいと考えています。</p> <p>なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 HTMLの復習</p> <p>3回目 CSSの復習</p> <p>4回目 Webサイト作成準備：さまざまなWebサイトの比較</p> <p>5回目 Webサイト作成準備：Webサイト内容の決定と作成方針</p> <p>6回目 Webサイト作成準備：更新の計画</p> <p>7回目 Webサイト作成準備：Webサイトの設計</p> <p>8回目 Webサイト作成演習：コンテンツ作成① コンテンツ内容の収集など</p> <p>9回目 Webサイト作成演習：コンテンツ作成② 写真や動画の編集など</p> <p>10回目 Webサイト作成演習：Webデザイン用素材収集</p> <p>11回目 Webサイト作成演習：Webデザイン用素材作成</p> <p>12回目 Webサイト作成演習：トップページ作成</p> <p>13回目 Webサイト作成演習：コンテンツページ作成</p> <p>14回目 Webサイト作成演習：Webサイトの公開および更新内容の作成</p> <p>15回目 自分と他の受講生のWebサイトの評価</p>
到達目標	この講義は「実践的なWeb作成方法の取得」をはじめとして「主体的な情報発信の重要性の理解」「Webサイトのデザインの重要性の理解」を目標としています。技術も重要ですが、主体的に発信するための戦略とその重要性についても理解してもらいます。
授業時間外の学習	主体的にWebサイトを作成すると、授業時間内で行える作業には限りがあります。コンテンツ（情報の中身）の作成をするだけでなく、素材を収集したり、作成したり、さまざまな作業（もちろんHTMLの作成も）がありますので、進捗が遅れないように作業を進めてください。
評価方法	定期的な作業の進捗具合の確認と最終的な成果物（出来上がったWebサイト）で80%を評価し、情報発信への主体的な取り組みなどを20%とします。遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	授業の中で適宜指示します。
参考書	千貫 りこ(著) ロクナナワークショップ(監修) 『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSSの本 [Windows 10 & macOS対応版]』(技術評論社、2017年) 狩野 祐東(著) 『いちばんよくわかるHTML5&CSS3デザインきちんと入門』(SBクリエイティブ、2016年) その他、授業の中で適宜指示します。

備考	<p>適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。</p> <p>この講義は「Webデザイン」の講義を履修したことが前提で進む予定です。履修していないと受けられないわけではありませんが、HTMLとCSSについての講義は行いませんので、少し大変になるでしょう。受ける前に担当教員に相談をしてもらえると助かります。また「マルチメディア演習」「コンピュータグラフィックス」を受講しているとより深く学ぶことが出来ます。</p>
----	---

講義科目名称： 社会経済学Ⅱ

授業コード： 214005

英文科目名称： The Theory of Social Economy Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	この講座は、資本主義社会の経済法則を明らかにし、それに基づいてこの社会の経済構造と現象を理解することを目的としている。 社会経済学Ⅰの理解を前提にした講義形式で、主として日本経済にかかわる実例や統計を引きながらイメージしやすいものにしていく。適宜、小テストを実施し、学生の理解度を確認していく。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1回目 経済成長 1 戦後高度成長と規模の経済</p> <p>2回目 経済成長 2 資本蓄積と再生産</p> <p>3回目 経済成長 3 技術革新と資本構成の変化</p> <p>4回目 経済成長 4 相対的過剰人口 資本集中</p> <p>5回目 GDPと国民所得 1 国民所得の3面等価</p> <p>6回目 GDPと国民所得 2 第三次産業の拡大</p> <p>7回目 GDPと国民所得 3 投資と貯蓄</p> <p>8回目 要点の確認 小テスト</p> <p>9回目 商業と銀行 1 商業資本と銀行資本</p> <p>10回目 商業と銀行 2 銀行制度とビックバン</p> <p>11回目 国家財政と租税 1 市場経済と国家</p> <p>12回目 国家財政と租税 2 経費膨張のメカニズム</p> <p>13回目 経済と情報化社会</p> <p>14回目 環境保全型経済社会の創出</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	経済におけるマクロ分野（国民経済すなわち経済成長、財政、産業構造など）の初歩的な理解力を育成する。
授業時間外の学習	授業前週に翌週のテキスト該当部分を指示するので、その部分を読むこんでくること。また適宜、資料等を配布する。その際も授業時に指示する。
評価方法	小テスト10%、授業への参加意欲40%、定期試験50%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題テスト60%で評価する。
テキスト	適宜、プリント等配布。
参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
太原正裕 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>マーケティングは現代ビジネスに欠かせない経営手法であり、実践的な技術でもある。マーケティング思考を身に着けると個人の社会生活やコミュニケーションで役立つことが多い。本講座では、マーケティングの基礎的知識を習得するとともに、ビジネスや生活に活かすためのマーケティング・マインドを養うことを目的とする。</p> <p>初めに、マーケティングの考え方を学び、次にマーケティングの基本である4P（製品、価格、流通、広告と販売促進）及び「顧客満足と顧客サービス」の概念と手法をテーマごとに習得していく。さらに、「マーケティング戦略」と称されるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ブランドマーケティングなどについて理解を深める。応用編として「小売業、サービス業のマーケティング」と「インターネットのマーケティング」についても知識を得る。なお、学習成果の指標はA-③です。</p> <p>本講座は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学習（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施する。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 § 1. マーケティングの目的と考え方（授業計画の紹介） 初めに、本講座で学ぶことの概要について説明する。マーケティングとは何かについて、著名な学者の理論やマーケティング協会の定義などから基礎知識を得る。</p> <p>2回目 § 2. マーケティングの基本スキル「4P」について マーケティングの基本要素である「製品（商品）」「価格」「販売（流通）」「広告宣伝」の意義と目的について学ぶ。</p> <p>3回目 § 3. 製品企画と価格設定 新製品（商品）の企画と価格政策の方法について基礎知識を得る。</p> <p>4回目 § 4. 販売政策と広告宣伝（アドバタイジング） 製品（商品）の販売方法、流通チャネル、及び広告宣伝（アドバタイジング）の方法について基礎知識を得る。</p> <p>5回目 § 5. 顧客を拡大する販売促進（セールスプロモーション） 製品（商品）の新規顧客を創造する、また、継続的顧客を獲得するための「販売促進（セールス・プロモーション）」の方法について学ぶ。</p> <p>6回目 § 6. 顧客満足を高めるマーケティング 「顧客満足」の概念と意義、及び顧客満足度を向上させるための方法について基礎知識を得る。</p> <p>7回目 § 7. マーケティングの拡張「戦略的マーケティング」 ライバルとの「競争」や、市場の「成長段階」に応じて、大局的観点からマーケティングを進めるための戦略について学ぶ。</p> <p>8回目 § 8. セグメンテーションとターゲティング 市場が成熟化するにつれて顧客ニーズも多様化し、市場（顧客）は幾つかのタイプに分化していく。それにより生まれる「セグメント市場」をどのように捉えるべきか、また、マーケッターはどのセグメントを優先すべきかについて、考え方と方法を学ぶ。</p> <p>9回目 § 9. ポジショニングの理論 現在の市場地位と目標とすべき地位を考慮に入れて、「市場の空間」でのポジショニングとそのための方法（戦略）について学ぶ。</p> <p>10回目 § 10. ポジショニングの演習 履修者の身近な商品（アパレルなど）から「マーケティング目標」を設定し、机上でポジショニングの演習を行う。結果について提出を求める。</p> <p>11回目 § 11. プロダクトライフサイクルとマーケティング 製品（商品）の市場導入から始まるライフステージの段階ごとに、いかなるマーケティング戦略が有効であるかについて基礎知識を得る。</p> <p>12回目 § 12. ブランドマーケティング（差異化戦略） 競争には「カテゴリー内競争」「異なるカテゴリー間の競争」及び「顧客ニーズ間競争」など次元を異にする競争がある。いずれの競争でも「差異化」には「ブランド戦略」が有効であること、そのために「ブランド価値（ブランドエクイティ）」の形成が求められることを学ぶ。</p> <p>13回目 § 13. 小売業、サービス業のマーケティング マーケティングの応用事例として身近な「小売業」と「サービス業」を取り上げ、それぞれのマーケティング手法の基礎知識を得る。</p> <p>14回目 § 14. インターネットとマーケティング 近年急速に拡大しているインターネットやソーシャルメディア（SNS）を活用したマーケティングの特徴と手法について学ぶ。</p> <p>15回目 授業のまとめ（総復習） 授業の総復習を行う。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの基礎概念（4Pやポジショニングなど）を理解し説明できる。 ②新聞、雑誌、テレビ、ネットなどで報道される新製品やビジネスの報道記事に接して背景や状況を認識でき</p>

	る。 ③自分の日常生活や進路選択などでの課題についても「マーケティング思考」を応用できるようになる。
授業時間外の学習	授業で課せられた「演習問題（考えてみる）」や「レポート」の作成に熱心に取り組むこと。また、授業で紹介された企業や経営者について、書籍やインターネットを通じて調べてみる。経済と経営に関する新聞やテレビなどの日々の報道に関心を持ち、情報を集めて分析し、意味や背景をよく理解できるように自己啓発に取り組む。（分からないことがあれば教師に質問すること。）
評価方法	「授業への取り組み意欲」（60%）・「レポート」（40%） 「授業への取り組み意欲」については授業で課す「演習問題（考えてみる）」の回答を重視する。 「レポート」については、期間内に2回提出を求める。 なお、上記の評価方法は遠隔授業に変更した場合も同様とする。
テキスト	テキストは講座の単元ごとに、Google Classroomを通じて事前に配信するので、履修者はパソコンなどを通じてダウンロード・プリントして持参すること。あるいは、スマホやタブレットを持参して閲覧できるようにしておくこと。 なお、「授業」ではパワーポイントを用いて講義する。 以上は、遠隔授業に変更した場合でも同様とする。
参考書	『ポケット図解フィリップコトラーのマーケティング論が分かる本』宮崎哲也著・秀和システム 2006年
備考	本講座の履修者は「コンピュータと情報B」「コンピュータと情報C」「ネットワーク原理」「基礎経営学」「経営戦略の基礎」を事前に（または並行して）履修しておくことが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>生活の中で私たちは色彩の影響を非常に多く受けている。ここでは色彩学、特に色はなぜ見えるのか、色の現象など、色の科学的基礎知識を身につけることを目的とする。併せて、東京商工会議所主催のカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの傾向と対策を行い、検定試験の合格を目指す。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③とB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 生活と色の効用 ①色の効用・・・色の心理的な効果 Chapter1 PART1 色見本を作成して、色の効果を調べる。</p> <p>2回目 生活と色の効果 ②色の違いで気分が変わる・・・色のイメージ Chapter1 PART2</p> <p>3回目 生活と色の効果 ③色の基礎事項・・・色って何？ Chapter1 PART3 インクを調合してペンを作成し、色の名前を調べる。</p> <p>4回目 生活と色の効果 ④色の基礎事項・・・色は物理と心理で見えている Chapter1 PART3</p> <p>5回目 色を美しく見せるマジック ①光から色が見えるしくみ・・・光とは Chapter4 PART1</p> <p>6回目 色を美しく見せるマジック ②光から色が見えるしくみ・・・混色 Chapter4 PART1</p> <p>7回目 色を美しく見せるマジック ③光から生まれる色の世界・・・なぜ虹が見えるのか Chapter4 PART2</p> <p>8回目 色を美しく見せるマジック ④光から生まれる色の世界・・・光の自然現象 Chapter4 PART2</p> <p>9回目 色を美しく見せるマジック ⑤光から生まれる色の世界・・・照明器具と光の特性 Chapter4 PART2</p> <p>10回目 背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ①色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・眼の役割 Chapter5 PART1</p> <p>11回目 背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ②色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・色をどう感じるか Chapter5 PART1</p> <p>12回目 背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ③色見えを左右する基礎事項と色使いのポイント・・・色をみること Chapter5 PART1</p> <p>13回目 背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ④色の効果を活用するために・・・視覚野が関与した色知覚 Chapter5 PART2</p> <p>14回目 背景色を上手に使って色見えを変えてみよう ⑤色の効果を活用するために・・・色彩効果と事例 Chapter5 PART2</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>どうして色が見えるのか？ 講義では色が見える仕組みを理解し、色とファッションの関わりだけでなく、日常の中の色の不思議、色と生活との大きな関わりを理解し、日常生活に色彩学の知識を役立てることができる。</p>
授業時間外の学習	<p>日常生活で色彩が大きな役割を果たしている。 色彩に関して、気付いたこと、不思議に感じたことを調べる。また、講義時に配布されたプリントの予習・復習を行い、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの合格を目指す。</p>
評価方法	<p>小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。</p>
テキスト	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス』東京商工会議所編・中央経済社

参考書	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
山内見和 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>色の名前は何かあるの？色が及ぼす心理的な影響は？など、色について、名前、配色、心理的効果、歴史について学ぶ。また、自分に似合う色を知るためのパーソナルカラーの基礎知識を習得するため、講義だけでなく簡単な実習を行い、色彩の知識を深める。併せて、東京商工会議所主催のカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの傾向と対策を学び、検定試験の合格を目指す。</p> <p>なお、学習成果の指標はA-③とB-②である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、①課題型学修（「Google Classroom」を利用）と③オンデマンド型学修（「Google Meet」を利用）を組み合わせる。</p>
授業計画	<p>1回目 色を自在に操る方法 ①色の分類・・・色の三属性 Chapter2 PART1 インクを調合しペンを作成、色の名前を調べる。</p> <p>2回目 色を自在に操る方法 ②色の表示方法・・・カラーオーダーシステム Chapter2 PART2</p> <p>3回目 色を自在に操る方法 ③色名と名前のつけ方・・・色の名前 Chapter2 PART3</p> <p>4回目 色を自在に操る方法 ④PCCS一色を操り、記録し、伝える手法・・・PCCSの特徴 Chapter2 PART4</p> <p>5回目 色を自在に操る方法 ⑤マンセル表色系一色彩のプロが使う正確な色の伝え方・・・マンセル表色系の特徴 Chapter2 PART5</p> <p>6回目 きれいな配色をつくる ①配色を知る・・・配色とは Chapter3 PART1</p> <p>7回目 きれいな配色をつくる ②配色を知る・・・トーンによる配色 Chapter3 PART1</p> <p>8回目 きれいな配色をつくる ③配色を使いこなす・・・無彩色の配色 Chapter3 PART2</p> <p>9回目 きれいな配色をつくる ④配色を使いこなす・・・有彩色の配色 Chapter3 PART2</p> <p>10回目 きれいな配色をつくる ⑤配色を使いこなす・・・美しい配色 Chapter3 PART2</p> <p>11回目 色で売り上げをアップするために ①消費者が選択する色とは・・・よく売れる色・売れない色 Chapter6 PART1</p> <p>12回目 色で売り上げをアップするために ②消費者が選択する色とは・・・色と時代 Chapter6 PART1</p> <p>13回目 色で売り上げをアップするために ③消費者に受け入れられる色を生み出すために・・・製品の色を決めるプロセス Chapter6 PART2</p> <p>14回目 色で売り上げをアップするために ④消費者に受け入れられる色を生み出すために・・・心動かされる色とは Chapter6 PART2</p> <p>15回目 パーソナルカラーを調べよう パーソナルカラー、自分に似合う色を調べる。</p>
到達目標	色の概念は、国々により異なる。色の名前、色の連想、色の意味、色の心理的影響など、その国の地理的な位置、文化、歴史に大きく関わっている。色の概念を理解しつつ、色の影響を理解することができる。
授業時間外の学習	日本にはたくさんの色の名前がある。色と文化、色と生活の関わりを新聞の記事、インターネットなどで調べる。また、講義時に配布されたプリントの予習・復習を行い、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラスの合格を目指す。
評価方法	小レポート：30%、期末レポート：70%で評価する。 遠隔授業を実施する場合も評価方法に変更はない。
テキスト	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス』東京商工会議所編・中央経済社
参考書	
備考	

講義科目名称： ビジネス実務総論

授業コード： 241005

英文科目名称： General Study of Office Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>第4次産業革命が進展する中、企業は経済グローバル化、地球環境問題、少子・高齢化、高度情報化など、変化の激しい経済社会に適応して、成長している。そこで、経済社会について、常に新鮮な情報を収集・整理して、その動向を敏感に把握する姿勢が求められる。何らかの組織や企業で働くためには、組織や機能を理解した上で、自己の立場と役割を認識しなければならない。そのために必要なビジネス実務の基本を身につけ、企業形態、管理機能などの概要を学び、企業に関する理解を深める。また働き方について事例を参考に具体的に考察しながらビジネスの現場で求められる総合的な基礎力を学ぶ。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、はじめに</p> <p>2回目 ビジネスは何をめざすものか</p> <p>3回目 2つの事業活動：営利組織と非営利組織</p> <p>4回目 ビジネスを定義すると？（ビジネスの6要素）</p> <p>5回目 経済グローバル化</p> <p>6回目 高度情報化</p> <p>7回目 地球環境問題</p> <p>8回目 少子・高齢化</p> <p>9回目 日本的雇用システムの転換</p> <p>10回目 オフィスからワークプレイスへ</p> <p>11回目 ワークスタイルが変わる</p> <p>12回目 ビジネス実務を学ぶ</p> <p>13回目 ビジネス実務学習のねらい</p> <p>14回目 ビジネス実務の実際</p> <p>15回目 ビジネス実務まとめ</p>
到達目標	<p>企業がおかれている経済社会の基本的な事項を理解し、職業人として、ビジネスの現場で求められる総合的な基礎力を身につける。</p>
授業時間外の学習	<p>日頃から新聞等をよく読み、株価、原油、為替などのマーケットの動向や経済社会の話題を注視しましょう。</p>
評価方法	<p>ノート50%、平常点（小テストを含む）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%</p>
テキスト	<p>全国大学実務教育協会編集『ビジネス実務総論』紀伊國屋書店、2012年</p>
参考書	<p>必要に応じて指示する。</p>
備考	

講義科目名称： ビジネス実務演習 I

授業コード： 122002

英文科目名称： Exercise of Practical Office Work 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	1単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>企業の組織の中でも総務・労務・経理の業務を中心として、模擬実践や演習を通して、「働くときのマナーの基礎知識」や「働くときのルールの基礎知識」など、ビジネス実務の基礎的・基本的テーマについて学ぶ。近い将来、企業に就職する学生が、身に付けるべき必要最小限のビジネス実務の知識と技術、働くことの基本を学ぶ授業でもある。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 Part 1 働くときのマナーの基礎知識、訪問するときのマナー</p> <p>2回目 商談するときのマナー</p> <p>3回目 話すときのマナー</p> <p>4回目 聞くときのマナー</p> <p>5回目 あいさつ</p> <p>6回目 仕事をするときの身だしなみ、態度</p> <p>7回目 電話のマナー</p> <p>8回目 携帯電話のマナー</p> <p>9回目 電子メールのマナー</p> <p>10回目 情報伝達のマナー</p> <p>11回目 上司や先輩、同僚との付き合い方</p> <p>12回目 豊かな人間関係を築くマナー</p> <p>13回目 仕事で注意したい会話</p> <p>14回目 仕事で謝るときのマナー</p> <p>15回目 仕事と私用（まとめ）</p>
到達目標	<p>ビジネス実務の基礎的・基本的テーマについて理解を深め、ビジネスの諸活動に主体的、合理的、適切に対応する能力と実践的な態度を身につける。</p>
授業時間外の学習	<p>日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向に注視する。</p>
評価方法	<p>ノート50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%</p>
テキスト	<p>『全基連のテキストシリーズ「働くときのA・B・C」』公益社団法人全国労働基準関係団体連合会、2016年適宜プリント配布。</p>
参考書	<p>必要に応じて指示する。</p>
備考	

講義科目名称： ビジネス実務演習Ⅱ

授業コード： 221001

英文科目名称： Exercise of Practical Office Work 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	1単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>「ビジネス実務演習Ⅰ」の履修を踏まえて、「働くときの法律の基礎知識」等について授業を進める。企業の組織の中でも総務・労務・経理の業務を中心として、模擬実践や演習を通してビジネス実務の発展的・専門的テーマについて学ぶ。</p> <p>近い将来、企業に就職する学生が、身に付けるべき必要最小限のビジネス実務の知識と技術、働くことの基本を学ぶ授業でもある。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせて実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 PartⅢ 働くときの法律の基礎知識：週40時間、1日8時間が原則</p> <p>2回目 平均40時間、平均8時間でも可</p> <p>3回目 X時間働いたとみなす</p> <p>4回目 週に1日または4週に4日</p> <p>5回目 命じられたらやらざるを得ない？</p> <p>6回目 残業と割増賃金</p> <p>7回目 働くときはしっかり、休むときはゆったり</p> <p>8回目 パパは育児なし？</p> <p>9回目 口約束でも労働契約は成立、でも… ～労働契約～</p> <p>10回目 守らなければ掟じゃない！ ～就業規則～</p> <p>11回目 絶対に服従する義務がある？ ～業務命令～</p> <p>12回目 大きな力を持っている ～労働協約～</p> <p>13回目 働く人を守るその他の法律と制度</p> <p>14回目 遭遇しやすいトラブルに備える</p> <p>15回目 仕事と生活の調和（まとめ）</p>
到達目標	<p>ビジネス実務の特定のテーマについて理解を深め、ビジネスの諸活動に主体的、合理的、適切に対応する能力と実践的な態度を身につける。</p>
授業時間外の学習	<p>日頃から新聞等をよく読み、経済社会の動向に注視する。</p>
評価方法	<p>ノート50%、平常点（小テストを含む）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%</p>
テキスト	<p>『全基連のテキストシリーズ「働くときのA・B・C」』公益社団法人全国労働基準関係団体連合会、2016年適宜プリント配布。</p>
参考書	<p>必要に応じて指示する。</p>
備考	<p>「ビジネス実務演習Ⅰ」の履修を踏まえて、授業を進める。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報社会では、様々な場面で発信することが可能になりました。X（旧Twitter）、Facebookだけでなく、手軽にInstagramのような写真による情報発信や動画投稿やライブ配信による情報発信も行えるようになりました。しかし、あなたの考えていることやあなた自身について、どれだけ人に理解してもらえているか考えたことありますか。ただ発信するのではなく「相手にどうやって伝えるのか」を短大生になったら考えてみたいものです。本講義では、コミュニケーション活動の中でも、研究発表やビジネスなど、重要な場面に利用することが多いプレゼンテーションについて考えてみます。プレゼンテーションの位置づけや、その理論の基礎的な部分について触れていきます。</p> <p>なお、遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-① A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 言語と非言語のコミュニケーション</p> <p>3回目 プレゼンテーションの必要性和その場面</p> <p>4回目 プレゼンテーションの要素</p> <p>5回目 プレゼンテーションにおけるトピックの選定と主題</p> <p>6回目 プレゼンテーションの準備：情報収集（参考文献選び）</p> <p>7回目 プレゼンテーションの準備：情報収集（情報検索）</p> <p>8回目 情報の整理と要点の整理</p> <p>9回目 相手に伝えるための論理的な構成の方法</p> <p>10回目 プレゼンテーションを行うための様々なツール</p> <p>11回目 配布資料の作成法</p> <p>12回目 プレゼンテーションにおける話し方</p> <p>13回目 プレゼンテーションを聞くことの重要性</p> <p>14回目 プレゼンテーションにおける質問の重要性</p> <p>15回目 物事の批判的な捉え方</p>
到達目標	「プレゼンテーションの基礎理論の習得」「思考法や話し方など理論の習得および実践」を目標とし、大学における研究発表や、ビジネスにおけるプレゼンテーションに大いに役立ててほしいと思います。
授業時間外の学習	予習は、プレゼンテーションに関する様々なことを授業前に考えていただきます。授業内で次回までに何を考えて来て欲しいかを課題を提示しますので、それにしたがって考えてきてください。復習はノートを見返すなどを中心に行いましょう。
評価方法	授業内外の課題（レポートを含む）を90%、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	プロジェクト等による資料提示がありますので、ノートに写すなどしてください。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。この授業はプレゼンテーションの理論が中心ですので、実際にプレゼンテーションを活用する「プレゼンター

	シオン演習Ⅰ」と「プレゼンテーション演習Ⅱ」を、この授業の履修後に履修することを検討してみてください。
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>「プレゼンテーション概論」では、プレゼンテーションの理論を学びました。「プレゼンテーション演習 I」では、いよいよ実践です。プレゼンに定評があった故スティーブ・ジョブズも、いきなり登壇して人々を惹きつけるプレゼンができていたわけではありません。入念な下準備と練習がおこなわれています。どんなに理論を学んでも、それを体で覚える必要があるわけです（スポーツの反復練習と似ていますね）。プレゼンテーション演習 I では、様々なタイプのプレゼンの練習とプレゼンに必要な思考法のトレーニングを皆さんにしてもらいます。様々なトレーニングを主体的に取り組んでいただき、色々悩んでみてください。それらの経験と学んだ理論がうまく融合し、「人に伝える」ということが立体的になって理解できるようになるはずですが。なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習の指標：A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 柔軟な思考を養う準備：アイスブレイク</p> <p>3回目 柔軟な思考のための発想法：思考のキャッチボール</p> <p>4回目 発表：自己紹介（または他己紹介）をしてみよう</p> <p>5回目 客観的視点の獲得：他者の話をまとめてみよう</p> <p>6回目 資料収集：自分の趣味に興味を持ってもらおう</p> <p>7回目 発表：自分の趣味に興味を持ってもらおう</p> <p>8回目 ビブリオバトルをしてみよう：ビブリオバトルの概要</p> <p>9回目 ビブリオバトルをしてみよう：ビブリオバトルの実践</p> <p>10回目 グループワーク演習：ブレインストーミングの概要</p> <p>11回目 グループワーク演習：ブレインストーミングの実践演習</p> <p>12回目 最終課題：スライドを利用した発表（スライド作成の実践）</p> <p>13回目 最終課題：スライドを利用した発表（レジュメ作成の実践）</p> <p>14回目 最終課題：スライドを利用した発表</p> <p>15回目 講評および総論</p>
到達目標	<p>実践的にプレゼンを行うので「人前で話すことに慣れる」「さまざまなタイプのプレゼンテーションに対応できる」「他者のプレゼンテーションを聞き、全体像を把握できる」「質問することに臆さなくなる」ことを目標とします。</p>
授業時間外の学習	<p>毎回のように発表があるので、発表の準備が大きく割合を占めます。発表後は自分の発表と他の人の発表を比較して、次回の発表に活かすようにしましょう。</p>
評価方法	<p>授業の発表を60%で評価し、発表中に書く評価表などのレポートが20%、グループワークへの積極的参加や質疑応答など発表以外の授業参加で20%を評価します。</p> <p>遠隔授業時も評価項目は同じですが、授業の性質上、対面と全く同じ内容で行うことが出来ないため、若干上記の割合が変わる可能性があります。</p>
テキスト	<p>資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布を行います。</p>
参考書	<p>授業の中で適宜指示します。</p>

備考	授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。この授業は「プレゼンテーション演習Ⅱ」と関連していますので、両方取ると効果的です。適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。
----	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報を人に伝えて共有する有効な方法の一つであるプレゼンテーションですが、どのようにすれば相手にうまく伝えることができるでしょうか。「プレゼンテーション演習Ⅰ」でプレゼンテーションの練習を行いました。が、「プレゼンテーション演習Ⅱ」ではより総合的な演習を行います。人前で意見を主張するだけでなく、そのための準備や、発想法も駆使しながらアイデアを練ることも行いましょう。また、プレゼンを行う発表の場を皆さん自身で作ってもらいます。プレゼンターだけでなく、全体の進行を作ったり、場の設営をしたりなど、プレゼンを多角的に捉える機会になるでしょう。</p> <p>なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、ClassroomとMeetを利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 アイデアを出すための発想法：臨機応変に対応する思考</p> <p>3回目 アイデアを出すための発想法：インプロヴィゼーションに学ぶコミュニケーション</p> <p>4回目 批判的思考法：演繹法と帰納法</p> <p>5回目 ディベートをしてみよう：ディベートの概要</p> <p>6回目 ディベートをしてみよう：準備</p> <p>7回目 ディベートをしてみよう：発表と講評</p> <p>8回目 総合演習：プレゼンテーマ設定</p> <p>9回目 総合演習：資料収集</p> <p>10回目 総合演習：資料作成</p> <p>11回目 中間発表</p> <p>12回目 発表会の準備（役割分担含む）</p> <p>13回目 発表会の準備（中間発表の内容のブラッシュアップ）</p> <p>14回目 総合演習：発表会直前の最終調整</p> <p>15回目 総合演習：発表会開催 ※ゲスト講師による講評を行う予定</p>
到達目標	「プレゼンテーションを行うまでの準備の仕方を習得する」「批判的に物事を見られるようにする」「様々な考え（柔軟な思考）を持つ」ことを目標とします。
授業時間外の学習	常日頃から目に止まるものについて「なぜ?」「どうして?」と考える訓練をしてください。さらに授業で提示される次回の内容と予習内容をやりましょう。また、発表のテーマが決まったら、担当のテーマに関する資料収集や発表の練習は授業時間以外も行う必要があるでしょう。
評価方法	授業内外の課題（レポートを含む）を90%、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業時も評価項目は同じですが、授業の性質上、対面と全く同じ内容で行うことが出来ないため、若干上記の割合が変わる可能性があります。
テキスト	資料をプロジェクトで提示や、場合によってプリントの配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。この授業は「プレゼンテーション演習Ⅰ」と関連していますので、両方取ると効果的です。また、15回目に予定されているゲスト講師は状況に

よっては取りやめになる可能性もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報社会が成熟し、インターネットの存在が当たり前の時代になりました。そのインターネットはネットワークを世界規模で形成することによって成立しています。この講義では、コンピュータネットワークに関する基礎的な理解と同時に、頻繁に行われるネットワークを介したコミュニケーションについて理解を深めていきます。</p> <p>情報社会におけるネットワークを考えるため、コンピュータにおけるシステムを含めたネットワークについて、講義を中心に演習を取り入れながら学習します。また、コンピュータのネットワークシステムだけでなく、それを利用したコミュニケーションや社会との関係について理解を深めます。</p> <p>なお、遠隔授業に切り替える場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業（オンデマンド型）と時折、同時・双方向型の併用を予定しています（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-① A-③</p>
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 身近なネットワークとその種類</p> <p>3回目 LANの概要および通信の仕組み</p> <p>4回目 インターネットの歴史と発展</p> <p>5回目 ネットワークにおけるプロトコル</p> <p>6回目 インターネット通信の仕組み -IPアドレス</p> <p>7回目 インターネット通信の仕組み -ルータ</p> <p>8回目 インターネット通信の仕組み -TCP/IP</p> <p>9回目 インターネット通信サービス</p> <p>10回目 ネットワークにおけるA. I. の活用</p> <p>11回目 ネットワークにおけるセキュリティ -組織に潜む脅威と対策</p> <p>12回目 ネットワークにおけるセキュリティ -最新のセキュリティ事情</p> <p>13回目 暗号化と認証の仕組み</p> <p>14回目 企業によるネットワークの利用</p> <p>15回目 情報社会におけるこれからのネットワーク</p>
到達目標	ネットワークの基本的な部分を中心に「基礎的なネットワークの仕組みの習得」「インターネットの仕組みに関する基礎的な理解」「ネットワークに関する人々と社会の関係の理解」を目指します。
授業時間外の学習	予習として、教科書の授業計画の該当箇所をよく読み、復習はノートを中心に振り返りましょう。
評価方法	提出課題を30%、期末試験を60%、授業態度を10%として評価する。 遠隔授業に切り替えた場合は、期末試験が期末レポートに変更の可能性があります。期末試験時がどちらで行う状況かで判断します。
テキスト	『ファーストステップ情報通信ネットワーク』浅井宗海（近代科学社、2011年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	ITパスポート試験教育研究会『スピードマスターITパスポート試験テキスト&問題集 六訂版』（実教出版、2021年） その他、授業の中で適宜指示します。

備考	<p>授業計画は皆さんの興味関心や進行状況によって適宜変更していきます。</p> <p>適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。</p> <p>【ITパスポート関連科目】※ITパスポートの受験を考えている人はこれらの科目が効率よく学べます 「コンピュータと情報A」「コンピュータと情報B」「コンピュータと情報C」「基礎経営学」「経営戦略の基礎」「マーケティング」</p>
----	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春セメスター	2年次	2単位	選択
担当教員			
太原正裕 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>本講座は企業組織とビジネスを経営学の視点から学ぶ講座である。経営学の基礎知識を習得することにより、経営の専門講座に進むための基礎力を養うことを第一の目的とする。経営学とはまさに「企業を運営する、経営する、企業をマネジメントする」ということであり、組織の動かし方、企業戦略、人事管理、計数管理など企業活動の基本事項をすべて含んでいる。この講義では、企業マネジメントの基本事項を学び、また、戦後の日本経済の成長の中で各企業がどのような経営戦略をとったかを学ぶ。特に「企業は人なり」という言葉があるように、ヒューマン・マネジメント、「人を動かす」ということに力点を置いた講義内容にする。従来の経営学の対象は主に大企業であったが、本講義では、中堅・中小企業、ベンチャー企業を中心に実践的で身近な問題を対象とする。基礎経営学を通して学ぶ経営企業マネジメントの内容は単に企業経営にとどまらず、社会生活においても基本事項であり、有意義な大学生活を送るのに必要不可欠なものである。本講座は対面授業を中心に実施するが、遠隔授業を実施する場合は、②同時・双方向型学習（「Google Meet」を利用）と併せたハイブリッド授業を実施する。また、全体遠隔授業に移行した場合は②型とする。</p>
授業計画	<p>1 回目 第Ⅰ部 企業の歴史と企業形態 § 1 経営学で何を学ぶか イントロダクション、本講義で学ぶ内容の紹介 企業とは何か、経済学と経営学の違いとは何かを知る。 新しい組織を作るときの困難さ、リーダーシップ、コミュニケーションの重要性を事例を交えて講義 (本講座の説明)</p> <p>2 回目 § 2 企業の歴史と企業形態 経営とは、経営学の基礎 「会社」の成り立ち、現代の会社形態とその違いを知る。 前回の講義を踏まえ、人は「仕事に誇りや喜びを感じることで困難な課題を乗り越える」ということを講義する</p> <p>3 回目 § 3 株式会社の機関と働き、企業統治について 会社の四形態、株式会社の4つの機関、「株主総会」「取締役会」「代表取締役」「監査役」の働きを知る。また、現代企業の経営者に求められる「企業統治（コーポレート・ガバナンス）」について、ESGやSDGsとの関連で解説する。</p> <p>4 回目 第Ⅱ部 企業組織と行動 § 1 人と組織を活かす経営 経営とは「人に働きかけて組織を動かすこと」「人を動かす」ことである。この意味を理解する。</p> <p>5 回目 § 2 組織の個人を動機づける（モチベーション） 「人に働きかける」とは人の意欲を高めることである。経営学ではこれを「動機づけ」と呼ぶ。著名な学者による「動機づけの理論（モデル）」から人の意欲を高める方法を学ぶ。</p> <p>6 回目 § 3 組織の集団（グループ）を動かす（集団とリーダーシップ） 「組織を動かす」とは「集団を動かす」ことである。そのため、まず、「集団の有する特性」と「集団内のコミュニケーション類型」について理解する。次に、集団を動かすために必要な「リーダーへの権限（パワー）付与」と「リーダーシップの型（スタイル）」について最新のリーダーシップ論を含めて解説する。</p> <p>7 回目 § 4 組織の問題を解決する（コンフリクトマネジメント） 組織には人や集団の間で利害関係をめぐる「衝突」や「対立」が生まれる。この問題を解決する方法を学ぶ。</p> <p>8 回目 § 5 企業文化（コーポレート・カルチャー）を活用する 企業は、歴史、事業分野と規模、市場、経営理念と行動規範などの相違から、異なる特色や香り・臭いなどを有する。これを「企業文化（コーポレート・カルチャー）」と呼ぶ。企業文化にはどのようなタイプや特徴があるか、また、企業文化を活かす経営とは何か、について学ぶ。</p> <p>9 回目 § 6 組織を変革する（組織化の原則と組織の型） 企業には環境変化や発展段階に応じて「組織変革」を図る必要がある。組織を変革していくために必要な「組織化の原則」と「組織の型」について知る。</p> <p>10 回目 第Ⅲ部 企業の経営管理 § 1 「経営管理論」の発展 「経営者」の役割と仕事について「経営管理論」の変遷から学ぶ。</p> <p>11 回目 § 2. 経営者の役割と目標管理の方法 「経営者」の主な役割や仕事とは何か、経営管理を有効に進めるために「目標管理」をどのように進めるべきか、などについて学ぶ。</p> <p>12 回目 § 3. 経営計画 企業が中長期的に堅実に成長していくためには「ビジョン」「理念」「戦略」を設けて計画的に経営することが必要である。それぞれのテーマの意義と事例について学ぶ。</p> <p>13 回目 § 4. 経営資源の活用 経営者が事業経営を計画に従って実行するためには、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源を蓄積し、これを有効活用することが必要である。経営資源の配分の意思決定や、資源管理のポイントを現代の経営論などから学ぶ。</p> <p>14 回目 § 5. 現代企業の経営課題 現代の企業は、技術革新、高齢化、グローバル化、情報化など激しい環境変化に直面している。</p>

	それぞれの課題にどのように対応すべきかを学ぶ。 1 5 回目 本講座のまとめ（復習） 前段まで学んだことを総復習する。
到達目標	①一般に「会社」と呼ばれる企業の仕組み（組織、リーダー、メンバー、ルールなど）を理解して、経営者の仕事と役割と能力を説明することができる。 ②企業経営に必要な問題分析や計画策定のための手法（スキル）を習得して、自分の意思や見解を表現し説明することができる。 ③企業と経営に対する関心を高めて、将来、社会人として働く場合に求められる「ビジネスにおける常識」と「コミュニケーション能力」を身につける。
授業時間外の学習	授業で課せられた「演習問題（考えてみる）」や「レポート」の作成に熱心に取り組むこと。また、授業で紹介された企業や経営者について、書籍やインターネットを通じて調べてみる。経済と経営に関する新聞やテレビなどの日々の報道に関心を持ち、情報を集めて分析し、意味や背景をよく理解できるように自己啓発に取り組む。日頃からニュース、新聞で日本の企業、産業に関する報道を注意して関心を持っておくこと。（分からないことがあれば教師に質問すること。）
評価方法	「授業への参加意欲」（60%）・「レポート」（40%） 「授業への参加意欲」については授業ごとに課す「リアクションペーパー」の回答を重視する。 「レポート」については、期間内に2回提出を求める。 なお、上記の評価方法は遠隔授業に変更した場合も同様とする。
テキスト	講義テキスト資料は單元ごとに、Google Classroomを通じて事前に配信するので、履修者はパソコンなどを通じてダウンロードするか、スマホやタブレットなどで閲覧できるようにされたい。テキストとは別に「講義要旨」や「参考資料」はプリントを授業前に配布する。
参考書	『やさしい経営学』日経文庫 2002年（中古本のみ） その他、授業で紹介していく。
備考	本講座の履修者は「コンピュータと情報B」「コンピュータと情報C」「ネットワーク原理」「マーケティング」を事前に（または並行して）履修しておくことが望ましい。

講義科目名称： ビジネス入門

授業コード： 224004

英文科目名称： Introduction to business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	1年次	2単位	選択
担当教員			
太原正裕 講師			
添付ファイル			

授業の概要	経済やビジネスを勉強するという事は、決して難しいことではない。日常生活で経験している事柄を経済やビジネスという視点から理解していくことが出来るようにしていく。
授業計画	<p>1回目 インTRODクシヨン 身近な例からビジネスを学ぶ 大学の授業でビジネスを学ぶ 実際に授業としてビジネスをした例</p> <p>2回目 コンビニエンスストアは素人が作った コンビニエンスストア 日本の黎明期 そして日米逆転</p> <p>3回目 イノベーション① 新結合 新結合、言葉は難しいが身近に存在する</p> <p>4回目 イノベーション② 持続と破壊 トヨタ自動車 苦しみながらもイノベーションを続けている 創造的破壊 レンタルレコードの</p> <p>5回目 苦勞して世界進出した企業 アメリカ市場へ醤油を売った企業の戦略</p> <p>6回目 BIRCSへの展開 BRICSとは、広い国土と多くの人口、豊かな天然資源をもとに今後大きく成長することが見込まれる ブラジル (Brazil)、ロシア (Russia)、インド (India)、中国 (China)、南アフリカ (South Africa) の頭文字 この市場への進出が今後の日本企業の大きな鍵となる</p> <p>7回目 常識を疑う このビジネスの勝負はついた、というところからの逆転 「窓際族が世界規格を作る」</p> <p>8回目 非正規雇用について考える 日本の現状分析 失業者は少ないが賃金、物価が先進国最低 労働生産性についてカンガル</p> <p>9回目 就職活動の現実 実務的な問題を考える 知られざる優良企業</p> <p>10回目 長時間労働について考える 日本では2019年から「働き方改革」について議論が始まる 新型コロナウイルスによる在宅ワークの浸透</p> <p>11回目 キャリア・デベロップメントについて考える キャリアパスを考える かつては終身雇用 今は？</p> <p>12回目 マーケティング入門 売れる仕組みについて考える ホブソングズ西麻布店 ウォークマン マクドナルド1号店</p> <p>13回目 人を動かすとは 人材、人財 ヒトをいかに活かすか 企業は人なり 同一価値労働同一賃金</p> <p>14回目 グローバル化時代のビジネス 賃金の高い国へ 日本へ出稼ぎ 今はオーストラリア、カナダへ進出する日本の若者</p> <p>15回目 本講義のまとめ 就職活動に役立つ企業分析、経営分析のヒント</p>
到達目標	<p>(1) 講義では、まず経済やビジネスに関心をもってもらうことを目的とする。そのため、現代のビジネスの基本的概念について経営学に基づき学習する。受講者は、経営学を学ぶ準備としての基本的な概念構成を理解することができる。</p> <p>(2) 学問の性格上、経営学は社会の変化を敏感に反映している。本講では、こうした経営学を学習することにより、社会の原動力となっている現代のビジネスを様々な角度から理解し、変化の激しい現代社会の動向を把握する視点を獲得することができる。</p> <p>(3) 現代のビジネスに関心を持ち、自ら調べ、考える能力を養うことができるようになり、就職活動にも役立つ知識を得ることができる。</p>
授業時間外の学習	新聞等を読み、現代ビジネスに関する関心を高めていってもらうことを予習として課す。また、復習として、講義時に示した理論・知見を身近な出来事に当てはめて考察していくことを求める。日ごろから新聞、テレビのニュース、スマホなどに流れて来るニュースでビジネスに感心することに関心を持つことを習慣にする。
評価方法	毎回のリアクションペーパー (40%)、期末試験 (もしくはレポート) (60%) に基づき評価する
テキスト	特定のテキストは用いず、毎回の授業前にレジュメを配布する。

参考書	「よくわかる現代経営」編集委員会編 『よくわかる現代経営 第6版』 ミネルヴァ書房 ロナルド・ドーア 『誰のための会社にするか』 岩波書店（岩波新書）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>企業が経済のエンジンといわれて、我々の生活に大きく関係していることは日常感じていることでしょう。その存在は今や重層的なネットワークを形成し、国の内外にその活動領域を拡大しています。そうした企業が、学生の就職先としてあるという現実もあります。企業とは何か、そして絶えず変化し続けるその存在は、どのような影響をもたらすのか。現代企業の新しい活動とそれがもたらすインパクトの検討を通じて、現代社会を考える。</p> <p>変動しつつある現在を扱うので、内容は大きな事件などあればその都度、変更する可能性がある。講義形式であるが、随時、ディスカッションをしていきたい。学習成果の指標はA-①です。</p> <p>尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 会社とは何か。企業、法人とは何か。</p> <p>2回目 企業の組織構造</p> <p>3回目 生産と資本の集積と集中。企業規模の拡大。</p> <p>4回目 生産の巨大化に伴う資本所有と経営の分離</p> <p>5回目 企業の規模拡大と管理システムの展開</p> <p>6回目 欧米の企業管理システムとガバナンス</p> <p>7回目 日本的経営システムの光と影</p> <p>8回目 企業の資金調達仕組み</p> <p>9回目 変貌する金融・資本市場とグローバル経済</p> <p>10回目 企業の活動領域の拡大と多国籍企業化</p> <p>11回目 企業の多国籍化とサプライチェーン</p> <p>12回目 ITC化とネットワーク型企業</p> <p>13回目 経済のグローバル化と国民国家の軌轢</p> <p>14回目 企業社会と国民生活の状況</p> <p>15回目 来るべき社会と日本企業の行方</p>
到達目標	各自が卒業後の進路とする業界そしてその領域で経済の構造的把握を基礎に、企業等の組織構造の分析が可能となる力の育成を目的とする。
授業時間外の学習	講義の進展に即した資料等を前週に配布（オンライン上で配布の場合もある）するので、その際に指示する。
評価方法	小テスト30%、授業への参加意欲70%。オンライン移行時には、授業態度40%、課題レポート60%で評価する。
テキスト	適時、レジュメおよび資料を配布する。
参考書	
備考	

講義科目名称： 世界の経済

授業コード： 114005

英文科目名称： World Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	貿易の歴史と基礎理論を学び、国際経済と国際関係の実態を各国経済の発展と貿易、直接投資の関係を明らかにしていきます。そのなかで現在の通貨制度の特色と問題点を明らかにして、あわせて日本の経済発展と貿易の問題点、東アジアと日本、アメリカの貿易の構造と関連を明らかにしていきます。そのなかで日本の特化型貿易構造の強さと弱さの問題点を考えていきます。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>2回目 機械制大工業と農工国際分業</p> <p>3回目 産業革命の非資本主義国への影響 貧しい国と豊かな国</p> <p>4回目 輸出部門と輸入部門はどう決まる 貿易の考え方、貿易の利益と損失</p> <p>5回目 リカード比較生産費説の核心は 対外的生産性格差と比較優位、比較劣位</p> <p>6回目 第一次世界大戦の経済的背景</p> <p>7回目 両大戦間期の世界経済</p> <p>8回目 第二次大戦後の国際経済体制をめぐる議論</p> <p>9回目 ブレトンウッズ体制とはアメリカ体制</p> <p>10回目 GATTと何か</p> <p>11回目 南北問題 豊かな北、貧しい南、貿易と開発の関係</p> <p>12回目 アメリカ経済と日米経済摩擦</p> <p>13回目 EUとは何か</p> <p>14回目 WTOの成立</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	第二次世界大戦後の国際経済の歴史をアメリカ、日本、東アジアを中心に見ていきます。国際化、グローバル化と呼ばれる現代世界経済の理論と現状を理解できます。そのなかで戦後国際経済体制や国際通貨体制が我々の生活にどのような影響を及ぼすかを考え、判断することができます。
授業時間外の学習	授業中に一緒に考えながら聴くことが大切です。授業に出席することがまず第一です。講義の後、ノートを見て、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業態度 (10%) 課題提出 (40%) 試験 (50%) の総合判断によります。 オンラインに移行した場合、試験は行わず、授業態度 (10%) 課題提出 (60%) 授業時小テスト (30%) で評価します。
テキスト	プリントを配布します。
参考書	『貿易入門』小林尚朗、篠原敏彦、所 康弘編、大月書店
備考	

講義科目名称： 金融の基礎

授業コード： 212003

英文科目名称： Finance Theory

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	金融は何のためにあるのかをテーマとして、私たちにとって、身近な存在である金融の問題を考えていきます。マネーのいろいろな働きから、金融機関と金融活動について学びます。とくに銀行制度と銀行業務、金融は誰のために、何のためにあるのかをテーマとして、私たちにとって、身近な存在である金融の問題を考えていきます。マネーのいろいろな働きから、金融機関と金融活動について学びます。グローバル化とIT革命を背景に変貌している金融業の現状を理解する前提として、金融の基礎を学び、さらにそれをより理論的に捉えていきます。商品取引とその貨幣支払業務から貨幣支払操作のため金融手段がどのように発展してきたかを資本主義経済の発展とのかかわりで理解していきます。そのなかで私たちが普段使っている、お金、カード、預金、そして社会に出てから実社会で使う約束手形、為替手形、小切手の意味を理解していきたいと思います。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。
授業計画	<p>1 回目 金融とは何か？</p> <p>2 回目 直接金融と間接金融</p> <p>3 回目 間接金融の役割</p> <p>4 回目 直接金融機関の役割</p> <p>5 回目 現代のマネーとは</p> <p>6 回目 商品交換に使われる貨幣と信用（金融）取引のはじまり</p> <p>7 回目 資本主義の発展と信用取引の発展</p> <p>8 回目 銀行券の性格</p> <p>9 回目 通貨制度の発展</p> <p>10 回目 資本とは</p> <p>11 回目 利子生み資本と資本の還流</p> <p>12 回目 利子生み資本と信用貨幣の関係</p> <p>13 回目 商業信用とはなにか？</p> <p>14 回目 銀行信用とはなにか？</p> <p>15 回目 まとめ</p>
到達目標	金融についてのニュースや記事にでてくる用語を身につけ、その内容を自ら秩序立てて理解し、判断できる力を養います。
授業時間外の学習	授業に出席し、講義を聴きながら考えてほしいと思います。講義の後、ノートをみて、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業態度（10%）課題提出（40%）試験（50%）の総合判断によります。 オンラインに移行した場合、試験は行わず、授業態度（10%）課題提出（60%）授業時小テスト（30%）で評価します。
テキスト	『入門金融経済』松本朗、駿河台出版
参考書	
備考	「基礎経済学Ⅰ」と「市民生活と経済」を履修しておくとう理解しやすいでしょう。

講義科目名称： 銀行論

授業コード： 115004

英文科目名称： Banking

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	2年次	2単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	『金融の基礎』を発展させて、金融は誰のために、何のためにあるのかをテーマとして、私たちにとって、身近な存在である金融の問題を考えていきます。とくに銀行制度と銀行業務、さらには中央銀行の働きを考え、金融政策について理解したいと思います。そのなかで私たちの生活に銀行、金融制度がいかに大きな影響を与えているかを、見ていきたいと思ひます。グローバル化とIT革命を背景に変貌している金融業の現状を理解し、さらにそれをより理論的に捉えていきます。そして中央銀行と金融政策を理解し、変貌している金融の意味を考え、私たちにとって望ましい金融のあり方とは何かを考えていきます。学習成果の指標はAの①です。遠隔授業をする場合は、③オンデマンド型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション (銀行とはなにか)</p> <p>2回目 資本の貨幣受け払い業務の代行とペイメント・システム</p> <p>3回目 銀行の基本的な機能</p> <p>4回目 預金業務</p> <p>5回目 銀行の信用創造とはなにか</p> <p>6回目 貸出業務</p> <p>7回目 為替業務</p> <p>8回目 金融市場の役割と種類</p> <p>9回目 銀行の資金過不足と短期金融市場の役割</p> <p>10回目 中央銀行とはなにか—銀行の銀行としての中央銀行</p> <p>11回目 発券銀行としての中央銀行</p> <p>12回目 政府の銀行としての中央銀行</p> <p>13回目 金融政策とはなにか</p> <p>14回目 中央銀行の独立性の必要性</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	金融問題を秩序立てて考え、理解する能力を養い、現代の金融肥大化と量的金融緩和、債務増大の意味を捉えていきます。
授業時間外の学習	授業に出席し、一緒に考えてください。講義の後、ノートを見て、講義のポイントを振り返ってみてください。
評価方法	授業態度 (10%) 課題提出 (40%) 試験 (50%) の総合判断によります。オンラインに移行した場合、試験は行わず、授業態度 (10%) 課題提出 (60%) 授業時小テスト (30%) で評価します。
テキスト	『入門金融経済』松本朗、駿河台出版
参考書	
備考	「基礎経済学 I」と「市民生活と経済」を履修しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
寺崎宣昭 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>ヨーロッパ経済の展開と近代化について講義する。現代の日本は「近代」の資本主義社会である。この社会システムは、環境に大きく制約されながら、16世紀のヨーロッパで生成し、18世紀末のイギリス産業革命によって確立した。それ以後、地球上のさまざまな地域をそのなかに組み込みながら、グローバルなシステムへと成長した。この講義では、近代の資本主義世界がどのようにして成立し、展開していったのか、そして経済発展とその環境への影響についてを解説していきたい。また、基礎的な史実や重要な学説などの検討を通して、それぞれの時代の経済的な特質について明らかにする。</p> <p>現代のグローバルな資本主義社会は、個人と自由という思想を生み出し、近代社会を形成してきた。その反面、環境破壊や南北問題などのさまざまな矛盾を生みだしてきた。この授業のなかで、これからの経済社会がどのようにあるべきかを考えていく。</p> <p>なお、学修成果の指標はA-1です。</p> <p>遠隔授業になったときは、オンデマンド学修および課題学修で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 はじめにー講義の内容と方法</p> <p>2回目 歴史をみる「眼」とは何か</p> <p>3回目 「アナル学派」の歴史学</p> <p>4回目 フェルナン・ブローデルの「歴史的時間の多層性」</p> <p>5回目 中世ヨーロッパの封建社会ーマナー制度と中世農業革命ー</p> <p>6回目 近代化の歴史的起点①ー封建社会の解体ー</p> <p>7回目 近代化の歴史的起点②ー近代市場経済の成立ー</p> <p>8回目 ヴェネチアと東方貿易ー胡椒などの奢侈品と銀ー</p> <p>9回目 中世の世界経済の成立と解体ーブリュージュ・ロンドン・ハンザ同盟ー</p> <p>10回目 大航海時代ーコロンブスとヴァスコ・ダ・ガマー</p> <p>11回目 東インド貿易とアメリカ貿易ーポルトガルとスペインー</p> <p>12回目 スペイン帝国の興隆と衰退ー価格革命と銀ー</p> <p>13回目 「近代世界システム」の成立</p> <p>14回目 イギリス重商主義ー地域的国内市場圏の成立とアメリカ植民地ー</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	ヨーロッパ経済の展開と近代化について理解する。「近代」の資本主義社会は、16世紀のヨーロッパで成立し、18世紀末のイギリス産業革命によって確立し、グローバルなシステムへと成長したことについて理解する。
授業時間外の学習	ヨーロッパ経済史の文献を読むこと。広く思想史・文化史などの文献も読み、経済の流れだけではなく、歴史全般について興味・関心をもつこと。この講義では、経済史についての話が中心になるので、経済学についての文献も読んでおくことが望ましい。
評価方法	期末レポートの点数（50％）に授業参加態度・小テスト（50％）を加点し、総合的に評価する。遠隔授業の場合、オンデマンド学修と課題レポート（100％）で評価する。
テキスト	石坂昭雄ほか『新版西洋経済史』（有斐閣双書、1985年）
参考書	馬場・山本・廣田・須藤『エレメンタル欧米経済史』（晃洋書房、2012年） 川北稔『世界システム論講義ーヨーロッパと近代世界ー』（ちくま学芸文庫、2016年）

	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社現代新書、2010年） E. L. ジョーンズ『ヨーロッパの奇跡－環境・経済・地政の比較史』（名古屋大学出版会、2000年）
備考	

講義科目名称： 企業と簿記

授業コード： 133011 142006

英文科目名称： Company and Book Keeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>企業の実態を客観的に把握するためには、簿記は業種・職種にかかわらず職業人が身に付けておくべき「必須の基本知識」の技術であり、世界共通のビジネス言語としての性格を持っている。変化の激しい社会で職業人の教養として役立つ簿記を学習する。</p> <p>小規模企業において日常発生する取引を記録・計算整理に関する簿記の基本的な仕組みについて理解する。簿記の初学者が必要とする日商簿記3級程度の基礎的な学習をする。</p> <p>学習成果の指標は、A-①である。</p> <p>遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、資産・負債・資本</p> <p>2回目 収益・費用</p> <p>3回目 取引・勘定</p> <p>4回目 仕訳・転記</p> <p>5回目 仕訳帳・総勘定元帳</p> <p>6回目 試算表</p> <p>7回目 精算表</p> <p>8回目 決算</p> <p>9回目 損益計算書</p> <p>10回目 貸借対照表</p> <p>11回目 基礎的形式別学習（仕訳）</p> <p>12回目 基礎的形式別学習（補助簿の記帳）</p> <p>13回目 基礎的形式別学習（試算表・財務諸表の作成）</p> <p>14回目 基礎的形式別学習（精算表の作成）</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	小規模企業の経理実務を前提とし、現代のビジネス社会における新しい取引にも対応できる実務的な知識を身に付ける。
授業時間外の学習	毎日1時間程度、予習・復習し、定着を図ること。 11月の日商簿記3級合格を努力目標とする。
評価方法	ノートと問題集50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	『最新段階式 日商簿記検定問題集四訂版 3級 商業簿記』実教出版、2024年
参考書	授業時に指示する。 日商簿記検定模擬試験問題集3級、他
備考	「簿記演習」を履修すること。指示する電卓を授業に毎回持参すること。 授業は週2回あり、2回とも出席が必要。

講義科目名称： 簿記演習

授業コード： 222005 242007

英文科目名称： Book Keeping Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
藤掛 登 教授			
添付ファイル			

授業の概要	簿記の初学者が必要とする日商簿記3級程度の基礎的な学習を踏まえつつ、発展的な内容に当たる経営管理に関わる分野も学習する。「企業と簿記」の履修を前提として、財務諸表の数字から経営成績や財政状態を把握できるなど、企業活動や会計実務を踏まえ適切な処理や分析を行うために求められる基礎的内容を学習する。学習成果の指標は、A-①である。 遠隔授業になった場合、課題型学修（Google Classroomを利用）と同時・双方向型学修（Google Meetを利用）とを組み合わせ実施する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、形式別演習（仕訳）</p> <p>2回目 形式別演習（補助簿の記帳）</p> <p>3回目 形式別演習（試算表・財務諸表の作成）</p> <p>4回目 形式別演習（伝票、決算仕訳、訂正仕訳）</p> <p>5回目 形式別演習（精算表の作成）</p> <p>6回目 総合演習：仕訳問題</p> <p>7回目 総合演習：計算問題</p> <p>8回目 総合演習：文章問題</p> <p>9回目 総合演習：帳簿問題</p> <p>10回目 総合演習：決算問題</p> <p>11回目 経営分析（B/S）</p> <p>12回目 経営分析（P/L）</p> <p>13回目 経営分析（C/S）</p> <p>14回目 原価計算（個別、総合）</p> <p>15回目 原価計算（標準、直接）、まとめ</p>
到達目標	小規模企業の経理実務の理解を前提としつつ、経営管理・財務担当者に必須の知識とされる財務諸表の数字を読み解く力を身につける。
授業時間外の学習	毎日1時間程度、予習・復習し、演習問題を積極的に解くこと。 11月の日商簿記検定3級合格を努力目標とする。
評価方法	ノートと問題集50%、平常点（小テスト）50% 遠隔授業になった場合、レポート100%
テキスト	『日商簿記検定模擬試験問題集3級 商業簿記』実教出版、2024年
参考書	授業時に指示する。 発展的学習に関するプリントを随時配布する。
備考	「企業と簿記」の履修を踏まえて、授業を進める。授業時に指示する電卓を毎回持参すること。 授業は週2回あり、2回とも出席が必要。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>大学での勉強は高校までの勉強と違うところがたくさんあります。それらを身につけることが基礎ゼミの目的です。</p> <p>大学で学ぶための基本的スキルを身につけます。（1）ノートの取り方、講義の聴き方（2）ネットの利用の方法、資料・文献の収集方法（3）プレゼンテーション（報告・発表）の練習（まずはレジメなしに短い発表をする）（4）レジメの作り方（5）専門書の読み方（6）プレゼンテーションの練習（レジメを用意して調べてきたことを発表する）（7）論述試験答案の書き方（8）レポートの作成（まずは書評レベルに挑戦）（9）図書館ガイダンス（図書館の使い方）（10）情報リテラシー以上のことを、共通図書テキストにして学びます。学習成果の指標はAの②③にあたります。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修（「Google Meet」を利用）で実施します。</p>
授業計画	<p>1回目 自己紹介、履修についての確認、スケジュール、担当決め</p> <p>2回目 ネット利用の方法、資料・文献の収集方法の説明、ノートの取り方</p> <p>3回目 新聞記事の読み方</p> <p>4回目 新聞記事の切り抜き</p> <p>5回目 時事問題・ニュースについての発表</p> <p>6回目 専門書の読み方についての説明、図書館の使い方</p> <p>7回目 後半のスケジュール・担当箇所を決める、レジメの作り方の説明</p> <p>8回目 新書を読むー市場経済の仕組み</p> <p>9回目 新書を読むー経済の主体とは</p> <p>10回目 新書を読むー戦後処理と経済民主化</p> <p>11回目 新書を読むー高度経済成長とは</p> <p>12回目 新書を読むーオイルショックと低経済成長</p> <p>13回目 新書を読むーバブル経済の膨張と崩壊 [失われた20年へ]</p> <p>14回目 要約の仕方・書評レポートの書き方、試験入門、論述試験答案の書き方</p> <p>15回目 レポート提出、アンケート、感想会</p>
到達目標	大学に必要な、自ら、資料を調べ、記録し、考え、発表する基礎的な能力を身につけます。
授業時間外の学習	新聞記事を毎日読むくせをつけましょう。
評価方法	平常点（50%）と報告点（50%）の総合評価。 遠隔授業の場合も同様。
テキスト	『大学生学びのハンドブック』世界思想社編集部編
参考書	開講時紹介する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>高校時代までの暗記式の学習から脱却して、自ら疑問を持ち、迷いながらも、調べ、考え、結論を求める方法を身に付ける準備をします。以下の諸点の基礎力の育成を目的とします。（1）文献を含めた資料、情報の収集力。（2）コミュニケーション能力の向上。（3）プレゼンテーションの技法習得。（4）書く力の育成。自転車は一度乗れるようになると、一生ものです。それと同様に、ここで獲得された能力もその程度に応じて活用の機会があるでしょう。</p> <p>大学で学ぶための基本的スキルを身につけます。（1）ノートの取り方、講義の聴き方（2）ネット利用の方法、資料・文献の収集方法（3）プレゼンテーション（報告・発表）の練習（4）レジメの作り方（5）専門書の読み方（6）プレゼンテーションの練習（7）論述試験答案の書き方（8）レポートの作成（まずは書評レベルに挑戦）（9）図書館ガイダンス（図書館の使い方）（10）情報リテラシー。以上のことを、共通図書をテキストにして学ぶ。</p>
授業計画	<p>1回目 自己紹介、履修についての確認、スケジュール、担当決め</p> <p>2回目 ネット利用の方法、資料・文献の収集方法の説明、ノートの取り方</p> <p>3回目 新聞記事の読み方</p> <p>4回目 新聞記事の切り抜き</p> <p>5回目 時事問題・ニュースについての発表</p> <p>6回目 専門書の読み方についての説明、図書館の使い方</p> <p>7回目 後半のスケジュール・担当箇所を決める、レジメの作り方の説明</p> <p>8回目 新書を読む―行先を失った日本経済</p> <p>9回目 新書を読む―一家計の危機</p> <p>10回目 新書を読む―何のために働くのか</p> <p>11回目 新書を読む―グローバル化は何を変えたのか？</p> <p>12回目 新書を読む―経済大国日本での貧困と格差の拡大</p> <p>13回目 要約の仕方・書評レポートの書き方、試験入門、論述試験答案の書き方</p> <p>14回目 試験入門、論述試験答案の書き方</p> <p>15回目 レポート提出、アンケート、感想会</p>
到達目標	各自が必要とされる情報を収集、加工し、自己の見解を構築し、それを他者に表明する力の育成を目指す。定期的に発表会でプレゼン機器を活用して発表する。
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。
評価方法	平常点50%、課題発表点50%。オンライン移行時には、授業態度30%、課題発表内容70%で評価する。
テキスト	『大学生学びのハンドブック』世界思想社編集部編
参考書	適宜、指示する。
備考	

講義科目名称： 基礎ゼミⅡ

授業コード： 223012

英文科目名称： Academic Literacy 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
秋山誠一 教授			
添付ファイル			

授業の概要	大学での勉強は高校までの勉強と違うところがたくさんあります。それらを身につけることが基礎ゼミの目的です。秋semesterではゼミで発表し、聴き、討論の練習をしながら、経済の知識を学んでいきます。基礎ゼミⅠで学んだことを基礎として、教員指定の図書を読み、実際にレジメを書いて発表し、討論をしていきます。学習成果の指標はAの②③にあたります。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修(「Google Meet」を利用)で実施します。
授業計画	<p>1回目 スケジュール、担当箇所の決定、必要があれば、班作り</p> <p>2回目 レジメの書き方の復習</p> <p>3回目 プレゼンテーションの手段と方法</p> <p>4回目 資料の探し方</p> <p>5回目 ゼミ発表の準備</p> <p>6回目 ゼミ発表の仕方</p> <p>7回目 司会の仕方</p> <p>8回目 国会図書館の検索方法</p> <p>9回目 貿易と資本主義の成立</p> <p>10回目 カリブ海と砂糖</p> <p>11回目 砂糖と茶の出会い</p> <p>12回目 砂糖と奴隷貿易</p> <p>13回目 イギリス風の朝食と紅茶</p> <p>14回目 紅茶文化の光と影</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	専門科目を学ぶために必要な知識と方法を身に付け、また討論をするなかで自分の知識を確認し、社会にでるのに必要なコミュニケーション能力とディベート能力、面接能力を身につけます。。
授業時間外の学習	発表の分担箇所を割り当てられたら事前に読んでおく必要があります。
評価方法	平常点(50%)と報告点(50%)の総合評価。 遠隔授業の場合も同様。
テキスト	『大学生学びのハンドブック』世界思想社編集部編
参考書	開講時指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	1単位	選択
担当教員			
中塩聖司 教授			
添付ファイル			

授業の概要	今日の若者の労働問題を的確に分析するために、まず日本型雇用システムとそれと密接に結びついた教育システムの本質について概観する。それを踏まえて学生の就職問題とそれに対する政策の推移を検討する。日本特有の就職の仕組みを学ぶなかで、これからの時代に必要なキャリア力とは何かを考え、そのために必要な社会制度や仕組みとは何か、を考える。 1990年代以降の日本企業の雇用政策の変化により「正社員」の枠が縮小し、若者の雇用問題が浮上する背景となった経済状況の推移をまず踏まえる。その上で「入社」の仕組みから、その後、遭遇する様々な仕事に関わる制度や慣習、社内教育制度などを順次、検討していく。学習成果の指標はA-①です。 尚、遠隔授業をする場合は、②同時・双方向型学修（「Google Meetを利用」）と併せたハイブリット授業を実施する。また、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。
授業計画	<p>1回目 1990年代以降の雇用状況の変化</p> <p>2回目 若者の雇用問題の発生</p> <p>3回目 性別、年齢、雇用形態別、地域別雇用状況</p> <p>4回目 「就職」型社会と「入社」型社会</p> <p>5回目 諸外国との就職制度の相違</p> <p>6回目 就活ビジネスと新卒採用</p> <p>7回目 雇用されることの意味</p> <p>8回目 賃金と労働時間管理</p> <p>9回目 キャリア教育と就活スキル</p> <p>10回目 キャリア教育と就活スキル教育</p> <p>11回目 「入社」システムの変更と若者</p> <p>12回目 若者雇用問題と行政</p> <p>13回目 様々な雇用形態と実態</p> <p>14回目 若者雇用問題への処方箋</p> <p>15回目 日本経済と雇用制度の今後</p>
到達目標	月に一度程度、シラバスに沿ったテーマでプレゼンテーションできる能力をつける。
授業時間外の学習	授業前週時にその都度、指示します。適宜、資料を配布する。
評価方法	平常点60%、レポート40%。オンライン移行時には、授業態度50%、課題レポート内容50%で評価します。
テキスト	随時、プリント配布。
参考書	『就職とは何か―〈まともな働き方〉の条件』（岩波新書）2011年。 『人口知能と経済の未来』井上智洋、文春新書、2016年。その他、その都度、指示する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
森岡宏行 准教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>情報社会が成熟する中で、様々なデータの活用が行われています。私たちもその社会で生きる中で、データの活用は必須と言ってよいでしょう。特に、私たちにも関係が深いのが統計です。国勢調査をもとにした人口統計や、大学受験に利用される偏差値はよく知られているものです。しかし、統計の利用はそれだけではありません。ソーシャルメディアなどで利用される「トレンド」などのサービスも利用者の投稿などを統計処理して活用されていますし、いわゆる「ソシヤゲ」も利用者の利用状況を、統計を用いて把握し、長く利用されるように開発を進めています。この授業では統計がどのように重要で、情報社会の中で根付いているのかを学んでいきます。統計を学び、これまでとは違った角度で世の中を見て、深く理解してみましょう。</p> <p>なお、対面授業から遠隔授業に切り替える状況になった場合は、Classroomと動画を利用した遠隔授業を予定していますが、その時の状況で変更します（授業初日にClassroomへの登録を行います）。</p> <p>学習成果の指標：A-① A-③</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス</p> <p>2回目 社会の中での統計の位置づけとその種類</p> <p>3回目 統計学における基礎的な概念：標本と母集団</p> <p>4回目 統計グラフの種類と見方</p> <p>5回目 データの集計：度数分布表とヒストグラム</p> <p>6回目 データの整理：データの中心【最頻値、平均値】</p> <p>7回目 データの整理：データの散らばり【分散、標準偏差】</p> <p>8回目 データの整理：ローレンツ曲線とジニ係数</p> <p>9回目 標本空間と確率</p> <p>10回目 確率の考え方</p> <p>11回目 ベルヌーイ試行と二項分布</p> <p>12回目 確率分布と期待値</p> <p>13回目 母集団と標本分布</p> <p>14回目 検定の考え方</p> <p>15回目 統計の重要性と批判的まなざし（総論）</p>
到達目標	この講義では社会調査にも利用される統計の入門的な部分を習得します。「統計を行う意義の理解」「基礎的な統計用語の理解」「基礎的な統計手法の習得」とともに、そこに登場する概念などを定着させましょう。
授業時間外の学習	予習は教科書の該当箇所を読み、分からない部分をまとめておきましょう。復習は、該当箇所のノートを見なおしたり、Excelを用いて様々なデータの統計処理を試してみましょう。
評価方法	授業内課題（レポートを含む）を40%、期末レポートで50%とし、授業への参加意欲で10%を評価します。遠隔授業時も評価方法は同じです。
テキスト	安藤明之『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析（第3版）』（日本評論社、2021年） その他必要に応じて、紹介もしくは資料配布を行います。
参考書	授業の中で適宜指示します。
備考	適宜、Classroomを使用します。初回授業時に詳細を説明しますので、休まないように気を付けてください。この授業は所要所でExcelを利用します。Excelの利用方法を行う授業ではないので以下の内容が習得済みであることが前提で授業が進行します。

「表および基本的なグラフの作成」「計算式を用いた計算（セル参照を用いた計算含む）」「基本的な関数（SUM関数、AVERAGE関数など）」 高校までに習う内容がほとんどですが、自信がない場合は該当箇所が学べる講義科目を受講したのちに、この科目を受けるようにしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋semester	1年次	2単位	選択
担当教員			
秋山誠一教授 中塩聖司教授			
添付ファイル			

授業の概要	<p>私たちは、生きていくためには、働いてお金を稼ぎ、生活に必要なものを買うなど、さまざまな経済活動を行っている。経済理論と聞くと、難しそうだが、人間の経済活動を少し整理し、秩序立てて説明しているだけである。ただ、そこで使うツールやアプローチが、初めて学ぶ者にとってはわかりにくい場合がある。そこで、経済学を学ぶときに必要である基本的な概念や用語、考え方を説明し、現実の経済の理解に役だてる。学習成果の指導はAの②③にあたる。遠隔授業を実施する場合は同時・双方型学修(「Google Meet」を利用)で実施する。尚、ミクロ経済部分については、全面遠隔授業に移行した場合は、②型とする。</p>
授業計画	<p>1回目 経済学は何の役に立つのか。経済の主体と対象は何か。 経済の3つの主体である人、企業、政府が選択を通じて合理的な行動をとるとはどういうことなのか。</p> <p>2回目 ミクロ経済学とマクロ経済学とは何か。 ミクロ経済学は、個々の経済主体(家計や企業など)の行動分析が重要視される。家計では効用(=満足度)の最大化、企業では利潤の最大化が目標となる。個人の効用と企業の利潤は矛盾する場合もあるが、それを調整するものが政府によるマクロ調整である。</p> <p>3回目 価格の根底にあるのはモノの希少性か労働か。 経済学では希少性という考え方を重視します。希少性は社会的必要性の高さのことで「需要」と「供給」の相対的な大きさとバランスで決まります。</p> <p>4回目 需要と供給、価格の関係は。 ある状態から1単位増加させることを、経済学では限界とといいます。限界費用曲線の意味することは？限界費用は増えるか、減るのか。</p> <p>5回目 弾力性、所得効果、代替効果の意味</p> <p>6回目 利潤の最大化と完全競争</p> <p>7回目 カルテルと独占</p> <p>8回目 マクロ経済学のとらえ方 ミクロとマクロの視点</p> <p>9回目 国内総生産とはなにか。 フローとストックの違い。</p> <p>10回目 国内総生産、国内総所得、国内総支出の関係。 一国の生産、所得、支出をどう把握する</p> <p>11回目 需要とケインズ経済学 セー法則は正しいか？需要が供給を決めるのか？</p> <p>12回目 政府の役割 市場メカニズムは完全ではない。政府の必要性は</p> <p>13回目 財市場と貨幣市場の均衡 すべて需給で考える</p> <p>14回目 乗数効果 有効需要の基礎</p> <p>15回目 まとめ</p>
到達目標	<p>経済関係新聞の記事を読み、ニュースを聞いて、用語、内容が理解できるようになる。またその内容を経済学を知らない人に説明できる能力をつける。</p>
授業時間外の学習	<p>授業前週時にその都度、指示します。新聞を日頃から読んでおくとよい。教科書の該当箇所を事前に読んでおくように、そして講義のあと内容を思い返すことが大事。</p>
評価方法	<p>二人の担当者がミクロ経済学とマクロ経済学の分野に分かれて講義をするので、それぞれが50%ずつ、合計100%で評価を行う。提出物、授業参加度等の評価基準は各教員が授業時に説明する。</p>
テキスト	<p>『大学4年間の経済学が10時間で学べる』井堀利宏、角川書店 その他、適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『図解 大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』井堀利宏、角川書店 授業時に適時、参考図書を提示する。</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋セメスター	2年次	2単位	選択
担当教員			
高橋克秀 講師			
添付ファイル			

授業の概要	<p>日常生活や仕事でAI(人工知能)などを生かせることがもとめられるような時代になって、「文系だから」、「嫌いだから」、「苦手だから」と言って数学学習を避けることは、もはや許されなくなってきた。数学の知識は、就職して(社会人になって)ビジネスのいろいろな課題に直面したときにこそ威力を発揮するとも言われている。この科目では、そうした卒後も視野に入れつつ、経済学、経営学、会計学を含むじつにさまざまな分野で役立つ数学の初歩を学び、数学的な思考力を鍛える。方程式や1次関数などの中学レベルの知識から始め(それらをしっかり復習し)、微分や偏微分、その応用としての制約付き最大化(最少化)問題、データ分析には不可欠の行列や確率の基礎など、「使える」ことを目標にしっかり学習する。なお、学習成果の指標はA-③である。</p> <p>遠隔授業を実施する場合は、Zoomを利用したオンデマンド型またはライブ+オンデマンド型として実施する予定(状況しだいで授業のしかたを変更することもある)。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 注意事項、この授業のねらいと進め方、成績評価のこと 【事前学修 120分】 ⇒事前にアップされる資料の「オリエンテーション」のところを読み、また、高校までの数学の教科書があれば、関連事項を復習すること 【事後学修 120分】 ⇒オリエンテーションの内容を振り返り、これからの学びを俯瞰すること。</p> <p>第2回 1次関数と1次方程式 景気(GDP)の決まり方は? 価格の決まり方は? ⇒教員の指示にしたがって今回の内容を予習すること。 (以下、第14回までは同じである) 【事後学修 120分】 ⇒教員の指示にしたがって今回の内容を復習すること。(以下、第14回までは同じである)</p> <p>第3回 2次関数 社長さんになろう!(その1) 平方完成でやってみる</p> <p>第4回 指数(と対数) 貯金するときお得な知識とは?(その1)</p> <p>第5回 数列 貯金するときお得な知識とは?(その2)</p> <p>第6回 変数関数の微分 社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる</p> <p>第7回 1変数関数の微分(つづき) 社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる</p> <p>第8回 1変数関数の微分(つづき) 社長さんになろう!(その2) 微分をつかってやってみる</p> <p>第9回 ベクトルと内積 お父さんもお母さんも家計のやりくりでたいへん!</p> <p>第10回 多変数関数とその微分 きみのしあわせを関数で表せば?(効用関数って何?)工場見学しようよ!(生産関数って何?)</p> <p>第11回 制約付きの最適化 家計のやりくりのなかで一番のしあわせを見つけるには?</p> <p>第12回 行列 いろいろなデータを使って分析しようよ(回帰分析とは?)</p> <p>第13回 確率 くじを買いますか?</p> <p>第14回 積分 オークション(たぶん、きみの場合は、ネットオークション)でうまくいくには?</p> <p>第15回 総括 これまでの学習を振り返ること 【事後学修 120分】 ⇒授業での総括を踏まえ、今後、こうした知識をどう活用できるかを自分なりに調べてみよう。</p>
到達目標	微分や偏微分をはじめとする数学の基礎知識をいろいろな場面で使える(応用できる)ようになる。
授業時間外の学習	第2回から第14回までは、事前学修はその回の予習、事後学修はその回の復習である。
評価方法	レポート:100% 原則、各項目の理解度などを評価し、積算する。60%が合格ライン。レポートの詳細(課題内容、提出回数、

	提出期日など)は教員から指示がある。
テキスト	授業用の資料(講義ノート)を使う。授業資料にアップするので適宜ダウンロードして授業にのぞむこと。
参考書	『経済数学入門 初歩から一歩ずつ』丹野忠晋 日本評論社 授業内容にほぼ対応 『改訂版経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐 日本評論社 授業内容にほぼ対応 『東大の先生! 文系の私に超わかりやすく数学を教えてください!』西成活裕・郷和貴 かんき出版 中学数学の復習 『経済数学 入門の入門』田中久稔 岩波新書 さっと全体を見わたせる本 『現代経済学の数学基礎(第4版)』A.C.チャン・K.ウエインライト 彩流社 本格的に学びたい人のための本(レベルは高い)
備考	